一　元始祭　新年宴會　孝明天皇祭　紀元節　春季皇靈祭　神武天皇祭　秋季皇靈祭　神嘗祭　天長節　新嘗祭

第二十四條　平素超衆勉勵ノ者ニハ一箇年ヲ通シテ特ニ五日以内ノ休暇ヲ與フルコトアルヘシ（明治四十年十一月二十日市訓令甲第三十四號ヲ以テ本條追加）

●橋梁川中護岸掃除定傭船夫竝人夫ニ對シ定傭工夫使役規程第二十二條ノ休暇日準用方

（明治三十九年十月十二日市長判決土發第千五百五十六號）

今般訓令甲第三十一號ヲ以テ明治三十五年四月訓令甲第九號工夫使役ニ關スル規程ヘ休暇日ニ關スル一條ヲ追加セラレタルニ依リ該規程ニ準シ使役シ來リタル橋梁川中護岸掃除定傭船夫竝人夫ニ對シテモ前追加規程ノ休暇日ヲ與フルモノトス

●定傭工夫服務心得

（明治三十五年四月一日市訓令甲第十號（土木課））

第一條　定傭工夫ハ土木課出張所員ノ指揮監督ヲ受ケ土木事業ニ從事スヘシ

第二條　定傭工夫ハ土木課出張所員ノ命令ヲ服膺シ誠實叮嚀ヲ旨トシ勞働スヘシ

第三條　工手ハ土木課出張所員ノ指揮ヲ受ケ專ラ定傭工夫及臨時工夫ノ取締ヲ爲シ傍ラ勞働ニ從事スヘシ

第四條　定傭工夫ノ勞働時間ハ左ノ通リトス但時宜ニ依リ伸縮スルコトアルヘシ

自四月一日　至六月末日　自九月十一日　至十一月三十日
始業午前七時　終業午後五時
休憩午餐三十分間及午前一回午後一回各二十分間宛

自七月一日　至九月十日
始業午前六時三十分　終業午後四時三十分
休憩午餐一時間及午前一回午後一回各三十分宛

自十二月一日　至三月末日
始業午前七時三十分　終業午後四時三十分
休憩午餐三十分間及午前一回午後一回各二十分間宛

臨時施急ヲ要スル場合ニ於テハ前項時間外ニ於テ勞働セシムルコトアルヘシ

第五條　定傭工夫ノ内輪番ヲ以テ若干名ヲ非常番トシ當番者ハ天災地變又ハ土木課出張所近火ノ場合ニ於テハ直チニ土木課出張所ヘ參集シ土木課出張所員ノ指揮ニ從ヒ勞働ニ從事スヘシ

第六條　前條當番者ハ左ノ事項ヲ服膺スヘシ

一　近火參集ハ所屬土木課出張所所在地ヨリ三町以内ナルトキトス但風力劇シキトキハ町數ニ拘ハラス參集スルコト

一　參集スルトキハ給與ノ被服ヲ著用シ且非常線內立入鑑札ヲ携帶スル事

一　當番中疾病事故アリテ參集スル能ハサルトキハ當番外ノ者ヘ依賴スル事

一　非常線內立入鑑札ハ當番滿期ノトキハ直チニ土木課出張所ヘ返納スヘシ

第七條　定傭工夫勞働ニ要スル器具器械ハ貸與ス

貸與ノ器具器械ハ日日終業ノ後チ指定ノ場所ニ保管シ置クヘシ

第八條　定傭工夫ハ就業退散ノ時ハ指定ノ場所ニ參集シ土木課出張所員ノ點檢ヲ受クヘシ但就業ノトキハ第四條就業時間十分前退散ノトキハ既定時間ノ勞働ヲ了ハリタル後チ參集スルモノトス

前項退散點檢ノ際當日出務ノ證印ヲ受クヘシ但用紙ハ下付ス

第九條　疾病事故ノ爲メ缺勤スルトキハ其旨土木課出張所ニ届出ツヘシ

第十條　勞働中疾病事故アリテ退場セントスルトキハ土木課出張所員ノ許可ヲ受クヘシ但要急ノ場合ニ於テハ便宜工手ノ承諾ヲ受ケ退場スルコトヲ得此場合ニ於テハ工手ハ其旨土木課出張所ニ報告スヘシ

第十一條　（明治三十九年五月十二日市訓令甲第十三號ニ依リ自然消滅）

第十二條　（同上）

第十三條　（同上）

第十四條　定傭工夫中工手ノ日給ハ毎月一回（前月十五日ヨリ其月十五日迄ノ分）工夫ノ日給ハ毎月二回（第一期ハ其月一日ヨリ十五日迄ノ分　第二期ハ其月十六日ヨリ末日迄ノ分）ニ支給ス但期日翌日迄ニ土木課出張所ニ請求書ヲ差出スヘシ（明治三十九年十月六日市訓令甲第三十二號ヲ以テ本條改正）

第十五條　左ノ場合ニ於テハ既定ノ給料ヲ給シ又ハ全ク支給セス

一　大祭祝日其他特ニ休日ヲ與ヘタル時ハ當日ノ給料ハ支給ス

一　第九條ノ缺勤ニ對シテハ當日ノ給料ハ支給セス

一　第十條ノ場合ニ於テハ當日ノ給料ハ時間割ヲ以テ支給ス但一時間未滿ハ切捨トス

一　第十七條ニ依リ退場ヲ命シタルトキハ其當日ノ給料ハ支給セス

第十六條　第四條第二項及第五條ノ場合ニ於テハ相當ノ賃金ヲ增給スヘシ

第十七條　左ノ場合ニ於テハ解傭又ハ退場セシムルコトアルヘシ

一　疾病其他勞働ニ堪ヘサルモノト認ムルトキ

一　怠惰ナルモノト認ムルトキ

一　喧嘩口論ヲ爲シタルトキ

一　不正ノ行爲アリタルトキ

一　十五日以上缺勤シタルトキ

一　無届缺勤シタルトキ

一　貸與ノ被服ヲ著用セサルトキ
一　貸與ノ器具器械ヲ鄭重ニ保管セサルトキ
一　其他該心得書ニ違反シタルトキ

第十八條　貸與ノ器具器械ヲ紛失シ又ハ故意ヲ以テ破損シタルモノト認ムルトキハ之カ辨償ヲ爲サシム

前項ノ辨償ハ相當ト認定スル金額ヲ指定ノ期限内ニ納付セシムヘシ但下渡スヘキ金額アルトキハ該金額ヨリ引去ルモノトス

●道路課出張所自轉車取扱規定

明治三十四年十二月九日〔市參事會議決〕第四千四百八十四號
（明治四十一年十一月十六日市告示第八十九號ニ基キ本規定中「土木課出張所」ハ「道路課出張所」ノ義ト知ルヘシ）

第一條　土木課各出張所ニ自轉車壹輛ヲ備置キ同所擔當者ニ限リ乘用セシムルモノトス

第二條　自轉車ハ公用ノ外使用スルコトヲ得ス

第三條　自轉車及附屬品ヲ亡失毀損シタルトキハ其損害ヲ賠償セシムルモノトス但自然ノ用法ニ依リ破損シタルトキハ此限リニアラス

第四條　二箇年以上自轉車ヲ使用シタル者ハ土木課長會計課長協議ノ上相當ノ手續ヲ經テ自轉車ヲ交付スルコトアルヘシ

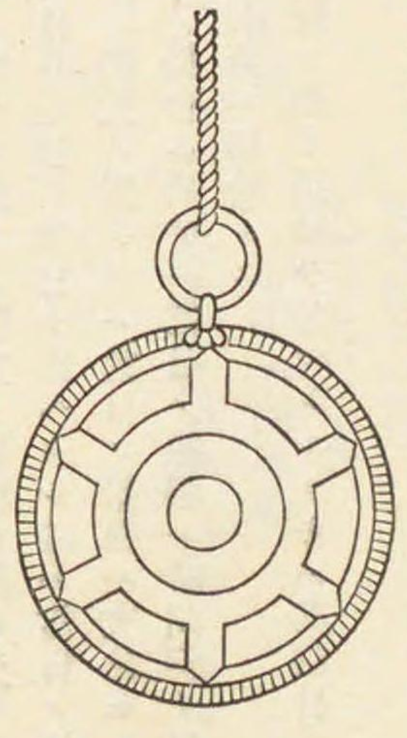
第五條　降雨若クハ降雪ノ日ニシテ自轉車ニ乘用シ難キ時ハ至急ヲ要スル場合ニ限リ人力車ヲ給スルモノトス

●御道筋監督ノ爲メ出張スル土木吏員携帯徽章

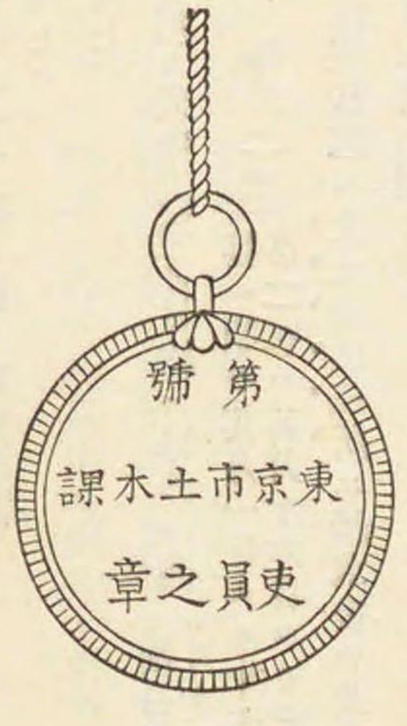
明治三十五年五月十九日〔市參事會議決〕第千八百五十四號

徽章　白銅製
　　　銀メッキ
本市徽章ヲ金色トシ地ヲ石目トス

表



裏



（寸法及形状トモ水道課徽章ト同形）

●道路及溝渠修築維持ニ關スル規程

明治三十五年四月一日市訓令甲第八號（土木課）

第一章　總則

第一條　道路及溝渠修築維持ノ方法ヲ分ツテ左ノ四種トス
一　新築
一　改築
一　修繕
一　維持

第二條　新築ハ新ニ施設スルモノトス

第三條　改築ハ原形ヲ改造（例ヘハ道路ハ割栗石大中玉石等ヲ以テ路盤ヲ改造スルモノ又ハ道路ノ切下ケヲ爲ス等ノ如シ溝渠ハ板柵ヲ石又ハ煉瓦改造スルモノ等ノ如シ）スルモノトス

第四條　修繕ハ左ノ種類トス
一　破損ノ箇所ヲ原形ニ復スルモノ但第五條ノ場合ヲ除ク
一　道路ノ上置ヲ爲スモノ

第五條　維持ハ左ノ種類トス
一　破損ヲ豫防スルモノ
一　路面局部ノ凹凸平均
一　砂利敷（第二條第三條第四條ニ附帶スルモノヲ除ク）
一　路面撒水除雪泥土搔取及掃除
一　溝渠ノ側石轉落補修及木部朽敗局部ノ補修
一　應急手當

第六條　道路及溝渠ノ臺帳ヲ調製シ土木課及土木課出張所ニ備置クモノトス

第七條　道路及溝渠臺帳ハ帳簿及圖面ヲ以テ組成ス但臺帳ノ記載事項及書式ハ別ニ之ヲ定ム

第八條　工事ノ施行ハ緩急順序ヲ定メ漸次完成スルモノトス

第九條　路面ノ横斷勾配ハ中央ヨリ三十分ノ一トス

溝渠側石ノ縱斷勾配ハ道路ノ勾配ト同一ナラシメ其底ノ勾配ハ水平道路ニ在ツテモ八百分ノ一ヨリ緩ナルヘカラス

土地ノ形狀及幅員ノ狹隘ニ依リ片勾配又ハ第一項及第二項ノ程度ヲ增減スルコトヲ得

第十條　路面ノ上層ニ敷均スヘキ砂利ハ八分目篩以下ノ小砂利トス

前項砂利ノ厚ハ一回一寸以下トシ兩側三尺通ハ敷均サヽルモノトス

第十一條　道路ニ使用スヘキ土ハ荒木田土、粘土、赤土等トス坂路切下又ハ路盤ニ上置キヲ爲ス場合ニ於テ工事上差支ナキトキハ第一項以外ノ土砂ヲ使用スルコトヲ得

第十二條　工事ハ車馬ノ交通ヲ妨ケサル樣施行スヘシ工事施行上止ムヲ得サル場合アリテ片側往來止又ハ牛馬諸車止ヲ爲ストキハ前後ニ人止手摺ヲ設ケ且ツ夜間ハ適當ノ箇所ヘ點燈シ危險ナカラシムルコトヲ要ス

前項點燈器ハ縱一尺五寸以上ノ方形ニシテ四方赤硝子ヲ以テ構

成シ四分乃至六分芯ノ洋燈ニ點火スルモノトス

第十三條　工事ニ要スル諸材料及堀鑿土砂其他不用物件等ハ商店ノ店先又ハ交通上妨害トナルヘキ箇所ヘ積置クコトヲ得ス但止ムヲ得サル場合アリテ一時積置キタルトキハ翌日之レカ撤去ヲ為スモノトス

第十四條　工事ハ他ノ土地建物及物件ニ對シ障害ヲ及ホササル様施行スルコトヲ要ス

人家出入口及道路ヲ堀鑿シ通行ヲ遮絶スルトキハ便宜假橋架渡又ハ通路ヲ假設スルモノトス

第十五條　三日以上ニ渉ル工事ハ其作業ヲ三日宛ニ細分シ其期日以内ニ竣了セシメ逐次全部ヲ完成スルモノトス但著ルシク交通ヲ妨クル箇所ニ在リテハ一日乃至二日ツツニ細分施行シ又ハ夜間施行スルコトヲ要ス

第二章　新築改築修繕

第十六條　新築、改築、修繕ノ起工ヲ要スルトキハ實地測量ノ上平面圖縦横斷面圖ヲ製シ正確ノ設計ヲ為スモノトス但修繕工事ニシテ工法ノ輕易ナルモノハ縦横斷面圖ヲ省略スルコトヲ得

測量ノ為メ路面ニ標杭ヲ打チ立ツトキハ杭頭ヲ路面ニ平準ナラシメ交通ニ危險ナキヲ要ス

第十七條　道路改築ノ如キ改良工事ヲ施行スル場合ニ於テ地下ニ裝置スヘキモノ（例ハ水道鐵管、電話地下線、瓦斯管ノ類）アルトキハ豫メ協議ヲ遂ケ施行前ニ裝置ヲナサシメ然ル後著手ノ手續ヲナスモノトス

第十八條　新築、改築、修繕工事著手ノ際ハ遺形ヲ設ケ施工ノ過誤ナカラシムルコトヲ要ス

第十九條　新築、改築、修繕工事ニシテ既定ノモノ及隨時施行スルモノハ各區平面圖ニ色分ヲ為シ常ニ事業進行ノ模様ヲ見易カラシムルコトヲ要ス但圖面ノ著色ノ方法ハ別ニ之ヲ定ム

前項ノ圖面ハ一箇年度毎ニ調製スルモノトス但繼續事業ハ別ニ調製スルモ妨ケナシ

本條ノ圖面ハ土木課及土木課出張所ニ備置クモノトス

第二十條　前數條ノ外ハ起工ノ時時設計書及仕様書ニ規定スルモノトス

第三章　維持

第二十一條　道路及溝渠維持ノ為メ各區ニ定傭工夫ヲ置ク

工事施行箇所夥多ナル時又ハ要急ノ工事アリテ前項定傭工夫ニ不足アルトキハ臨時工夫トシテ其時時人夫ヲ傭入ルルコトヲ得

工事施行ニ際シ諸職工ヲ要スルトキハ其時時臨時工夫トシテ傭入使用スルコトヲ得

定傭工夫ハ工手及工夫トシ其員數及之ニ關スル規定ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第二十二條　工夫ノ作業ニ要スル器具器械ハ土木課出張所ニ備ヘ置クモノトス但備置キ難キモノ又ハ不足アル場合ハ借入ルルコトヲ得

第二十三條　維持ニ要スル諸材料ハ豫メ購入シ置クモノトス

第二十四條　前條諸材料及ローラル車等ノ器具ハ各所ニ一定ノ置場ヲ設クルモノトス

圖面及帳簿ヲ以テ組成シタル置場臺帳ヲ調製シ土木課及土木課出張所ヘ備置クモノトス但書式ハ別ニ之ヲ定ム

材料ノ出納ハ土木課出張所ニ於テハ日日其數量ヲ調査シ出納簿ニ記載シ土木課ニ於テハ十日分毎ニ記載シ其出納ヲ明ラカニスルコトヲ要ス

第二十五條　左ノ場合ニ於テハ砂利敷均ヲ為スモノトス

一　路面ニ雨水瀦溜シタルトキ

一　濕氣ヲ含ミ破損ノ虞アルトキ

一　雨雪ニ際シ泥濘ナルトキ

一　路面ノ凹凸ヲ敷均シタルトキ

一　其他破損又ハ破損ノ傾向アルトキ

第二十六條　砂利ハ左ノ方法ニ依リ敷均スモノトス

一　單ニ砂利敷ヲ為ストキハ先ツ其局部ヲ打起シテ撒布ス但成ルヘク降雨ノ際ニ於テス

一　路面泥濘ナルトキハ先ツ泥土ヲ掻取タル後砂利ヲ撒布ス

一　路面ノ凹所甚タシキモノハ先ツ足土ヲ以テ塡充シ締固メタル後砂利ヲ撒布ス

一　砂利ヲ撒布シタルトキハ適宜ノ撒水ヲ為シ「ローラル」又ハ蛸木ヲ以テ十分締固ム

一　容易ニ締固メ得ル場合ニ於テハ路面ノ打起シ又ハ撒水セサルコトヲ得

一　締堅メニ使用スル「ローラル」及蛸木ノ重量ハ「ローラル」一噸以上蛸木十二貫以上トス

第二十七條　路面ニ瓦礫塵芥及汚物等散在セルトキハ之ヲ除去シ清潔ナラシムルモノトス

第二十八條　溝渠ハ常ニ疏通ニ注意シ停滯ナカラシムルコトヲ要ス

第二十九條　溝渠及河川ニ轉落セル砂利ハ掻上ケ使用スルモノトス

第三十條　水道鐵管、鉛管、瓦斯管埋設物ノ埋設跡「マンホール」消火栓縁石等ハ路面ニ平準ナラシムルモノトス

●道路改築竝修繕ニ伴フ水道用具ノ修理方（其一）

明治三十四年十月三十日（市參事會議決）第四千四百三號

道路改築其他修繕ノ個所ニ於ケル消火栓其他鐵管附屬器具ノ修理ハ明治三十四年六月十二日第千八百四十一號（市參事會決議）ニ依リ水道課ニ於テ施行シ其工費ハ土木課ヨリ支出シ來リ候處自今ハ便宜土木課ニ於テ施行シ度旨別紙照會アリタルニ付取調タルニ別

段支障ノ靡無之ヲ以テ今後ハ直ニ同課ニ於テ工事施行シ其都度水道課ヘ通知スルモノトシ同課ヨリ特ニ依賴アリタル分ニ限リ水道課ニ於テ施行スルモノトス但水道課ニ於テ消火栓其他ノ埋沒セルヲ發見シタル場合ハ從來ノ例ニ依リ施行スルモノトス

（別紙略ス）

●道路改築竝修繕ニ件フ水道用具ノ修理方（其二）

明治三十四年十二月八日（市參事會議決）第四千五百九十八號

道路改築其他修築工事施行ノタメ消火栓、區畫量水器室及阻水弇筐上ケ下シ又ハ修理ヲ要スル場合ニ於テハ別紙寫ノ通リ便宜土木課ニ於テ直チニ施行スルコトニ決議セラレタルヲ以テ將來是等上下又ハ修理ヲ爲ス場合ニ於テハ一一起工ノ手續ヲ履行セサルヘカラサレトモ元來土木課ニ於テ施行スルニ至リタルハ道路改築其他修築工事ニ件ヒ施工セサレハ交通上支障アルヨリ直チニ施行シ此ノ不便ヲ除カントスル便法ニ出テタルモノナルカ故ニ豫メ之ニ要スル材料ヲ購入シ置キ必要ノ時時土木課出張所ニ於テ定傭工夫又ハ職工人夫ヲ雇傭シ直チニ施行セシメントス（別紙ハ明治三十四年十月三十日〔市參事會議決〕第四千四百三號）

●市費負擔道路堤防下水ニ係ル諸願差出方

明治二十四年八月十二日市告示第三十二號

市費負擔ノ道路堤防下水ニ係ル左ノ諸件ハ當廳ヘ願出テ許可ヲ受クヘシ

一　道路、堤防、竝木ヲ修理セントスルモノ
二　大下水ヲ改造修理シ又ハ蓋ヲ設ケ橋ヲ架セントスルモノ
三　樹木ヲ植ヘ又ハ之ヲ除去セントスルモノ
四　井戸、井戸流シ、目塗土置場ヲ設ケ又ハ之ヲ改造シ若クハ廢除セントスルモノ
五　火ノ番小屋、火ノ見梯子、消防具置場ヲ建設シ又ハ之ヲ改造セントスルモノ
六　床店、葭簀張、廣告札、看板、日除、街燈、（地盤ニ支柱ヲ用ユルモノ）電線柱、柵欄、齒止石、紀念碑、標識、榜示、指道標ヲ建設シ又ハ之ヲ改造セントスルモノ
七　瓦斯管、入樋其他地中埋布管ヲ敷設シ又ハ之ヲ改造シ若クハ除去セントスルモノ但瓦斯枝管ニシテ道路ヲ横切リ布設シ若クハ之ヲ撤去スルモノニ限リ著手三日以前ニ仕樣書竝圖面ヲ添ヘ當廳ヘ届出落成ノ上檢査ヲ受クヘシ（明治二十九年五月十六日市告示第二十六號ヲ以テ但書追加）

●一廉金參圓以內ノ道路修繕用器具道路課長ニ於テ修繕取計方

明治三十九年十月二日（市參事會議決）

一　道路修繕用器具　一回修繕金參圓以內

道路維持修繕ニ要スル器具ハ常ニ工事ノ繁多ニ比シ個數ハ比較的少數ニシテ使用ハ劇甚ナルカ爲修繕ヲ要スルモノ續續絕ヘス其都度現行ノ手續ヲ履ムトキハ僅カノ破損ノモノモ多數ノ日子ヲ費シ之カ爲メ工事上ニ差支ヲ生スルコト不尠ニ付自今道路修繕ニ要スル器具ニ限リ前記ノ金額ヲ限度トシ便宜上土木課長ニ於テ直接當業者ニ修繕セシメントス

●自費下水浚渫願等許可報告方

明治三十五年四月一日市訓令甲第七號（各區役所）

明治三十二年十一月市告示第七十九號委任事項ノ內左記第一項ニ屬スルモノハ第二項ノ事項ヲ記シ處分後三日以內ニ所轄土木課出張所經由報告スヘシ（明治三十二年十一月市告示第七十九號ハ同四十四年十一月二十四日市告示第九十一號第一條第十七ヲ以テ改正）

一　地先下水、橫切下水ノ浚渫ニシテ路面ノ掘起ヲ爲スモノ及下水ニ覆蓋架橋ヲナスモノ
一　報告スヘキ事項
　出願人ノ住所氏名
　個所（町名番地）
　許可ノ月日及著手竣了月日
　條件ヲ付シ許可シタルモノハ其條件
　下水ノ覆蓋及架橋ハ仕樣ノ大要

●各戸地先下水水吐口取設方

明治二十九年七月四日書記官照會內二發第九百八十號

各戸地先下水蓋ハ路上雨水吐ノ關係不尠ニ付自今之カ架設改造出願ノモノハ勿論修繕ニ係ルモノト雖其構造方ニ依テハ相當ノ水吐口取設ケ候樣御指揮相成度依命此段申入候也

●道路堤塘使用料徵收手續

明治三十四年十月十二日市訓令甲第四十三號（各區役所）

道路堤塘使用料徵收手續左之通相心得ヘシ

一　使用料ハ總テ前納トス
二　指令書ハ使用料納付ノ上交付スルモノトス
三　本使用料ハ隨時收入ニ屬スルニ依リ指令書日付ノ年度ニ於

テ整理スヘシ但指令ニ納期ヲ定メタルモノハ其納期ノ屬スル年度ニ據ルモノトス

四　指令書交付ノ通知後一週間ヲ經過スルモ尙指令書受取方出頭申出テサル者アルトキハ指令書添付其旨具申スヘシ

●河岸地所在ノ神社地護岸修築費用徴收方

明治二十五年六月九日
市訓令甲自第百六十一號至第百六十五號
（神田、日本橋、京橋、本所、深川區役所）

河岸地所在ノ神社地護岸修築ハ自今本市ニ於テ施行シ其費用ハ該社ヨリ徴收ス

右神官ヘ相達スヘシ

●公道ニ存在ノ堀井戸及舊水道井戸處置方

明治三十五年十二月十日
市告示第八十號

本市内公道ニ存在スル堀井戸及舊水道井戸ハ明治三十六年三月三十一日限リ所有者又ハ監理者ニ於テ埋立ツヘシ其埋立ノ際ハ土木課所屬出張所ヘ屆出指揮ヲ請フヘシ但街路撒水用若クハ水道布設未濟ニ係ル道路ニアル井戸ニシテ存置ノ必要ヲ認ムルモノハ使用ノ目的竝ニ構造方法ヲ詳記シ當廳ニ願出ヘシ（明治四十一年十二月十六日市告示第二八十九號ニ基キ本文中「土木課所屬出張所」トアルハ「道路課所屬出張所」ノ義ト知ルヘシ）

●道路樹木植栽ニ關スル內規

明治四十三年三月二十五日
〔市參事會議決〕第千三百十四號

一　道路竝ニ橋臺廣場ニ植栽スヘキ樹木ハ公孫樹、梧桐、七葉樹、唐楓、槐、水木、椤、「アカメガシハ」櫻、篠懸木、衵纏木、柳ノ十二種トシ高壹丈貳尺幹廻四尺上リ六寸ヲ以テ標準トス但シ公孫樹、唐楓、槐、椤、篠懸木、衵纏木ニ限リ高壹丈幹廻四尺上リ四寸以上ノモノヲ用ユル事ヲ得

二　道路擴築等ノ結果路盤ニ現出シタル樹木ハ風致上存置ノ必要アリト認メタル場合ニ限リ道路ノ幅員ハ樹種ノ如何ニ拘ハラス之ヲ存置スルモノトス但シ交通上著キ障害アル場合ハ此限ニアラス

三　樹木ハ四間ノ間隔ニ植栽スルヲ要ス但シ土地ノ狀況ニ依リ二間乃至五間ノ範圍內ニ於テ伸縮スルコトヲ得

四　道路樹木ハ步車道ノ區別アリ且ツ步道ノ幅員九尺以上ノ道路ニ限リ步車道ノ境界下水ニ沿ヒ步道內ニ植栽スルモノトス但シ土地ノ狀況ニ依リ必要ト認ムル箇所ハ本項ノ制限ニ拘ハラス適宜植栽スルコトヲ得

五　地域ヲ限リ樹木ノ植栽若クハ補植ヲ出願シタルモノアルトキハ相當ノ條件ヲ付シ許可スルコトヲ得此場合ニ於テハ植栽樹木ヲ本市ニ寄附セシムルコトヲ要ス

六　從來ノ道路等ニ植栽セル樹木ノ管理培養等ハ總テ本市ニ於テ施行スルモノトス但シ自費植栽ニ係ル樹木ニシテ寄附ノ手續完了セサルモノハ尙從來ノ例ニ依ル

附　則

明治三十二年〔市參事會議決〕第一四三四一號道路樹木植付ニ關スル內規ハ本內規議決ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

●道路堤塘使用許可內規

明治四十年十月十八日
〔市參事會議決〕第四千七百四十八號

第一條　道路ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノヲ除ク外ハ建造物設置ノ爲メニ使用セシメス

一　其使用カ公用又ハ公共ノ性質ヲ有スルコト

二　市區ノ體裁ヲ損セス却テ道路ノ幅員ヲ整理スルニ利益アルコト

三　交通上必要ナキ空地ニシテ他ニ用途ノ見込ナキ箇所ナルコト

第二條　前條ノ道路使用願ハ使用地及坪數建物構造等ヲ明示シ尙左ノ要件ヲ具備セシムルヲ要ス但本市ニ於テ使用ノ許可ヲ必要トスルトキハ此限ニアラス

一　本市ニ於テ利害關係アリト認ムル隣接ノ土地所有者又ハ使用者竝ニ居住者ノ同意

二　市公民權ヲ有スル保證人ノ連署

本條ノ使用許可期間ハ五箇年以內トス

第三條　材料置場等建造物以外ノモノヲ目的トスル道路使用ニシテ一箇年以上ニ渉ルモノハ第一條第三號ノ場合ニ該當シ且第二條第一號ノ要件ヲ具備セサレハ之ヲ許可セス

第四條　家屋其他工事ノ爲メニ道路使用ヲ許可スルトキハ道路ノ幅員ニ應シ交通其他ニ支障ナキ幅員ニ限リ許可スルモノトス但工事終了以後ニ渉ルヲ許サス

第五條　使用繼續願ハ總テ本規定ニ依ル

建造物ヲ目的トスル使用ノ繼續願ニシテ前後ノ期間ヲ通シ五箇年以上ニ渉リ材料置場ヲ目的トスル使用ノ繼續願ニシテ前後ノ期間二箇年以上ニ渉ルトキハ繼續使用ノ許否ニ先チ其土地ノ處分方法ヲ定ムヘシ

第六條　賣却スヘキ廢道敷ニシテ買受人決定セルトキハ本內規ニ拘ハラス其買受ク可キ者ニ一時使用ヲ許可スルコトヲ得

第七條　使用料ハ附近貸地料ヲ參酌シテ許可ノ節之ヲ定ム

但前項使用料ハ事情ニ依リ六倍迄增徴スルコトヲ得（明治四十三年七月十三日〔市參事會議決〕第三千百七十一號ヲ以テ本項追加）

第八條　本規定設定前ニ既ニ使用ヲ許可シタルモノハ其期間終了

ト共ニ一先返地セシムルモノトス但返地ノ必要ヲ認メサルモノハ特ニ決議ヲ經テ本規定ニ依リ繼續使用セシムルコトヲ得

第九條 堤塘ニ關シテモ本内規ヲ準用處理スルモノトス

第十條 市有地貸渡規則ヲ適用スル土地内ノ道路堤塘使用願ニハ本内規ヲ適用セス

●道路敷石願許可標準内規

明治三十三年七月七日
（市參事會議決）土發第千五百七號

一 敷石ヲ許可スル道路ハ歩車道境界下水ノ設ケアル線路ノ歩道トス但境界下水ナキ道路ノ場合一町内若クハ其線路ノ全部ニ敷設セントスル者ハ此限リニアラス

一 間口貳間以上ニシテ道路全幅敷設ノモノニ限ル事

一 敷石ハ花崗石又ハ之ニ均シキ硬質ナル石材平方一尺以上厚サ二寸以上若クハ人造石平方一尺以上厚サ三寸以上ノモノニ限ル事（明治三十六年九月一日市參事會議決第三千三百三十九號ヲ以テ本項改正）

一 煉化石ハ面積黑燒過キ若クハ普通燒過キノモノニ限ル事

一 道路ノ地盤ヨリ高低ナキ樣敷設セシムル事

一 構造方法ハ地質ノ硬軟ニ拘ハラス基礎ハ可成結成石厚サ三寸乃至二寸トシ合セ目ハ砂詰メニ爲サシムル事

一 魚市場及青物市場ノ道路ニ對シテ其狀況ニ依リ許可スルコトアルヘシ

一 當廳ノ都合ニ依リ一時撤去或ハ全ク撤去ヲ命シ又ハ任意ニ依リ撤去ノ場合ハ原形路面ニ倣ヒ自費ヲ以テ修理セシムル條件ヲ附シ指令スルモノトス

●橋梁規程

明治四十三年八月二日
市訓令第三號（各部 各區役所）

第一條 河川、水路、道路、低地、谿谷其他ノ障害地ヲ跨キテ通路ヲ爲ス構造物ハ之ヲ橋梁トシテ取扱フ但左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ此限ニ在ラス

一 長六尺未滿ノモノ

二 純徑間三尺未滿（特別ナル場合ヲ除ク）ニ架設セルモノ

三 道路ニ沿フテ架設セラレ其道路ノ一部トシテ使用セラルルモノ

第二條 前條但書第一號ノ長サハ左ノ區別ニ依リ算定ス

一 木橋竝鐵橋ニアリテハ敷板面敷石面若シクハ之ニ相當スルモノノ長サ

二 石橋竝混凝土橋其他之ニ準スル橋梁ニアリテハ渡リ石敷石面若シクハ之ニ相當スルモノノ長サ

以　上

●河港課傭人規程

明治四十五年七月一日
市訓令甲第二十五號（第三部河港課）

河港課傭人規程別紙ノ通リ相定メ明治四十五年七月十六日ヨリ施行スルモノトス（明治四十五年七月十六日市訓令甲第二十六號ヲ以テ施行期日ヲ八月一日ヨリト變更ス）

傭人規程

第一條 河港課ニ於テ直傭ニ係ル工夫、職工、運轉夫、油差、水夫、火夫、船夫、潛水夫、人夫等ハ本規程ニ依リ之ヲ使役ス

第二條 左記傭人ハ定傭傭人トシ河港課ヨリ辭令書ヲ交付シ其他ノ者ハ臨時傭入トス

一 工夫、運轉夫、油差、職工長、職工伍長、量水標觀測人

二 本規程施行前辭令書ヲ受ケタル者

三 其他技能優秀ニシテ一班ノ長タル者又ハ功勞アル者

第三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ傭人ニ採用セス

一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

二 感染性ノ疾患アルカ又ハ身體虛弱ナル者

三 年齡十七歲未滿又ハ五十五歲以上ノ者但特ニ勞働ニ堪ユル者ヲ除ク

四 本市ニ於テ懲戒ノ爲メ解傭セチレ滿二箇年ヲ經過セサル者

第四條 定傭傭人ニ採用スヘキモノハ豫メ履歷書竝ニ市區町村長ノ身分證明書ヲ提出スヘシ

第五條 定傭傭人ニ採用セラレタル者ハ三日以內ニ身元保證人連署誓約書ヲ提出スヘシ

第六條 身元保證人ハ東京府下ニ居住シ獨立ノ生計ヲ營ム丁年以上ノ男子ニシテ河港課長ノ承認シタル者ニ限ル

身元保證人死去又ハ前項ノ資格ヲ失ヒタルトキハ更ニ選定ノ上屆出ツヘシ

第七條 傭人ハ何時ニテモ無償ヲ以テ解傭スルコトアルヘシ

第八條 定傭傭人ハ自己ノ便宜ニ依リ退職スルコトヲ得ス但年齡五十五歲以上ニ達シ勤務ニ堪ヘサルトキハ此限ニ在ラス

第九條 傭人ノ休暇日左ノ如シ

一 大祭祝日

二 一月二日　一月十六日　七月十六日　十月一日　十二月三十一日

定傭傭人ニシテ平素勤勉ナル者ハ前項ノ外一箇年ヲ通シ特ニ七日以內ノ休暇ヲ與フルコトアルヘシ

第十條 傭人ノ勤務時間左ノ如シ但潛水夫其他特殊ノ業務ニ從事スルモノニシテ別ニ規定アルモノハ此限ニ在ラス

區別	始業	終業	休憩
三月四月	午前七時	午後五時	一時間以內
五月六月 七月八月	午前七時	午後五時	一時三十分間以內
九月十月	午前七時	午後五時	一時間以內
十一月十二月 一月二月	午前七時	午後四時三十分	一時間以內

第十一條 傭人ハ業務ノ都合ニ依リ第九條休暇日及前條勤務時間外ト雖モ就業セシムルカ又ハ勤務時間內ト雖モ遲參早退若クハ全ク休業ヲ命スルコトアルヘシ

第十二條 傭人ニハ出面票ヲ交付シ置クヘキニ依リ出勤ノ際之ヲ掛員ニ提出スヘシ此場合ニ於テ掛員ハ之ニ前日ノ勤怠等ヲ記入

シ退場ノトキ返戻スルモノトス但給料仕拂期間ノ終了ニハ之ニ支給金額ヲモ記入スヘシ

第十三條　傭人給料ハ日給トシ其等級ハ別ニ之ヲ定ム

第十四條　臨時傭人ニハ特ニ就業ヲ命シタルモノノ外第九條休暇日ノ日給ヲ支給セス第十一條ノ命令ニ依ル休業當日ノ日給亦同シ

第十五條　規定勤務時間外又ハ休暇日ニ就業セシメタルトキハ左ノ割合ニ依リ加給ス但一時間未滿三十分以上ノ端數ハ一時間ニ計算ス

一　平日	終業時刻ヨリ午後十時迄	一時間ニ付	日給百分ノ十以内
	午後十時ヨリ午前四時迄	同	日給百分ノ十五以内
	午前四時ヨリ始業時刻迄	同	日給百分ノ十以内
一　休暇日	規定勤務時間内	同	日給百分ノ十以内
	上時間外	同	日給百分ノ十五以内

交替勤務ノ場合ハ其勤務時間外ニ限リ又臨時傭人ニシテ休暇日ニ就業セシメタル場合ハ規定勤務時間外ニ限リ前項ヲ適用ス

第十六條　水中其他特別ノ勞務ニ服セシメタルトキハ河港課長ニ於テ相當加給スルコトヲ得但加給額ハ日給額ヲ超ユルコトヲ得ス

第十七條　傭人遲參早退シタルトキハ定傭傭人ニシテ第十一條ノ命令ニ依ル場合ノ外不就業一時間ニ付日給百分ノ十以内ヲ減スルカ又ハ全ク日給ヲ支給セサルコトアルヘシ但減給一時間未滿ノ端數ハ第十一條ノ命令ニ依ル遲參早退ヲ除ク外一時間ニ計算ス

第二十七條ニ依ル減給ノ場合ハ一箇月以内ノ期間日給二分ノ一以内ヲ減シ又退場ヲ命シタルトキハ當日ノ日給ヲ支給セス

第十八條　傭人ハ掛員ノ命令及上級傭人ノ指揮ニ服從シ各其業務ニ從事スヘシ

第十九條　傭人ハ本規程ノ外一般ノ諸規則ハ勿論工事掛ノ定ムル諸規定ヲ遵守スヘシ

第二十條　傭人ハ誠實勤勉互ニ相和合シ專ラ業務ノ成績ヲ擧クルコトニ努メ荷モ粗暴喧噪ニ涉ル擧動アルヘカラス

第二十一條　傭人ハ其本職以外ノ業務ニ從事セシメラルルモ之ヲ拒ムヘカラス

第二十二條　就業時間中ハ業務ノ場所ヲ離ルルコトヲ得ス但疾病其他止ムヲ得サル事故アリテ退場セントスルトキハ掛員ノ認可ヲ受クヘシ

第二十三條　天災其他非常事變ノ場合ニハ急速業務ノ場所ニ駈付掛員ノ指揮ヲ受クヘシ

第二十四條　定傭傭人病氣其他ノ事故ニ依リ缺勤セントスルトキハ當日午前十時迄ニ屆出スヘシ

第二十五條　故意怠慢ニ依リ工事用物品ヲ亡失毀損シタルトキハ辨償ヲ命セラルヘシ

第二十六條　工夫職工長其他一班ノ長タル者ハ取扱ヲ命セラレタル物品ニ對シ保管ノ責アルモノトス

第二十七條　左ノ場合ニ於テハ減給又ハ解傭若クハ退場ヲ命スルコトアルヘシ

一　疾病勞働ニ堪ヘサルモノト認ムルトキ
一　怠惰ナルモノト認ムルトキ
一　喧嘩口論ヲナシタルカ又ハ粗暴ノ行爲アリタルトキ
一　不正ノ行爲アリタルトキ
一　拾五日以上缺勤シタルトキ
一　無屆缺勤シタルトキ
一　貸與物品ヲ鄭重ニセサルトキ
一　其他本規程ノ義務ニ違背セルトキ

誓約書

私儀今般貴課何何ニ御採用相成候ニ就テハ傭人規程ヲ遵守シ且御指揮ニ從ヒ誠實ニ服務可致ハ勿論身元保證人ハ本人ノ一身上及ヒ財産上ニ關スル一切ノ事項ヲ引受ケ處辨シ御迷惑相掛申間敷候依テ連署ヲ以テ誓約書差出置候也

年　月　日

住所
本人　何　某　印
住所
身元保證人　何　某　印

河港課長宛

●市内河川浚渫獎勵金支給規程

大正二年四月四日
市訓令甲第二十六號（第三部）

市内河川浚渫獎勵金支給規程別紙ノ通リ定メ大正二年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

市内河川浚渫獎勵金支給規程

第一章　通則

第一條　市内河川浚渫ニ從事スル浚渫機船乘務員及工夫ニハ甲乙二種ノ獎勵金勸簾浚渫船夫及工夫ニハ丙種獎勵金ヲ別表ニ據リ支給ス但河川ノ狀態ニ依リ河港課長ハ之ヲ增減又ハ停止スルコトヲ得

前項但書ニ依リ增加スルトキハ十割以内タルヘシ

第二條　自己ノ便宜ニ依リ辭職シタルモノニハ最終期間ノ獎勵金ヲ支給セス

第二章　浚渫機船乘務員

第三條　甲種奬勵金ハ一箇月間ノ浚渫舟坪ニ依リ甲第一號表又ハ甲第二號表ニ照シテ支給ス但舟坪ヲ知リ難キトキハ浚渫實積ニ二割ヲ加ヘ計算ス

第四條　乙種奬勵金ハ浚渫計畫線ニ對スル竣功成績ヲ查定シ竣功檢查報告ニ記載スル計畫線內浚渫實積ニ依リ乙號表ニ照シテ支給ス

第五條　前條ノ竣功成績ハ計畫土量ニ對スル計畫線內殘留土量ノ割合ニ應シ左ノ通リ區別ス但河川ノ狀態ニ依リ斟酌ヲ加フルコトアルヘシ

一　最良　一割未滿
二　良好　一割以上一割四分未滿
三　普通　一割四分以上一割八分未滿
四　不良　一割八分以上

不良ノ成績續出シタルトキハ次ニ良好以上ノ成績ヲ擧クルモ奬勵金ヲ支給セサルコトアルヘシ

第六條　奬勵金ヲ受クル浚渫機船乘務員ハ天候其他ノ故障ナキ限リ規定作業時間ノ前後ニ亘リ各一時間以上運轉ニ從事スヘシ

第七條　浚渫機船乘務員及工夫ニシテ疾病其他ノ事故ニ依リ乘務セサル日アルトキハ其日數ニ應シ奬勵金ヲ減ス但運轉休止中特ニ下船ヲ命シタルトキハ此限ニアラス又遲參早退ハ乘務セサル日ニ計算ス

第八條　奬勵金ヲ受クル浚渫機船乘務員ニハ歩增ヲ支給セス但浚渫又ハ當該船ノ修繕ニ關係ナキ業務ニ從事セシメタルトキ若クハ修繕其他ノ事故ニ依リ運轉休止七日以上ニ亘リタルトキハ此限ニアラス

第三章　鋤簾浚渫船夫

第九條　丙種奬勵金ハ浚渫計畫線ニ對スル竣功成績ヲ查定シ船夫ニハ丙號表ニ照シ舟坪ニ依リ工夫ニハ同班船夫ノ受クル奬勵金總額ノ十五分ノ一ヲ支給ス

第十條　前條竣功成績ノ區別ニ付テハ第五條ヲ適用ス但殘留土量ノ割合左ノ如シ

一　最良　二割未滿
二　良好　二割以上二割八分未滿
三　普通　二割八分以上三割五分未滿
四　不良　三割五分以上

第十一條　工夫二名以上ニシテ一團ノ船夫ヲ監督シタルトキハ各從事日數ニ應シ第九條ノ金額ヲ分配支給ス

（別表略ス）

●鋤簾浚渫直營施行規程

明治四十四年九月二十三日（第三部）
市訓令甲第四十三號

第一章　總則

第一條　本市ニ於テ土運船ヲ供給シ船夫ヲシテ河川鋤簾浚渫工事ニ從事セシムル場合ハ此規程ニ依ル

第二條　浚渫及土砂運漕個所ハ河港課長（以下課長ト稱ス）之ヲ定ム

第三條　土運船一艘ニ船夫一人ヲ置キ土運船若干ヲ一組トシ組ニ工夫若干ヲ置キ船夫竝ニ土運船ノ取締ヲナサシム

船夫ハ課長ノ承認ヲ受ケ土運船ニ船夫手傳一人ヲ乘組マシムルコトヲ得

第四條　作業時間及休日左ノ如シ但潮汐其他事業ノ都合ニ依リ定時間外又ハ休日ト雖モ作業セシムルコトアルヘシ

一　作業時間
自三月一日至十月末日　自午前七時至午後五時
自十一月一日至二月末日　自午前八時至午後四時

二　休日
一月一日　二日　十六日
七月十六日
十月一日
十二月三十一日
大祭祝日（大正元年十一月九日市訓令甲第十四號ヲ以テ改正）

第五條　河港課ニ左ノ帳簿ヲ置ク
一　土運船臺帳
一　船夫原簿
一　浚渫土坪決定ニ關スル帳簿
一　浚渫賃金支出ニ關スル帳簿

前項ノ外補助簿ノ必要アルトキハ便宜課長ニ於テ備置クコトヲ得

第二章　船夫雇傭及給與ニ關スル事項

第六條　船夫ハ左ノ資格アル者ヲ採用ス但特ニ技能アル者ハ第一號ノ年齡ニ拘ハラス採用スルコトアルヘシ
一　年齡二十一歲以上五十五歲以下ニシテ身體强壯勞働ニ耐ユルモノ
一　作業ニ經驗アルモノ
一　處刑ヲ受ケタルコトナキモノ

第七條　船夫ヲ傭入レタルトキハ第一號樣式ニ依リ請書ヲ徵スルモノトス

前項ノ請書ニ連署スヘキ保證人ハ左ノ資格アルコトヲ要ス
一　東京市內ニ住所ヲ有スルコト
一　市町村公民權ヲ有スルカ又ハ本市吏員（雇ヲ除ク）タルコト

第八條　船夫ニハ土運船及左ノ附屬品ヲ貸與シ其浚渫土坪ニ對シ賃金ヲ支給ス但第四條休日及作業ノ都合ニ依リ課長ニ於テ休業セシメタルカ又ハ職務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ休業シタルトキハ一日ニ付金參拾錢ヲ支給スルコトアルヘシ

附屬品
一　舵　壹挺

一　櫓　壹挺
一　水竿　貳本
一　垢取　壹個
一　碇泊燈　壹個
一　步板大小　貳枚
一　早尾綱　壹本
一　最合綱　壹本

前各號ノ外作業上必要ナル備品消耗品ハ船夫ノ費用ヲ以テ完備スヘシ

第九條　土運船竝附屬品ヲ貸與シタルトキ第二號樣式ニ依リ借用證ヲ徵スヘシ

前項借用證ニハ第七條保證人連署スルコトヲ要ス

第十條　浚渫賃金ハ個所ノ狀況及運漕距離等ヲ斟酌シ課長之ヲ定ム

第十一條　船夫賃金ハ每月二回（一日ヨリ十五日迄及十六日ヨリ月末迄）之ヲ支給ス

第三章　土運船竝附屬品取扱ニ關スル事項

第十二條　土運船ニハ第三號樣式ニ依リ市徽章及船番號ヲ記入セル標札ヲ舳部舷側ニ又第四號樣式ニ依リ所屬組船夫竝同手傳姓名、積量、長、幅、深、吃水（空積）等ヲ記入セル標札ヲ艫部一定ノ個所ニ揭出スヘシ但市有船ニ在リテハ市徽章及船番號ハ船體ヘ彫刻スルコトヲ得

市有土運船附屬品ニハ其見易キ箇所ニ烙印其他ノ方法ヲ以テ船番號及市有品タルコトヲ表示スヘシ

第十三條　土運船竝附屬品ハ船夫之ヲ保管シ常ニ清潔叮嚀ヲ旨トシ取扱上ノ注意ハ周到ナルヲ要ス

第十四條　土運船ニハ作業時間外又ハ休日ト雖モ船夫若クハ船夫手傳ニ於テ乘組之レカ警戒ヲナスヘシ

第十五條　土運船竝附屬品ハ轉貸スルコトヲ得ス

第十六條　土運船竝附屬品流失沈沒又ハ毀損シタルトキハ直ニ所屬監督員ニ申告スヘシ

第十七條　貸與土運船竝附屬品ヲ故意又ハ過失ニ依リ船夫ニ於テ亡失毀損シタルトキハ船夫ノ費用ヲ以テ本市指定ノ通リ修理セシムルカ若クハ同等以上ノ代物又ハ借用證書添付目錄記載價格ノ金額ヲ納付セシム但船夫ニ對シ下渡スヘキ金額アルトキハ該金額ノ內ヨリ賠償金額ヲ控除スルコトアルヘシ（大正元年九月三十日市訓令甲第五號ヲ以テ本條改正）

第十八條　土運船立船ハ材料ヲ交付シ期日ヲ定メ船夫ヲシテ施行セシム

第十九條　土運船竝附屬品等ハ一箇月一回檢査ス但事宜ニ依リ臨時檢査ヲ執行スルコトアルヘシ

前項檢査員ハ河港課吏員中ヨリ課長之レヲ指定ス

第二十條　前條檢査員ハ左ノ事項ヲ審査スヘシ

一　貸與土運船竝附屬品ノ個數

一　同上破損ノ有無
一　土桝裝置ノ狀況
一　船夫負擔作業用品完備ノ有無
一　其他土運船竝附屬品取扱狀況

檢査ノ結果附屬品其他作業用品完備セサルトキハ期日ヲ定メ新調又ハ補修セシムヘシ

第四章　浚渫運漕ニ關スル事項

第二十一條　浚渫個所ニハ工事著手前設計圖面ニ基キ見通竹ヲ建設シ實施區域ヲ明カナラシムヘシ

第二十二條　土運船桝形內ハ日日作業前監督員ニ於テ檢査スヘシ

第二十三條　作業ニ際シテハ通船其他ノ妨害トナラサル樣注意スヘシ

第二十四條　第二十一條實施區域內ハ設計圖面ニ依リ土質ノ硬軟ニ拘ハラス浚渫シ木石等苟モ通船ノ妨害トナルヘキモノハ除却シ不陸ナキ樣施行スヘシ

第二十五條　浚渫土ハ間隙及不陸ナキ樣土運船桝形內ニ敷均シ水分ヲ除却シタル上監督員ノ竿入檢査ヲ受クヘシ

前項竿入檢査ノ場合ハ桝形內ヘ六個所以上步竿ヲ眞直ニ打立テ其平均深ヲ積載土坪ノ深トス第二十七條竿入檢査ノ場合亦同シ

第二十六條　竿入檢査ヲナシタルトキハ監督員ニ於テ浚渫日票ニ發船日附竝番號ヲ記入シ船夫ニ交付シ且ツ送切符正副二通ニ左記事項ヲ記入捺印シ正本ハ所屬掛長ヲ經由シ課長ニ送付シ副本ハ船夫ニ交付ノ上浚渫土ハ指定地ニ運漕セシムヘシ

正本

一　工事個所
一　船番號
一　發船番號
一　發船日時
一　船夫名
一　積載土坪及其面積、長、幅、深

一　副本
一　正本中積載土坪及其面積長、幅、深ヲ除キタル事項

第二十七條　前條土運船運漕指定地ニ到著シタルトキハ船夫ハ檢査員ニ送切符ヲ提出シ再竿入檢査ヲ受ケ浚渫土ハ指定個所ニ陸揚搔均ヲナスヘシ但送切符ヲ提出セサルトキハ檢査ヲ執行セサルコトアルヘシ此場合ニ於テ浚渫土ハ指定個所ニ陸揚セシメ其賃金ヲ支給セス

第二十八條　浚渫土陸場完了シタルトキハ檢査員ニ於テ浚渫日票ニ著船日附、土坪ヲ記入捺印ノ上船夫ニ交付シ且ツ前條送切符ニ著船日時土坪及其面積、長、幅、深ヲ記入捺印ノ上所屬掛長ヲ經由シ課長ニ送付スヘシ

第二十九條　運漕又ハ陸揚ニ際シ浚渫土ヲ墜落シタルトキハ船夫ニ於テ直ニ浚揚クヘシ

第三十條　浚渫土ニシテ指定地ニ到著セサルモノアルトキハ其土坪賃金ノ三倍ヲ損害辨償トシテ納付セシムヘシ

前項納付金ニハ第十七條第三項ヲ適用ス

第三十一條　第二十六條第二十八條送切符ヲ受理シタルトキハ課長ニ於テ各切符ノ土坪ヲ照合シ其少量ナルモノヲ決定土坪トシ賃金ヲ計算ス此場合ニ於テ土坪ノ差過度ニシテ不正ノ行爲アリト認ムルトキハ其差額ニ對シ前條ヲ適用ス

第三十二條　監督員ハ前條決定土坪ヲ浚渫日票ニ記入捺印ノ上船夫ニ交付スヘシ

第五章　船夫服務心得

第三十三條　船夫ハ監督員ノ命令ヲ服膺シ誠實叮嚀ヲ旨トシ業務ニ精勵ナルヘシ

第三十四條　船夫ハ毎日監督員指定ノ個所ニ出役シ其點檢ヲ受クヘシ

第三十五條　疾病其他事故ノ爲メ休業セントスルトキハ即日監督員ヲ經由シ屆出ツヘシ就業中退場スル場合亦同シ

第三十六條　左ノ場合ニ於テハ解傭又ハ退場セシムルコトアルヘシ

一　監督員ノ命令ニ從ハサルトキ

一　不正ノ行爲アリタルトキ

一　怠惰ナリト認ムルトキ

一　喧嘩口論ヲナシタルトキ

一　故ナク土運船又ハ現場ヲ離レタルトキ

一　無屆缺勤シタルトキ

一　十五日以上缺勤シタルトキ

一　勞働ニ堪ヘサルモノト認ムルトキ

一　貸與物件ヲ他ノ目的ニ使用セシトキ

一　貸與物件ヲ鄭重ニ保管セサルトキ

一　其他本規程ニ違反セシトキ

第三十七條　船夫手傳ノ所爲ニ對シテハ所屬船夫ニ於テ一切其責ニ任スヘシ

附　則

第三十八條　本規程所定樣式ノ外帳簿其他ノ樣式ハ市長別ニ之ヲ定ム

第三十九條　本規程ハ機械浚渫土運漕直營施行ニ之ヲ準用ス（大正元年九月三十日市訓令甲第五號ヲ以テ本條追加）

（第一號樣式）

請　書

住　所

氏　名

年月日生

右者今般御市直營鋤簾浚渫船夫ニ御採用相成候ニ就テハ御市鋤簾浚渫直營施行規程竝諸規程ヲ遵守シ服務可仕保證人ハ本人ト連帶シ其義務ヲ履行シ聊カ御市ヘ御迷惑相掛申間敷候依テ保證人連署請書差出置候也

年　月　日

住　所

右本人　氏　名　印

住　所

保證人　氏　名　印

（市參事會）市長宛

（第二號樣式）

土運船借用證書

第　何　號

一　川浚土運船　壹　艘

長何間　幅何尺　傳馬船

附屬品　別紙目錄ノ通リ

右ハ今般無料ヲ以テ借用仕候ニ就テハ鋤簾浚渫直營施行規程ヲ遵守シ叮嚀ニ使用可仕保證人ハ本人ト連帶シ其義務ヲ履行シ聊カ御市ヘ損害相掛申間敷候依テ保證人連署借用證書差出置候也

年　月　日

住　所

右借用人　何　誰　印

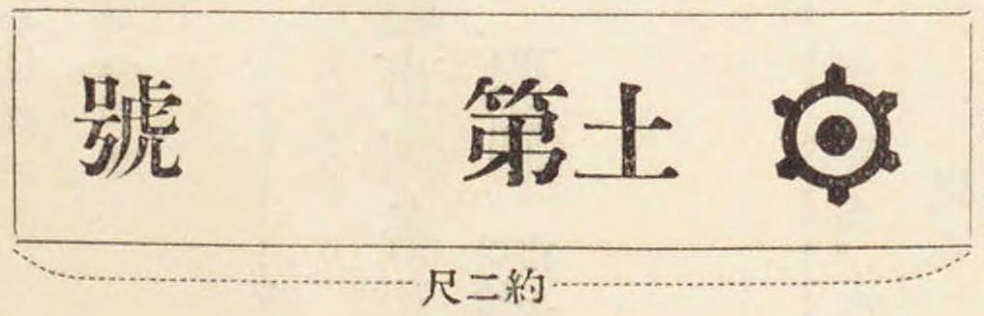
住　所

保證人　何　誰　印

（東京市參事會）東京市長宛

（第三號樣式）

（甲）　外小緣ノ幅



（乙）　外小緣ノ幅

備　考

一　甲ハ市有船　乙ハ借入船トス

一　材質　檜材

一　厚　五分以上

（第四號樣式）

三寸五分 × 四寸五分

土運船第　　號				
積量	長	幅	貸與	
坪合夕	尺　寸	尺　寸	明治　年　月　日	組船手 夫傳
土桝	深	吃水		
長　尺　寸 幅　尺　寸 深　尺　寸	尺　寸	空積 尺　寸 二 尺　寸		

備考

一　備入船番號ハ「土運船供第　　號」ト記入ノコト

一　材質檜材

一　厚五分以上

◯市内各川浚渫工事從事船員服制

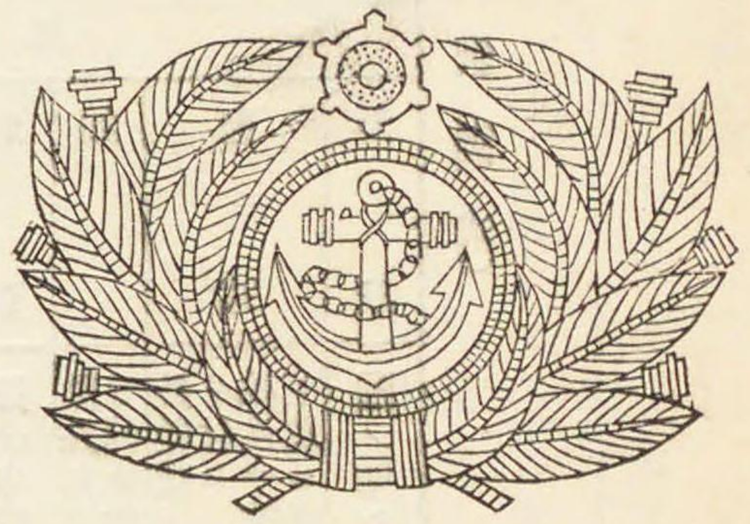
明治四十三年六月九日
市告示第四十六號

（別紙）

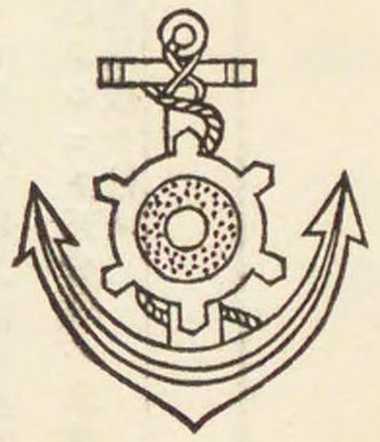
名稱		階級　機關手	運轉夫、火夫、水夫、油差
帽子	地質	黒羅紗裏木綿	同上
	前章	金モール製月桂樹ノ一對ヲ合セ中央ニ眞鍮製打出ノ金鍍錨形（直徑八分五厘ノ金モール製圓中ニ入ル）ヲ附シ其上部ニ銀鍍市ノ徽章（徑五分）ヲ付シ而シテ中央丸形地質ハ紫色トス　樣式及色別如圖	眞鍮製打出ニシテ金鍍錨形（最大部高サ一寸三分幅同一寸）ノ中ニ銀鍍市ノ徽章（徑六分五厘）ヲ付ス
	眼庇	革黒色弧形ニシテ前ニ出ルコト一寸五分	同上
	釦	金鍍櫻形（徑四分）トス	同上
	顋紐	革黒色幅四分トス	同上
	横章	品質ハ黒色縁ニシテ毛縁ノ幅八分一條ヲ付ス	
	製式	下部高一寸五分、上部圓ノ直徑約八寸下部圓ノ直徑約七寸トス	同上
	形狀	小判形船員帽ニシテ圖ノ如シ夏ハ白布ヲ以テ覆ス	同上
雨帽	地質	厚金巾製ニシテ水防黒塗トス	同上
	釦	黒丸覆面止二個ヲ付ス	
	形狀	圖ノ如シ	製式ハ兜形ニシテ如圖
雨衣	地質	原金巾製ニシテ水防黒塗トス	雨合羽黒色
	釦	黒丸大サ徑五分五厘前合セ目ノ内側ニ五個襟部ニ五個ヲ付ス	
	製式	長靴踵上際ヲ距ルコト約九寸物入前面左右各一個ヲ付ス袖長サ腕關節ヨリ延フルコト五分脊ハ二重ニシ腋下及ヒ脊ノ内面ニ空氣拔ヲ付ス	圖ノ如シ
	形狀	圖ノ如シ	圖ノ如シ

（服制圖式）

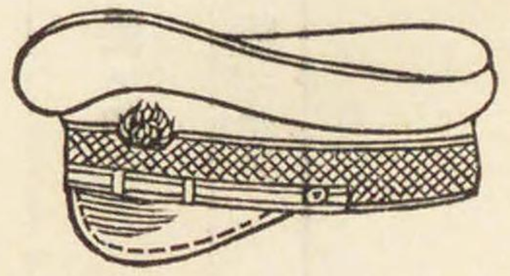
機關手 帽章



水火夫 油差 運轉夫 帽章

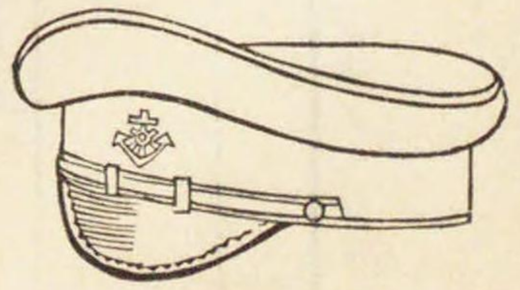


機關手 帽子



夏ハ白布ヲ以テ覆フ

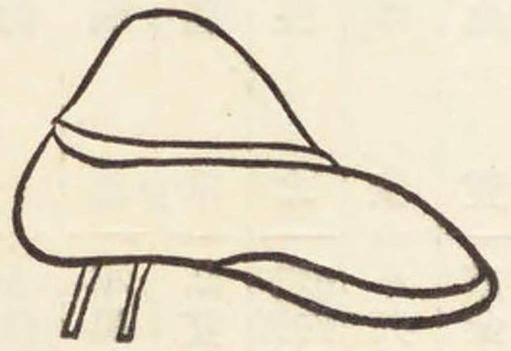
水火夫 油差 運轉夫 帽子



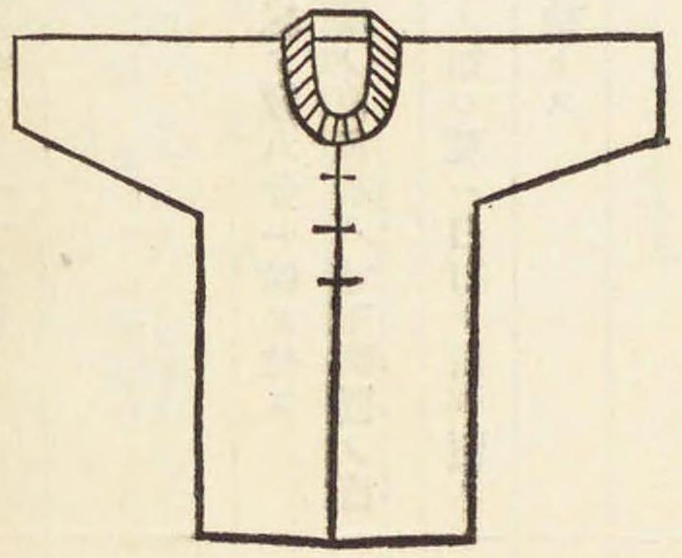
夏ハ白布ヲ以テ覆フ

(雨衣及雨帽)

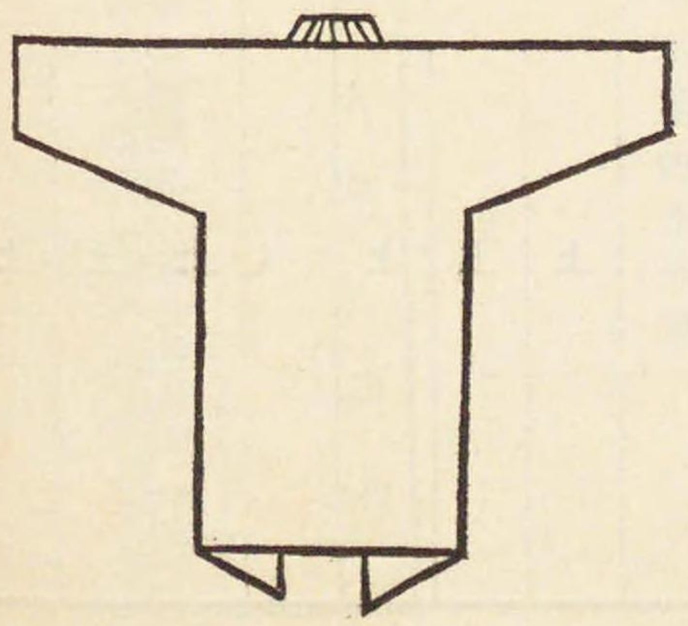
水火夫 油差 運轉夫



前面

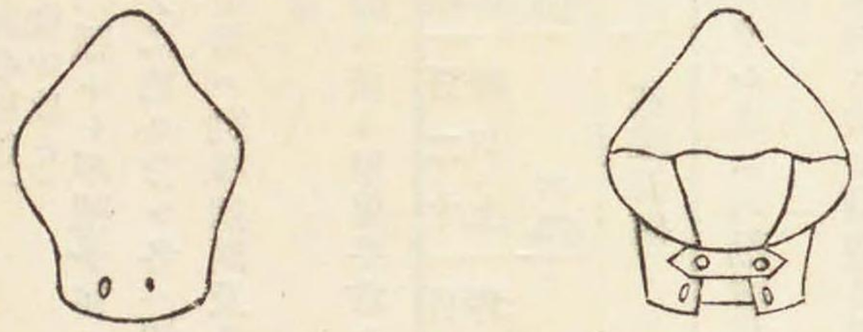


背面

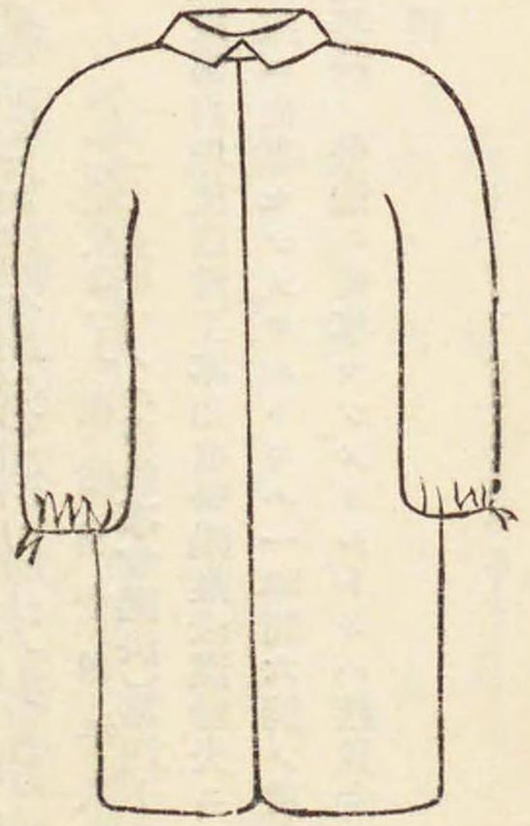


(雨衣及雨帽)

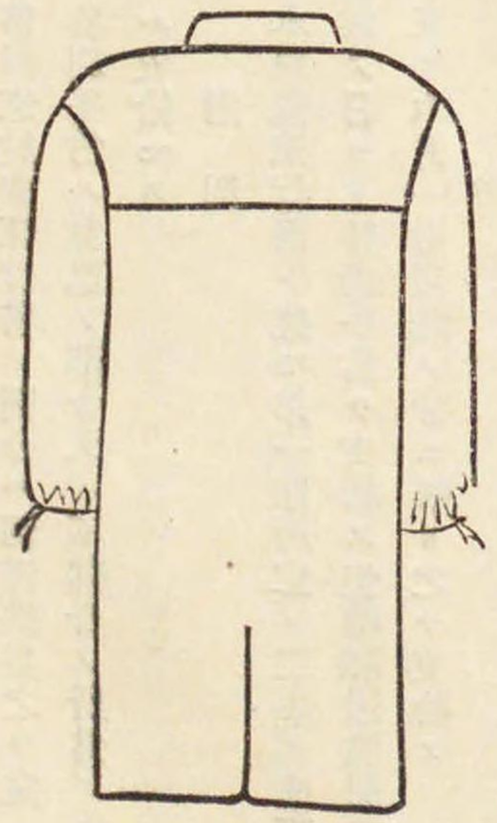
機關手



前面



背面



●河川浚渫船夫特別手當支給規程

明治四十四年六月十四日市訓令甲第二十八號（第三部）

第一條　直營鋤簾竝機械浚渫船夫ニシテ本市河川浚渫竝海面埋築設備工事ニ從事シタルトキハ本規程ニ依リ特別手當ヲ支給ス

第二條（大正元年九月二十日市訓令甲第三號ヲ以テ本條以下各條中改正）　特別手當ハ甲乙二種トシ甲種手當ハ六月ヨリ十一月迄及十二月ヨリ翌年五月迄ノ二期ニ分チ各一期間ノ浚渫成績ニ依リ其翌月之ヲ支給シ乙種手當ハ勤續期間及其成績ニ依リ退職ノ際之ヲ支給ス

第三條　船夫ニハ左ノ區別ニ依リ甲種手當ヲ支給ス

區別	九十坪以上	百二十坪以上	百五十坪以上	百八十坪以上
鋤簾浚渫一坪每支給金額	參錢	六錢	八錢	
機械浚渫一坪每支給金額		貳錢五厘	七錢	七錢

第四條　勤續一期間ニ滿タサル者ニハ勤續日數ニ應シ第三條ノ區別ヲ定ム

第五條　乙種手當ハ左ノ區別ニ依リ勤續日數ニ應シ之ヲ支給ス

勤續年限／區別	二箇年以上	四箇年以上
鋤簾浚渫一坪每支給金額	壹錢	貳錢
機械浚渫一坪每支給金額	七厘	壹錢五厘

第六條　特別手當ハ鋤簾浚渫直營施行規程第三十五條決定土坪ニ依リ計算ス但土運搬遠距離其他作業困難ノ個所ハ其土坪ニ三割以内ヲ加ヘ計算スルコトアルヘシ

第七條　第四條竝前條但書ノ割合ハ河港課長之ヲ定ム

第八條　特別手當ハ自已ノ都合又ハ不都合ノ所爲アリテ退職シタル者ニハ支給セス

附　則

第九條　本規程施行前ト雖モ第一條所定ノ工事ニ從事シタルモノニハ其就業ノ日ヨリ特別手當ヲ支給ス但機械浚渫船夫甲種手當ハ明治四十五年六月一日以降ノ分ニ限リ之ヲ支給ス

●直營鋤簾浚渫船夫特別勞働賃金支給方

明治四十四年八月三十日（市參事會議決）第四千八百四十五號

河川浚渫竝海面埋築設備工事用直營鋤簾浚渫船夫ニシテ鋤簾浚渫以外ノ作業ニ從事セシメタルトキハ一時間六錢ノ賃金ヲ支給ス但夜間其他特殊ノ勞働ニ從事セシメタルトキハ該賃金ニ步增ヲ附スルコトヲ得

●隅田川口改良工事船舶機械艇宿直規程

明治四十三年六月八日市訓令甲第二十八號（第三部）

第一條　隅田川口改良工事船舶機械艇ニハ本規程ニ依リ宿直ヲ置ク

第二條　宿直ノ定員左ノ如シ

	種目名稱	人員
	室田	二人
	業平	二人
	駒形丸	十人
	白鬚	七人
	玉姫	七人
浚渫機	第一號船	二人
浚渫機	第二號船	二人
浚渫機	第一千代田	二人
浚渫機	第二千代田	二人
浚渫機	第三千代田	二人
浚渫機	第四千代田	二人
碎岩機		二人
曳船用小蒸汽船	飛鳥丸	品川第二第五砲臺內各二人
曳船用小蒸汽船	綾瀨丸	
曳船用小蒸汽船	墨田丸	
曳船用小蒸汽船	宮戶丸	同砲臺外各全乘組員
曳船用小蒸汽船	羽田丸	
曳船用小蒸汽船	滿乳丸	
	監督船小梅丸	二人
	鋼製土運船	各二人
水船	第一號	一人
水船	第二號	一人
水船	第三號	一人
水船	第四號	二人

天候不穩其他特殊ノ事情アルトキハ定員以上ニ增加スルコトヲ得

第三條　前條浚渫機、碎岩機、曳船用小蒸汽船監督船定員ノ內一人ハ高等船員トシ若シ高等船員一人ノミ乘組メル場合ニ在リテハ一人ハ高等船員又ハ其普通船員首席ヲ以テシ他ハ普通船員トス又鋼製土運船ニ在リテハ船夫ヲ以テ之ニ充テ各自輪番ニ擔當セシム

第四條　宿直員中上席者ハ他ノ宿直員ヲ監督スヘシ但シ鋼製土運船ニ在リテハ其所屬ニ從ヒ浚渫機宿直員ノ監督ヲ受クルモノトス

第五條　現場監督員ハ其週末ニ翌週ノ宿直員ヲ定メ工場主任ヘ報告スヘシ但第　條第二項ノ場合ニ於テハ宿直員ヲ變更スルコトアルヘシ

第六條　宿直勤務時間左ノ如シ但作業ノ都合ニ依リ定時間外居殘リ勤務ノ場合ハ其修業ノ時ヨリ又早出勤務ノ場合ハ始業ノ時迄宿直勤務ニ服スヘシ

一　平　日　規定終業時刻ヨリ翌日規定始業時刻迄
一　休　日　甲規定始業時刻ヨリ當日規定終業時刻迄
　　　　　　乙規定終業時刻ヨリ翌日規定始業時刻迄

第七條　宿直員病氣其他ノ事故ノ爲メ勤務スルコト能ハサル場合ハ現場監督員ノ許可ヲ受ケ代理ヲ設クルコトヲ得

第八條　宿直員ハ時時船內ヲ巡視シ左ノ事項ヲ注意警戒スヘシ
一　碇泊燈ノ狀況
一　附屬船其他物品ノ狀況
一　盜難及火氣ノ有無
一　他船ノ通航
一　天候

第九條　宿直員ハ豫メ重要簿書及物品ノ所在ヲ關係者ヨリ承合シ置キ非常事變避難ニ備フヘシ

第十條　宿直員ハ天候險惡ノ兆候其他非常事變アリタルトキハ直ニ河港課芝浦詰所宿直及所屬船長又ハ機關長ニ急報シ且ツ臨機ノ措置ヲナスヘシ

第十一條　宿直員ハ取扱ヒタル事項ノ要領ヲ宿直日誌ニ記載シ翌日所屬船長又ハ機關長ヲ經現場監督員ノ檢印ヲ受クヘシ

第十二條　宿直員ハ左ノ行爲アルヘカラス
一　故ナク乘組船ヲ離ルル事
一　飲酒シ又ハ喧噪ニ渉ル事
一　他人ヲ乘組マシメ又ハ宿泊セシムル事

第十三條　宿直シタル者ハ其翌日引續キ勤務スヘシ但シ特殊ノ事故アルモノハ運轉ニ支障ナキ限リ現場監督員ニ於テ休業ヲ許可スルコトヲ得

第十四條　宿直シタル者ニハ明治三十三年市訓令甲第二十號市吏員以下宿直夜勤賄支給額ニ準據シ左ノ賄料ヲ支給ス（明治三十三年市訓令甲第二十號ハ同四十四年三月二十一日市訓令甲第十三號ヲ以テ廢止シ同時ニ賄料ヲ支給スルコトトナレリ）
一　規定終業時刻ヨリ翌日規定始業時刻迄　貳賄
一　休日規定始業時刻ヨリ當日規定終業時刻迄　壹賄

●隅田川口改良工事用船員服制

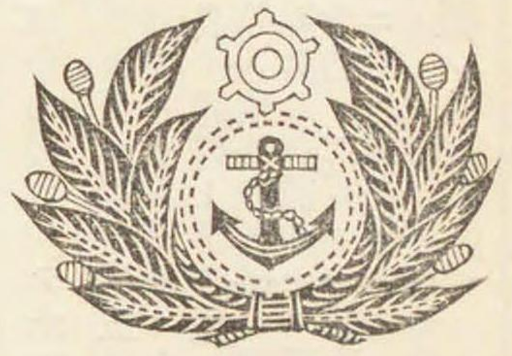
明治四十一年七月十五日
市告示第六十三號

名稱	階級	運轉士	機關士	運轉夫、水夫、火夫、油差
帽子	地質	黑羅紗裏木綿	同上	同上
帽子	前章	金モール製月桂樹ノ一對ヲ合セ中央ニ眞鍮製打出ノ金鍍錨形（直徑八分五厘ノ金モール製圓中ニ入ル）ヲ付シ其上部ニ銀鍍市ノ徽章（徑五分）ヲ付シ而シテ中央丸形地質ハ黑天鵞絨トス樣式及色別如圖	同上 但中央丸形地質ハ紫色トス	眞鍮製打出ニシテ金鍍錨形（最大部高サ一寸三分幅同一寸）ノ中ニ銀鍍市ノ徽章（徑六分五厘）ヲ付ス
帽子	眼庇	革黑色弧形ニシテ前ニ出ルコト一寸五分	同上	同上
帽子	釦	金鍍櫻形（徑四分）トス	同上	同上
帽子	顋紐	革黑色幅四分トス	同上	同上
帽子	横章	品質ハ黑色縁ニシテ毛縁ノ幅八分一條ヲ付ス	同上	
帽子	製式	下部高一寸五分、上部圓ノ直徑約八寸下部圓ノ直徑約七寸トス	同上	同上
帽子	形狀	小判形船員帽ニシテ圖ノ如シ夏ハ白布ヲ以テ覆ス	同上	同上
雨帽	地質	厚金巾製ニシテ水防黑塗トス	同上	同上
雨帽	釦	黑丸覆面留二個ヲ付ス	同上	
雨帽	形狀	圖ノ如シ	同上	製式ハ兜形ニシテ如圖
雨衣	地質	厚金巾製ニシテ水防黑塗トス	同上	雨合羽黑色
雨衣	釦	黑丸大サ徑五分五厘前合セ目ノ內側ニ五個襟部ニ五個ヲ付ス	同上	
雨衣	製式	長サ靴踵上際ヲ距ルコト約九寸物入前面左右各一個ヲ付ス袖長サ腕關節ヨリ延フルコト五分背ハ二重ニシ腋下及背ノ內面ニ空氣拔ヲ付ス	同上	圖ノ如シ
雨衣	形狀	圖ノ如シ	同上	圖ノ如シ

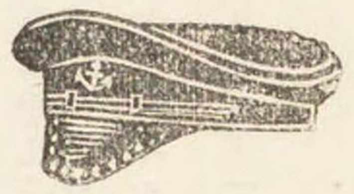
服制圖式

帽章 {運轉士 機關士}

帽子 {運轉士 機關士}

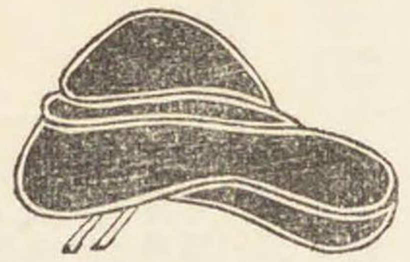


夏ハ白帽布ヲ以テ覆フ

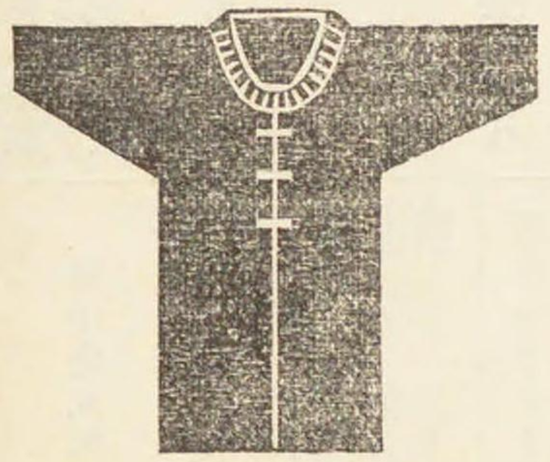


(雨衣及雨帽)

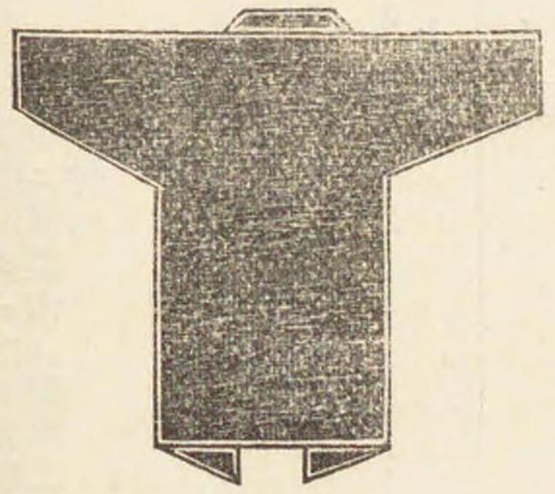
運轉夫 水火夫 油差



前面



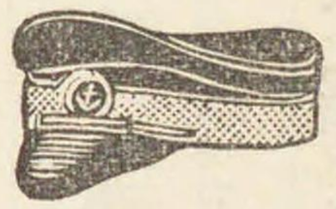
背面



帽章 {運轉夫 水火夫 油差}

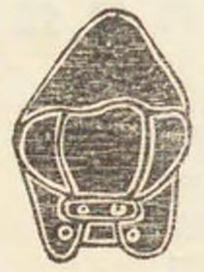
帽子 {運轉夫 水火夫 油差}

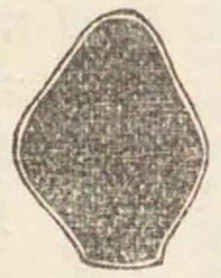
夏ハ白帽布ヲ以テ覆フ



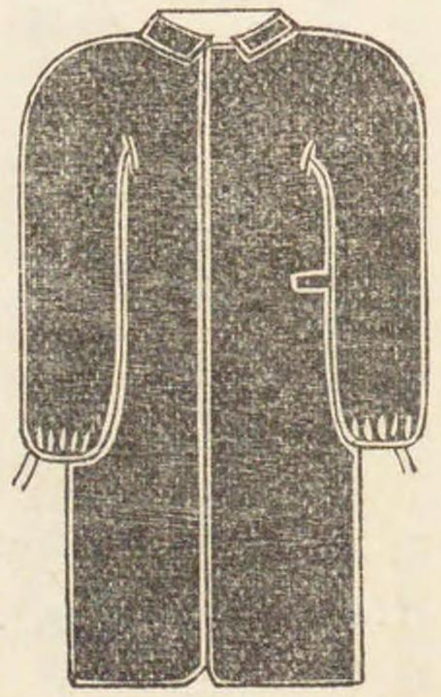
(雨衣及雨帽)

{運轉士 機關士}

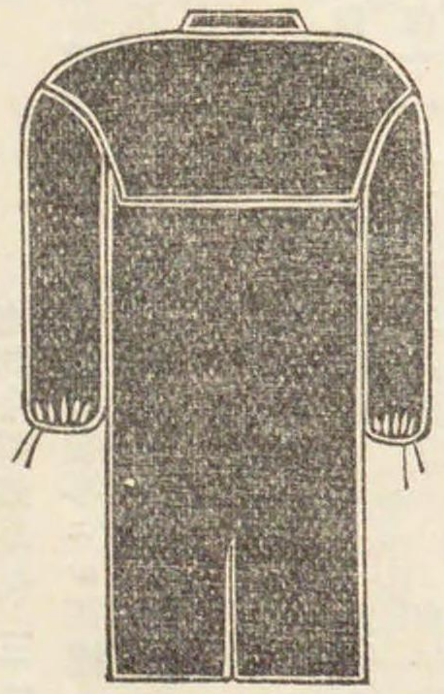




前面



背面



●隅田川口改良工事及河川浚渫竝海面埋築設備工事現場附吏員時間外勤務手當支給規程

明治四十四年五月三十一日（第三部）
市訓令甲第二十六號

隅田川口改良工事及河川浚渫竝海面埋築設備工事時間外勤務手當支給規程別紙ノ通リ之ヲ定メ明治四十四年五月十六日ヨリ施行ス

隅田川口改良工事及河川浚渫竝海面埋築設備工事時間外勤務手當支給規程

第一條　隅田川口改良工事及河川浚渫竝海面埋築設備工事現場付吏員ニシテ定時間外勤務ニ服シタルトキハ本規程ニ據リ手當ヲ支給ス

第二條　手當ハ左ノ區別ニ據リ之ヲ支給ス

一　事務員、技手　一時間七錢
二　雇員　一時間六錢

第三條　手當ハ其日ノ早出ト居殘トヲ區別シ各勤務時間ニ應シ左ノ制限ニ從ヒ之ヲ支給ス

一　居殘勤務二時間未滿ノ時ハ手當ヲ支給セス
二　一時間未滿ノ端數ハ切捨トス

●運轉士機關士時間外勤務手當支給規程

明治四十一年九月四日（土木局河港課）
市訓令甲第四十三號

第一條　隅田川口改良工事ニ從事スル運轉士機關士ニシテ宿直ニ係ル者ヲ除ク外定時間外勤務セシトキハ本規程ニ依リ手當ヲ支給ス

第二條　本規程ニ於テ時間外ト稱スルハ左ノ時間ヲ謂フ

一　自三月一日至十月末日　自午後六時至午前六時
一　自十一月一日至二月末日　自午後五時至午前六時

第三條　終業時間外午後十二時迄ハ一時間（一時間未滿ハ切捨）毎ニ日給額ノ十分ノ一午後十二時後ハ同十分ノ一、五始業時間前早出ノ場合ハ同十分ノ一ヲ給ス但交代勤務ノ場合ニ於ケル手當ハ本條支給額ノ二分ノ一トス

第四條　其月ノ手當金ハ俸給支給規程第一條第一項第三號ニ準シ支給ス

第五條　本規程ニ依リ手當金ヲ受クル場合ニ於テハ夜勤賄ヲ支給セス

附　則

第六條　本規程ハ發令ノ日ヨリ施行ス

●隅田川口改良工事現場附吏員ニ對シ特別休暇差許方

明治四十二年七月十四日
〔市參事會議決〕第三千三百九十一號

隅田川口改良工事現場附吏員雇員工手ニ對シテハ本市一般休暇日（日曜日、十二月二十九日、同三十日ヲ除ク）外尙業務ニ差支ナキ限リ一箇月內ニ於テ二日以內休暇セシムルコトヲ得ルモノトス

●隅田川口改良工事浚渫奬勵金支給規程

明治四十三年一月二十九日（第一部 第二部 第三部）
市訓令甲第三號

隅田川口改良工事浚渫奬勵金支給規程別紙之通リ定メ明治四十三年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

隅田川口改良工事浚渫奬勵金支給規程

第一條　隅田川口改良工事浚渫船曳船土運船運轉ニ從事セル船員船夫ニハ本規程ニ依リ奬勵金ヲ支給ス

第二條　奬勵金ハ別表ノ區別ニ據リ浚渫土坪曳船艘數土運船回數ノ總數ニ對シ之ヲ支給ス但浚渫土坪十坪未滿ハ切捨トス（大正元年十月十日市訓令甲第六號ヲ以テ本條乃至第四條第八第九第十第十一第十二條竝別表改正）

第三條　浚渫土坪ハ總テ跡坪測量ニ依リ計算ス但室田、業平ニ於テハ土捨場前後測ノ差ニ土運船ヲ以テ放捨シタル坪數ヲ浚渫船ノ跡坪ニ換算シタルモノヲ加減シテ之ヲ定ム

出水風浪等ノ爲メ跡坪測量前浚渫區域埋沒セリト認ムルトキハ浚渫船坪ヲ參酌シ相當跡坪ヲ增加スルコトアルヘシ

第四條　曳船艘數ハ鋼製土運船ヲ標準トシ往復ヲ以テ一艘トシ片道ハ半艘トシテ計算ス但浚渫機ヲ曳カシメタルトキハ片道ヲ以テ二艘トシ又木製土運船、水船、石炭船ヲ曳カシメタル場合ハ往復三艘ヲ以テ鋼製土運船一艘ニ換算ス

第五條　土運船回數ハ浚渫船ヨリ土砂ヲ積載シ指定ノ場所ニ放捨ヲ完了シタル往復航行ヲ以テ一回トス

第六條　曳船及鋼製土運船ニシテ片道千間以上ノ區間ヲ往復航行シタルトキハ其艘數若クハ回數ニ十割以內ヲ加ヘ又木製土運船ニシテ片道五百間以上ノ區間ヲ往復航行シタルトキハ其回數ニ五割以內ヲ加ヘ計算スルコトヲ得（明治四十三年四月十六日市訓令甲第二十二號及同年六月二十日市訓令甲第三十號ヲ以テ本條及第七條改正）

第七條　土丹岩其他ノ堅層ヲ浚渫運搬スル場合ニアリテハ浚渫船土坪ハ十割以內曳船艘數若クハ鋼製土運船回數ハ各五割以內ヲ加ヘ又運搬土砂刎揚ケ擔揚ケ等ヲナス場合ニアリテハ木製土運船回數ニ三割以內ヲ加ヘ計算スルコトヲ得

第八條　船舶航行頻繁ナルカ又ハ障害物等ノ爲メ作業特ニ困難ナリト認ムルトキハ浚渫土坪曳船艘數土運船回數ニ各三割以内ヲ加ヘ計算スルコトヲ得

第九條　喞筒式浚渫機ニシテ排泥管總延長二百間以上ニ達シタルトキハ其坪數ニ三割以内ヲ加ヘ計算スルコトヲ得但二百間以上ノ場合一箇月ニ滿タサルトキハ運轉時間ノ比例ニ依リ割增坪數ヲ計算ス

第十條　第六條及前條ノ割合ハ河港課長之ヲ定ム

第十一條　奬勵金ハ前各條ニ據リ算出シタル金額ヲ其月ノ乘船勤務日數ニ應シ之ヲ支給ス但自己ノ都合ニ依リ退職シタル者又ハ不都合ノ所爲アリテ罷免シタル者ニハ其月ノ奬勵金ヲ支給セス

遲參早退ハ乘組勤務日數ニ算入セス

第十二條　本規程ニ依リ奬勵金ノ支給ヲ受クル場合ハ時間外勤務手當竝ニ步增ヲ支給セス但奬勵金支給目的以外ノ作業ニ從事セシメタルトキハ此限ニ在ラス

（別表略）（明治四十三年三月二日市訓令甲第六號及同年六月廿日市訓令甲第卅號ヲ以テ別表中追加同四十四年三月九日市訓令甲第五號ヲ以テ別表中追加同年四月十日市訓令甲第十七號ヲ以テ別表中第二號ヲ削除シ同年同月一日ヨリ施行ス）

第十三條　河港課長ハ實地ノ狀況ニ依リ別表標準ニ斟酌ヲ加ヘ支給額ヲ減スルコトヲ得（大正二年七月十一日市訓令甲第三十九號ヲ以テ本條ヲ追加シ同年八月一日ヨリ實施ス）

●河港課所屬工夫及船員等年末ニ於ケル日給支給方

明治四十二年十二月二十一日
〔市參事會議決〕第六千六百七十七號

第三部河港課所屬ノ工夫船員（運轉士機關士ヲ除ク）船夫量水標觀測人等ノ日給ハ前月下半期分ト其月ノ上半期分ヲ通算シ二十一日ニ支給シ來リシモ年末ニ際シ斯クテハ右等薄給者ノ家計上ニ及ホス影響尠カラサルニ依リ例年ニ倣ヒ十二月十六日ヨリ同二十五日迄ノ分ハ特ニ二十八日迄ニ支給スルモノトス

而シテ本案決定ノ上ハ明年度ヨリ以降ハ之ニ準據シ支給セントス

●市工事請負人刑罰ヲ受ケタル場合處分方

明治四十三年十月十四日
〔市參事會議決〕第四千五百七十九號

工事請負本人ニシテ本市ノ工事ニ關シ體刑ノ言渡ヲ受ケタル者及金刑ノ判決確定シタル者ハ請負ヲ停止シ入札ノ數ニ加ヘサルモノトス但從前ヨリ引續キタル工事ハ其竣工迄繼續セシムヘシ

●商事會社ノ工事入札請負資格證明方

明治二十六年十二月十四日
市訓令第二百七號
（各區役所）（京橋區ヲ除ク）

工事入札請負規則ニ據リ商事會社ヨリ資格證明書ニ證印ヲ乞ヒタルトキハ其會社ハ二箇年以上土木事業ニ從事シ會社ノ代表者タル社長ニ於テ不動產ヲ有シ二箇年以上所得稅ヲ納メ信用スヘキモノハ證印ヲ與フヘシ（本文中工事入札請負規則トアルハ大正二年三月十三日市告示第二十二號ヲ以テ廢止）

●工事入札請負資格證明後失格通知方

（明治二十六年十一月二十八日）（各區長宛）
（書記官照會）

工事入札請負規則ノ條項ニ據リ入札人ヨリ當廳ヘ差出候資格證明書ニ證印ヲ被與候後其資格ヲ失フモノ有之候ハハ其都度御通知相成度此段及御照會候也（本文中工事入札請負規則トアルハ大正二年三月十三日市告示第二十二號ヲ以テ廢止）

●土木請負工事日數算定方

明治三十三年八月一日
市長判決土發第千六百八十六號

請負工事日數ハ從來雨天ヲ除キ何日間ト計算シ來リ候處右ハ監督上不便ノ廉有之候ニ付自今晴雨ニ係ハラス單ニ日數何日間ト稱スルモノトス

●土木工事日數中控除方

明治三十三年十一月二十四日
市訓令甲第六十六號（土木課、水道課、臨時市區改正局）

本市土木工事日數中左記ノ日ハ之ヲ控除ス可シ

一　一般ノ祭祝日
一　一月一日　二日　三日
一　十月一日（本市記念日）
一　十二月三十一日

第八類　水害豫防

第八類　水害豫防

●水害豫防組合區域及總代人選擧方法

明治四十三年十二月五日
市告示第七十二號

水利組合法第十條ニ依リ水害豫防組合設置區域ヲ指定セラレタルニ付同法第十一條ニ基キ總代人選擧方法東京府知事ノ許可ヲ受ケ左ノ通定ム

一　區域

東京市本所區小梅瓦町（四十四番、四十五番地ヲ除ク）
同　新小梅町（二十九番地ヲ除ク）
同　向島小梅町一圓
同　向島須崎町（荒川堤外地ヲ除ク）
同　向島中ノ鄕町一圓
同　向島請地町一圓
同　向島押上町一圓
南葛飾郡吾嬬村（中川堤外地ヲ除ク）
同　大木村（同）
同　本田村（同）
同　龜青村（同）
同　南綾瀨村綾瀨川以東一圓
同　隅田村（荒川堤外地ヲ除ク）
同　寺島村（同）

一　總代人ヲ選擧スヘキ區域及總代人ノ數

東京市本所區　三人
南葛飾郡吾嬬村　二人
同　大木村　二人
同　本田村　三人
同　龜青村　三人
同　南綾瀨村　三人
同　隅田村　二人
同　寺島村　二人

一　總代ノ選擧人竝ニ總代人トナル者ノ資格

選擧執行ノ日ニ於テ現ニ組合設置區域内ニ土地又ハ家屋ヲ所有スル者ハ當該選擧區内ニ於テ總代人ヲ選擧シ又ハ總代人ニ選擧セラルルコトヲ得

一　總代人選擧ノ事務竝ニ選擧ノ方法

一　創立委員ハ選擧ヲ行フヘキ選擧區、投票ヲ行フヘキ日時及選擧スヘキ總代人ノ數ヲ定メ少クトモ選擧期日前二十日ニ之ヲ告示スヘシ
區町村長ハ前項ノ告示ニ依リ選擧會場ヲ定メ少クトモ選擧期日前十五日ニ之ヲ告示スヘシ

二　總代人ノ選擧ハ投票ニ依リ之ヲ行ヒ區町村長ハ其選擧長トナル

三　投票ハ一人一票ニ限ル

四　選擧人ハ自ラ選擧會場ニ至リ被選擧人一人ノ氏名及選擧人ノ氏名ヲ記載シテ投票スヘシ

五　左ノ投票ハ之ヲ無效トス

一　一票中二人以上ノ被選擧人ヲ記載シタルモノ

一　被選擧人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ

一　被選擧權ナキ者ノ氏名ヲ記載シタルモノ

一　選擧人ノ署名ナキモノ

六　區町村長ハ總代人ノ選擧權ヲ有スル者二人ヲ選任シ選擧ニ立會ハシムヘシ

七　投票ノ效力ハ選擧立會人之ヲ議決ス可否同數ナルトキハ選擧長之ヲ決ス

八　總代人ノ選擧ハ有效投票ノ最多數ヲ得タルモノヲ以テ當選トス投票ノ數同シキトキハ年長者ヲ取リ年齢同シキトキハ選擧長抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

九　總代人ノ選擧ヲ終リタルトキハ區町村長ハ直ニ當選者ニ當選ノ旨ヲ通知シ同時ニ創立委員ニ其旨ヲ通知スヘシ但創立委員宛ノ通知書ハ南葛飾郡役所ニ送付スヘシ

十　創立委員前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ直ニ當選者ノ氏名ヲ公告スヘシ

第九類　市有地

第九類　市有地 附渡船

●土地ニ關スル事務ニ付地籍上異動ヲ生シタル場合主務課ニ通知方

明治四十五年四月二日市訓令甲第十四號（各部局所）

爾今土地ニ關スル事務ニ於テ地籍上異動ヲ生シ場合ハ遲滯ナク第一部庶務課ニ通知スヘシ

●市有地貸渡規則

明治三十七年五月三十一日市告示第四十一號

本市會ノ議決ヲ經明治二十二年八月市告示第二十八號洲崎辨天町橋本町錦町本郷本富士町地所貸渡規則及明治二十五年十二月市告示第六十四號月島新佃島地所貸渡規則ヲ左ノ通改正ス

市有地貸渡規則

第一條　本規則ハ市有ニ屬スル左ノ土地ニ適用ス

神田區橋本町
京橋區月島
同區新佃島
本鄉區本鄉本富士町
深川區洲崎辨天町
日本橋區龜島町（明治三十八年五月十一日市告示第三十二號ヲ以テ本項以下左記ノ土地追加）
淺草區南元町
本所區千歲町
本所區元町
深川區新安宅町

第二條　公入札ニ依リ落札シタル者若クハ第三條ノ規定ニ依リ土地ヲ借用セントスル者ハ其位置坪數使用ノ目的及地料ヲ記載シ圖面ヲ添ヘ保證人連署ノ上區長ヲ經由シテ當廳ノ許可ヲ受クヘシ

前項ノ規定ハ使用ノ目的ヲ變更セントスル場合ニ準用ス

第三條　左記各號ノ一ニ該當スル場合ニハ公入札ニ依ラスシテ貸渡スコトアルヘシ

一　一宅地ヲ爲スニ足ラサル土地ヲ接續借地人若クハ接續地主

ニ於テ借用セントスルトキ（明治三十八年五月十一日市告示第三十二號ヲ以テ本號中「接續借地人」ノ下ニ「若クハ接續地主」ノ七字ヲ加フ）

二　借地内ニ在ル造設物ノ所有權ノ全部若クハ一部ヲ取得セル者借用セントスルトキ

三　一時土地ヲ借用セントスルトキ

四　第十九條第二項ノ規定ニ依リ借用セントスルトキ（明治三十八年五月十一日市告示第三十二號ヲ以テ本號中「第十八條」トアリシヲ「第十九條」ト改ム）

第四條　土地貸渡期限ハ明治三十七年七月一日ヨリ起算シ滿十箇年トス

期限内ニ於テ借地ノ許可ヲ受ケタルトキハ其殘期ヲ以テ期限トス

第五條　借地ハ轉貸スヘカラス

第六條　借地人ハ借地後一箇年内ニ使用ニ必要ナル設備ヲ完成スヘシ但當廳ノ許可ヲ受ケタル者ハ此限ニ在ラス

第七條　借地内ノ造設物ハ左ノ制限ニ遵フヘシ

一　家屋ハ道路ノ疆界線ヨリ二尺以上ノ距離ヲ存スヘシ

二　庇ハ借地外ニ出スヘカラス

三　屋上及ヒ煙筒ハ不燃質ノ材料ヲ用ユヘシ

四　月島ニ於テ初メテ家屋ヲ建築セントスルトキハ當廳ノ指揮ニ從ヒ盛土ヲ爲スヘシ但當廳ニ於テ盛土ヲナシタル場所及左ノ箇所ハ此限ニ在ラス

月島西河岸通一丁目乃至三丁目同四丁目一番地乃至四番地西中通一丁目二番地四番地六番地八番地同二丁目二番地四番地六番地乃至十二番地同三丁目四丁目一番地乃至四番地

第八條　造設物ノ新築改築及ヒ增築ハ著手竣成トモ當廳ニ届出ツヘシ但地盤ノ變更ヲ要スル場合ハ豫メ當廳ノ許可ヲ受クヘシ

第九條　護岸ヲ改築修繕スル場合ニ於ケル該地所在物件ノ維持方法竝ニ其費用ハ借地人ノ負擔タルヘシ（明治三十八年五月十一日市告示第三十二號ヲ以テ本條ヲ加ヘ第九條ヲ第十條トシ以下逐次繰下）

第十條　地料ハ本規則實施ノ日ヨリ五箇年ヲ經過スルトキハ當廳ノ見込ニ依リ變更スルコトアルヘシ

新タニ貸付地ニ編入シタルモノノ地料モ亦前項ト同時期ニ於テ變更スルコトアルヘシ

第十一條　地料ハ毎月二十八日迄ニ其月分ヲ當該區役所ニ納付スヘシ但同年度ニ屬スル地料ハ數箇月分ヲ合セ前納スルコトヲ得

第十二條　借地一箇月ニ滿タサルモノノ地料ハ左ノ規定ニ依リ計算ス

一　月ノ十五日以前ニ借地シタル者及ヒ十六日以後ニ返地シタル者ハ一箇月分

二　月ノ十六日以後ニ借地シタル者及ヒ十五日以前ニ返地シタル者ハ半箇月分

第十三條　借地人本市ニ住所ヲ有セサルトキハ借地ニ關スル一切ノ行爲ヲ代理スヘキ代理人ヲ選定シ當廳ヘ届出ツヘシ

代理人ハ本市ニ住所ヲ有スル能力者タルコトヲ要ス

第十四條　保證人ハ本市ニ住所ヲ有シ土地又ハ家屋ヲ所有スル者ニ限ル

第十五條　保證人ハ當廳ノ見込ニ依リ變更セシムルコトアルヘシ

第十六條　保證人ノ債務ハ借地人ト連帶トス

第十七條　保證人左ノ各號ノ一ニ該當シタルトキハ借地人ハ新タニ保證人ヲ立テ當廳ノ許可ヲ受クヘシ

一　第十四條ノ要件ヲ缺キタルトキ（明治三十八年五月十一日市告示第三十二號ヲ以テ本號中「第十三條」トアリシヲ「第十四條」ニ改ム）

二　死亡シタルトキ

二　失踪ノ宣告アリタルトキ

四　無能力者トナリタルトキ

第十八條　借地人ハ借地期限滿了後繼續借地スルコトヲ得但當廳ニ於テ必要アル場合ハ此限ニ在ラス

第十九條　借地人期限内ニ返地セントスルトキハ當廳ノ承認ヲ受クヘシ

前項返地ニ際シ其跡地ヲ借用セントスル者ハ前借地人ト連署ノ上第二條ノ規定ニ依リ當廳ノ許可ヲ受クヘシ

第二十條　借地人左ノ各號ノ一ニ該當シタルトキハ借地契約ヲ解除シ返地セシムルコトアルヘシ

一　當廳ノ許可ヲ經スシテ使用ノ目的ヲ變更シタルトキ

二　三箇月以上地料ヲ滯納シタルトキ

三　借地内ニアル造設物ノ所有權ノ全部若クハ一部ヲ喪失シタルトキ

四　第五條乃至第八條第十三條及ヒ第十七條ノ規定ニ違背シタルトキ（明治三十八年五月十一日市告示第三十二號ヲ以テ本號中「第十二條」ヲ「第十三條」ニ「第十六條」ヲ「第十七條」ニ改定シ第五號中「第九條及第十四條」トアリシヲ「第九條第十條及第十五條」ニ改ム）

五　第九條第十條及ヒ第十五條ノ規定ニ應セサルトキ

第二十一條　返地スル場合ハ三箇月以内ニ造設物ヲ撤去シ當廳ノ指揮ニ從ヒ土地ヲ原狀ニ復スヘシ但當廳ノ見込ニ依リ現形ノ儘返地セシムルコトアルヘシ

第二十二條　借地人前條ノ期限内ニ造設物ヲ撤去セス又ハ土地ヲ原狀ニ復セサルトキハ當廳ニ於テ之ヲ執行シ其費用ヲ徵收ス

前項ノ場合ニ於テ如何ナル損害ヲ生スルモ本市ハ賠償ノ責ニ任セス

附　則

第二十三條　本規則ハ明治三十七年七月一日ヨリ實施ス

第二十四條　本規則實施前ヨリ借地セル者ハ第二條ノ手續ヲ要セス但使用ノ目的ヲ定メサリシ者ハ其目的ヲ定メ本規則實施期日ヨリ一箇月以内ニ届出ツヘシ

第二十五條　本規則實施ノ當時現存セル造設物ニ對シテハ第七條第一號及第三號ノ制限ヲ適用セス

●市有地及基本財産河岸地貸渡入札規程

明治四十一年十二月二十二日
市告示第九十號

第一條　市有地又ハ基本財産河岸地貸渡規則ニ依リ入札ヲ爲サン

トスル者ハ入札書ニ其地名、坪數、一坪一箇月ノ借地料及住所氏名ヲ記シ調印ノ上封緘シテ所定ノ日時迄ニ之ヲ當廳ニ提出スヘシ

代理人ヲシテ入札セシムル場合ハ委任狀ヲ添附スルコトヲ要ス

第二條 入札人ハ保證金ヲ納ムルコトヲ要ス其金額ハ隨時之ヲ定ム

入札保證金ハ入札書ト共ニ差出スヘシ

第三條 入札保證金ハ落札者確定シタルトキ之ヲ還付ス但落札者ニハ借地許可ノ後ニ非ラサレハ還付セス

第四條 入札人ニ特別ノ資格ヲ必要トスル場合ハ隨時之ヲ定ム

第五條 入札人ハ一旦提出シタル入札書ノ引換、變更又ハ取消ヲ爲スコトヲ得ス

第六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル入札書ハ之ヲ無効トス

一 第一條ノ規定ニ違背スルモノ

二 無資格者又ハ入札保證金ヲ納メサル者ノ差出シタルモノ

三 記載事項ノ不明瞭ナルモノ

四 二通以上ノ入札書ヲ提出シ又ハ二通以上同封シタルモノ但二通以上提出シタル場合ニ於テ其發送ノ時日ノ前後ヲ判別シ得ルトキハ前發ノモノヲ以テ有効トス

第七條 開札ハ入札人ノ面前ニ於テ之ヲ行ヒ豫定額以上ノ最高額入札人ヲ以テ落札者トス

落札トナルヘキ同額ノ入札ヲナシタル者二人以上アルトキハ抽籤ニ依リ落札者ヲ定ム

第八條 落札ノ通知ヲ受ケタルトキハ市有地又ハ基本財產河岸地貸渡規則ニ依リ五日以内ニ借地願書ヲ提出スヘシ

正當ノ事由ナクシテ提出期日ヲ經過シタルトキハ落札ヲ取消スコトアルヘシ

第九條 落札ヲ取消シタルトキハ次ノ最高額入札者ヲ落札者トナスコトアルヘシ此場合ニ於テハ第七條ノ規程ヲ準用ス

第十條 落札者ノ請求又ハ第八條第二項ニ依リ落札ヲ取消シタルトキハ保證金ヲ沒收ス

●基本財產所屬地入札ニ附セス貸渡方

明治二十二年七月二十六日
市會議決第四十號

東京市基本財產所屬地ヲ貸渡ストキ左ノ場合ニ限リ公ケノ入札ニ附セサルモノトス

一 一宅地ヲナスニ足ラサル地ヲ接續地ノ借地人ニ於テ借用セントスルトキ

二 借地內ニアル建物ヲ買受ケ又ハ讓受ケタル者其地ヲ借用セントスルトキ

三 借地換出願ニ依リ後借地人ニ貸渡ストキ

四 洲崎辨天町ノ內貸座敷及引手茶屋ニ限リ貸渡スヘキ場所ヲ貸渡ストキ但出願者二名以上アルトキハ其者ヲシテ入札セシムルモノトス

●市有地一時貸渡方

明治二十三年八月十六日
市會議決第三十三號

本市基本財產所屬地ノ內借用人未定ノ間一時ノ使用ヲ願出ツルモノアルトキハ定規ノ地料ニ據ラスシテ〔市參事會〕限リ便宜許可スルコトヲ得ルモノトス

●東京市基本財產河岸地貸渡規則

明治二十三年九月十六日
市告示第六十一號

第一條 河岸地ヲ借用セントスル者ハ其使用方法ヲ掲ケ圖面ヲ添ヘ保證人連署ノ上區長ノ奧印ヲ受ケ當廳ニ願出テ許可ヲ受クヘシ但保證人ハ當市內ニ居住シ及當市內ニ於テ土地又ハ家屋ヲ所有スル者ニ限ル

第二條 河岸地貸渡ノ年限ハ石造煉化石造土藏造ノ家屋ヲ建築スル者ハ三十箇年其他ノ家屋ヲ建築スル者ハ十箇年家屋ヲ建築セサル者ハ三箇年市區改正道路河川ノ敷地タル可キ場所ヲ借用スル者ハ一箇年トス但家屋建築ノ爲メ借用シ十二箇月ヲ經テ建築ニ著手セサル者ハ許可ノ效ヲ失フモノトス

第三條 一筆ノ河岸地內ニ石造煉化石造土藏造ノ家屋ト木造ノ家屋トヲ建築シ地形區分シ難キ者ハ其建坪ヲ比較シ坪數ノ多キ方ニ由リ前條ノ年限ヲ定ムヘシ

第四條 河岸地ハ他人ニ轉貸ヲ爲ス可カラス但家屋ヲ建築シ其地ヲ併セテ貸渡シ又ハ空地ノ一部分ヲ一時物置場等ニ貸渡スハ妨ケナシ

第五條 借用滿期ノ後引續キ借用セントスル者ハ其期限六箇月以前ニ更ニ第一條ノ手續ヲ以テ當廳ノ許可ヲ受ク可シ

期限後引繼キ貸渡ヲ許可セサルトキハ地上物件ノ存スル場合ニ限リ事情ニ因リ幾分ノ移轉手當金ヲ支給スルコトアルヘシ但一時貸渡ノモノハ此限ニアラス（明治四十一年十月二十九日市告示第七十九號ヲ以テ本項追加）

第六條 河岸地借用期限內ニ其地ヲ返納シ又ハ其使用方法ヲ變更セントスルトキハ保證人連署ノ上區長ノ奧印ヲ受ケ當廳ノ許可ヲ受クヘシ

第七條 左ニ記載ノ場合ニ於テハ保證人連署ノ上區長ノ奧印ヲ受ケ當廳ニ屆出可シ

一 河岸地借用人死亡又ハ退隱等ニ由リ家督相續人ニ於テ其期限內引續借用スルトキ

一 保證人ヲ換ヘタルトキ

一 改氏名及轉居ノトキ

第八條 河岸地地料ノ額ハ借用年限十箇年以上ノ者ニ限リ五箇年ヲ經ル每ニ土地ノ狀況ニ因リ之ヲ增減スルコトアルヘシ

第九條 河岸地地料ハ十五日以前ニ借用ノ許可ヲ受ケタル者及十六日以後ニ返地シタル者ハ一箇月分十六日以後ニ借用ノ許可ヲ受ケタル者及十五日以前ニ返地シタル者ハ半箇月分ヲ納ムヘシ

第十條 河岸地地料ハ毎月二十八日限リ區役所ニ納ムヘシ但本人不在等ノ節ハ保證人ニ於テ本人ニ代リ辨納スヘシ

第十一條 河岸地借用人其區內ニ居住セサルトキハ其區內ニ居住スル代理人ヲ置キ區役所ニ屆出テ其地ニ關スル事件ヲ代理セシム可シ

第十二條 河岸地使用ノ都合ニ依リ自費ヲ以テ岸及地盤ヲ變更スヘキ工事ヲ施サントスルトキハ仕樣明細書ニ著手ノ期日ヲ記シ區長ノ奥印ヲ受ケ當廳ニ願出テ許可ヲ受ケ工事落成ノ上ハ屆出檢査ヲ受ク可シ若シ仕樣ニ違ヒ其地ニ害アリト認ムルトキハ日ヲ期シテ改造セシムヘシ但其工事ニ由リ變更シタル岸及地盤ハ返地ノ際原形ニ復セシムルコトアル可シ

第十三條 河岸地ニ家屋ヲ建築スル者ハ不燃質物ヲ以テ屋上ヲ葺ク可シ又物置場ト爲ス者ハ使用地ノ道路ニ接シタル場所ニ垣柵ヲ設ク可シ

第十四條 河岸ノ草取掃除ヲ爲スハ勿論其物置場空地等ハ常ニ清潔ナラシム可シ

第十五條 此規則ニ違背シ差置難シト認ムル者ハ期限中ト雖モ返地セシムルコトアル可シ此場合ニ於テハ自費ヲ以テ自己ノ建造物等ヲ取除ク可シ

附則

第十六條 明治二十一年十二月三十一日以前ニ貸渡シタル河岸地ニシテ滿期ニ至リ引續キ借用願出ル者及其地ニ在ル建物ヲ所有スル者借用願出ルトキハ改正ノ規則及地料ヲ以テ貸渡スモノトス

第十七條 借用人ナク又ハ建物ナキ河岸地ヲ貸渡サントスルトキハ公ノ入札ニ付シ貸渡スモノトス

第十八條 河岸地ハ轉貸ヲ許サスト雖モ明治二十一年十二月三十一日以前ニ許可シタル者ニシテ其地ニ轉借人ノ建物等アルトキハ轉貸ヲ許可スルコトアル可シ

第十九條 明治二十一年十二月三十一日以前ニ貸渡シタル河岸地ニシテ期限內据置ク者ハ護岸ノ修築地先道路ノ撒水除雪地先下水ノ修築及浚渫等ノ負擔ハ從前ノ通リタル可シ但改正ノ規則及地料ヲ以テ貸渡シタル者ハ借用人ヲシテ負擔セシメサルモノトス此場合ト雖モ護岸修築ノ爲メ所在ノ建物ヲ保護スルハ借用人ノ負擔タル可シ

● 河岸地ノ市區改正線路ニ當ル場所ニ建物建設方

明治二十五年四月四日市訓令第八十六號第八十七號（日本橋京橋區役所）

市區改正ノ設計ニ係ル河岸地ニシテ空地ノ分ハ建物ヲ建設セス物置場等ニ使用スルモノニ限リ豫定地料以內ヲ以テ貸與セシ處自今借地人ニ於テ他日建物引拂ノ場合移轉料ヲ要セサル旨ヲ承諾シタルトキハ建物建設ヲ許可シ豫定地料ヲ徵スルモノトス

右借地人ヘ相示スヘシ

● 洲崎辨天町其他市有地借用願書式

明治二十二年九月十八日市訓令第十一號（各區役所）

洲崎辨天町ヲ借用セントスル者ハ甲號書式ニ其他ノ市有地ヲ借用セントスル者ハ乙號書式ニ依リ願書ヲ差出サシム可シ

甲號書式

洲崎辨天町借地願

洲崎辨天町何丁目何番地
表坪何程　住所
此借地料一坪ニ付一箇月金五錢　族籍
裏坪何程　氏名
此借地料一坪ニ付一箇月金參錢
堤敷何程
此借地料一坪ニ付一箇月金壹錢
地坪合計何程一箇月借地料合金何程

私儀何業ヲ營ミ度ニ付右ノ地所借用仕度規則遵守可仕ハ勿論本人不在又ハ地料淹滯等ノ節ハ保證人ニ於テ諸事相辨シ可申候間御許可被下度圖面相添此段相願候也

年　月　日
住所
族籍
借地願人　氏名　印
保證人　氏名　印
洲崎辨天町事務掛　氏名　印

（書式中元差配人氏名印トアリシヲ明治二十二年十月十八日市訓令第九十四號ヲ以テ事務掛ノ加印ニ改ム）

〔東京市參事會〕
東京市長何某殿

前書何某（保證人ヲ云フ）ハ其肩書ノ地ニ居住シ及當市內ニ土地（家屋）ヲ所有スル者ニ相違無之候也

何區長　氏名　印

前書願之趣相違無之候也

深川區長　氏名　印

洲崎辨天町借地換願

洲崎辨天町何丁目何番地
表坪何程　住所
此借地料一坪ニ付一箇月金五錢　族籍
裏坪何程　返地人　氏名
此借地料一坪ニ付一箇月金參錢　住所

提數何程　　族籍
此借地料一坪ニ付一箇月金壹錢　借地願人　氏　名
地坪合計何程一箇月借地料合金何程
右何某返地仕度引續同地所在ノ家屋買（讓）受人何某何業ヲ營ミ度ニ付右ノ地所何某借地期限内借用仕度規則遵守可仕ハ勿論本人不在又ハ地料淹滯等ノ節ハ保證人ニ於テ諸事相辨シ可申候間御許可被下度圖面相添此段相願候也
年　月　日
返地人　氏　名印
借地願人　氏　名印
住所
族籍
何某保證人　氏　名印
住所
族籍
何某保證人　氏　名印
洲崎辨天町事務掛　氏　名印
（書式中元差配人氏名印トアリシヲ明治二十二年十月十八日市訓令第九十四號ヲ以テ事務掛ノ加印ニ改ム）
〔東京市參事會〕
東京市長何某殿
前書何某（借地願人ノ保證人ヲ云）ハ其肩書ノ地ニ居住シ及當市内ニ土地（家屋）ヲ所有スル者ニ相違無之候也
何區長　氏　名印

前書願之趣相違無之候也
深川區長　氏　名印

乙號書式
市有地所借用願
何區何町何番地何號　住所
表坪何程　族籍職業
此借地料一坪ニ付一箇月金何程　氏　名
裏坪何程
此借地料一坪ニ付一箇月金何程
地坪合計何程一箇月借地料合金何程
右ノ地所借用仕度就テ規則遵守可仕ハ勿論本人不在又ハ地料淹滯等ノ節ハ保證人ニ於テ諸事相辨シ可申候間御許可被下度圖面相添此段相願候也
年　月　日
借地願人　氏　名印
住所
族籍
保證人　氏　名印
（差配人アルトキハ）差配人　氏　名印
〔東京市參事會〕
東京市長何某殿
前書何某（保證人ヲ云フ）ハ其肩書ノ地ニ居住シ及當市内ニ土地（家屋）ヲ所有スル者ニ相違無之候也

何區長　氏　名印
前書願之趣相違無之候也
市有地所在ノ區長　氏　名印
市有地借地換願
何區何町何番地何號　住所
表坪何程　族籍
此借地料一坪ニ付一箇月金何程　返地人　氏　名
裏坪何程　住所
此借地料一坪ニ付一箇月金何程　族籍
地坪合計何程一箇月借地料合金何程　職業
借地願人　氏　名
右何某返地仕度引續キ同地所在ノ家屋買（讓）受人何某右ノ地所借用仕度就テ規則遵守可仕ハ勿論本人不在又ハ地料淹滯等ノ節ハ保證人ニ於テ諸事相辨シ可申候間御許可被下度圖面相添此段相願候也
年　月　日
返地人　氏　名印
借地願人　氏　名印
住所
族籍
何某保證人　氏　名印
住所
族籍

何某保證人　氏　名印
（差配人アルトキハ）差配人　氏　名印
〔東京市參事會〕
東京市長何某殿
前書何某（借地願人ノ保證人ヲ云フ）ハ其肩書ノ地ニ居住シ及當市内ニ土地（家屋）ヲ所有スル者ニ相違無之候也
何區長　氏　名印
前書願之趣相違無之候也
市有地所在ノ區長　氏　名印

●市基本財産河岸地借用等願屆書式

明治二十三年九月十六日市訓令第九號（各區役所）

（用紙總テ美濃紙）

河岸地借用願

一　區名河岸名及番號　何區何河岸第何號
一　地　　　　　　坪　何拾何坪何合何勺
一　一箇月借地料　何拾何圓何拾何錢何厘
一　使　用　ノ　目　的　石造地何坪或ハ木造地何坪其他何何
一　借　用　期　限　明治何年十二月三十一日迄

右ノ地所借用仕度就テ東京市基本財產河岸地貸渡規則遵守可仕ハ勿論本人不在又ハ地料滯等ノ時ハ保證人ニ於テ諸事相辨シ可申候間御許可被下度圖面相添此段相願候也

何區何町何番地
何府（縣）華族（士族平民）
借地願人　何　　某　印

何區何町何番地
何府（縣）華族（士族平民）
保　證　人　何　　某　印

明治何年何月何日

東京市長何某殿
（東京市參事會）

前書何某（保證人ヲ云フ）ハ其肩書ノ地ニ居住シ及當市內ニ土地（家屋）ヲ所有スル者ニ相違無之候也

何　區　長　何　　某　印

前書願ノ趣相違無之候也

河岸地所在ノ區長　何　　某　印

河岸地年期繼願

一　區名河岸名及番號　何區何河岸第何號
一　地　　　　　　坪　何拾何坪何合何勺
一　一箇月借地料　何拾何圓何拾何錢何厘
一　使　用　ノ　目　的　石造地何坪或ハ木造地何坪其他何何
一　借　用　期　限　明治何年十二月三十一日迄

右ノ地所明治何年十二月三十一日限リ借用滿期ニ付引續キ借用仕度就テ東京市基本財產河岸地貸渡規則遵守可仕ハ勿論本人不在又ハ地料滯等ノ時ハ保證人ニ於テ諸事相辨シ可申候間御許可被下度此段相願候也

何區何町何番地
何府（縣）華族（士族平民）
借地願人　何　　某　印

何區何町何番地
何府（縣）華族（士族平民）
保　證　人　何　　某　印

明治何年何月何日

東京市長何某殿
（東京市參事會）

前書何某（保證人ヲ云フ）ハ其肩書ノ地ニ居住シ及當市內ニ土地（家屋）ヲ所有スル者ニ相違無之候也

何　區　長　何　　某　印

前書願ノ趣相違無之候也

河岸地所在ノ區長　何　　某　印

河岸地借用換願

一　區名河岸名及番號　何區何河岸第何號
一　地　　　　　　坪　何拾何坪何合何勺
一　一箇月借地料　何拾何圓何拾何錢何厘
一　使　用　ノ　目　的　石造地何坪或ハ木造地何坪其他何何
一　借　用　期　限　明治何年十二月三十一日迄

右何某返地仕度引續キ同地所在ノ家屋買（讓）受人何某右ノ地所借用仕度就テ東京市基本財產河岸地貸渡規則遵守可仕ハ勿論本人不在又ハ地料滯等ノ時ハ保證人ニ於テ諸事相辨シ可申候間御許可被下度圖面相添此段相願候也

何區何町何番地
何府（縣）華族（士族平民）
返地願人　何　　某　印

何區何町何番地
何府（縣）華族（士族平民）
借地願人　何　　某　印

何區何町何番地
何府（縣）華族（士族平民）
何某保證人　何　　某　印

明治何年何月何日

何區何町何番地
何府（縣）華族（士族平民）
何某保證人　何　　某　印

東京市長何某殿
（東京市參事會）

前書何某（借地願人ノ保證人ヲ云フ）ハ其肩書ノ地ニ居住シ及當市內ニ土地（家屋）ヲ所有スル者ニ相違無之候也

何　區　長　何　　某　印

前書願ノ趣相違無之候也

河岸地所在ノ區長　何　　某　印

河岸地使用換願

一　區名河岸名及番號　何區何河岸第何號
一　地　　　　　　坪　何拾何坪何合何勺
一　現　使　用　名　木造地或ハ何何
一　使　用　ノ　變　更　煉化石造地或ハ何何
一　借用期限ノ變更　明治何年十二月三十一日迄

右之通變更仕度圖面相添此段相願候也

何區何町何番地
何府（縣）華族（士族平民）
借　地　人　何　　某　印

何區何町何番地
何府（縣）華族（士族平民）
保　證　人　何　　某　印

明治何年何月何日

〔東京市參事會〕
東京市長何某殿
前書願ノ趣相違無之候也
河岸地所在ノ區長　何　某　印

河岸地返地願

一　區名河岸名及番號	何區何河岸第何號
一　借用期限	明治何年十二月三十一日

右都合ニ依リ返地仕度（同地所在ノ建物取毀チ）地所原形ニ復シ候ニ付御許可被下度此段相願候也

何區何町何番地
何府（縣）華族（士族平民）
返地願人　何　某　印
明治何年何月何日
何區何町何番地
何府（縣）華族（士族平民）
保證人　何　某　印

〔東京市參事會〕
東京市長何某殿
前書願ノ趣相違無之候也
河岸地所在ノ區長　何　某　印

河岸地繼續届

一　區名河岸名及番號	何區何河岸第何號
一　地坪	何拾何坪何合何勺
一　借用期限	明治何年十二月三十一日迄

右借地人何某死亡（退隱）私家督（相續）仕候ニ付當初御許可ノ通繼續借用仕候此段及御届候也

明治何年何月何日
何區何町何番地
何府（縣）華族（士族平民）
繼續届人　何　某　印
何區何町何番地
何府（縣）華族（士族平民）
保證人　何　某　印

〔東京市參事會〕
東京市長何某殿
前書届出ノ趣相違無之候也
河岸地所在ノ區長　何　某　印

保證人變更届

一　區名河岸名及番號	何區何河岸第何號
一　舊保證人氏名	何某
一　新保證人氏名	何某
一　保證人變更ノ理由	死亡或ハ何何

右及御届候也

何區何町何番地
何府（縣）華族（士族平民）
明治何年何月何日
借地人　何　某　印
何區何町何番地
何府（縣）華族（士族平民）
舊保證人　何　某　印
何區何町何番地
何府（縣）華族（士族平民）
新保證人　何　某　印

〔東京市參事會〕
東京市長何某殿
前書何某（新保證人ヲ云フ）ハ其肩書ノ地ニ居住シ及當市內ニ土地（家屋）ヲ所有スル者ニ相違無之候也
何區長　何　某　印
前書届出ノ趣相違無之候也
河岸地所在ノ區長　何　某　印

●市基本財產河岸地借用願許可受書式

明治三十二年一月二十六日　市訓令乙第二十號（各區役所）赤坂、四谷、本郷、下谷區ヲ除ク

本市基本財產河岸地借用（借用換共）及年期繼續願ニ對スル指令書ノ送付ヲ受ケタルトキハ豫メ左記ノ受書ヲ徵シタル上指令書ヲ本人ニ交付スヘシ

河岸地借用（借用換／年期繼續）許可ニ付受書
何區何河岸第何號
右ハ今般借用（借用換／年期繼續）御許可相成候處借用期限中借地料及御規則等御改正御相成候共決シテ異議不申上都テ御指揮ニ隨ヒ承諾可致仍テ此段御受申上候也

年月日
借主　何　某
保證人　何　某

〔東京市參事會〕
東京市長宛

●洲崎辨天町二丁目空地借用家屋建築届書式

明治二十八年一月三十一日（深川區役所）市訓令第十二號

洲崎辨天町貳丁目ノ空地ヲ借用シ家屋ヲ建築セントスル者ハ其ノ著手落成トモ左ノ書式ニ依リ届書ヲ差出サシム可シ

届書式

家屋建築著手届

一町名及番地	洲崎辨天町貳丁目何番地何號
一地坪	何百何拾何坪何合何勺
一借地許可ノ年月日	明治何年何月何日
一建坪	木造（石造土藏又ハ煉化造）何拾何坪何合何勺
一著手年月日	明治何年何月何日

右及御屆候也

年　月　日

何區何町何番地
借地人　何　　某　印

何區何町何番地
保證人　何　　某　印

洲崎辨天町事務掛　何　　某　印

〔東京市參事會〕
東京市長何某殿

前書屆出之通相違無之候也

深川區長　何　　某　印

家屋建築落成屆

一町名及番地	洲崎辨天町貳丁目何番地何號
一地　坪	何百何拾何坪何合何勺
一一箇月借地料	何圓何拾何錢何厘
一建　坪	木造（石造土藏又ハ煉化造）何拾何坪何合何勺
一落成年月日	明治何年何月何日

右及御屆候也

年　月　日

何區何町何番地
借地人　何　　某　印

何區何町何番地
保證人　何　　某　印

洲崎辨天町事務掛　何　　某　印

〔東京市參事會〕
東京市長何某殿

前書屆出ニ依リ檢査候處相違無之ニ付奧印候也

深川區長　何　　某　印

●河岸地市有地護岸修繕願等ニ關スル請書式

明治三十一年五月三十一日
〔市參事會議決〕

印紙

請　書

今般何區何何河岸何號（又ハ何何市有地）私借用ニ屬スル地所ノ護岸御修繕相成（又ハ相願）候ニ付テハ左記ノ通可相守候

一　建物ニ對スル請方豫防ノ儀ハ工事ニ御差支無之樣自費ヲ以テ何日間ニ取設クヘキ事

一　前項ノ期日内ニ請方豫防ヲ怠リシ爲メ工事上差支相成候節ハ直ニ工事施行相成候共異議無之ハ勿論之カ爲メ建物其他ニ損害アルモ決シテ苦情等無之事

但此場合ニ要シタル請方豫防費及請方豫防ヲ怠リタル爲メニ生シタル損害ハ總テ辨償可致事

一　工事中天災其他ノ事變ニ依リ建物崩壞又ハ其他ニ損害相生シ候共決シテ苦情申間敷事

一　工事ノ妨害トナルヘキ行爲ハ致間敷事

一　何何　右ノ外必要ノ件ヲ記載セシム

右之通履行可仕候此段御請申上候也

何區何町何番地

年　月　日　　何　　某　印

〔東京市參事會〕
東京市長殿

印紙

請　書

今般何區何何河岸何號又ハ何何市有地私借用地ニ屬スル地所護岸御修繕相成候旨御示シノ處何何ニ付何年何月日迄御著手延期相願度御右御許可ノ上ハ左記ノ通リ可相守候

一　延期願中ハ勿論期限後ト雖モ天災其他ノ事變ニテ建物崩壞其他損害相生シ候共決シテ苦情申間敷事

一　延期出願ノ爲メニ生シタル費用ハ御命令次第辨償仕可事

一　何何　右ノ外必要ノ件ヲ記載ス

右ノ通履行可仕候此段御請申上候也

何區何町何番地

年　月　日　　何　　某　印

〔東京市參事會〕
東京市長宛

●洲崎辨天町事務所設置

明治二十二年十月三十一日
市訓令第百三號（深川區役所）

洲崎辨天町事務所ハ深川區役所内ニ設置ス

右借地人ニ告知スヘシ

●月島及新佃島事務所設置

明治三十四年四月十七日
市告示第三十七號

月島及新佃島事務所ヲ京橋區月島西仲通壹丁目貳番地壹號ニ設置ス

●河岸地市有地借地料滯納者處分具申方

明治二十三年十一月二十五日（各區役所）
市内訓第四號

河岸地其他市有地借用人ニシテ二箇月以上其地料ヲ滯納シ數次督促スルモ完納セサルモノアルトキハ其處分方ヲ具申スヘシ

調書

貸渡地名	一箇月貸地料	延滯月日	延滯貸地料總額	借地人及保證人代納人ノ氏名	同上居所	同上年齡
何河岸何號	円	自何月 至何月	円	借地人 何某	何區何町何丁目何番地	何年何月
何町何丁目何番地		自何月 至何月		保證人 何某	同	同
				代納人 何某	同	同

備考

年齡欄内記載ノ年月ハ出生時ノ年月日ニアラサル儀ト心得ラルヘシ

●期限滿了トナリ繼續出願中ニ係ル市有地、河岸地、公園地等ノ貸地料又ハ使用料徵收方

（明治四十一年一月二十九日（各區長宛）
助役通牒庶發第百八號）

本市有地及河岸地ノ借地竝ニ公園地、道路敷等ノ使用ニシテ一旦期限滿了トナリタル場合ニハ之カ繼續ヲ出願スルモ許否ノ處分未濟中ハ引續キ貸地料若クハ使用料ヲ徵收スヘカラサル儀ニ付（市

●河岸地市有地借地料滯納者處分具申ノ際調書添付方

明治三十八年九月二日市訓令乙第二百四十四號（各區役所）赤坂、四谷、本郷ノ三區ヲ除ク

明治二十三年十一月二十五日市内訓第四號ニ依リ河岸地其他市有地貸地料滯納者ヲ具申スル場合ニハ自今左記書式ノ調書ヲ添付シ具申スヘシ

參事會」ノ議決ニ據リ此段爲念及通牒候也

●河岸地年期繼出願ノ際使用目的變更ノ者調査方

明治三十五年十月三十一日
助役通牒總發第二千二百五號（河岸地所在各區長宛）

其區河岸地借用人ニシテ年期繼續ヲ出願スルニ方リ其使用目的ヲモ併セテ變更シ來ル者ハ詳細調査ノ上相違ナキ旨ヲ確カメタル後進達相成度爲念此段及通牒候也

●月島渡船施行心得

明治三十四年十二月二十四日
市告示第百五號

第一條　本渡船ハ京橋區明石町地先月島西河岸通間ヲ往復スルモノトス（明治四十四年四月十六日市告示第二十七號ヲ以テ本條及第二條中改正）

第二條　渡船ハ毎日徹夜執行ス（明治三十六年十二月二十六日市告示第百十九號ヲ以テ本條中改正）

第三條　渡船乘込ノ定員ハ毎一艘四十八人トス

第四條　定員ノ外搭載ヲ許スヘキ車輛貨物ノ數量ハ其時時便宜ニ從ヒ船員ノ指定ニ任スト雖モ吃水點ヲ超ユルヲ得ス

第五條　暴風又ハ出水其他不得已ト認メタル場合ニハ第三條ニ規定セル定員ヲ減シ若クハ渡船ヲ中止スルコトアルヘシ

第六條　癲狂者亂醉者若クハ傳染病者ニシテ他ノ乘船人ニ危險ヲ及ホスヘキ虞アリト認ムルトキハ其乘船ヲ拒絶スルコトアルヘシ

第七條　左ニ掲クル種類ノ物件ハ搭載スヘカラス

一　法令ニ由リ禁止シタルモノ
二　危險ト認ムルモノ
三　牛馬
四　甚シキ臭氣アルモノ
五　乘船人ノ携帶シ得ヘキ以外ノモノ但車輛ハ此限ニアラス

●月島渡船服務規程

明治三十四年十二月二十四日（月島及新佃島事務掛）
市訓令甲第五十一號月島渡船船員）

第一條　船員ハ總テ船長ノ指揮ニ從ヒ各職務ニ從事スヘシ

第二條　船員ハ其職務ニ從事スルニ當リテハ常ニ敏捷ニシテ愼重ナルコトヲ力メ苟モ公衆ニ對シ不都合ノ所爲アルヘカラス

第三條　船長ハ船員ヲ督勵シ月島渡船施行心得ニ從ヒ渡船施行ノ

責ニ任スルモノトス

第四條　月島事務掛ハ時時現場ニ臨檢シ渡船ニ關スル全般ノ事項ニ注意シ捨置キ難シト認メタル場合ハ所屬課長ヘ其意見ヲ具申スヘシ

第五條　石炭其他消耗品ハ月島事務掛ニ於テ所屬課長ニ請求シ時時必要ニ應シ船長ニ交付スヘシ

第六條　風波若クハ其他ノ支障ニ由リ月島渡船施行心得第五條ニ據リ渡船ヲ中止スヘキ必要ヲ生シタルトキハ船長ハ月島事務掛ノ同意ヲ經テ之ヲ行フ但シ事實急迫ノ場合ニ在リテハ船長之ヲ專行スヘシ

前項渡船ノ中止アリタルトキハ船長ハ月島事務掛ヲ經由シテ其旨ヲ所屬課長ニ報告スヘシ

第七條　第六條ノ場合ニ於ケル渡船中止ノ原由カ船體又ハ昇降場等ノ毀損ニ在リタルトキハ月島事務掛ハ直チニ其旨ヲ所屬課長ニ報告スヘシ

第八條　船員ハ渡船ノ閉鎖後翌日渡船ノ開始ニ至ル迄船内及船員詰所ニ交番宿直スヘシ（明治三十八年五月九日市訓令甲第二十八號ヲ以テ本條中船内ノ下ニ「及船員詰所」ノ五字追加）

第九條　宿直員ハ船長以下船員二名トス（明治三十八年五月九日市訓令甲第二十八號ヲ以テ本條中船員一名ヲ二名ト改ム）

第十條　宿直員ハ宿直中船内竝ニ周圍ノ事項ニ注意シ臨機敏速ノ處置ヲ爲スヘシ

第十一條　宿直時間中天災等非常ノ出來事ニ由リ俄カニ渡船ノ必要ヲ生シタルトキハ宿直員ハ適宜ノ方法ニ依リ臨時其職務ニ從事スヘシ此場合ニ於テハ宿直員ハ他ノ船員ヲ招集スルコトヲ得

第十二條　船長ハ船内ニ於ケル日常ノ消耗品ヲ調査シ帳簿ヲ設ケテ之ヲ整理スヘシ

第十三條　船長ハ日日渡船ノ往復度數其他必要ノ事項ヲ記シ週報及月報ヲ調製シテ月島事務掛ヲ經テ所屬課長ニ報告スヘシ

第十四條　前數條ノ外其時時當廳ヨリ示達セル命令若クハ指揮シタル事項ヲ遵守スヘシ

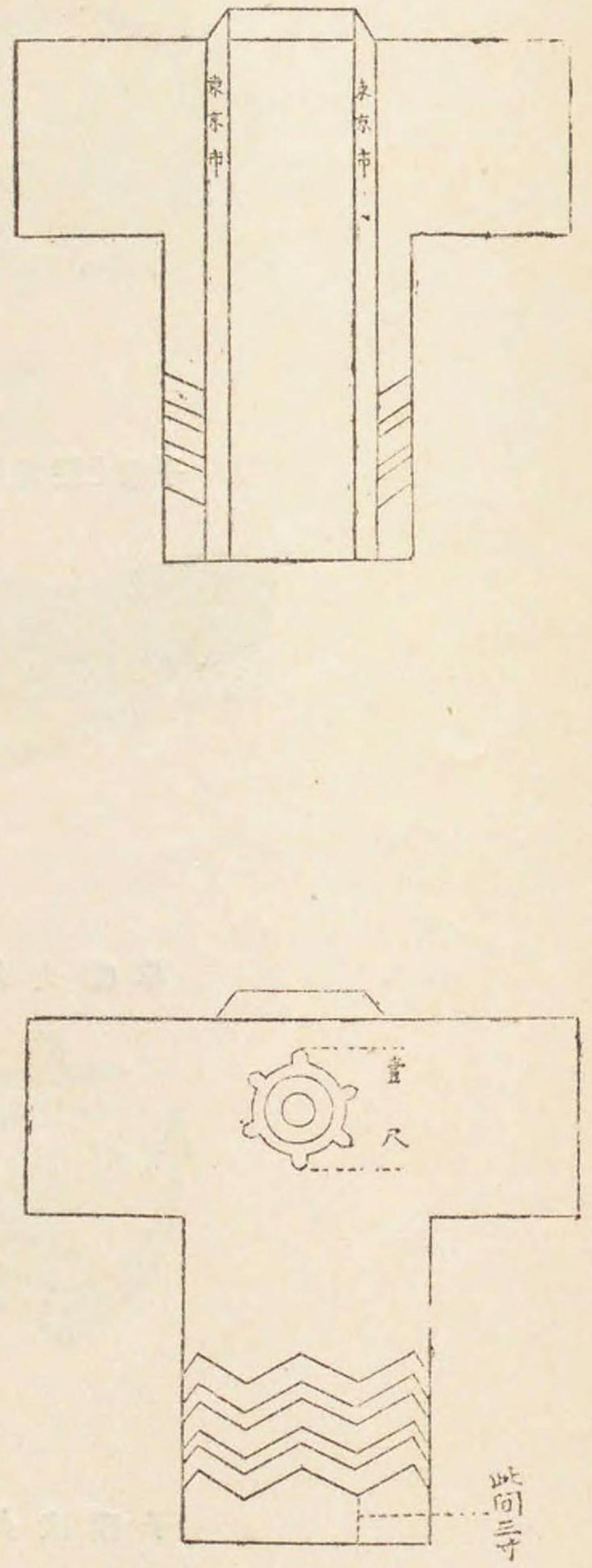
●月島渡船水夫被服圖例

明治三十四年十一月五日
市長判決土發第二千七百四十六號

今般開始セラルヘキ月島渡船ニ使用スル水夫ニハ別紙圖面之通リノ被服ヲ給シ著用セシムルモノトス

（別紙）

地　紺色、　紋　白色、　腰模樣　白色



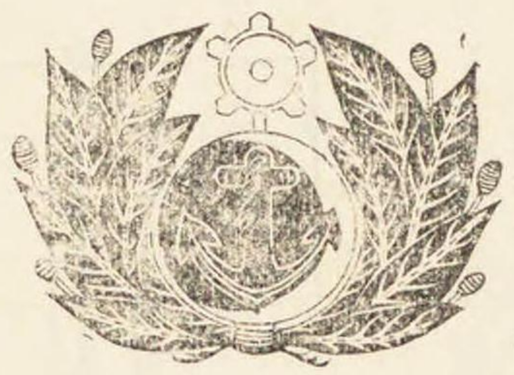
●月島渡船船員制帽

明治四十二年四月二十四日
市告示第二十三號

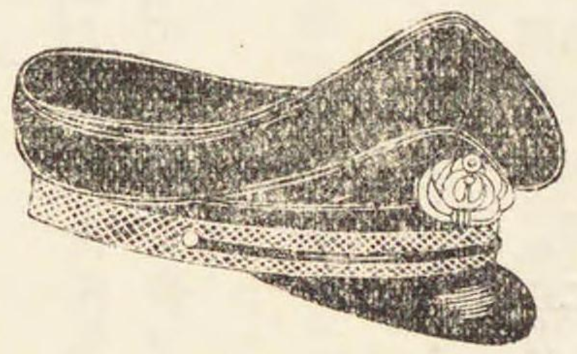
名稱／階級	帽　地質	帽　前章	帽　眼庇
運轉士	黒羅紗裏木綿	金モール製月桂樹ノ一對ヲ合セ中央ニ眞鍮製打出ノ金鍍錨形ヲ付シ中央丸形地ハ鼠色天鵞絨トシ右方ニ銀モール製三日月ヲ付ス樣式如圖	革黒色弧形ニシテ前ニ出ルコト一寸五分
機關士	同上	同上 但中央丸形地ハ紫色トス	同上
水火夫	同上	眞鍮製打出ニシテ金鍍錨形（最大部高サ一寸三分幅同一寸）ノ中ニ銀鍍市ノ徽章（徑六分五厘）ヲ付ス	同上

子			
釦	金鍍櫻形（徑四分トス）	同上	同上
顋紐	革黑色幅四分トス	同上	同上
横章	品質ハ黑色綠ニシテ毛綠ノ幅八分一條ヲ付ス	同上	同上
製式	下部高一寸五分上部圓ノ直徑約八寸下部圓ノ直徑約七寸トス	同上	同上
形狀	小判形船員帽ニシテ圖ノ如シ夏ハ白布ヲ以テ覆ス	同上	同上

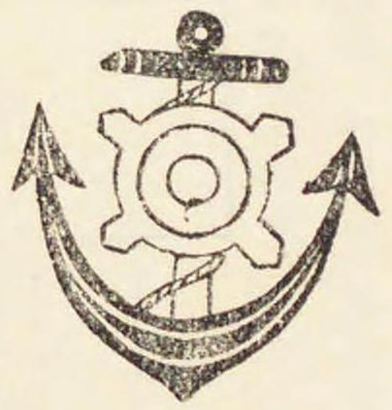
運轉士機關士帽章



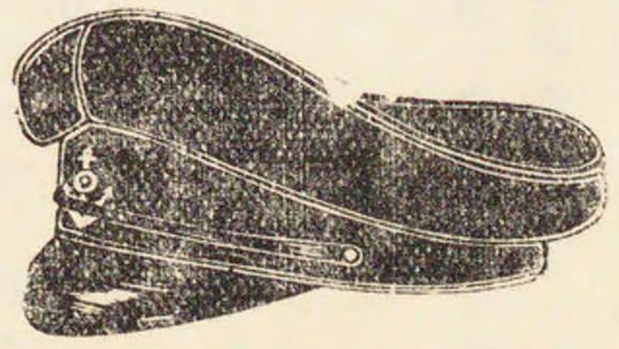
運轉士機關士帽子



水火夫帽章



水火夫帽子



第十類 公園

第十類　公園

●市公園地使用條例

明治四十二年八月十二日
市條例第二號

第一條　本市ノ管理又ハ所有ニ屬スル公園地ノ使用ハ本條例ノ定ムルトコロニ依ル

第二條　公園地ヲ區劃シ使用セシムルトキハ公入札ニ付ス但左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ハ此限ニ在ラス

一　宅地ヲ爲スニ足ラサル土地ヲ接續地使用人若クハ接續地主ニ使用セシムルトキ

二　使用地内ニ在ル造設物ノ全部又ハ一部ヲ取得セル者ニ使用セシムルトキ

三　第八條第二項ニ依リ使用セシムルトキ

四　國家ニ功勞アル者又ハ頌揚スヘキ事蹟ヲ不朽ニ傳ヘントスルノ目的ヲ以テ記念碑ノ類ヲ建設スル爲使用セシムルトキ

五　一時使用セシムルトキ

第三條　公園地ヲ使用セントスル者ハ保證人ヲ定メ本市ヘ願出ヘシ

保證人ハ本市内ニ住所ヲ有シ土地又ハ家屋ヲ所有スル者ニ限ル但市外所在ノ公園地使用ノ場合ニ在リテハ其所在町村居住者ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第四條　使用地ハ轉貸スルコトヲ得ス

第五條　造設物ノ增築、改築、模樣替、地盤ノ變更其他新規ノ造營ヲ爲サントスルトキハ本市ノ許可ヲ受クヘシ

造設物ノ全部又ハ一部ヲ取除キタルトキハ之ヲ屆出ヘシ

前二項ノ規定ハ一定ノ地域ヲ限リ之ヲ適用セサルコトアルヘシ

第六條　造設物ハ左ノ制限ニ遵フヘシ

一　家屋土臺ハ道路ノ境界線ヨリ一尺以上ノ距離ヲ存スヘシ但路次ニ面スル部分及特別ノ事情アル場合ハ此限ニ在ラス

二　庇及霧除ハ使用地外ニ出スヘカラス

三　前二號ノ外特ニ指定シタル事項

第七條　造設物ハ許可ノ日ヨリ三十日以内ニ起工シ一箇年以内ニ完成スヘシ但造設物ノ種類ニ依リ特ニ完成期間ノ延長ヲ許可スルコトアルヘシ

第八條　造設物ノ賣買讓與其他ノ事由ニ因リ使用地ノ一部又ハ全部ヲ返地セントスルトキハ本市ニ願出ヘシ

前項返地ニ際シ其地ヲ引續キ使用セントスル者ハ前使用人ト連署ノ上第三條ノ規定ニ依リ願出ヘシ

第九條　使用人ハ本市規定ノ使用料ヲ納付スヘシ但公入札ニ付シタルモノハ落札金額第二條第二號及第三號ニ當ルモノハ前使用人ノ納付シタル使用料額ヲ納付スヘシ

規定ノ改正ニ依リ其使用料額前項但書ノ納額ヲ超過シタルトキハ規定使用料ノ額ニ依リ使用料ヲ徵收ス

第二條第四號ノ場合ニ於テハ使用料ヲ徴收セス

營利ノ目的ニ供セサル一時使用者ニ對シテハ使用料ヲ徴收セサルコトアルヘシ

造設物ノ燒失シタルトキハ三箇月分以內ノ使用料ヲ免除スルコトアルヘシ

第十條　使用料ハ毎月二十日ヨリ二十八日迄ノ間ニ其月分ヲ納付スヘシ同年度ニ屬スル使用料ハ之ヲ前納スルコトヲ得

第十一條　一箇月ニ滿タサルモノノ使用料ハ左ノ區別ニ依リ計算ス

一　十五日以前ニ使用ヲ許可シタルモノ及十六日以後ニ返地シタルモノハ一箇月分

二　十六日以後ニ使用ヲ許可シタルモノ及十五日以前ニ返地シタルモノハ半月分

前項返地ノ日ハ第二條第二號及第三號ニ依リ後ノ使用人ニ使用ヲ許可シタル日又ハ受領濟ノ日トス

第十二條　第二條第二號及第三號ノ場合ニ於テ前使用人ニ使用料ノ滯納アルトキハ後ノ使用人ヨリ之ヲ徴收ス

第十三條　使用料ヲ增額スル場合ニ於テハ三箇月以前ニ之ヲ豫告ス

第十四條　造設物不體裁ニシテ公園ノ美觀ヲ損スト認ムルトキハ改修又ハ取拂ヲ命スルコトアルヘシ

第十五條　公園改良其他必要アルトキハ六箇月以前ニ豫告シ返地セシム

前項ノ場合ニ於テハ本市ノ定ムル手當金ヲ交付スルコトアルヘシ

使用人使用地內ニ在ル造設物ノ所有權ヲ喪失シタルトキハ其使用地ノ一部若クハ全部ヲ返地セシムルコトアルヘシ

第十六條　返地ノ場合ハ使用人ニ於テ其所有ノ造設物ヲ取拂ヒ地所ヲ原形ニ復シ本市ニ届出ヘシ

第十七條　本市ニ於テ必要ト認ムルトキハ使用地又ハ造設物ノ檢査ヲ爲スコトアルヘシ

第十八條　使用人左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ十二箇月分以內使用料六倍迄ヲ增徴シ又ハ返地セシムルコトアルヘシ

一　第四條乃至第八條ノ規定及第十四條ノ命令ニ違背シタルトキ

二　猥ニ使用地以外ノ土地ヲ使用シ又ハ占用シタルトキ、

三　猥ニ本市ノ樹木ヲ伐採シ又ハ植換ヲ爲シタルトキ

四　第二十一條ニ依リ別ニ定ムルトコロノ規定ニ違背シタルトキ

前項使用料增徴ノ處分ヲ受ケタル者違背ノ事項ヲ釐正セサルトキハ其期間ヲ延長シ又ハ返地セシムルコトアルヘシ

使用料ヲ滯納シタルトキハ直ニ返地ヲ命スルコトアルヘシ

第十九條　第六條第一號及第二號ノ制限ニ適セサルモノハ改築ノ際之ニ依ラシム

第二十條　本條例施行以前ニ於テ公入札ニ付シタルモノノ使用料ハ舊規定ニ依ル

第二十一條　本條例ニ規定スルモノノ外建物構造營業制限使用料公入札ノ條件竝方法其他本條例施行ニ關スル細則ハ〔市參事會〕之ヲ定ム

第二十二條　左ノ規定ハ之ヲ廢止ス

一　明治二十二年八月市條例第三號公園使用料細則

二　明治二十二年八月市規則第二號公園地使用規則

三　明治二十五年七月市告示第四十四號公園使用料入札規程

四　明治三十六年八月市告示第八十五號日比谷公園地使用料入札規則

●市公園地使用條例施行規程

明治四十二年八月十三日
市告示第四十四號

第一條　公園地使用願書ニハ其使用地ノ位置坪數使用料及使用ノ目的ヲ記載シ圖面ヲ添附スヘシ

公園地使用條例第五條ノ願書ニハ工事仕樣書及圖面ヲ添附スヘシ

前項ノ工事落成シタルトキハ本市ニ届出テ檢査ヲ受クヘシ

第二條　使用人又ハ保證人轉居シタルトキハ其旨本市ニ届出ヘシ

保證人左ノ各號ノ一ニ該當シタルトキハ使用人ハ新ニ保證人ヲ定メ連署ノ上本市ニ届出ヘシ

一　公園地使用條例第三條第二項ノ要件ヲ缺キタルトキ

二　死亡シタルトキ

三　失踪ノ宣告アリタルトキ

四　無能力者ト爲リタルトキ

第三條　公園地使用ニ關シ本市ニ提出スル願書及届書ハ其公園所在地ノ區長（飛鳥山公園ニ在リテハ本郷區長）ヲ經由スヘシ

第四條　左ノ公園地內有料使用地ニ於テハ住居專用ニ供スル家屋ヲ建設スルコトヲ得ス

一　淺草公園地ノ內第一區、第二區、第四區、第五區及第六區

二　麴町公園地ノ內山地

三　愛宕山公園地

四　坂本町公園地

五　飛鳥山公園地

六　清水谷公園地

七　日比谷公園地

第五條　前條第一號ノ區域中第六區ヲ除ク外建物構造ハ左ノ制限ニ遵フヘシ

一　軒高サ地盤ヨリ桁峠迄十尺以內ニシテ平家タルコト

二　屋根高サハ桁峠ヨリ棟上端迄七尺二寸以內

三　料理店、飲食店及寫眞店ヲ除ク外一棟建坪二十五坪以內

第六條　第四條第一號ノ區域內ニ於ケル營業ハ從前許可ヲ受ケタ

ルモノヲ除ク外左ノ種目ニ限ル但緣日商ハ當分ノ内從前ノ慣例ニ依ル

一　第一區及第四區ニ在リテハ
茶店　鮨屋　汁粉屋　團子屋　鳩豆商

二　第二區及第五區ニ在リテハ
寫眞店　料理店　飲食店（牛肉屋、鳥肉屋、天麩羅屋、鰻屋ヲ除ク外汁粉屋、醴屋、團子屋、蕎麥屋、鮨屋ノ類）
菓子屋　果物屋　煎豆屋
遊技場ノ類（大弓揚弓、射的、吹矢、投扇ヲ除ク）　競球戯所　書畫骨董店
和洋小間物店　袋物店　唐木細工店　竹細工店
玩弄物店　下駄草履傘店　繪草紙屋
水菓屋　陶器店　塗物店
栽培職　吳服太物店　舶來織物店
絲物店　半襟店　押繪店
眞綿製衣類店　蝙蝠傘店　文房具店
書籍店　式紙、短冊、半切、封筒店　筆墨硯店
時計店　鏡店　眼鏡店
硝子店　煙管店　鼈甲店
櫛簪店　琴、三味線樂器店　象牙、角石、珠玉細工物店
錫、銅、鐵、鐵葉小細工物店　籐細工物店　麥藁細工物店
扇團扇屝店　造花店　箸店
楊枝店　印判店　香水、香油、石鹼店
和洋酩酒店　煙草店　水飴店
麵麭店　煮豆、佃煮、紫蘇卷店　櫻花漬、藥味蕃椒店　珠數店
鰹節、鶏卵店　待合茶屋但二區煉化仲店ニ於テハ之ヲ許サス
乾海苔店
革包店　賣藥店　足袋店
貝細工物店

三　第六區ニ在リテハ
第五區ニ於ケル營業ノ外
興業場　遊覽所　寄席
大弓場　牛肉店　鳥肉店
鰻屋　天麩羅屋　紙店
葉茶店　砂糖店　剪花店
金魚店　飼鳥店　新小道具店
ランプ店　溫泉場（一箇所）　藥種店

第七條　第五條ノ區域内ニ於ケル建物ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ改築ノ際同條ノ制限ニ遵ハシム
一　第二區内ニ在リテ舊規定制定前ノ建設ニ係ルモノ
二　第二區及第五區内ニ於テ舊規定ニ依リ建設ヲ許可セラレタル寫眞店
三　其他從前特ニ許可ヲ受ケタル建物ニシテ現ニ其當時ノ目的ニ使用スルモノ
前項第二號及第三號ニ該當スルモノニシテ營業ヲ變更シタルトキハ第五條ノ制限ニ依リ直ニ改築スヘシ

第八條　公園地使用條例第五條第一項及第二項ノ規定ヲ適用セサル地域左ノ如シ
一　淺草公園地第七區ノ内馬道町四丁目、同六丁目、同七丁目、同八丁目、花川戸町、田町一丁目及北田原町
二　麴町公園地ノ内飛地
三　湯島公園地ノ内龍岡町
四　下谷公園地
五　綠町公園地

第九條　營業ヲ指定シ使用ノ競爭入札ヲ爲ス場合ニ於テ之ニ加ラントスル者ハ左ノ資格ヲ有スルモノニ限ル
一　本市住民ニシテ二箇年以來所得税年額金拾圓以上ヲ納ムルモノ
一　當廳ニ於テ許可スヘキ營業ニ相當スル營業ニ二箇年以來從事スルモノ

第十條　一人ニシテ同時ニ數箇所ノ入札ニ加ハリ二箇所以上ニ落札シタルトキハ抽籤ヲ以テ定メタル一箇所ノ外之ヲ無効トス

第十一條　現ニ公園地ヲ使用スル者ハ同一公園内ニ於テ新ニ入札ニ加ハルコトヲ得ス

第十二條　前三條ノ外公入札ノ方法ハ市有地貸渡ノ例ニ依ル

●市公園地使用料ニ關スル條例

大正二年一月二十八日
市條例第三號

東京市公園地使用料左ノ通定ム

一　常時使用料
淺草公園地

第一區	一坪	一月	金參拾錢
第二區			
煉瓦西表及傳法院橫町表	一坪	一月	金四拾錢
濡佛橫町表、煉瓦西傳法院寄表及煉瓦東表	一坪	一月	金參拾錢
煉瓦西裏	一坪	一月	金貳拾錢
煉瓦東裏	一坪	一月	金拾五錢
第四區	一坪	一月	金參拾錢
第五區	一坪	一月	金參拾錢
第六區			
一等	一坪	一月	金八拾錢
二等	一坪	一月	金四拾錢
三等	一坪	一月	金貳拾五錢
馬道町一丁目			
雷門角表	一坪	一月	金壹圓貳拾錢
廣小路表	一坪	一月	金八拾錢

其他表及廣小路裏	一坪	一月	金四拾錢
其他裏	一坪	一月	金拾五錢
馬道町二丁目			
廣小路表	一坪	一月	金七拾錢
傳法院横町表	一坪	一月	金參拾錢
馬道通表煉瓦東表	一坪	一月	金貳拾五錢
裏	一坪	一月	金拾錢
馬道町三丁目			
傳法院横町表、仁天門通表及馬道通表	一坪	一月	金參拾錢
煉瓦東表	一坪	一月	金拾六錢
裏	一坪	一月	金九錢
馬道町四丁目			
馬道通表	一坪	一月	金參拾錢
横町表	一坪	一月	金拾八錢
裏	一坪	一月	金八錢
馬道町五丁目			
馬道通表	一坪	一月	金參拾錢
横町表	一坪	一月	金拾八錢
裏	一坪	一月	金九錢
馬道町六丁目			
馬道通表及山ノ宿通表	一坪	一月	金參拾錢

横町表	一坪	一月	金拾八錢
藪横町表	一坪	一月	金拾六錢
中通表	一坪	一月	金拾貳錢
裏	一坪	一月	金八錢
馬道町七丁目			
馬道通表	一坪	一月	金參拾錢
富士前表	一坪	一月	金拾四錢
裏	一坪	一月	金八錢
馬道町八丁目			
馬道通表	一坪	一月	金參拾錢
藪横町表及聖天横町表	一坪	一月	金拾六錢
田町横町表及中通表	一坪	一月	金拾貳錢
裏	一坪	一月	金八錢
花川戸町			
馬道通表	一坪	一月	金參拾錢
裏	一坪	一月	金九錢
新畑町			
田島町通表及北表	一坪	一月	金四拾錢
裏	一坪	一月	金拾貳錢
北田原町			
田島町通表	一坪	一月	金四拾錢
裏	一坪	一月	金拾貳錢

田町			
馬道通表	一坪	一月	金貳拾錢
裏	一坪	一月	金九錢
聖天町	一坪	一月	金拾錢
芝公園地			
一等 第一號ヨリ第十七號ニ至ル及第十九、二十、二十三號地	一坪	一月	金貳拾錢
二等 其他ノ地	一坪	一月	金拾五錢
麹町公園地			
飛地表	一坪	一月	金拾五錢
山地及飛地裏	一坪	一月	金拾貳錢
深川公園地			
一等 不動堂前	一坪	一月	金貳拾錢
二等 其他ノ地	一坪	一月	金拾貳錢
愛宕山公園地	一坪	一月	金貳拾錢
坂本町公園地	一坪	一月	金參拾錢
飛鳥山公園地	一坪	一月	金四錢
湯島公園地			
梅園町	一坪	一月	金貳拾五錢
龍岡町表	一坪	一月	金四拾錢
裏	一坪	一月	金拾八錢
日比谷公園地	一坪	一月	金五拾錢
下谷公園地			

東通表	一坪	一月	金參拾錢
電車通表	一坪	一月	金貳拾五錢
其他表	一坪	一月	金拾四錢
裏	一坪	一月	金八錢
綠町公園地			
第一、二號南表	一坪	一月	金貳拾錢
其他ノ表	一坪	一月	金拾五錢
裏	一坪	一月	金七錢
表裏ノ區別ハ道路ニ接スル奥行五間ヲ以テ表トス			

二 歳ノ市使用料

淺草公園地		
一等	一小間	金四圓
二等	一小間	金貳圓五拾錢
三等	一小間	金壹圓五拾錢
四等	一小間	金壹圓
五等	一小間	金七拾錢
六等	一小間	金五拾錢
湯島公園地		
一等	一小間	金壹圓貳拾錢
二等	一小間	金七拾錢
三等	一小間	金五拾錢
深川公園地		

一　等	一小間	金壹圓貳拾錢
二　等	一小間	金七拾錢
三　等	一小間	金五拾錢
御茶ノ水公園地	一小間	金七拾錢

一小間ハ二坪トシ使用地等級ハ市參事會ノ議決ヲ經之ヲ定ム
三　一時使用ヲ許可スルモノハ常時使用料ノ倍額ヲ徵收スルコトヲ得

附　則

本條例ハ大正二年五月分ヨリ之ヲ適用ス

●市公園使用地内屋上制限

明治四十一年一月十六日市訓令(麴町、日本橋、芝、本郷、下谷、淺草、本所、深川區役所)甲第十五號

其區所管公園使用地内ニ於テ家屋其他ノ建物ノ新築改築又ハ增築ヲ爲サントスル者ハ左ノ方法ニ據ラシムヘク此旨各使用人ニ通達スヘシ

一　屋上ハ瓦石又ハ其他ノ不燃質物ヲ以テ覆葺スルコト
一　現在燃質物ヲ以テ施設シアルモノハ本訓令ノ日ヨリ五箇年以内ニ前項ノ制限ニ依リ改修スルコト
一　土地ノ狀況又ハ構造ニ依リ不燃質物ヲ以テ覆葺スルコトヲ要セサルカ若クハ覆葺スルコト能ハサル特別ノ理由アルモノニ在リテハ當廳ノ許可ヲ受ケ前項ノ制限ニ據ラサルコトヲ得

以　上

●淺草公園地第六區内建物高サ制限

明治四十二年十月十六日市訓令甲第三十二號(淺草區役所)

其區淺草公園地第六區内家屋建設出願ノ場合ニハ自今左記ノ制限ニ據ラシムヘシ

記

一　家屋ノ軒桁上端ハ地盤ヨリ四十五尺以内
一　同　棟上端ハ地盤ヨリ五十五尺以内
一　同　屋上建設物(塔其他裝飾物)上端ハ地盤ヨリ六十五尺以内

以　上

●公園入口等ニ建設ヲ許可スヘキ標札種別

明治四十二年十一月十二日(市參事會議決)第五千三十六號

本市公園入口等ニ建設ヲ承認シ若クハ許可スヘキ標札ハ從來單ニ白色又ハ黑色ニ限リタル處自今更ニ水色(薄青色)ヲ加フルモノトス

●日比谷公園地内運動會等ニテ一時占有方

明治三十六年十月十三日(市參事會議決)第三千七百六十四號

日比谷公園地内ノ一部ヲ一時占有セシムルモノハ小學校生徒運動會其他之ニ類似スルモノニ限リ其他ハ當分ノ内總テ之ヲ許可セサルモノトス但小學校生徒運動會ト雖モ大祭日又ハ休暇日ハ之ヲ許可セサルコトアルヘシ

●淺草公園仲店貸渡規則

明治二十二年七月三十日市告示第二十三號

第一條　淺草公園第二區仲店ハ三箇年ヲ一期トシ貸渡シ身元保證金及借家料ヲ徵收スルモノトス但滿期ノ後更ニ借家セントスル者ハ期限ヨリ二箇月以前ニ出願スヘシ

第二條　仲店ヲ借用セントスル者ハ當府市町村住民ニシテ戶主タル者ヲ保證人トシ當廳ニ願出テ許可ヲ受クヘシ

第三條　借家ノ許可ヲ得タル者ハ七日以內ニ借家料七箇月分ニ相當スル金額ヲ身元保證金トシテ淺草區役所ヘ納ムヘシ但七日以內ニ身元保證金ヲ納メサル者ハ借家許可ノ效ヲ失フモノトス

第四條　煉化家屋ノ構造ヲ損シ若クハ保存方ニ妨害アル雜作ヲナシタルトキハ當廳ニ於テ期限ヲ定メ改修セシムヘシ

第五條　新ニ日除布簾及看板等ヲ取設ケントスルトキハ當廳ニ願出テ許可ヲ受クヘシ

第六條　借家ヲ返納セントスルトキハ一切ノ雜作等ヲ取除キ元形ニ復シ其旨當廳ニ屆出テ檢査ヲ受クヘシ
返納濟ニ至レハ身元保證金ヲ返付スヘシ若シ其取除キ又ハ元形ニ復スルコトヲ怠リタルトキハ當廳ニ於テ直ニ著手シ其費用ヲ身元保證金ヨリ辨償セシメ殘金ハ返付シ不足アルトキハ追徵スヘシ

第七條　當廳又ハ淺草區役所ニ於テ臨時吏員ヲ派出シ借家內雜作等ヲ檢査セシムルコトアルヘシ此場合ニ於テ借家人ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第八條　借家換ヲ爲サントスルトキハ双方連署シ當廳ニ願出テ許可ヲ受クヘシ此場合ニ於テハ前借家人ノ納メタル身元保證金ハ後借家人ノ納メタルモノト見做シテ處分スヘシ但本文ノ場合ニ於テハ其月ノ借家料ハ後借家人ヨリ納ムヘシ

第九條　借入期限中借家換スル者ハ後借家人ニ向ヒ殘リ年限ヲ貸渡スモノトス

第十條　借家人ニ於テ其家屋ニ關シ當廳ニ願屆等ヲ出ストキハ淺草區長ノ奧印ヲ受クヘシ新ニ借家ヲナサントスルトキハ先ツ願人所在地ノ區長又ハ町村長ノ奧印ヲ受ケ然ル後淺草區長ノ奧印ヲ受クヘシ

第十一條　借家料ハ毎月二十日ヨリ二十八日マテニ淺草區役所ニ納ムヘシ

第十二條　十五日以前ニ許可ヲ受ケ及十六日以後ニ返納シタルモノハ其借家料一箇月分十六日以後ニ許可ヲ受ケ及十五日以前ニ返納シタルモノハ其半箇月分ヲ納ムヘシ但借家ヲ許可シタルトキハ開業スルト否トニ拘ハラス其翌日ヨリ返納ノ節ハ實際檢査受取濟ノ日ヲ以テ本文ノ計算ヲナスヘシ

第十三條　借家料ヲ滯納シ又ハ此規則ニ違背シタルトキハ期限内ト雖モ返納ヲ命スルコトアルヘシ此場合ニ於テ雜作取除等ノ手續ハ第六條ニ準スヘシ但滯納ノ金額ハ直ニ身元保證金ヨリ控除シ殘餘アレハ之ヲ返付スヘシ

●淺草公園煉瓦仲店身元保證金圓位以下切捨方

明治四十二年十一月五日（淺草區役所）
市訓令甲第三十五號

其區淺草公園第二區煉瓦仲店身元保證金ハ自今圓位以下ノ端數ハ之ヲ切捨テ總テ圓位ニ止メ明年一月改正ノ分ヨリ實施スヘク此旨各借家人ノ相達スヘシ

●淺草公園煉瓦仲店貸渡身元保證金有價證券ヲ以テ代用方

明治四十三年二月十九日（淺草區役所）
市訓令甲第五號

明治二十二年七月市告示第二十三號淺草公園仲店貸渡規則第三條ノ身元保證金ハ左記條件ニ依リ有價證券代用方許可候條此旨各借家人ヘ相達スヘシ

條　件

一　代用有價證券ハ無記名國債券ニ限ル但シ額面百圓ニ付八拾圓ヲ以テ納入價格トス

一　貸渡規則第六條及第十三條ニ依リ保證金ノ處分ヲ要スルトキハ納入有價證券ヲ本市ニ於テ適宜賣却ノ上處理スヘシ

以　上

●淺草公園仲店貸渡身元保證金納入書樣式

明治四十三年二月十九日（淺草區長宛）
助役通牒一發第千百八十六號

貴區淺草公園仲店身元保證金ニ有價證券代用許可ノ件今般訓令相成候ニ就テハ右納入ノ際ハ別紙樣式ニ依ラシムヘク此段及通達候也

（樣　式）

參錢
印紙

淺草公園仲店身元保證物納入書

煉瓦仲店何側第何番

身元保證金　何　圓

此保證物額面金　何　圓

內　譯

何　何

何　何

右身元保證物納入致候若シ仲店貸渡規則第六條及第十三條ニ依リ保證金ノ處分ヲ要スル場合ハ本保證物御隨意ニ賣却ノ上御處分相成候共聊カ異議無之候仍テ納付致置候也

年　月　日　　住　所　　　姓　　名　印

（東京市參事會）
東京市長宛

●深川湯島公園歳ノ市地料徵收方

明治三十八年十月二十七日（深川本郷區役所）
市訓令甲第四十六號

其區深川（本郷區ハ湯島）公園歳ノ市ニ際シ自今出店者ヨリ左記ノ貸地料ヲ徵收スヘキニ付別紙貸付方法ニ依リ貸付竝ニ地料徵收方取計フヘシ

記

一等地　　市中一小間ニ付　　金壹圓（大正二年一月十八日市條例第三號ニ依リ地料及等級消滅）

二等地　　同　　金五拾錢

三等地　　同　　金參拾錢

（別紙圖面參照）（圖面略ス）

（別　紙）

・歳ノ市地所貸付方法

一　從來ノ出店位置ヲ標準トシ豫メ出店セシムヘキ位置ヲ定メ一等二等三等地ノ等級ヲ設ケ之レヲ數多ノ小間ニ分畫スヘシ一小間ハ間口二間奧行一間トス但間數不足ノ箇所ハ半小間ヲ設クルコトヲ得（大正二年一月十八日市條例第三號ニ依リ小間分畫及等級設定方消滅）分畫シタル各小間ニハ凡テ適宜ノ番號ヲ付スヘシ

二　市中主要ノ商品ヲ種類別ニ出店セシムルコト及各商ノ出店位置ハ凡テ舊來ノ慣習ニ依ラシムヘシ從テ何番乃至何番ヲ

三　何商ノ出店地ト定メ各商毎ニ貸付小間數ヲ豫定スヘシ
　　毎年十二月五日ヲ限リ各商ノ種類別ニ依リ使用ヲ申込マシムヘシ但一人一箇所トス申込人豫定數ヲ超過スルトキハ其申込ヲ拒絶スヘシ
四　十二月九日以前適宜ノ日ニ於テ前項ノ申込者ヲシテ各商毎ニ使用地番號ヲ抽籤セシムヘシ
五　市前日迄ニ番號氏名ヲ記入シタル小標杭ヲ現場ニ建テ使用者ヲシテ自己ノ使用地ヲ明知セシムヘシ
六　貸地料ハ抽籤ノ上使用地番號ノ決定ト同時ニ之ヲ徵收シ受領證ヲ交付スヘシ一旦徵收シタル地料ハ雨天其他ノ事故ニ由リ出店セサル事アルモ一切返付セサルモノトス
七　抽籤後ト雖モ貸付殘餘ノ小間アルトキハ隨時貸渡スコトヲ得徵收シタル地料ハ之ヲ徵收簿ニ記入スヘシ
八　本方法ニ依リ出店者ノ了知ヲ要スル事項及地料額ハ市一箇月前ヨリ豫メ適宜ノ位置ニ掲示スヘシ

●公園地使用願及淺草公園煉化仲店借家願書式

明治二十二年八月五日（各區役所）
市訓令第九號

東京市公園地使用願及淺草公園煉化仲店借家願書式左ノ通之ヲ定ム

（書式）用紙美濃紙

公園地使用願

何公園（何區）何號
　地坪何程
　此使用料一箇月
　　金何程
　　但一坪ニ付金何程

住所
族籍
氏　名

私儀今般何何ノ爲メ（其目的ヲ記載ス）前書ノ地所使用致度最公園ニ關スル諸規則遵守可致ハ勿論且本人不在又ハ使用料ノ淹滯有之時ハ保證人ニ於テ都テ相辨シ可申候間御許可被下度圖面相添此段奉願候也

年　月　日

右
氏　名　印

住所
族籍
保證人　氏　名　印

〔東京市參事會〕
東京市長何某殿

前書之通相違無之候也

本人所在地ノ區長（町村長）
氏　名　印

公園所在地ノ區長
氏　名　印

前書保證人何某ハ其肩書ノ地ニ居住シ土地（家屋）ヲ所有スル者ニ相違無之候也（明治二十六年六月二十四日市訓令第二號ヲ以テ奥書追加）
何區長（町村長）
氏　名　印

（使用願竝使用換願ニ就キ保證人證明ノ區長ニシテ同時ニ本人所在地又ハ公園所在地區長ナルトキハ左ノ通リ奥書ノ上提出スヘシ「明治三十五年十月十六日市訓令甲第三十七號」）
前書ノ通リ相違無之且ツ保證人何某ハ其肩書ノ地ニ居住シ土地（家屋）ヲ所有スルモノニ相違無之候也

年　月　日
何區長　氏　名　印

（圖ハ美濃紙ヲ二ツ折ニシテ右半葉ニハ使用セントスル土地ノ位置間數ヲ朱書シ尙隣地ヲ墨書スヘシ左半葉ニハ借地ノ位置ヲ墨書シ建家ノ坪數ヲ始メ構造ノ大略其他諸設營ヲ朱書スヘシ）

公園地使用換願

何公園（何區）何號
　地坪何程
　此使用料一箇月
　金何程
　但一坪ニ付金何程

住所
族籍
返地人　氏　名

住所
族籍
使用願人　氏　名

右何某返地致度引續同地所在ノ家屋買（讓）受人何某何何ノ爲メ前書ノ地所使用致度以下同文

年　月　日

右
氏　名　印

住所
族籍
何某保證人　氏　名　印

右
氏　名　印

住所
族籍
何某保證人　氏　名　印

〔東京市參事會〕
東京市長何某殿

前書ノ通リ相違無之候也

使用願人所在地ノ區長（町村長）
氏　名　印

公園所在地ノ區長
氏　名　印

前書ノ通リ相違無之且ツ保證人何某ハ其肩書ノ地ニ居住シ土地（家屋）ヲ所有スルモノニ相違無之候也

年　月　日
何區長　氏　名　印

（圖ハ美濃紙ニシテ使用地ノ位置間數坪數ヲ朱書シ尙隣地ヲ墨

書スヘシ）

煉化仲店借家願

住所
族籍
氏　名

淺草公園第二區
煉化仲店西（東）何番
一二階建煉化家屋　一戸
表間口何間（何尺）
奥　行何間（何尺）　此坪何坪何合何勺
此借家料一箇月
金何程
身元金何程

私儀今般何營業ヲ以テ出稼ノ爲メ前書ノ家屋明治何年何月ヨリ何年何月マテ拜借致度御許可ノ上ハ身元金即納借家料ノ儀ハ無相違上納可仕ハ勿論該家屋貸渡規則及公園ニ關スル諸規則遵守可仕候最本人不在又ハ借家料淹滯等有之時ハ保證人ニ於テ都テ相辨シ可申候間御許可被下度此段奉願候也

年　月　日

右
住所　氏　名印
族籍
保證人氏　名印

（東京市參事會）
東京市長何某殿

前書ノ通リ相違無之候也

本人所在地ノ區長（町村長）
氏　名印
淺　草　區　長
氏　名印

前書保證人何某ハ其肩書ノ地ニ居住シ戸主タル者ニ相違無之候也（明治二十六年六月二十四日市訓令第二號ヲ以テ奥書追加）
何區長（町村長）
氏　名印

（淺草公園煉化仲店借家竝借家換願ニ就キ保證人證明ノ區長ニシテ同時ニ本人所在地又ハ公園所在地區長ナルトキハ左ノ通リ奥書ノ上提出スヘシ「明治三十五年十月十六日市訓令甲第三十七號」）

前書ノ通リ相違無之且ツ保證人何某ハ其肩書ノ地ニ居住シ戸主タルモノニ相違無之候也

年　月　日
何區長氏　名印

煉化仲店借家換願

住所
族籍
返納人氏　名

淺草公園第二區
煉化仲店西（東）何番
一二階建煉化家屋　一戸
表間口何間（何尺）
奥　行何間（何尺）　此坪何坪何合何勺
此借家料一箇月
金何程
身元金何程

住所
族籍
拜借願人　氏　名

右之家屋何某拜借罷在候處都合有之候ニ付返納引續何某何營業ヲ以テ出稼ノ爲メ明治何年何月ヨリ何年何月マテ拜借致度御許可ノ上ハ兼テ何某ヨリ上納致置候身元金何圓何拾錢何厘ハ示談濟其儘相納置借家料ノ儀ハ月月無相違上納可仕ハ勿論該家屋貸渡規則及公園ニ關スル諸規則遵守可仕候最本人不在又ハ借家料淹滯等有之時ハ保證人ニ於テ都テ相辨シ可申候間御許可被下度此段奉願候也

年　月　日

右　氏　名印
右　氏　名印
住所
族籍
何某保證人　氏　名印
住所
族籍
何某保證人　氏　名印

（東京市參事會）
東京市長何某殿

前書ノ通リ相違無之候也

本人所在地ノ區長（町村長）
氏　名印
淺　草　區　長
氏　名印

前書ノ通リ相違無之且ツ保證人何某ハ其肩書ノ地ニ居住シ戸主タルモノニ相違無之候也

年　月　日
何區長　氏　名印

●日比谷公園開園時間

明治三十六年八月二十六日
市告示第八十二號

本市日比谷公園開園時間ヲ當分ノ內午前四時ヨリ午後十二時マテト改正シ本月二十七日ヨリ實施ス

●日比谷公園監督及巡視職務章程竝服務心得

明治三十六年五月三十日（庶務課）
市訓令甲第二十四號

日比谷公園ニ監督及ヒ巡視ヲ置キ其職務章程竝ニ服務心得左ノ通リ之ヲ定ム

日比谷公園監督及巡視職務章程

第一條 監督及巡視ハ庶務課ニ屬シ日比谷公園ニ關スル左ノ事項ヲ處理ス

甲監督取扱事項

一 園內ノ取締ヲ爲スコト

二 巡視以下ヲ指揮監督スルコト

三 園內地所使用願竝返地屆等ヲ調査スルコト

四 輕易ナル工事ヲ施行スルコト

乙巡視取扱事項

一 晝夜園內ヲ巡視スルコト

二 園丁以下ヲ指揮シ其作業ヲ監視スルコト

第二條 監督及ヒ巡視ハ前條ニ揭クルモノノ外園內ニ關シ特ニ命セラレタル事項ヲ處理ス

日比谷公園監督及巡視服務心得

第一條 監督及ヒ巡視ハ園內ノ設營物保全ニ留意シ其風紀ヲ保持スヘシ

第二條 監督及ヒ巡視ハ來園者ヲ保護シ之ニ對シ言語動作ヲ愼ミ踈慢ノ擧動アルヘカラス若シ來園者中公園揭示ヲ遵守セス又ハ之ヲ犯サントスル者アルトキハ懇諭シ尙ホ從ハサル場合ハ警官ニ引渡スヘシ

第三條 監督及ヒ巡視ニ於テ園內樹木、花卉ノ枯損及ヒ道路下水ノ破損等ヲ發見シタルトキハ臨機ノ措置ヲ爲シ直チニ上司ノ指揮ヲ承クヘシ

第四條 監督及ヒ巡視ハ園內ノ取締ニ關シ又ハ園丁以下ノ作業ニ付必要ト認ムル事項ハ之ヲ上司ニ報告スヘシ

第五條 監督ノ勤務時間ハ本市外勤者ニ準シ特ニ許可ヲ得タル外休暇スルコトヲ得ス

巡視ノ勤務時間ハ一晝夜トシ隔日午前八時ヲ以テ交代スルモノトス

臨時必要ノ場合ハ勤務時限外ト雖モ執務スヘシ

第六條 巡視ハ勤務中必ラス制服ヲ著スヘシ

●公園巡視及園丁服制

明治三十六年五月三十一日
市告示第六十一號

（明治三十八年四月二十一日市告示第二十四號ヲ以テ「日比谷公園巡視及園丁服制」トアリシヲ「本市公園巡視員及園丁服制」ト改ム）

本市公園巡視員及園丁服制左之通リ之ヲ定ム

服制圖例

巡視員

名稱	帽
地質	黑絨
徽章	金鍍市徽章外周ニ櫻花ノ模樣ヲ附ス 大サ中央ヨリ尖端ニ至ル五分
前庇	革表黑 裏蒲
顋紐	黑革幅三分、釦金鍍無地徑三分
製式	下部高サ一寸二分
形狀	如圖

名稱	衣
地質	夏衣、白綿リンネル 冬衣、紺絨
釦	金鍍圓形內ニ市徽章ヲ附ス 大サ徑七分五厘胸部五個ヲ附ス
製式	襟幅一寸、袖長腕關節ニ止ル、長サ腕骨上端ヨリ下ルコト凡ソ四寸五分、物入前面左右竝左胸部表面ニ各一個ヲ附ス
形狀	如圖

名稱	袴
地質	夏、白綿リンネル 冬、紺絨
製式	長サ靴踵ノ上際ニ止ル 物入兩股ニ各一個ヲ附ス
形狀	如圖

名稱	外套
地質	紺絨
釦	金鍍圓形內ニ市徽章ヲ附シ、大サ徑七分五厘胸部ニ十二個ヲ附ス、黑角、大サ徑五分五厘襟部ニ五個後裂ニ四個覆面ニ二個ヲ附ス
製式	長サ靴踵上際ヲ距ルコト大約八寸、物入前面左右各一個ヲ附ス、袖長サ腕關節ヨリ延ルコト五分
形狀	如圖

園丁

法被

〃 地質紺色木綿形狀圖面雛形ノ通リ前面名ハ白字、背面徽章染拔、裏ハ花色木綿（夏ハ單衣）寸法適宜

（何公園園丁）

股引

地質紺色木綿、形狀圖面雛形ノ通リ、裏ハ花色木綿（夏ハ單衣）寸法適宜

帶

地質紺色木綿、寸法適宜

饅頭笠

夏 晒天竺木綿蓋 寸法適宜

冬 黒 同 上

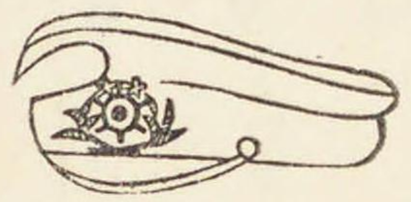
桐油合羽

黒色、徽章及前面名ハ黄色字、寸法適宜

（何公園園丁）

巡視員

帽

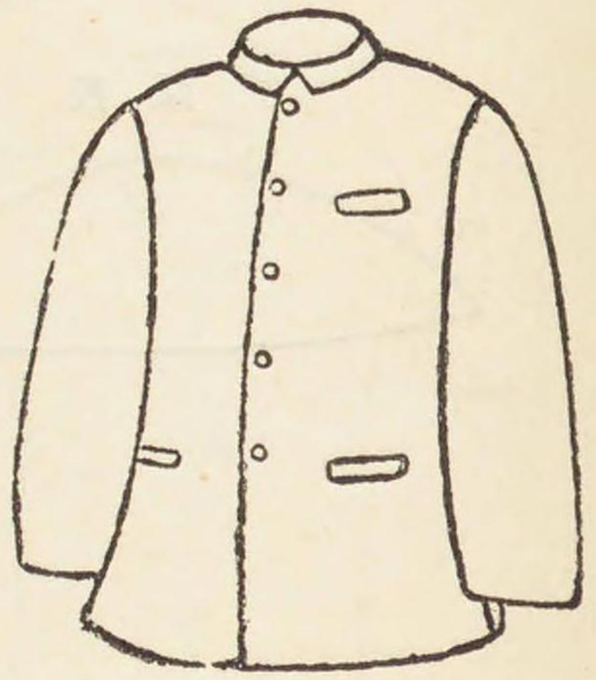


帽徽章

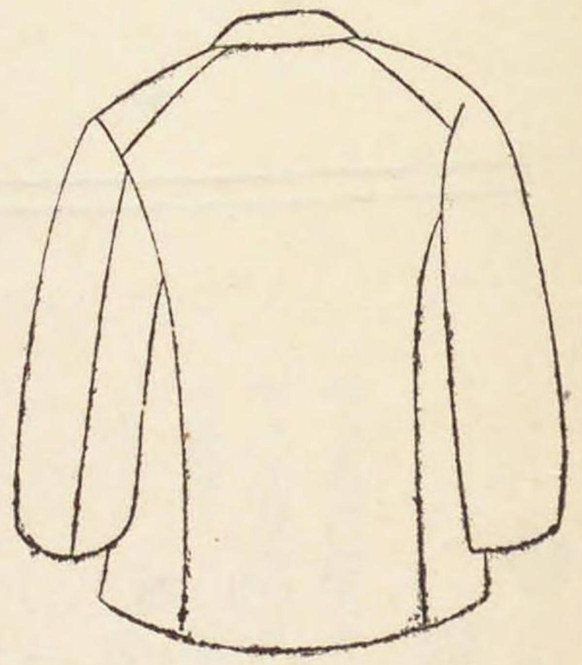
釦

衣

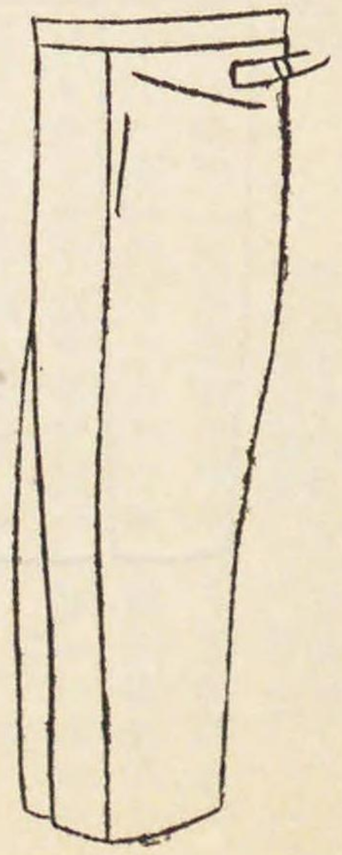
前面



背面



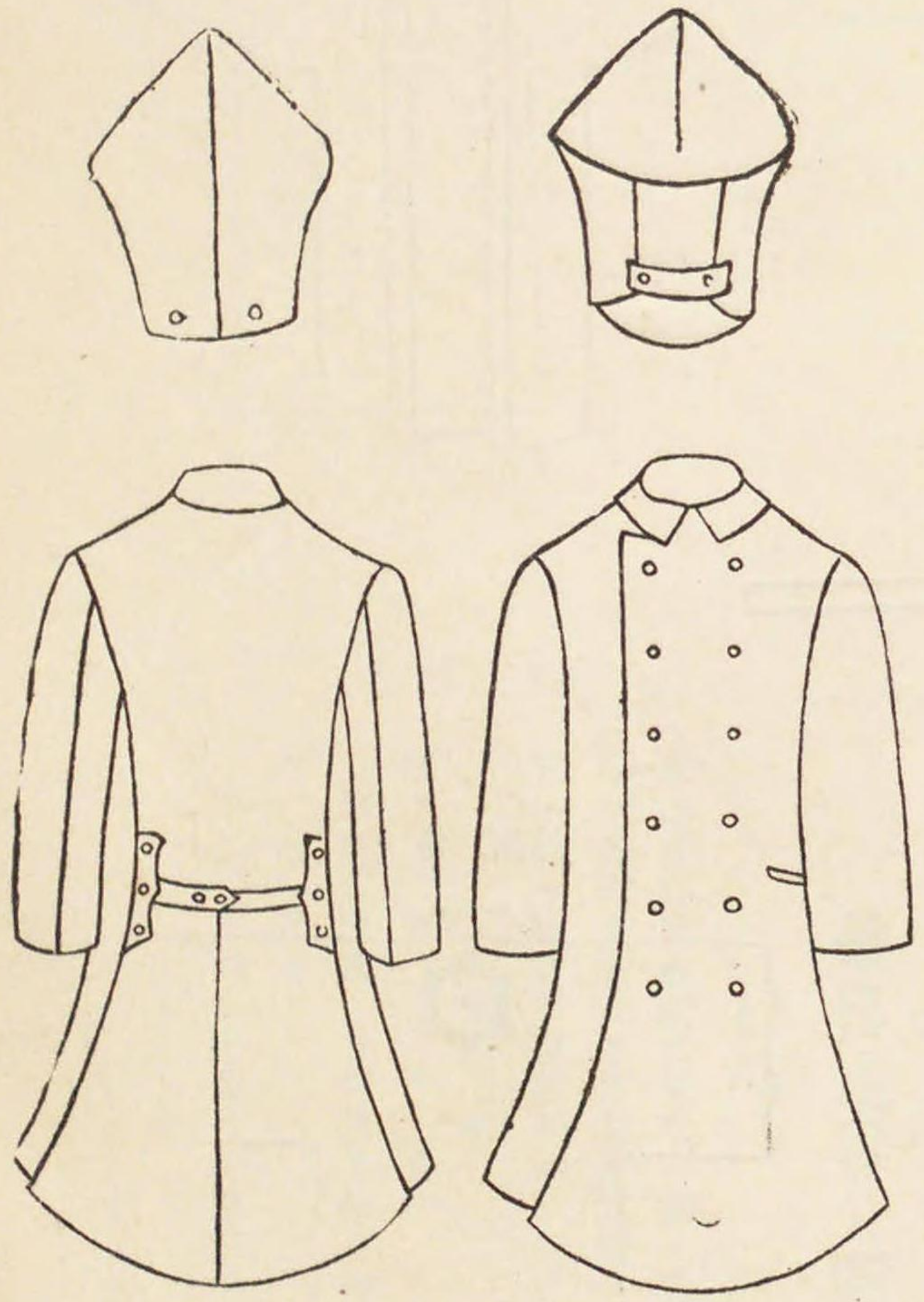
袴



外套

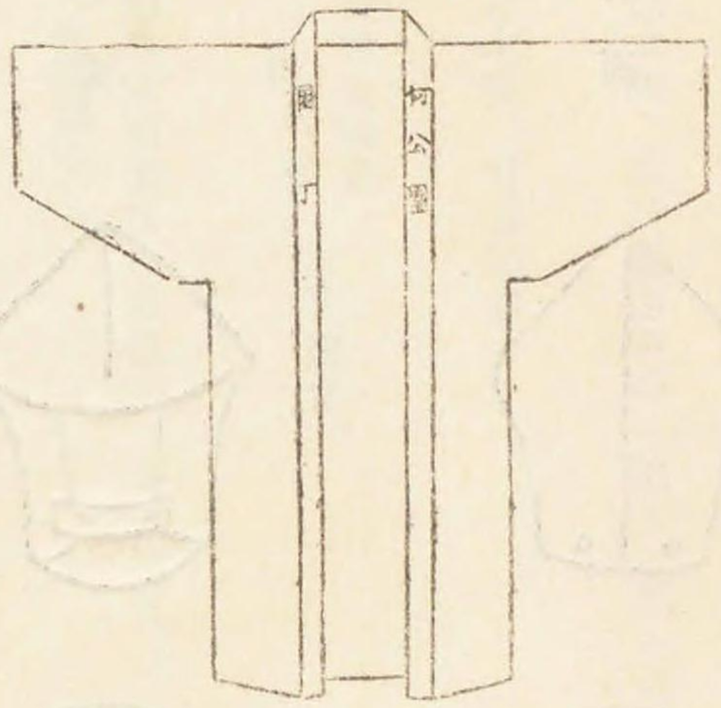
前面

背面

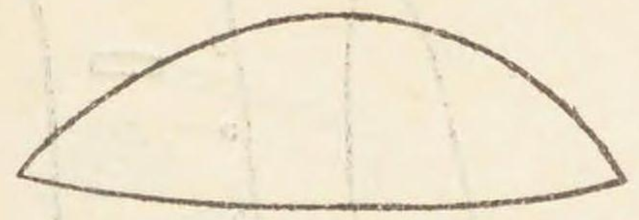


園丁法被

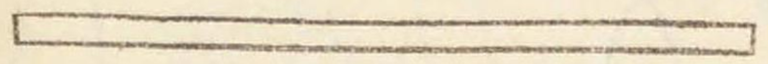
前面



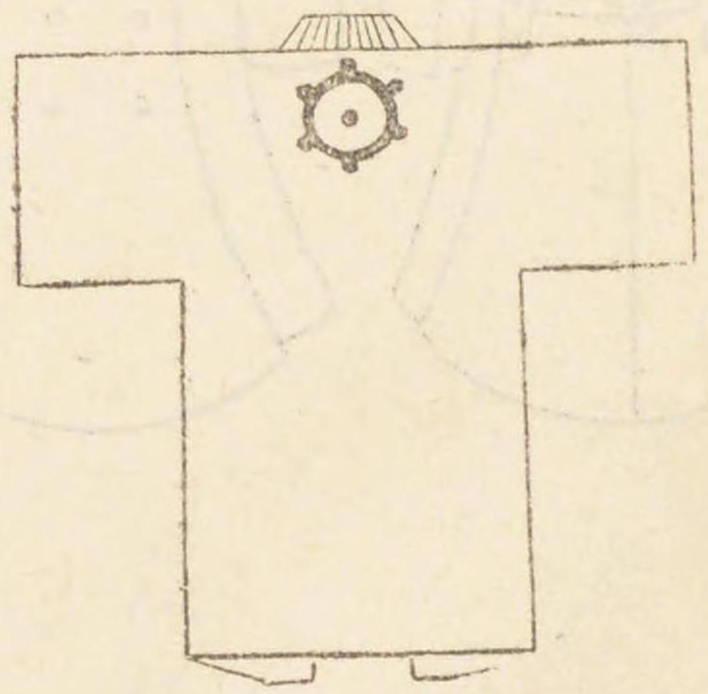
饅頭笠



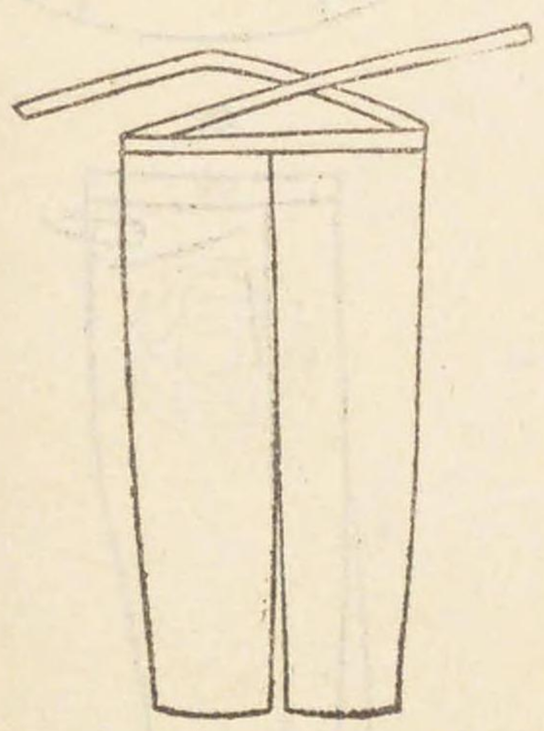
帶



背面

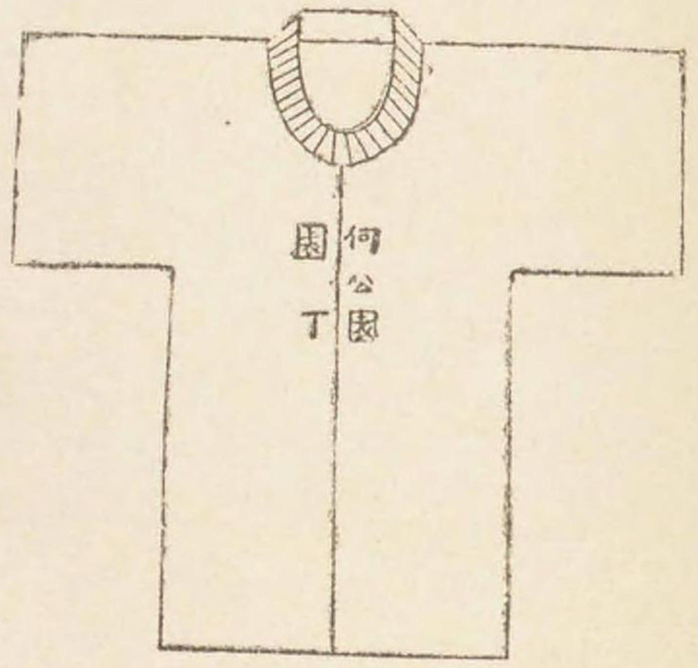


股引

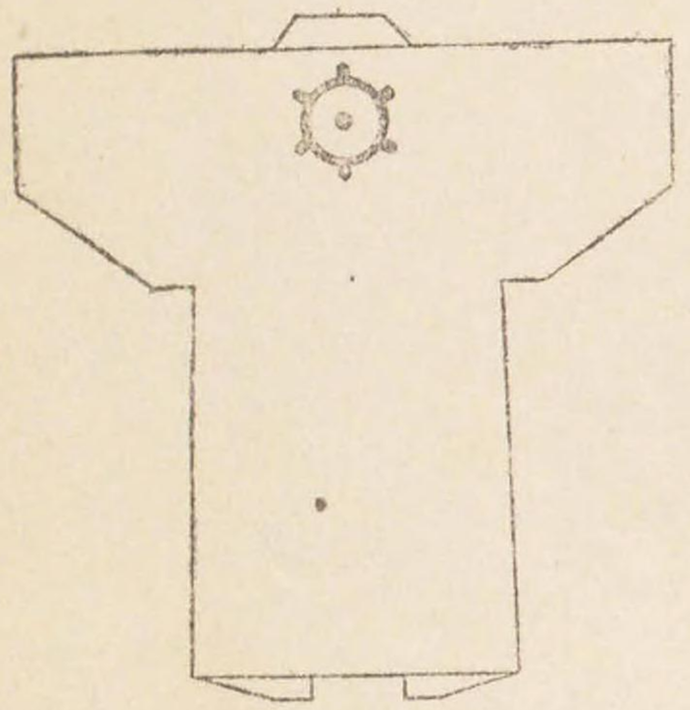


桐油

前面



背面



●公園竝市有地下掃除賣却時期

明治三十四年十二月四日
市會議決第百二十三號

本市公園竝市有地下掃除ノ賣却ハ從來會計年度ニ依リ其年四月一日ヨリ翌年三月三十一日迄ヲ汲取期限トナセシ處冬期間賣却スル方得策ナリト認ムルニ依リ自今暦年度ニ依リ毎年一月一日ヨリ十二月三十一日分迄ヲ其前年ニ於テ賣却スルモノトス

●日比谷公園音樂堂奏樂施行日時

明治三十八年八月一日
市告示第六十二號

本市日比谷公園音樂堂ニ於テ毎年四月ヨリ十一月迄左記ノ日時ヲ以テ奏樂ヲ施行ス但雨天其他ノ事故アルトキハ次週ニ繰下ケ尚時宜ニ依リ時日ヲ變更スルコトアルヘシ

施行日時

四、五、六、十、十一月ハ
第二、第四　日曜日午後二時ヨリ午後五時マテ
七、八、九月ハ
第二、第四　土曜日午後六時ヨリ午後九時マテ

第十一類　墓地

第十一類　墓地

●市共葬墓地使用規則

明治二十四年六月十八日
市規則第三號

第一條　墓地ノ使用ハ戸主ヨリ出願スヘシ但戸主死亡シタル場合ニ於テハ其遺族若クハ縁故アル戸主ヨリ出願スルコトヲ得（明治二十四年九月十日市告示第四號ヲ以テ本規則中改正同三十二年十月二十八日市告示第七十八號ヲ以テ本條以下改正）

第二條　戸主ニ非サル寄留人若クハ止宿人死亡シタルトキハ縁故アル戸主ヨリ出願スヘシ

第三條　墓地使用料ハ左ノ等級及坪數ニ應シ各墓地限リ使用許可ノ際一時ニ之ヲ徴收スヘシ

使用料

墓地使用料

使用坪數	一等地	二等地	三等地	四等地
一坪以下一坪ニ付	六圓	參圓	壹圓五拾錢	六拾錢
二坪以下一坪ニ付	九圓	五圓	貳圓五拾錢	
三坪以下一坪ニ付	拾貳圓	七圓	參圓五拾錢	
四坪以下一坪ニ付	拾五圓	九圓	四圓五拾錢	
五坪以下一坪ニ付	拾八圓	拾壹圓		
六坪以下一坪ニ付	貳拾參圓	拾參圓		
七坪以下一坪ニ付	貳拾六圓	拾五圓		
八坪以下一坪ニ付	貳拾九圓	拾七圓		
九坪以下一坪ニ付	參拾貳圓			
十坪以下一坪ニ付	參拾五圓			
十一坪以下一坪ニ付	參拾九圓			
十二坪以下一坪ニ付	四拾貳圓			

十三坪以下一坪ニ付	四拾五圓
十四坪以下一坪ニ付	四拾八圓
十五坪以下一坪ニ付	五拾壹圓
十六坪以下一坪ニ付	五拾四圓

右ノ外一坪ヲ增ス每ニ一等地ハ金參圓二等地ハ金貳圓三等地ハ金壹圓ヲ遞加ス（明治三十三年四月一日市告示第二十九號ヲ以テ本項追加）

第四條　增坪使用ヲ請求スルモノアルトキハ前後ノ坪數ヲ通算シ第三條ノ率ヲ乘シ既納金額ヲ控除シタルモノヲ以テ增坪ノ使用料ヲ徵收ス但前後ノ等級同シカラサルモノハ其上級ノ乘率ニ依ル

第五條　墓地使用坪數ハ左ノ制限內ニ於テ一區畫ヲ限リ許可スルモノトス

一等地　　二坪以上十六坪
二等地　　一坪以上八坪
三等地　　半坪以上四坪
四等地　　四半坪以上一坪

但制限外增坪ノ必要ヲ生シ事實不得止ト認ムルモノハ他ノ區域ニ於テ更ニ本條ノ坪數ヲ限リ許可スルコトアルヘシ其使用料ハ第四條ニ依ル

第六條　墓地ヲ使用セント欲スルモノハ第七條ニ依リ其場所ヲ選定シ願書ニ該墓地管理者ノ證印ヲ受ケ墓地所轄區長ノ許可ヲ受クヘシ

本條ノ許可ヲ得タルモノハ墓地使用劵ヲ受取リ之ヲ該管理者ニ示シ其區畫境界ヲ經營スヘシ

第七條　墓地ノ位置選定ハ使用者ノ望ニ應スヘシト雖モ每區域ニ於テ其一端ヨリ又既ニ使用ヲ許可シタル場合アルトキハ其接續ノ場所ヨリ順次使用ヲ許可スルモノトス但其坪數ニ依リ殘地ノ區畫ヲ紊シ不整理ニ至ルト認ムルトキハ之ヲ加除スルニアラサレハ許可セサルヘシ

第八條　前條ニ依リ許可シタルモノト雖モ一年以上各自其區畫ニ圍障ヲ設置セサルモノハ之ヲ他人ニ使用許可スルコトアルヘシ此場合ニ於テハ更ニ換地ヲ與ヘ若クハ使用料ヲ還付スルモノトス但既ニ死屍遺骨ヲ埋葬シタルモノハ此限ニアラス

第九條　墓地使用者ハ家督相續人ヲ除クノ外其使用權ヲ他人ニ移轉スルコトヲ許サス若シ埋葬セサル一部若クハ其全部不用ニ屬シタルトキハ管理人ノ證印ヲ受ケ區長ニ願出之ヲ返納スヘシ但其一部ヲ返納セントスルモ第五條ノ制限最下以下ノ坪數若クハ區畫ヲ紊スト認ムルモノハ許可スルノ限リニアラス

第十條　返納ヲ許可シタルトキハ每等其坪數ニ應シ第三條ノ使用料一坪以下ニ相當スル金額ヲ以テ下附スルモノトス

附則

第十一條　本規則第十條ニ依リ金額ヲ下附スルトキハ明治二十二年七月十一日以前ニ係ルモノハ一坪ニ付上等地ハ金貳圓中等地ハ壹圓下等地ハ貳拾五錢ノ割合ヲ以テシ同日以後明治三十二年十一月一日以前ニ係ルモノハ一坪ニ付上等地ハ參圓中等地ハ壹圓五拾錢下等地ハ參拾七錢五厘ノ割合ヲ以テ下附スルモノトス

本規則第五條ノ最下限ニ充タサル墓地ニシテ舊規則ニ據リ使用許可ヲ得タルモノ其全部ヲ返納シタル場合ニ於テ更ニ其全部ヲ使用セントスルモノアルトキハ之ヲ許可スルコトヲ得（明治三十三年四月一日市告示第二十九號ヲ以テ本項追加）

第十二條　本規則ハ明治三十二年十一月一日ヨリ施行ス本規則施行ニ關スル細則ハ（市參事會）之ヲ定ム

●市共葬墓地使用規則施行細則

明治三十二年十月二十八日（各區役所）
市訓令甲第四十號

第一條　共葬墓地使用規則第六條ニ依リ墓地使用ヲ出願スルトキハ住居地市町村長若クハ區長ヨリ同規則第一條及第二條ノ證明ヲ受クヘシ

第二條　家督相續等ニ依リ墓地使用權ヲ繼承セントスル者ハ住居地市町村長若クハ區長ノ證印ヲ受ケ墓地所轄區長ニ願出テ墓地使用劵ノ書替ヲ請フヘシ

第三條　墓地使用者住所ニ異動ヲ生シタルトキハ其都度墓地管理者ニ屆出ヘシ

第四條　墓地ニ圍障ヲ設ケントスルモノハ願書ニ圖面竝ニ仕樣書ヲ添ヘ墓地管理者ノ證印ヲ受ケ墓地所轄區長ノ許可ヲ受クヘシ

第五條　從前上等墓地ハ一等地ニ中等墓地ハ二等地ニ下等墓地ハ三等地ニ編入ス

●元寺院境內共葬墓地使用規則

明治二十四年十一月十九日
市規則第五號

第一條　明治二十四年東京市規則第三號共葬墓地使用規則第一條第二條第四條第五條第七條ハ元寺院境內共葬墓地使用ニ適用スルモノトス（本條中明治二十四年市規則第三號トアルハ同三十二年市告示第七十八號ヲ以テ改正）

第二條　墓地使用者ハ家督相續人ヲ除クノ外其使用權ヲ他人ニ移轉スルコトヲ許サス

第三條　墓地ノ使用料ハ共葬墓地使用規則第三條ノ乘率ニ依リ各墓地限リ使用許可ノ始メニ於テ一時ニ之ヲ徵收スヘシ

第四條　墓地管理ニ屬スル一切ノ費用ハ其墓地管理者ノ負擔トス

第五條　第三條ノ使用料ハ墓地管理ノ費用ニ充ツル爲メ其墓地管理者ニ付與スルモノトス

第六條　墓地内ノ枯損木若クハ埋葬ニ障碍アル樹木ヲ伐採セントスルトキハ管理者ヨリ墓地所在地區長ヲ經テ當廳ニ申出テ許可ヲ受クヘシ其賣却代金ハ其墓地管理ノ費用ニ充ツル爲メ管理者ニ付與スルモノトス

第七條　墓地ヲ使用セントスル者ハ管理者ニ申出テ其場所ヲ選定シ使用料ヲ納付シテ墓地使用券ヲ受取ルヘシ

第八條　使用地ノ等級ハ實地ノ形狀ニ依リ管理者ニ於テ豫メ之ヲ定メ墓地所在地區長ヲ經テ當廳ニ申出テ認可ヲ受クヘシ

第九條　墓地使用者ノ都合ニ依リ埋葬セサル一部若クハ全部不用ニ屬シタルトキハ管理者ニ申出テ之ヲ返納スヘシ但既納ノ使用料ハ返付セス

第十條　左ノ墓地ハ元寺院境内ニ非サルモ其使用ニ付テハ此規則ヲ適用ス

牛込區牛込赤城元町十七番地

小石川區小石川大和町二番地

同區白山前町七十二番地

本郷區千駄木林町三十九番地二號

淺草區淺草田町一丁目八十一番地

同區淺草龜岡町三丁目百二十九番地

第十一條　此規則ハ明治二十五年一月一日ヨリ施行ス

（參照）共葬墓地使用規則（明治二十四年六月十八日 市規則第三號）

第一條　墓地ノ使用ハ戸主ヨリ出願スヘシ但戸主死亡シタル場合ニ於テハ其遺族若クハ縁故アル戸主ヨリ出願スルコトヲ得

第二條　戸主ニアラサル寄留人若クハ止宿人死亡シタルトキハ縁故アル戸主ヨリ出願スヘシ

第三條　墓地使用料ハ左ノ等級及坪數ニ應シ各墓地限リ使用許可ノ始ニ於テ一時ニ之ヲ徵收スヘシ

使用坪數	上等地	中等地	下等地
一坪以下一坪ニ付	參圓	壹圓五拾錢	參拾七錢五厘
二坪以下一坪ニ付	四圓五拾錢	貳圓貳拾五錢	五拾六錢參厘
三坪以下一坪ニ付	六圓	參圓	七拾五錢
四坪以下一坪ニ付	七圓五拾錢	參圓七拾五錢	九拾參錢八厘
五坪以下一坪ニ付	九圓	四圓五拾錢	
六坪以下一坪ニ付	拾圓五拾錢	五圓貳拾五錢	
七坪以下一坪ニ付	拾貳圓	六圓	
八坪以下一坪ニ付	拾參圓五拾錢	六圓七拾五錢	
九坪以下一坪ニ付	拾五圓	七圓五拾錢	
十坪以下一坪ニ付	拾六圓五拾錢	八圓貳拾五錢	

右ノ外一坪ヲ增ス每ニ此割合ヲ以テ使用料ヲ增加スルモノトス

第四條　從前墓地ヲ使用スルモノ增坪ヲ請求スルトキハ前後ノ坪數ヲ通算シ第三條ノ乘率ニ依リ增坪ノ使用料ヲ徵收ス

第五條　下等地ノ使用ハ各墓地限リ四坪ヲ超過スルコトヲ得サルモノトス但上等地又ハ中等地ヲ使用スルモノ下等地ヲ增坪トシテ請求スルトキハ前後ノ坪數ヲ通算シ本條ノ坪數ヲ超過スルヲ得ス

第七條　墓地ノ位置選定ハ使用者ノ望ニ應スヘシト雖モ每區域ニ於テ既ニ使用ヲ許可シタル場所アルトキハ之ニ接續シタル場所ヨリ順次使用セシムルモノトス

元寺院境内共葬墓地墳墓改葬規則

明治四十四年十二月十五日 市告示第九十三號

第一條　元寺院境内共葬墓地ノ墳墓ハ漸次之ヲ市外又ハ本市共葬墓地ニ改葬セシム但特別ノ由緖アルモノハ之ヲ存置スルコトヲ得

相當ノ事情アル墳墓ハ當分ノ內他ノ元寺院境內共葬墓地ニ之ヲ合葬スルコトヲ得

第二條　前條ニ依リ同一地番內ノ墳墓全部ヲ改葬シタルトキハ當分ノ內其跡地ヲ無代交付ス

第三條　分割管理ニ屬スル區劃內ノ墳墓全部又ハ官公署ノ建設若ハ其施設スル事業ノ爲ニ供用セシムル目的ヲ以テ同一地番內ノ一部分ノ墳墓ヲ改葬シタルトキハ其跡地ヲ無代交付ス但本市ノ施設スル事業ノ爲改葬セシムル場合ハ此限ニ在ラス

第四條　相當ノ理由ナクシテ改葬ヲ爲サヽル者アル場合ニ於テハ土地ノ狀況ニ依リ前二條ノ規定ニ拘ラス無代交付スルコトアルヘシ

第五條　明治三十六年四月市告示第四十五號及明治四十一年四月市告示第二十五號ニ依リ改葬ヲ承認シタルモノハ本規則ニ依リ跡地ヲ無代交付ス

第六條　東京府ノ許可ヲ受ケタル納骨堂ニ墓地內ノ遺骨ヲ納藏シタルトキハ前數條ノ規定ニ準シ其跡地ヲ無代交付ス（明治四十五年七月二十四日市告示第七十一號ヲ以テ本條追加）

元寺院境内共葬墓地墳墓改葬規則施行規程

明治四十四年十二月二十七日 市告示第九十八號

第一條　墳墓改葬跡地ノ無代交付ヲ受ケントスル者ハ墓地所在地及坪數墳墓ノ改葬先竝無代交付ヲ受クヘキ者ノ氏名ヲ記載シ墓碑調書ヲ添附シタル願書ヲ提出シ本市ノ承認ヲ受クヘシ

第二條　元寺院境內共葬墓地墳墓改葬規則第一條第二項ニ依リ他ノ元寺院境內共葬墓地ニ墳墓ノ合葬ヲ爲サントスルトキハ其緣故ヲ明記セル事由書ヲ提出スヘシ

第三條　墳墓ノ改葬ヲ終了シタルトキハ所轄警察署ノ墳墓改葬終了ニ關スル證明ヲ得テ更ニ跡地無代交付ヲ出願スヘシ

第四條　元寺院境內共葬墓地墳墓改葬規則第四條ニ依リ墳墓改葬

跡地ノ分割交付ヲ受ケントスル者ハ其事由書竝存置墳墓ノ所在ヲ記載セル圖面ヲ添ヘ出願スヘシ

第五條　墳墓ノ改葬先又ハ無代交付ヲ受クヘキ者ヲ變更スルトキハ其旨屆出ツヘシ

前項ノ場合ニ於テ無代交付ヲ受クヘキ者寺院ナリシトキハ其所屬管長ノ副申書ヲ添附スヘシ

第六條　寺院住職ノ管理スル墓地ニ在リテハ第一條ノ願書ニ其所屬管長ノ副申書ヲ添附スヘシ若シ之ヲ得難キ場合ハ其事由書ヲ提出スヘシ

第七條　此規程ニ依ル願屆書ニハ檀家總代及墓地管理者連署ノ上墓地所在地區長ノ奥印ヲ受クヘシ

●市共葬墓地使用券書式

明治二十二年七月十三日市訓令從第十七號至第二十二號（麻布、小石川、本所、本鄕、下谷、赤坂ノ六區役所）

（何何）墓地使用券書式左ノ通相定ム

墓地使用券

某區某郡墓地何號何側

一　何等地何坪

此使用料金何圓

宿所

姓名

右使用ヲ許可シ此券ヲ付ス

年月日　某區役所

●元寺院境内共葬墓地使用券書式

明治二十四年十一月三十日市訓令第百九十六號（各區役所 日本橋神田區ヲ除ク）

元寺院境内共葬墓地使用券書式左ノ通相定候條管理者ヘ相達スヘシ

（牛込小石川本鄕淺草區役所ヘハ左ノ但書ヲ附ス）

但元寺院境内共葬墓地使用規則第十條ニ掲クル墓地モ本文ニ準ス

（書式）用紙西ノ内四ツ切

墓地使用券

何區何町何番地何號

一　何等地何坪

此使用料金何圓

氏名

右使用ヲ承認シ此券ヲ付ス

年月日

管理者氏名印

●市共葬墓地及元寺院境内共葬墓地墓籍書式

明治二十四年十一月十九日市訓令第六號（各區役所）日本橋神田區ヲ除ク

共葬墓地及元寺院境内共葬墓地墓籍書式左ノ通相定候條各管理者ニ相達スヘシ

（書式）用紙美濃紙

番號	第何號　何側　何番
等級	何等
坪數	何坪
使用料	金何圓

使用券附與及異動ノ年月日	本籍地	現住地	使用者族籍氏名
何年何月何日使用許可	何縣何郡何町何番地	東京市何區何町何番地	平民　何某
何年何月何日寄留地替		同何區何町何番地	
何年何月何日家督相續ニ付書替			平民　何某
何年何月何日本籍地替	何縣何郡何村字何番地		
何年何月何日寄留地替		同何區何町何番地	

死亡ノ年月日時	死亡ノ原因	年齢	埋葬ノ年月日時	死亡者族籍氏名
何年何月何日何時	何病	何年	何年何月何日何時土葬	何縣平民 何某
何年何月何日何時	何病	何年	何年何月何日何時何地ヨリ改葬ス	何某母 何某
何年何月何日何時	何病	何年	何年何月何日何時火葬「何年何月何日何地ヘ改葬」 （「」内ノ文字ハ朱書）	親戚 何縣平民 何某次男 何某 （柱線ハ朱書）
何年何月何日何時	何病	何年	何年何月何日何時火葬	雇人 何縣平民 何某三男 何何

（備考）

一　墓籍表紙ニハ明治七年選定ノ靑山墓地外八箇所共葬墓地ニアツテハ何共葬墓地墓籍ト記シ元寺院境内等ノ共葬墓地ハ何區何町何番地共葬墓地墓籍ト記スヘシ

一　墓籍ハ等級ヲ分テ編製スヘシ

一　元寺院境内等ノ共葬墓地ニシテ號側ノ稱ナキモノハ單ニ番號ヲ記スヘシ

一　增墓地ハ地坪ノ肩書ニ增坪ノ二字ヲ朱書スヘシ

一　從前使用地ニシテ各欄内ニ記スヘキ事項不明ノモノハ其旨ヲ記スヘシ

●公葬地ヘ原籍不明ノ者假埋葬方

明治二十六年九月二十五日
市訓令第百六十五號乃至第百七十號

本所區役所
赤坂區役所
小石川區役所
本郷區役所
下谷區役所
淺草區役所

（龜戸墓地）
（靑山墓地）
（雜司ケ谷墓地）
（染井墓地）
（谷中墓地）
（橋場墓地）

（前掲墓地名ヲ記入ス）公葬地ヘ原籍不明ノ者ヲ假埋葬セシムルハ市内ニ於テ死亡セシモノニ限ル儀ト心得ヘシ

●公葬地墓籍書式

明治二十四年十一月十九日書記官通牒第二千三百六十二號（赤坂外六區長宛）

共葬墓地墓籍書式本月十九日第六號ヲ以テ訓令ニ付同墓地内公葬地墓籍ノ儀ハ別紙書式ニ依リ御取計可有之此段及通牒候也

（別紙書式）用紙美濃紙

何共葬墓地内
公葬地　何坪

番號	本籍	死亡者
何番	何縣何郡何村字何何番地	
死亡又ハ檢視年月日時　何年何月何日何時死亡	何年何月何日何地ヘ改葬ス 何縣何郡何町字何何番地	

假埋葬年月日時		死亡又ハ檢視年月日時	何年何月何日何時檢視
死亡ノ原因		假埋葬年月日時	何年何月何日何時
遞送衙名		死亡ノ原因	溺死
年齡		遞送衙名	何區役所
		年齡	推測何年
地	東京市何區何町何番地寄留引取人平民何某（本朱書）	本籍地	
死亡地	東京市何區何町何番地先	死亡地	東京市何區何町何番地先漂著
族籍氏名	何縣平民何某次男	死亡者族籍氏名	不明男

（備考）

一　從前ノ假埋葬者ニシテ各欄内ニ記入スヘキ事項不明ノモノハ其旨ヲ記スヘシ

一　共葬墓地内ニ監獄署墓地アルモノハ此書式ニ準據スヘシ

●墓地掃除人敷地使用料徵收規程

明治三十六年四月七日（赤坂、小石川、本郷、下谷、深川、區役所）
市訓令甲第十三號

其區所管（赤坂ハ青山竝立山小石川ハ雜司ケ谷、本郷ハ染井、下谷ハ谷中、深川ハ深川）墓地ニ於テ掃除人ニ貸附セル土地ハ明治三十六年四月ヨリ使用料徵收スヘキニ付其旨相達シ左ノ規程ニ據リ使用料徵收スヘシ

墓地掃除人敷地使用料徵收規程

第一條　使用料ハ毎月二十八日迄ニ納付セシムヘシ

第二條　十五日以前ニ使用ノ許可ヲ受ケ及十六日以後ニ返地シタルモノハ其使用料一箇月分十六日以後ニ許可ヲ受ケ及十五日以前ニ返地シタルモノハ其使用料半箇月分ヲ納付セシムヘシ但數地ヲ返納スル場合ハ實地受取濟ノ日ヲ以テ本文ノ計算ヲ爲スヘシ

第三條　使用料ハ毎年豫算ヲ以テ通知スヘシ

第十二類 水道

第十二類　水道

第一節　通規

●水道課位置

明治三十二年八月二十六日
市告示第六十七號

本市役所水道課ヲ新設セシ麹町區有樂町二丁目一番地地先鍛冶橋内外濠埋立地建家ニ移轉シ來ル九月一日ヨリ同所ニ於テ事務ヲ取扱ハシム

●改良水道名稱改正

明治三十五年三月三十日
市會議決第十五號

一　東京市改良水道ノ名稱ヲ東京市水道ト改ムルモノトス

二　削除（明治四十二年三月三十日市會議決第三十三號ニ依リ消滅）

●水道課事務分科

明治四十一年十二月十五日
市長判決水發第二千八十七號

第一條　水道課ニ掛ヲ置キ左ノ事務ヲ分掌セシム

庶務掛

一　公印ノ管守ニ關スル事項
一　課員ノ進退身分ニ關スル事項
一　水道取締ニ關スル事項
一　水道淨水所ニ關スル事項
一　水道設備ニ關スル事項
一　文書ノ收受發送竝ニ淨寫ニ關スル事項
一　統計報告ニ關スル事項
一　土地建物管理ニ關スル事項
一　廳舍其他取締ニ關スル事項
一　宿直ニ關スル事項
一　備品消耗品ノ出納保管ニ關スル事項
一　材料及器具機械ノ出納保管ニ關スル事項
一　賣渡シタル材料買上及材料拂下ニ關スル事項
一　他ノ主管ニ屬セサル事項

計算掛

一　豫算決算ニ關スル事項
一　收支計算ニ關スル事項
一　工事請負ニ關スル事項
一　廳舍其他建物營繕ニ關スル事項
一　工賃及料金ノ精算徵收ニ關スル事項
一　舟車馬雇上ニ關スル事項

工事掛

一　給水工事施行ニ關スル事項
一　水道本支管及附屬器具ノ敷設維持保存等ニ關スル事項

一　給水工事設計製圖測量ニ關スル事項（以下各項ハ元工務掛ノ主管ニ屬シタリシモ明治四十二年十一月十八日市長判決水發第千五百七號ヲ以テ同掛ヲ廢止シ同時ニ工事掛ノ分掌ト爲セリ）
一　給水工事設計調書ノ保管ニ關スル事項
一　材料及物品ノ試驗檢査ニ關スル事項
一　器具機械ノ製作修繕ニ關スル事項
擴張準備掛（大正元年十月二十一日市長判決水發第千四百七十六號ヲ以テ本掛設置）
一　水道擴張實施準備ニ關スル事項
第二條　各掛ニ掛長ヲ置キ課員中ヨリ課長之ヲ命ス
第三條　掛長ハ課長ノ命ヲ承ケ掛員ヲ指揮シ主管ニ屬スル事務ヲ掌理ス
第四條　回議ハ特ニ課長ノ命スルモノノ外掛長之ヲ提案シ庶務掛長ヲ經テ課長ニ提出スヘシ
掛長事故アルトキハ次席ノ掛員其職務ヲ代理ス

●水道淨水所設置及處務規程

明治四十一年十二月十四日
市訓令甲第四十九號（各局課）

東京市水道淨水所ヲ設ケ其處務規程左ノ通定ム

水道淨水所處務規程

第一條　水道淨水所ハ左ノ事項ヲ處理ス
一　淨水及配水ニ關スル事項
二　水源水路（神田上水共）ニ關スル事項
三　給水場ニ關スル事項
第二條　水道淨水所ニ所長及必要ノ吏員ヲ置ク
第三條　所長ハ上司ノ命ヲ承ケ所務ヲ處理シ所員ヲ監督ス
第四條　所長事故アルトキハ次席者之ヲ代理ス
第五條　所長ハ市長ノ許可ヲ經テ處務細則ヲ設クルコトヲ得
第六條　前各條ノ外ハ市役所處務規程ヲ準用ス

●水道淨水所處務細則

明治四十二年一月十二日
市長判決水發第十九號

第一條　東京市水道淨水所ニ掛ヲ置キ左ノ事務ヲ分掌セシム
上水掛
一　公印ノ管守ニ關スル事項
一　守衛、水衞、小使、定工夫、職工、定夫ノ監督ニ關スル事項
一　文書ノ收受發送竝淨寫ニ關スル事項
一　宿直ニ關スル事項
一　諸材料ノ出納保管ニ關スル事項
一　構內ノ取締ニ關スル事項
一　電話ニ關スル事項
一　專用鐵管ニ關スル事項
一　配水ニ關スル事項

一　砂洗ニ關スル事項
一　藥品使用ニ關スル事項
一　芝、本郷給水所ニ關スル事項
一　羽村派出所ニ關スル事項
一　玉川神田上水路及汚水路ニ關スル事項
一　他掛ノ主管ニ屬セサル事項
機關掛
一　喞筒、運轉ニ關スル事項
一　汽機、汽鑵ニ關スル事項
一　節薪器及電燈ニ關スル事項
一　諸器械製作及修繕ニ關スル事項
第二條　各掛ニ掛長ヲ置キ所員中ヨリ所長之ヲ命ス
第三條　掛長ハ所長ノ命ヲ受ケ掛員ヲ指揮シ主管ニ屬スル事務ヲ掌理ス但事務ノ緩急ニ依リ便宜他掛ノ事務ヲ取扱ハシムルコトアルヘシ
第四條　提議ヲ要スル事務ハ總テ意見ヲ附シ水道課長ニ回付スヘシ但一覽ニ止ムルモノハ案ヲ具シ水道課長ニ回付スヘシ
以上

●水道淨水所長委任事項

明治四十四年六月二十八日
市訓令甲第二十九號（各部 水道淨水所）

水道淨水所長ニ其所務ニ付左記事項ヲ委任處理セシム但異例又ハ重要ト認ムル事項ハ特ニ市長ニ提出スヘシ
一　輕易ナル事項ニ付一時ノ照會往復ニ關スル件
二　普通ノ回答書、屆書、報告書、通知書類一覽ノ件
三　草取掃除等ニ關スル件
四　職工人足等雇上ニ關スル件
五　常例ニ屬スル申報書若クハ願屆等進達及指令照會等傳達ノ件
六　工事施行ニ關シ支障物件ノ移轉豫防交通上ノ取締交渉ノ件
七　枯損及障害木伐採處分ノ件
八　下草刈取ニ關スル件
九　神田上水路竝ニ助水路ニ係ル灌漑用ノ爲一時堰上ケ及浚渫願ニ關スル件
十　玉川上水路分水樋口ノ開閉等ノ願屆ニ關スル件
十一　東京市內及玉川神田上水路ヘ出張ノ件
十二　上水路ノ斷水又ハ水配ニ關スル件

●水源林事務所設置及處務規程

明治四十三年十月八日
市訓令甲第三十九號（各部）

東京市水源林事務所ヲ設置シ其處務規程左ノ通定ム

水源林事務所處務規程

第一條 水源林事務所ハ東京市水道水源地ノ經營ニ關スル事務ヲ掌理ス

第二條 水源林事務所ニ所長及必要ノ吏員ヲ置ク但所長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ

第三條 所長ハ上司ノ命ヲ承ケ所務ヲ統理シ所員ヲ指揮監督ス所長事故アルトキハ次席者其職務ヲ代理ス

第四條 所員ハ所務ヲ分掌ス

第五條 水源林事務所ニ顧問其他ノ囑託員ヲ置クコトヲ得
顧問ハ水源地ノ經營ニ關シ市長ノ諮詢ニ應シ及意見ヲ述ヘ並調査書類ヲ査閲ス其他ノ囑託員ハ所長ノ命ヲ承ケ囑託事務ニ從事ス

第六條 所務執行ノ爲メ必要ナル派出所及觀測所ヲ設置ス此場合ニ於テ其位置名稱ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第七條 所長ハ市長ノ許可ヲ經テ處務細則ヲ設クルコトヲ得

第八條 前各條ノ外ハ市役所處務規程ヲ準用ス

●水源林事務所派出所名稱位置及受持區域

大正元年十月七日
市告示第二十號

名稱	位置	受持區域
丹波山派出所	山梨縣北都留郡丹波山村	山梨縣北都留郡 丹波山村 小菅村
氷川派出所	東京府西多摩郡氷川村	東京府西多摩郡 小河内村 氷川村 古里村
青梅派出所	東京府西多摩郡青梅町	東京府西多摩郡 三田村 吉野村 青梅町 調布村 西多摩村 草花村
落合出張所	山梨縣東山梨郡神金村	山梨縣東山梨郡神金村

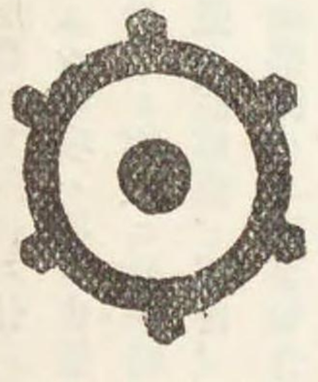
●市水源林事務所ニ於テ林產物ノ檢證ニ使用スル極印章設定及雛形

大正元年十月七日
市告示第二十一號

本市水源林事務所ニ於テ林產物ノ檢證ニ使用スル極印左ノ通リ相定ム

（雛形）

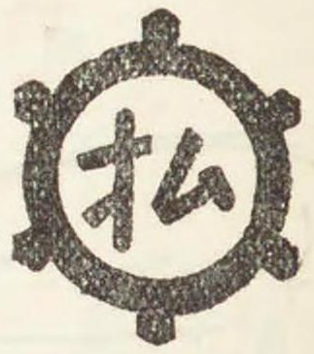
第一號



全徑一寸

林產物檢査ノ證トシテ打印ス

第二號



全徑一寸

林產物賣却讓與等離檔ノ證トシテ打印ス

●水源林事務所ニ於ケル人夫取扱ニ關シ水道工事直傭職工人夫使役規則準用方

明治四十四年三月二十八日
〔市参事會議決〕第千四百二十三號

水源林事務所ニ於テ使役スル人夫ハ當分ノ內明治二十八年三月〔東京市参事會議決〕水道工事直傭職工人夫使役規則ヲ準用スルモノトス

●水源林事務所派出所詰員服制圖例

明治四十四年九月三十日
市告示第七十七號

名稱	地質	前章	眼庇	顋紐及釦	製式	形狀
帽	黒絨	金モール市徽章外周ニ松ノ模様ヲ附ス大サ直徑一寸二分市ノ徽章七分	革黒色弧形ニシテ前ニ出ツルコト一寸五分	革黒幅四分釦金色市ノ徽章ヲ附ス徑三分	下部高サ一寸二分	圖ノ如シ夏ハ白布ヲ以テ覆ス

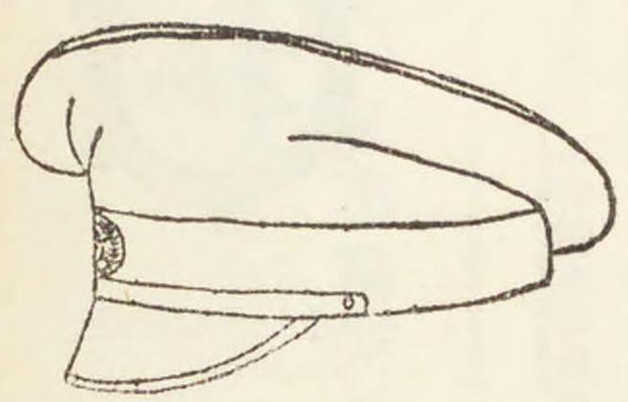
名稱	地質	釦	襟章	袖章 品質	袖章 裝式	製式	形狀
冬衣	黒絨	眞鍮製金鍍圓形ニシテ市ノ徽章ヲ附ス徑七分五厘胸部ニ五個ヲ附ス	金モールヲ以テ左右ニ木ノ字ヲ附ス長サ五分幅四分	黒毛縁	毛縁幅五分黒蛇腹一本ヲ附ス	立襟ニシテ幅一寸袖長腕關節ニ止マル長サ臏骨上端ヨリ下ルコト凡ソ四寸五分物入前面左二個右一個各蓋ヲ附ス	如圖

名稱	夏衣
地質	カーキ色綿リンネル
袴章 品質	同
袴章 裝式	眞鍮打出ノ金鍍ヲ以テ左右ニ木ノ字ヲ附ス
製式	カーキ色カタン 縁幅五分ニカーキ色蛇腹一本ヲ附ス 同
形狀	同

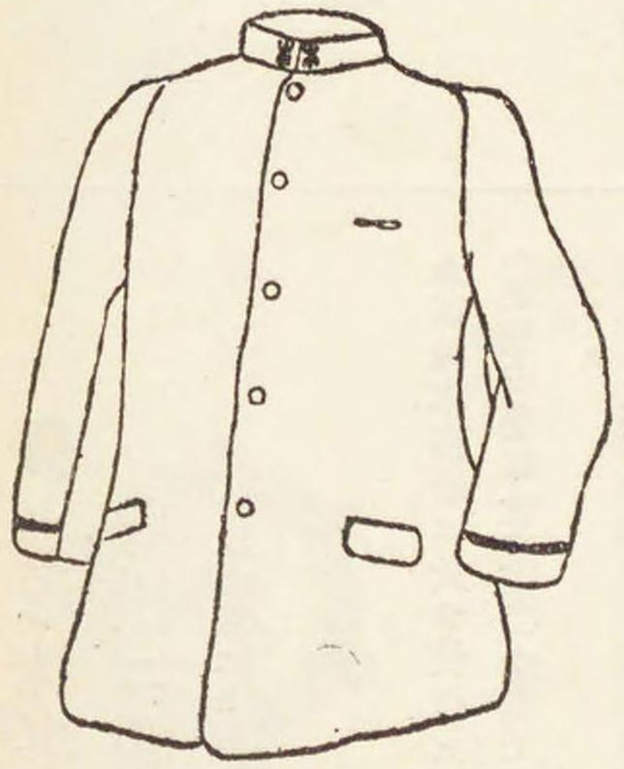
名稱	袴
地質	冬ハ黑絨 夏ハカーキ色綿リンネル
袴章 品質	黑毛縁
袴章 裝式	外側縫目ニ幅五分ノ縁ヲ附ス但夏袴ハ股縁ヲ附セス
製式	長サ靴踵ノ上ニ止マル物入兩股ニ各一個ヲ附ス
形狀	如圖

名稱	外套
地質	表　黑絨 裏　適宜
釦	金色圓形內ニ市ノ徽章ヲ附ス徑七分五厘 胸部十二個側部六個收紐二個ヲ附ス 黑丸徑五分五厘 覆面留三個襟部紐留二個後裂四個ヲ附ス
袖章	袖口ヨリ三寸ヲ上リ黑毛蛇腹ヲ附ス
製式	長サ靴踵ノ上際ヲ距ルコト大約八寸襟折襟幅三寸內ニ寸折返シ後部ニ覆面留三條ヲ附ス 袖長サ腕關節ヨリ延ルコト五分物入前面左ニ二個右三個ヲ附ス
形狀	如圖

帽



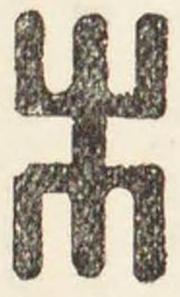
冬衣



釦

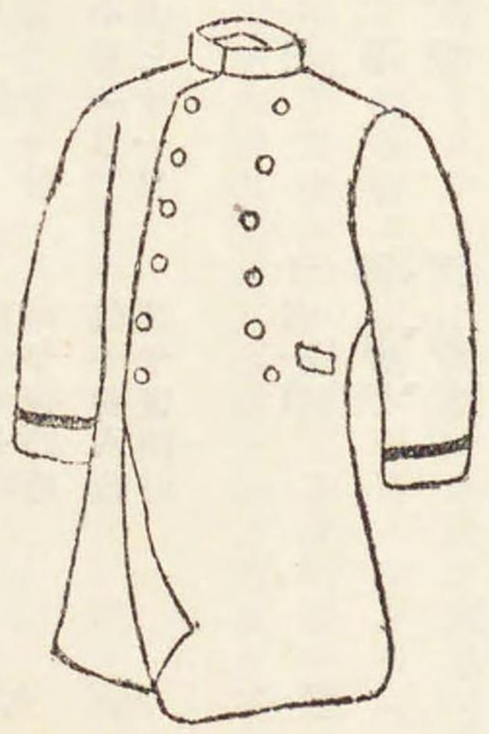
帽章

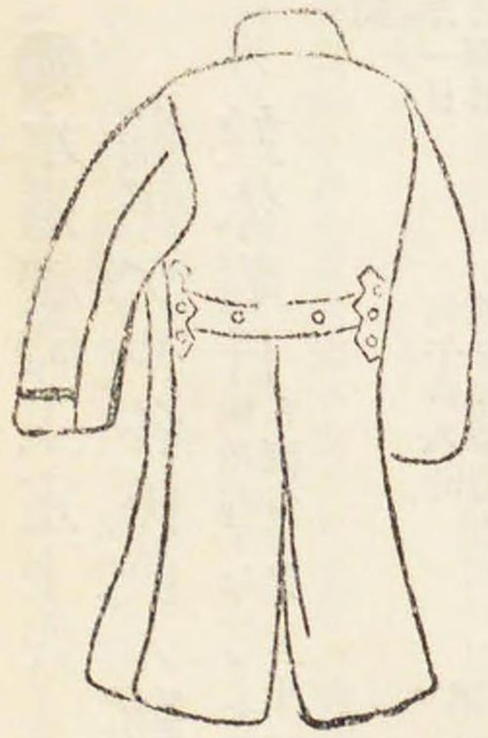
襟章



冬袴

外套





●水道掛員證票規程

大正二年三月十九日（第二部）
市訓令甲第十五號（各區役所）

明治三十七年十月東京市訓令甲第二十五號水道關係吏員證票規程左ノ通改正シ來四月一日ヨリ之ヲ施行ス

水道掛員證票規程

第一條 左ニ揭クル吏員ニ證票ヲ交付ス

一 水道課長ノ指定シタル水道掛員

二 區長ノ指定シタル水道掛員

第二條 證票ハ水道條例第十二條ニ依リ家屋内ニ立入ルトキ其他水道用務ニ關シ廳外ニ於テ人民ニ直接スル場合ハ必ス之ヲ佩用スヘシ

第三條 證票ハ他人ニ轉貸スルコトヲ得ス

第四條 證票ハ必ス其表面ヲ露ハシ洋服ハ上衣左胸上部ニ外套著用ノトキハ外套左胸上部ニ佩用シ和服ハ上衣左衽劍先ニ之ヲ佩用スヘシ

第五條 證票ヲ毀損亡失シタルトキハ其旨速ニ水道課長又ハ區長ニ屆出ヘシ

前項ノ屆出アリタルトキハ區長ハ水道課長ニ通知スヘシ

第六條 證票ヲ交付セラレタル者其職務ヲ離レタルトキハ直ニ之ヲ返納スヘシ

第七條 證票ヲ亡失シタルトキハ辨償トシテ金參拾錢ヲ徵收ス

●水道課職工定工夫ノ使役ニ關係アル各係員ノ勤務時間竝休暇日

明治四十年十月七日
市訓令甲第三十號（水道課）

勤務時間

自二月一日 至同月末日	自午前八時 至午後五時	九時間
自三月一日 至九月三十日	自午前七時 至午後五時	十時間
自十月一日 至同月三十一日	自午前七時 至午後四時	九時間
自十一月一日 至一月三十一日	自午前八時 至午後四時	八時間

休暇日

一月一日	十月一日
一月二日	神嘗祭
元始祭	天長節
新年宴會	新嘗祭
孝明天皇祭	十二月二十九日
紀元節	十二月三十日
春季皇靈祭	十二月三十一日
神武天皇祭	毎月第二日曜日（一月、七月ハ十六日）第四日曜日
秋季皇靈祭	

前休暇日ニ出勤ヲ命シタルトキハ其翌日又ハ差支ナキ日ニ於テ休暇セシム

●鐵管破裂及出火排水ニ關スル取扱方

明治三十七年八月十六日
（市參事會議決）第二千六百七十號

今般區役所ニ給水事務引繼ニ付テハ鐵管破裂及出火排水ニ關シ取扱方ヲ定ムル必要アルニ依リ別冊ノ通リ規定スルモノトス（明治三十八年三月三十一日（市參事會議決）第二千二百二十三號ニ依リ別冊中「水栓番」トアリシヲ「定工夫」ト改ム）

（別冊）

鐵管破裂及出火排水ニ關シ取扱方

第一　鐵管破裂ノ場合

一 區役所ニ於テ水道鐵管ノ破裂ヲ知得シタルトキハ直ニ檢査員定工夫ヲ現場ニ派遣シ一部停水等應急ノ措置ヲ施シ一面水道課、本鄕芝給水場、淀橋淨水場、聯合及關係區役所ニ急報スヘキモノトス

二 水道課ニ於テ右通知ヲ受ケタルトキハ市長助役課長技師長及維持工事擔任者ニ通知スヘキモノトス

三 本鄕芝給水場、淀橋淨水場、聯合及關係區役所ニ於テ右通知ヲ受ケタルトキハ送水ヲ停止スル等適當ノ措置ヲ取ルト共ニ詰合員ヲ現場ニ派遣シ應援セシムルモノトス

四 非常ノ場合使用スヘキ器具及材料ハ常ニ左ノ五箇所ニ備付ケ維持工事擔任者ニ於テ保管スヘキモノトス

水道課、淀橋淨水場、赤羽橋、水道橋、安宅町出張所

（明治三十七年八月十九日（市參事會議決）第二千七百六十六號ニ依リ上記出張所ハ給水工事派出所ノ儀ト知ルヘシ）

五 鐵管破裂ニ依リ浸水又ハ給水中止等ノ爲メ損害ヲ被リタル者アリタルトキハ區役所ニ於テ實地ニ就キ之ヲ精査シ被害ノ程度等速ニ水道課ニ報告スヘキモノトス

六 應急手當後ニ係ル修繕工事及開通ニ關シテハ檢査員及定工夫ハ水道課維持工事擔任者ノ指揮ニ從ヒ措置スヘキモノトス

七 水道課維持工事擔任者ノ姓名ハ豫メ區役所其他關係者ニ通知シ置クモノトス

第二　鐵管附屬器具破損ノ場合

一 區役所ニ於テ鐵管附屬器具等ノ破損ヲ發見シタルトキハ直ニ交通及給水ニ差支無キ樣適當ノ措置ヲ施シ其旨水道課ニ通知スヘキモノトス

二 水道課ニ於テ右通知ヲ得タルトキハ維持工事擔任者ヲシテ修繕セシムルモノトス

第三　出火ノ場合

一 水道課ハ警視廳消防署ヨリ出火ノ通知ヲ得タルトキハ直ニ所轄區役所及淀橋淨水場ニ通報スヘキモノトス

二　區役所ハ右通知ニ依リ詰合檢査員若クハ定工夫ヲ現場ヘ派遣シ實地ニ就キ出火鎭火時間、燒失戸數、使用消火栓數及其成績、給水使用者中罹災ノ有無等ヲ調査シ水量不足ノ虞アルカ又ハ大火ノ爲メ調査困難ナル等ノ場合ハ水道課ニ急報シ維持工事擔任者ノ指揮ヲ受クヘキモノトス

第四　排水ノ場合

一　水道鐵管ハ春秋二季ニ於テ全部ノ排水ヲ執行スルモノトシ其執行順序、檢査員定工夫配置、人夫雇上等ニ關シテハ豫メ水道課ヨリ區役所ニ通知シ區役所ハ右通知ニ基キ從事スルモノトス

二　水質汚濁等ノ爲メ一部臨時排水ヲ要スル場合ハ其都度水道課ニ打合セノ上區役所ニ於テ執行シ速ニ其結果ヲ水道課ニ報告スヘキモノトス

●消火配水執務心得

明治四十四年二月十日〔市參事會議決〕第五百三十三號

第一條　水道課勤務日時外ニ於ケル市内出火ノ際水道配水ノ遺漏ナキ爲メ水道課及芝、本鄕給水場内ニ公舍ヲ特設シ水道課技手及職工定工夫ヲ居住セシム

第二條　公舍居住者ノ擔當區域ハ左ノ通トス

水道課構内　麴町區神田區ノ内（内神田）、日本橋區、京橋區、深川區

芝給水場構内　芝區、麻布區、赤坂區、四谷區

本鄕給水場構内　小石川區、本鄕區、神田區ノ内（外神田）、下谷區、淺草區、本所區、牛込區

第三條　出火ハ警視廳ヨリ水道課、水道淨水所及前條當該擔當公舍ニ通知ノ筈ニ付其報知ヲ受ケタル者ハ速ニ左ノ取扱ヲ爲スヘシ

一　水道課宿直員ハ直ニ之ヲ公舍居住者ニ通知シ尙念ノ爲メ更ニ水道淨水所及芝又ハ本鄕給水場ニ通知スルコト

一　水道淨水所員ハ直ニ配水ノ狀態ヲ視察シ鎭火迄ハ絶ヘス出火方面ニ充分送水ノ途ヲ講スルコト

一　當該擔當技手ハ出火ノ時刻風勢其他ノ狀況ヲ考察シ同所居住ノ全員若クハ半數ヲ引卒シ直ニ現場ニ出張スルコト

第四條　技手現場ニ出張シタルトキハ專ラ水勢ヲ視察シ配水不足ノ狀況アリト思料シタルトキハ火勢及風向等ニ關シ消防署員ノ意見ヲ徵シ職工定工夫ヲ指揮シ其支障ナキ方面ノ阻水弁ヲ閉鎖セシメ水ノ集注ヲ圖ルヘシ

第五條　出火區域廣大ナルカ又ハ同一擔當區域内ニ同時ニ二箇所以上出火アリタルトキハ左ノ順序方法ニ依リ互ニ相援助スヘシ

一　擔當區域内ノ出火ニ依リ同一公舍居住者ノ全員ヲ擧テ現場ニ出張ヲ爲サントスルトキハ芝及本鄕給水場構内居住者ハ水道課ニ水道課構内居住者ハ出火ノ現場ニ近キ給水場ニ其旨ヲ通知スルコト

一　前項ノ通知ヲ受ケタル者ハ絶ヘス出火ノ狀勢ヲ視察シ火勢强大ニシテ廣ク延燒ノ虞アリト認メタルトキハ他ノ給水場若クハ水道課ニ其旨ヲ通知シ直ニ應援トシテ出張スルコト

一　水道課宿直員ハ芝又ハ本鄕給水場ヨリ全員出張ノ通知ヲ受ケ若クハ構内全員出張ノ際更ニ同一區域内ヨリ出火ノ報知ヲ受ケタルトキハ他給水場若クハ構内居住者ニ臨時出張ノ通知ヲ爲スコト

一　同一區域内ニ二箇所以上ノ出火アリタルトキ當該公舍ニ在宅者アルトキハ殘員直ニ出張シ其旨他給水場若クハ水道課ニ通知スルコト

第六條　公舍居住者病氣其他已ムヲ得サル事故ノ爲メ執務シ能ハサルトキハ前條ニ準據シ互ニ相助力スヘシ

第七條　現場出張ノ場合ハ別紙雛形ノ旗（晝間使用）若クハ提灯（夜間使用）ヲ携帶シ一定ノ場所ニ樹テ目標トスヘシ

第八條　出張員ハ職務修了ノ上ハ出火配水ノ狀況及鐵管附屬器具障碍ノ有無等事實ヲ具シ速ニ水道課長ニ報告スヘシ

第九條　通常勤務日時中出火ノ報ニ接シタルトキハ水道課工事掛長ニ於テ掛員其他ヲ派遣セシメ前數條ノ取扱ヲ爲サシムルモノトス

第十條　公舍居住者ニハ左ノ手當竝ニ休養時間ヲ給與ス

		技手	職工定工夫
一　一箇月手當		金參圓	金壹圓五拾錢
一　午前六時ヨリ午後十二時マテ	出張毎一回	同　金四拾錢	同　金貳拾錢
一　午前零時ヨリ午前六時マテ	同	同　金六拾錢	同　金參拾錢

但午後ヨリ翌日午前ニ亘リタルトキハ午前ノ割合ニ依ル

一　警視廳ノ誤報ニ依リ出張シタルトキハ其手當ハ總テ半額トス（明治四十五年三月二十二日市長判決水發第四百三號ヲ以テ本項追加）

一　午前零時以後ニ亘リ執務シタルトキハ當日技手ハ午後ヨリ職工定工夫ハ退廳時刻三時間前ヨリ休養セシムルコトアルヘシ

第十一條　公舍居住者ニハ自轉車及提灯ヲ貸與シ且技手及職工ニ雨具ヲ給與ス

第十二條　公舍維持費ニ關スル條項ヲ除ク外明治三十九年五月市訓令甲第十四號水道課所屬公舍貸付規程ヲ準用ス

（旗及提灯雛形略ス）

●水道課所屬公舍貸付規程

明治三十九年五月十二日〔水道課〕
市訓令甲第十四號〔會計課〕

水道課所屬公舍貸付規程左ノ通改正シ明治三十九年七月一日ヨリ施行ス

水道課所屬公舍貸付規程

第一條 公舍ハ水道ニ關係アル吏員其他ニシテ事務上必要ト認メタル者ニ貸付居住セシム（大正二年七月十日市訓令甲第三十八號ヲ以テ本條及第二條中改正）

第二條 居住者ハ毎月公舍維持費トシテ左ノ金額ヲ納付スヘシ（明治四十三年三月三十一日市訓令甲第十八號同四十四年七月二十七日市訓令甲第三十三號同四十五年三月二十八日市訓令甲第八號ヲ以テ本條中改正）

淀橋淨水場	一等公舍	甲金八圓五拾錢 乙金六圓
	二等公舍	金五圓
	三等公舍	金四圓
	四等公舍	甲金貳圓五拾錢 乙金貳圓
芝給水場	二等公舍	金六圓
	四等公舍	金貳圓
本郷給水場	一等公舍	金八圓五拾錢
	四等公舍	金貳圓
水源林事務所	一等公舍	金五圓
	二等公舍	金參圓五拾錢
	三等公舍	金壹圓八拾錢

第三條 公舍維持費ハ毎月二十五日迄ニ其月分ヲ納付スヘシ但居住一箇月未滿ノモノハ日割ヲ以テ計算ス

第四條 居住者ハ公舍ノ一部ヲ轉貸シ又ハ他人ヲシテ同居セシムヘカラス

第五條 退職又ハ轉勤ノトキハ十五日以內ニ引拂ヒ其旨水道課長ニ届出ヘシ

第六條 貸付中ト雖都合ニ依リ引拂ヲ命スルコトアルヘシ此場合ニハ特ニ指定スル期間內ニ引拂フヘシ

第七條 入舍退舍ノ場合ハ掛員立會ノ上建物ノ受渡ヲ爲スヘシ

第八條 公舍ノ疊表最少保存年限ヲ滿二箇年トシ襖ノ張替最少年限ヲ滿五箇年トス

第九條 疊表、襖保存年限中居住者ノ過怠ニ依リ破損セシメ又ハ他ノ建具附屬物等ヲ破損亡失セシメタルトキハ自費ヲ以テ修理スヘシ

第十條 居住中公舍ノ模様替又ハ建增等ヲ爲サントスルトキハ出願許可ヲ受クヘシ移轉ノトキハ自費ヲ以テ原形ニ復スヘシ

第十一條 公舍貸付ノ許可ヲ得タルトキハ入舍後三日以內ニ左ノ請書ヲ差出スヘシ

御請書

一 何何場何等公舍　　一棟（一個）

　內

　　疊　何疊　　雨戶　何枚

　　襖　何枚　　何何　何何

　　障子　何枚　　何何　何何

右今般御貸付相成何年何月何日入舍仕候ニ就テハ公舍貸付規程遵守可致候萬一本人本規程ニ違背シ其責務ヲ盡サヽルトキハ保證人ニ於テ引受處辨可仕候此段連署ヲ以テ御請申上候也

年　月　日

借受人　職　氏名　印

住所

保證人　氏　名　印

（保證人ハ同勤者又ハ丁年以上ニシテ一家計ヲ立ツル者ニ限ル）

東京市長宛

〔東京市參事會〕

●水道課宿直心得

明治三十八年三月二十九日課長判決水發第千百七十七號

水道課宿直心得別冊ノ通リ改定シ來ル四月一日ヨリ實施スルモノトス

水道課宿直心得

第一條 宿直ハ二人トシテ課員中ヨリ四人ヲ指定シ二人宛輪番當直スルモノトス

第二條 宿直ノ任務ハ退所時限ヨリ（休日ハ出勤時限ヨリ）翌日出勤時限ヲ以テ終ル

事務ノ都合ニ依リ前項ノ時限外ト雖モ執務セシムルコトアルヘシ

第三條 宿直室ニ備附ノ簿書器具左ノ如シ

一 宿直日誌　　一 吏員宿所錄

一 宿直收受簿　　一 宿直電話受付簿

一 非常出頭人名簿　　一 郵便切手端書蠟燭受拂簿

一 消火用器具

第四條 宿直ハ廳舍內外ノ取締ヲ爲シ當直守衞職工使丁等ヲ監督スヘシ

第五條 宿直ハ文書ヲ接受シ親展ヲ除クノ外之ヲ開封シ緊急ヲ要スルモノハ其事項ヲ課長又ハ主務掛長ヘ通報スヘシ

課長宛至急親展ノ文書ハ速ニ送付スヘシ

第六條 宿直ハ時時廳舍ノ內外ヲ巡視シ門戶ノ開閉火氣ノ有無等ニ注意警戒スヘシ

第七條 宿直ハ主任立會ノ上各倉庫ニ鎖鑰ヲ施シ其鍵箱ハ主任封印ノ上引繼ヲ受ケ宿直ニ於テ管守スヘシ宿直員ヨリ引渡ノ場合立會ヲ要スルコト亦同シ

第八條 宿直ハ出勤簿ヲ管守シ課員出勤前指定ノ場所ニ配置シ定刻ニ至リタルトキハ之ヲ取入レ庶務掛長ニ引渡スヘシ

第九條 電話ニ接シタル時ハ懇篤丁寧ニ對話シ其住所氏名及要領ヲ電話受付簿ニ記入シ其特ニ緊急ヲ要スルモノハ第五條ノ例ニ依リ處理スヘシ

第十條 給水使用者ヨリ給水用具ニ異狀アル旨ノ報告ヲ受ケタルトキハ直ニ應急ノ措置ヲ爲スヘシ

第十一條 左ノ場合ニ於テハ應急ノ措置ヲ爲シ直ニ市長助役技師長課長其他關係吏員ニ急報スヘシ

一 水道鐵管ノ破裂
二 水道課及各工場用材置場等ノ出火若クハ近火
三 其他重大ノ事故

前項ノ場合ニ於テハ非常出頭人名簿ヲ適當ノ場所ニ出置キ出頭者ヲシテ自ラ之ニ署名セシメ課長ノ一覽ニ供スヘシ

第十二條 市内ニ出火アルトキハ淀橋淨水場及關係方面ノ區役所ニ通知スヘシ

第十三條 宿直中ニ取扱タル事務ハ細大遺漏ナク宿直日誌ニ記載シ一切ノ文書ト共ニ庶務掛長ニ引渡スヘシ但現金又ハ金券ノ添附アルモノハ特ニ其授受ヲ詳明ナラシムヘシ

給水用具ノ修繕ニ係ル申告ハ宿直收受簿ニ記載シ宿直ヨリ直ニ主任ニ送付スヘシ

第十四條 宿直員ハ事務差支ヲ生セサル限リ早退スルコトヲ得

●水道經濟ニ屬スル區書記補ニ於テ水道檢査員ノ事務執行方

大正二年三月十四日（第一部 第二部）
市訓令甲第八號

大正二年度ヨリ設置セラルヘキ區書記補中水道經濟ニ屬スル者ハ水道檢査員ノ職務ニ從事セシムルコトヲ得

●水道檢査員勤務心得

明治三十八年七月二十二日（各區役所）
市訓令甲第三十七號

水道檢査員勤務心得左ノ通リ改ム但從前ノ水道檢査員伍長ハ水道檢査員首席者ト心得ヘシ

水道檢査員勤務心得

第一條 水道檢査員ハ水道ニ關スル法規命令ヲ遵守シ區長ノ指揮監督ヲ受ケ水道ノ保護取締及給水ニ關スル諸般ノ事務ニ從事スヘシ

第二條 水道檢査員ハ常ニ其區內ニ於ケル水道本支管及附屬器具ノ位置竝ニ給水ノ情況ヲ熟知スヘシ

第三條 水道檢査員ハ毎日其受持區域內ヲ巡廻シ水道用具及給水ノ取締ヲ爲スヘシ

第四條 水道檢査員ハ巡廻中水道鐵管及附屬器具又ハ給水用具ノ異狀、給水ノ濫用、盜用、分與其他使用條例ニ違反セル行爲裝置等ヲ發見シタルトキハ適當ノ措置ヲ施シ其旨速ニ區長ニ報告スヘシ（明治四十年三月二十七日市條例第一號ニ基キ本條中「其他」ノ下「給水規則」トアリシヲ「使用條例」ト訂正）

第五條 水道檢査員ハ毎月一回以上必ス其受持區域內ニ於ケル給水用具ヲ檢査シ異狀ノ有無及使用者戶口其他水料ニ關スル異動等ヲ調査スヘシ

第六條 水道檢査員ハ其受持區域內ハ勿論同區內ニ水道鐵管ノ破損又ハ火災震災等非常ノ場合ニ際シ事故アルコトヲ見聞シタルトキハ直ニ現場ニ出張シ適當ノ措置ヲ施シ其旨速カニ區長ニ報告スヘシ

第七條 水道檢査員ハ工事其他ノ事故ニ依リ斷水ヲ要スル場合ハ速カニ之ヲ關係給水引用者ニ告知スヘシ

第八條 水道檢査員ハ職務執行ニ關スル事項ハ細大トナク手帳ニ記載シ區長ノ檢閲ヲ受クヘシ

第九條 水道檢査員首席者ハ水道檢査員ヲ督勵シ常ニ其區內ニ於ケル水道檢査員執務ノ狀況ヲ視察シ時時其成績ヲ區長ニ報告スヘシ

第十條 水道檢査員ハ職務執行ニ際シ給水使用者其他個人ノ邸宅ニ於テ猥ニ餘事ヲ談シ又ハ飲食スル等ノ行爲アルヘカラス

第十一條 水道檢査員ハ職務執行中ハ必ス制服ヲ著シ威儀ヲ亂スヘカラス

第十二條 水道檢査員ハ職務執行ノ爲メ外出スル場合ニハ水栓開閉器ヲ携帶スヘシ

第十三條 水道檢査員ノ勤務時間左ノ如シ但事務ノ都合ニ依リ時間外ニ勤務セシムルコトアルヘシ

（十一月一日ヨリ翌年二月末日マテ） 自午前九時至午後四時
（三月一日ヨリ十月三十一日マテ） 自午前八時至午後四時

第十四條 水道檢査員ハ休暇日ト雖モ半數宛交代勤務スヘシ

第十五條 水道檢査員ハ事務上差支ナキ場合ニ限リ區長ノ許可ヲ得テ一箇年間ニ十四日以內休暇スルコトヲ得

第十六條 水道檢査員ハ毎日一名宛交代宿直スヘシ
宿直中ニ生シタル事故ハ宿直日誌ニ記載シ區長ノ檢閲ヲ受クヘシ

●水道課守衛勤務心得

明治三十九年一月十三日
市長判決水發第四十三號

第一條 本課詰ノ守衛ハ庶務掛ニ其他ハ各詰所主管掛ニ附屬シ勤務スルモノトス

第二條 守衛ハ常ニ門戶ヲ看守シ廳舍、倉庫、用材置場、出張所構內全般ノ取締ニ從事スヘシ
守衛ハ晝夜時時構內ヲ巡視警戒スヘシ

第三條 守衛ハ門戶ノ鎖鑰ヲ管守シ其開閉ヲ掌ルヘシ

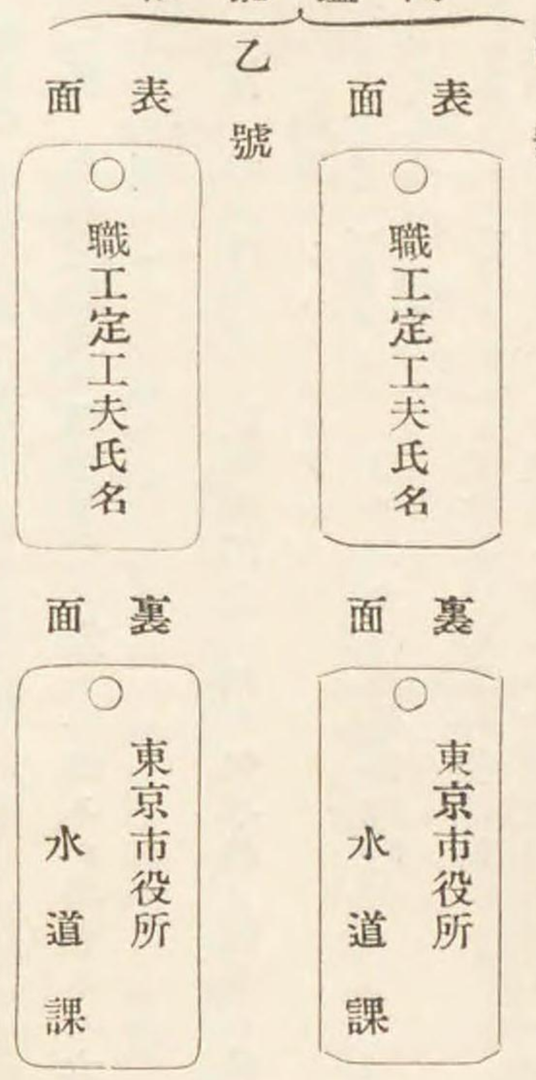
第四條 門戶ハ出勤時刻前ニ之ヲ開扉シ退散後之ヲ閉鎖スヘシ但用材置場、出張所ニシテ平時門戶ヲ開キ置ク必要ナキ場所ニ在テハ本項ノ限ニ在ラス
材料出入ノ門戶ハ當該吏員ノ通知アルニアラサレハ開閉スヘカラス開扉中ハ適宜見張又ハ巡視スヘシ

第五條 守衛ハ職工定工夫ノ出入ヲ監視シ若シ早出、居殘、遲參、早退スル者アルトキハ其時刻竝ニ氏名ヲ記帳シ置キ翌朝之ヲ主管掛ニ差出スヘシ

第六條 職工定工夫出勤シタルトキハ左記甲號ノ門鑑ヲ差出サシ

メ同時ニ乙號ノ門鑑ヲ交付スヘシ其退散スルトキハ乙號ノ門鑑ヲ返納セシメ甲號ノ門鑑ト引換フヘシ

門鑑雛形



第七條　諸材料其他器具機械類ヲ構外ニ搬出スル者アルトキハ當該吏員ノ認印アル出門證ニ照シ嚴密ニ檢査シタル上出門セシムヘシ若シ不審ト認ムルモノアラハ其通行ヲ差止メ主管掛ニ報告シ其指揮ヲ受クヘシ

第八條　本課及淀橋淨水場詰守衛ノ勤務時間ハ一晝夜交代トシ用材置場、出張所詰ノ守衛ハ常時勤務トス但交代時限ハ通常吏員出勤時刻ニ依リ交代ノ際ハ管守物品ノ受渡ヲ爲スヘシ宿直中ハ宿直吏員ノ指揮監督ヲ受クヘシ

第九條　本課詰守衛ハ職工定工夫ノ始業、喫飯、休憩、就業、止業、退散時刻ニ至リタルトキハ振鈴スヘシ但規程時間ヲ繰上ケ又ハ繰下クルコトアルトキハ主管掛ノ指揮ニ從ヒ振鈴スヘシ

第十條　勤務中火災盜難アルコトヲ發見シタルトキハ一面詰合吏員ニ通報シ一面臨機ノ措置ヲ爲スヘシ但用材置場出張所ニ在テハ直ニ本課ニ報告スヘシ

第十一條　勤務上ニ關スル事項ハ總テ守衛日誌ニ記載シ置キ翌朝主管掛ニ差出シ檢閲ヲ受クヘシ但用材置場出張所ノ日誌ハ主管掛吏員出張ノ際提示スヘシ

第十二條　守衛ハ勤務中ハ勿論出勤及退出ノ際モ制服ヲ著用スヘシ

第十三條　守衛ハ品行ヲ愼ミ又威儀ヲ亂スヘカラス

第十四條　來廳者ニ對シテハ懇切ヲ旨トシ踈慢ノ擧動アルヘカラス

第十五條　公給ノ物品ハ常ニ丁寧ニ取扱ヒ毀損亡失セサル樣注意スヘシ

第十六條　各詰所又ハ其近傍ニ天災事變アルトキハ直ニ駈付ケ吏員ノ指揮ヲ受ケ防護ニ從事スヘシ

第十七條　病氣其他ノ事故ニ因リ出勤スルコト能ハサルトキハ正午十二時迄ニ主管掛ニ届出ツヘシ

第十八條　缺勤者アルトキハ同僚申合セ代勤スヘシ

●水衛心得

明治三十一年二月二十一日設定

第一條　水衛ハ專ラ芥揚ニ從事シ兼テ水路ノ取締ヲ爲スヘシ

第二條　水衛ハ水道課員ノ指揮監督ヲ受クヘシ若服從シ難キモノアルトキハ其事由ヲ詳記シテ速ニ水道課ニ申出ツヘシ

第三條　水衛ノ受持區域ハ左ノ如シ

區間	受持
四谷大木戸水衛所　和田堀内水衛所間	四谷大木戸水衛
和田堀内水衛所　久我山水衛所間	和田堀内水衛
久我山水衛所　境水衛所間	久我山水衛
境水衛所　小川水衛所間	境水衛
小川水衛所　砂川水衛所間	小川水衛
砂川水衛所　熊川水衛所間	砂川水衛
熊川水衛所　水道課羽村派出所間	熊川水衛

第四條　水路巡視ハ毎月六回以上トス臨時用アルトキハ此回數ニ拘ハラス巡視スヘシ但巡回ノ節ハ水道課ヨリ發付スル巡視表ニ發著日時及事故ノ有無ヲ記入シ捺印ノ上携帶順達スヘシ

第五條　晝間ハ勿論夜間ト雖モ芥揚ヲ怠ルヘカラス殊ニ定期草刈中及暴風雨ノ節ハ一層注意スヘシ

第六條　暴風雨雪等ノ後ハ必ス水路ヲ巡視スヘシ

第七條　水路ニ異狀アリテ水行ヲ妨害シ又ハ護岸ヲ破壞スルノ虞アリト認ムルトキハ直ニ臨機ノ處分ヲ爲シ其旨速ニ水道課ニ報告スヘシ又水路敷地内ニ異狀アルトキモ右ニ準シ處置スヘシ

第八條　水路ニ瓦石竹木其他汚穢物ヲ投棄シ又ハ水路敷地内ノ竹木等ヲ折取リ若クハ伐採シタル者アルトキハ直ニ最寄警察署若クハ巡査駐在所ニ告發シ尚其旨速ニ水道課ニ報告スヘシ

第九條　水路附近地ニ傳染病及流行病患者等發生シタルトキハ速ニ其狀況ヲ水道課ニ報告シ爾後七日目毎ニ病勢ノ盛衰ヲ報告スヘシ此ノ場合ニ於テハ毎日少クモ一回以上附近ノ水路ヲ巡視スヘシ

第十條　水路中搜索ヲ要スルモノアリテ水衛所ニ水切ヲ願出ル者アルトキハ其水切ヲ要スル事由ヲ認メタル願書ニ本人住居地町村役場ノ證明ヲ受ケタル上水道課羽村派出所ニ携帶出願スヘキ旨ヲ指示スヘシ派出所ニ於テ斷水シタルトキハ直ニ水路ヲ巡檢スヘシ此場合ニ於テハ事後其旨ヲ詳記シテ速ニ水道課ニ報告スヘシ

第十一條　水路中溺死者アリタルトキハ直ニ其死體ヲ引揚置キ所在地町村役場及警察署又ハ巡査駐在所ニ急報スヘシ但死體引揚等ノ爲メニ要シタル費用ハ其死體引取人ヲシテ支辨セシメ其引取人ナキ者ニ係ル費用ハ水道課ニ於テ仕拂フヘキニ付キ其事ヲ詳記シテ請求スヘシ此場合ニ於テハ事後其旨ヲ詳記シテ速ニ水道課ニ報告スヘシ

第十二條　死體其他汚穢物等ヲ引揚タルトキハ水路ニ隔絶セル場所ニ假置スヘシ若シ又臨檢官吏ニ於テ死體解剖ヲ施行スルトキハ成ルヘク水路敷地外ニ於テセラレ度旨請求スヘシ

第十三條　水衛ハ左ニ揚クル分水樋ノ鍵ヲ保管スヘシ

一　植物御苑分水樋鍵　　大木戸水衛所詰水衛保管

一　齋藤樱門、原宿、神田上水分水樋鍵

同

一　海軍火藥製造所、三田用水、幡ヶ谷分水樋鍵　和田堀水衛所詰水衛保管

一　高井戸、北澤、烏山、牟禮分水樋鍵　久我山水衛所詰水衛保管

一　品川用水、千川水道、千川用水分水樋鍵　境水衛所詰水衛保管

一　小川、野火止分水樋鍵　小川水衛所詰水衛保管

一　砂川分水樋鍵　砂川水衛所詰水衛保管

一　殿ヶ谷、拜島、熊川、福生分水樋鍵　熊川水衛所詰水衛保管

第十四條　分水樋ハ水道課ヨリ命令アルニ非ラサレハ開閉スヘカラス但事急遽ニシテ命令ヲ待ツノ暇ナキトキハ適宜開閉シ其旨水道課ニ報告スヘシ

第十五條　水衛所ニハ日誌簿ヲ備置キ職務上ニ關スル要件ヲ記載スヘシ

第十六條　水衛職務執行中ハ制帽及制服ヲ著用スヘシ

第十七條　水衛ハ常ニ水衛所ニ詰切ルヘシ擅ニ職務ノ地ヲ離レ他ノ職業ヲ營ムコトヲ許サス

第十八條　水衛ノ家族ハ水衛所ニ常住スルコトヲ得

第十九條　水衛所ニハ水道課員及附屬員ノ外何人ト雖モ宿泊セシムルヲ許サス

第二十條　水衛ハ常ニ芥揚場及水衛所内外ヲ掃除シ且火ノ元ニ注意スヘシ

第二十一條　水衛ハ水衛所ノ建物疊建具及其他備付ノ諸器具等ヲ保管スヘシ

第二十二條　水衛自己ノ過失怠慢ニ因リ保管ノ物件ヲ毀損紛失セシメタルトキハ辨償ノ責ニ任スヘシ但正當ノ理由アルモノハ此限リニアラス

第二十三條　通信用ノ郵便切手及端書ハ水道課ニ於テ前渡ヲ爲スヘキニ付キ豫メ請求スヘシ

第二十四條　羽村淀橋間ニ於ケル水道用ノ電話ハ職務上ニ關シ隨時使用スルコトヲ得但使用ノ節ハ電話保管者ニ申出テ其ノ承諾ヲ受クヘシ

第二十五條　芥揚諸器具其他ノ物件破損等ニ因リ修繕又ハ新調ヲ要スルモノアル時ハ豫メ其事由ヲ詳記シテ水道課ニ請求スヘシ

第二十六條　水衛疾病ノ爲メ上水路ヲ巡視スルコト能ハサルカ又ハ疾病ニ因リ職務ニ堪ヘ難キトキハ其旨速ニ水道課ニ屆出スヘシ

第二十七條　水衛退職シタルトキハ三日以内ニ保管ノ物件ヲ後任者ニ引繼キ受渡結了ノ後退去スヘシ但本條ノ期日ヲ經過スルモ後任者到著シ受渡シ結了ノ上ニアラサレハ退去スルヲ得ス

明治何年何月水路巡視表

水道課長印	發著月日及時刻	事故	水衛氏名印
水道課	發月日時　著月日時	何月何日何時何所ニ溺死人アリ直ニ引揚ク	何某印
四谷大木戸水衛所	ク月日時　ク月日時	何月何日何時何處ニ竹木盜材者アリ直ニ引捕フ	同
和田堀内水水衛所	ク月日時　ク月日時	何所水路ニ倒木アリ直ニ取除ク	同
久我山水衛所	ク月日時　ク月日時	何橋橋材水路中ニ落チ水行ニ妨害アリ直ニ引揚ク	同
境水衛所	ク月日時　ク月日時	何何	同
小川水衛所	ク月日時　ク月日時	何何	同
砂川水衛所	ク月日時　ク月日時	何何	同
熊川水衛所	ク月日時　ク月日時	何何	同
水道課羽村派出所	ク月日時　ク月日時	何何	同

備考　本表ヲ受ケタル者ハ翌日必ス著發月日及時刻其他事故（事故ナケレハナシト記スヘシ）氏名ヲ記入シ捺印ノ上順達スヘシ
疾病ニ因リ順達スルコト能ハスシテ留置クトキハ其旨速ニ水道課ニ屆出スヘシ
本表ハ他人ニ託シテ送達スルヲ許サス必水衛自身携帶順達スヘシ

●水道課羽村派出所詰員心得

明治三十一年二月二十一日設定

第一條　水道課羽村派出所詰員（以下單ニ派出所詰員ト稱ス）ハ玉川上水源及福生村間水路取締水配ヲ掌ルヘシ

第二條　派出所詰員ハ臨時命ヲ承ケ水源水路工事ノ調査設計及實

施工事ヲ指揮監督シ其他之ニ關スル諸般ノ事項ヲ取扱フヘシ

第三條　派出所詰員ハ定工夫小使ヲ指揮監督スヘシ

第四條　派出所詰員ハ毎日四回即チ午前七時正午十二時午後五時及七時ニ必ス水量ヲ檢シ水配ヲ爲スヘシ但本川出水若クハ非常ニ減水シタルトキハ本條ノ時限ニ拘ハラス時時水量ヲ檢シ且慣行ニ從ヒ便宜處分ノ上其狀況及顚末ハ電話ヲ以テ水道課ニ報知シ尙事ノ重要ナルモノハ更ニ書面ヲ以テ速告スヘシ

第五條　派出所詰員ハ一日一回必ス水源水路ヲ巡視スヘシ但シ職務上他ニ難擱ノ事故アルトキハ此限ニ非ス

第六條　暴風雨及出水ノ節ハ晝夜ヲ論セス水配及防禦ニ從事スヘシ

第七條　水源水路ニ異狀アリテ水行ヲ妨害シ又ハ護岸洗床等ヲ破壞スルノ虞アリト認ムルトキハ直ニ機械ノ處分ヲ爲シ其旨速ニ水道課ニ報告スヘシ又水路敷地内ニ異狀アルトキモ右ニ準シ處置スヘシ

第八條　水源水路ニ瓦石竹木其他汚穢物等ヲ投棄シ又ハ特許區域内ニ立入砂石ヲ採取シ或ハ水路敷地内ノ竹木等ヲ折取リ若クハ伐採シタル者アルトキハ直ニ最寄巡査駐在所ニ告發シ尙其旨速ニ水道課ニ報告スヘシ

第九條　水源水路附近地ニ傳染病及流行病患者等發生シタルトキハ速ニ其ノ狀況ヲ水道課ニ報告シ爾後七日目毎ニ病勢ノ盛衰ヲ報告スヘシ此ノ場合ニ於テハ毎日少クモ一回以上其ノ近傍ヲ巡視スヘシ

第十條　水路中ニ溺死者等アリテ引揚又ハ捜索ノ爲メ水切ヲ要シ若ハ同上ノ件ニ付水切ヲ願出ツル者アルトキハ其願書及本人住居地町村役場ノ證明ヲ檢閱シ難擱ト認ムル場合ニ於テハ其旨不取敢電話ニテ通知シ然ル後直ニ斷水スヘシ

第十一條　水源水路中ニ溺死者アリタルトキハ假ニ引揚置キ直ニ所在地村役場及巡査駐在所ニ急報スヘシ但死體引揚ノ爲メニ要シタル費用ハ水道課ニ於テ支辨スヘキニ付其事由ヲ詳記シテ請求セシムヘシ

第十二條　第十條及第十一條ノ場合ニ於テハ事後其旨ヲ詳記シテ速ニ水道課ニ報告スヘシ

第十三條　派出所詰員ハ川崎分水樋ノ鍵ヲ保管スヘシ水道課ヨリ通知アルニアラサレハ開閉スヘカラス但事急遽ニシテ通知又ハ問合セヲ待ツノ暇ナキトキハ適宜開閉シ其旨速ニ水道課ニ報告スヘシ

第十四條　派出所詰員水路巡視表ヲ受ケタルトキハ之ニ到著ノ日時及水源水路中支障ノ有無ヲ記入シ尙全體ヲ檢閱シ其至急ヲ要シ又ハ重要ノ事件ト認ムルモノアルトキハ速ニ水道課ニ廻送スヘシ其他ノ分ハ一箇月宛取纒メ翌月初日ニ差立テ送付スヘシ

第十五條　毎日午前七時正午十二時午後五時ノ三度ニ水路各電話設置場所ニ通信シ支障ノ有無ヲ試驗スヘシ若シ不通又ハ支障アルトキハ速ニ電話工夫ニ通知シ修繕セシムヘシ

第十六條　派出所ニハ日誌簿、往復錄及財產目錄、工事書類ヲ備置クヘキニ付各部類ニ從ヒ要件ヲ記載シ及編綴保存スヘシ

第十七條　派出所詰員ハ派出所ノ建物疊建具其他備付諸器具ノ保管及工事用物品ノ管理出納ヲ掌ルヘシ

第十八條　派出所詰員自己ノ過失怠慢ニ因リ前條ノ物件ヲ毀損亡失セシメタルトキハ辨償ノ責ニ任スヘシ但正當ノ理由アルモノハ此限ニアラス

第十九條　執務上ニ要スル諸用紙、狀袋及郵便切手、端書等ハ水道課ニ於テ前渡ヲ爲スヘキニ付豫メ請求スヘシ

第二十條　派出所建物、疊、建具及事務用、工事用、諸器具其他ノ物件破損等ニ因リ修繕又ハ新調ヲ要スルモノアルトキハ豫メ其事由ヲ詳記シテ水道課ニ請求スヘシ

第二十一條　派出所ニハ常詰員ノ外何人ト雖モ宿泊セシムヘカラス但東京市吏員及東京府吏員ニシテ職務ヲ帶ヒ出張シタルモノハ此限ニアラス

第二十二條　派出所詰員ハ常ニ品行ヲ愼ミ派出所ニ於テ放歌大聲スヘカラサルハ勿論他人ヲ會シ飮食スヘカラス

第二十三條　派出所詰員疾病ノ爲メ執務スルコト能ハサルトキハ其旨速ニ水道課ニ屆出ツヘシ

第二十四條　派出所詰員ハ出張日限經過スルモ交代者到著シ保管及管理物件ノ受渡結了ノ上ニアラサレハ退去スルヲ得ス

第二十五條　派出所詰員交代スルトキハ速ニ其保管及管理物件ヲ交代者ニ引繼キ受渡結了ノ後歸所スヘシ

第二十六條　毎年四月ハ六ノ日十月ハ五ノ日十一月ヨリ三月迄ハ五、六ノ日ニ限リ筏營業者ノ申出ニ依リ午後一時ヨリ二時迄一時間筏通場ヲ開放シ通筏セシムヘシ但市内給水量缺乏ヲ告ケ水路各分水三分塞ヲ施行シタル場合ニハ定日ト雖モ通筏セシムヘカラス（明治三十五年五月七日水道課長判決水發第二千九百七十八號ヲ以テ本條改正）

第二十七條　前條ノ通筏時限滿了シタルトキハ假令當日筏輻輳スルモ通筏ヲ差止メ直ニ原形ノ通筏通場ヲ締切ルヘシ（明治三十一年二月十八日本條以下追加）

第二十八條　筏通場開放ノ時ヨリ取締結了迄ノ間ハ派出所詰員現場ニ出張シ監督スヘシ

第二十九條　筏通場開放竝ニ締切ニ要スル材料人夫等ハ筏營業者ヲシテ自辨セシムヘシ

第三十條　通筏ノ爲メ水門ニ指蓋ヲ卸シ水配ヲ爲スヘカラス

第三十一條　筏通場ノ工費ハ筏營業者ノ負擔ニ付若シ之カ改造又ハ修繕ヲ要スルモノアルトキハ該業者ヲシテ其都度出願セシメ許可ノ上工費ヲ納付スルヲ待チ水道課ニ於テ施行スルモノト心得ヘシ

第三十二條　臨時急施ヲ要スルキトハ直ニ筏營業者ヲシテ諸材料及職工人夫等ヲ用意セシメ其狀況ハ電話又ハ書面ヲ以テ詳細水道課ニ申出指揮ヲ受ケテ工事ヲ監督スヘシ但急遽ノ場合ニ於テハ臨機處分シ事後其旨ヲ詳記シテ申出ツヘシ

意スヘシ

第三十三條　水神山附近及投渡前ニ筏ヲ繫キ又ハ通筏セサル樣注意スヘシ

第三十四條　阿蘇宮地先ヨリ一ノ出先ニ至ル諸工事ニ對シ筏ヲ衝突シ損害ヲ生セシメタルトキハ該營業者ヲシテ直ニ原形ノ通リ修繕セシムヘシ

●水栓番ヲ廢シ定工夫設置

明治三十八年三月三十一日（水道課）
市訓令甲第十號（各役區所）

水栓番ヲ廢シ定工夫ヲ置ク

●水栓番ニ屬セシ事務水道檢査員及定工夫ニ於テ取扱方

明治三十八年三月三十一日（各區役所）
助役通牒水發第千二百五十四號

本月三十一日付市訓令甲第十號ヲ以テ各區ニ配置セル水栓番ハ本年三月三十一日限リ之ヲ廢シ更ニ定工夫ヲ置クコトト相成候ニ就テハ從來水栓番ニ屬セシ事務ハ水道檢査員及定工夫ヲシテ取扱ハシメラレ度此段及通牒候也

●水道課職工定工夫規程

明治三十八年十二月二十八日（水道課）
市訓令甲第四十九類

第一章　通則

第一條　職工定工夫ハ各掛ニ分屬シ掛員ノ指揮監督ヲ受ケ各其業務ニ從事スヘシ

第二條　職工ノ等級ハ分チテ三十等トシ別ニ職工見習ヲ置クコトヲ得

第三條　職工中品行方正ニシテ常ニ業務ニ勉勵シ技能優等ナル者ハ必要ニ應シ組長又ハ機關助手ヲ命スルコトアルヘシ

第四條　職工見習ニシテ一箇月乃至三箇月ノ練習ヲ經タル者ハ其技能ニ應シ相當等級ノ職工ニ採用ス

第五條　定工夫ノ等級ハ分チテ十五等トス

第六條　職工定工夫ニシテ其業務ニ精勵熟達スル者ハ漸次昇等セシム其技能優等ナル者非常ノ功勞アル者及組長機關助手ヲ命シタル者ハ特ニ數等ヲ進ムルコトアルヘシ

第七條　身上ニ關スル願屆書ハ主務掛長ヲ經テ水道課長ニ差出スヘシ

第二章　勤務

第八條　勤務時間ハ左ノ通トス但業務ノ都合ニ依リ出勤及退散時限ヲ繰上ケ又ハ繰下クルコトアルヘシ（明治四十年十月七日市訓令甲第二十九號ヲ以テ本條中「勤務時間」改正）

自二月一日 至同月末日	自午前八時 至午後五時	九時間
自三月一日 至九月三十日	自午前七時 至午後五時	十時間
自十月一日 至同月三十一日	自午前七時 至午後四時	九時間
自十一月一日 至一月三十一日	自午前八時 至午後四時	八時間

淀橋淨水場機關職工ニ限リ勤務時間ヲ一日八時間トシ晝夜三番交代ニ就業セシム

第九條　喫飯時間ハ正午ヨリ午後零時三十分マテ休憩時間ハ午前午後ニ於テ各一回十五分宛トシ夜業ノ場合モ之ニ準ス但業務ノ都合ニ依リ時間ヲ繰上ケ又ハ繰下クルコトアルヘシ

第十條　業務上必要ノ場合ニ於テハ勤務時間外若クハ休憩時間內ト雖執業セシムルコトアルヘシ

第十一條　毎日就業前材料器具機械等ノ不足又ハ故障ナキヤ否ヤヲ取調フヘシ

第十二條　勤務時限ニ達シタルトキハ直ニ業務ニ就キ止業退散ノ際ハ能ク器具機械ヲ掃除シ材料ヲ整理シ工場ノ掃除ヲ爲シ掛員ノ檢査ヲ受クヘシ

第十三條　業務ノ種類ニ依リテハ宿直ヲ命スルコトアルヘシ宿直ヲ爲シタルモノハ其翌日業務上差支ナキ限リ所屬掛長ノ許可ヲ得テ退散時限二時間前ニ早退スルコトヲ得

第十四條　出勤時限ニ後レタル者ハ當日就業ヲ許サス但所屬掛長ノ許可ヲ得タルモノハ此限ニアラス

第十五條　疾病其他ノ事故ニ依リ早退セントスルトキハ其事由ヲ所屬掛長ニ申立テ許可ヲ受クヘシ

第十六條　疾病其他ノ事故ニ依リ出勤セサルトキハ出勤時限後五時間以內ニ書面又ハ口頭ヲ以テ屆出ツヘシ但豫知シ得ラルル事故ノ爲メ缺勤スル場合ハ前日中ニ屆出テ許可ヲ受クルヲ要ス疾病缺勤十五日ヲ超ユルトキハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ屆出ツヘシ爾後三十日ニ及フ毎ニ同樣ノ手續ヲ爲スヘシ

第十七條　休暇日ハ左ノ如シ

一　一月一日　二日　十二月二十九日　三十日　三十一日

一　元始祭　新年宴會　孝明天皇祭　紀元節　春季皇靈祭　神武天皇祭　秋季皇靈祭　十月一日　神嘗祭　天長節　新嘗祭

一　毎月第二日曜日（一月、七月ハ十六日）（明治四十年十月七日市訓令甲第二十九號ヲ以テ括弧內「一月、七月十六日」ノ八字追加）
但職務怠慢ノ廉アリト認ムル者又ハ過失アル者ニハ其月若クハ翌月ニ於ケル休暇ヲ與ヘス（明治四十三年三月三十一日市訓令甲第十七號ヲ以テ本但書中改正）

淀橋淨水場機關職工ニハ前項ノ休暇ヲ與ヘス（明治四十一年一月十六日市訓令甲第六號ヲ以テ本項追加）

第十八條　業務ノ都合ニ依リ廢休ヲ命シタルトキハ其翌日又ハ差支ナキ日ニ於テ休暇セシム

第十九條　平素業務超衆勉勵ノ者ニ對シテハ特ニ一箇年ヲ通シ七日以内ノ休暇ヲ與フルコトアルヘシ

第二十條　職工定工夫ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ服務違背又ハ職務怠慢トス

一　掛員ノ指揮命令ニ服從セス又ハ掛員ニ對シ侮辱若クハ反抗ケ間敷擧動アリタル者
一　相當ノ理由ナクシテ恣ニ缺勤シタル者
一　勤務時間中許可ヲ得スシテ外出シ或ハ漫ニ業務ヲ離レ又ハ早退シタル者
一　外勤中業務ヲ怠リ或ハ恣ニ執業ノ位置ヲ去リタル者
一　自己負擔ノ業務ヲ私ニ他ニ幇助セシメタル者
一　勤務時限ニ至リ就業セス又ハ退散時限前退散ノ用意ヲ爲シタル者
一　火氣ノ取扱ヲ疎略ニシ又ハ必要ナキ箇所ニテ濫リニ之カ取扱ヲ爲シタル者
一　各自擔當ノ場所又ハ保管ノ道具箱ニ鎖鑰ヲ怠リ又ハ使用材料器具等ヲ取散シタル儘退散シタル者
一　消耗品、材料ヲ浪費濫用シ又ハ器具、機械等ヲ毀損亡失シタル者
一　勤務中雜談ヲ爲シ或ハ喧嘩口論ヲ爲シタル者
一　定刻外ニ休憩吸煙又ハ喫飯シタル者
一　出勤簿ニ他人ヲシテ捺印セシメ又ハ他人ニ代リ捺印シタル者
一　制帽制服ヲ著用セサル者
一　業務施行上疎略ノ廉アリタル者（明治四十三年三月三十一日市訓令甲第十七號ヲ以テ本號追加）
一　前各號ノ外職務ノ内外ヲ問ハス職務上ノ體面ヲ汚スヘキ行爲アリタル者

第三章　給料及手當

第二十一條　職工定工夫ノ給料ハ總テ日給トシ等級ニ應シ左ノ通支給ス但一等級ヲ受ケ技能卓越セル者ハ職工ニ在テハ壹圓五拾錢迄定工夫ニ在テハ七拾五錢迄增給スルコトアルヘシ

職工等級	一日給	定工夫等級	一日給
一　等	壹圓	一　等	六拾五錢
二　等	九拾五錢	二　等	六拾貳錢
三　等	九拾錢	三　等	六拾錢
四　等	八拾五錢	四　等	五拾八錢
五　等	八拾錢	五　等	五拾五錢
六　等	七拾五錢	六　等	五拾貳錢
七　等	七拾貳錢	七　等	五拾錢
八　等	七拾錢	八　等	四拾八錢
九　等	六拾八錢	九　等	四拾五錢
十　等	六拾五錢	十　等	四拾貳錢
十一等	六拾貳錢	十一等	四拾錢

職工等級	一日給	定工夫等級	一日給
十二等	六拾錢	十二等	參拾八錢
十三等	五拾八錢	十三等	參拾五錢
十四等	五拾五錢	十四等	參拾貳錢
十五等	五拾貳錢	十五等	參拾錢
十六等	五拾錢		
十七等	四拾八錢		
十八等	四拾五錢		
十九等	四拾貳錢		
二十等	四拾錢		
二十一等	參拾八錢		
二十二等	參拾五錢		
二十三等	參拾貳錢		
二十四等	參拾錢		
二十五等	貳拾八錢		
二十六等	貳拾五錢		
二十七等	貳拾貳錢		
二十八等	貳拾錢		
二十九等	拾八錢		
三十等	拾五錢		

第二十二條　職工見習ノ給料ハ前條ニ依リ職工等級十六等以下ノ規定ヲ適用ス

第二十三條　給料ハ前月十六日ヨリ其月十五日迄ノ分ヲ毎月二十日ニ支給ス但毎年三月十六日ヨリ三月三十一日迄ノ分ハ此限ニ在ラス

前項ノ支給日休暇日ニ當ルトキハ繰下ケトス（明治四十五年三月二十三日市訓令甲第三號ヲ以テ本條中改正）

第二十四條　給料ハ出勤日數ニ應シ之ヲ支給ス但左ノ場合ニハ出勤セサルモ給料ヲ支給ス

一　第十七條乃至第十九條及特別ノ達ニ依ル休暇日
二　職務ノ爲メ傷痍疾病ニ罹リ醫師ニ於テ休養ノ必要アリト診斷シタルトキ

增給減給ノ場合ニ於テハ發令ノ翌日ヨリ新給料額ニ依ル

第二十五條　休暇日ニ臨時出勤ヲ命セラレタル者出勤セサルトキハ其日ノ給料ヲ支給セス

業務ノ都合ニ依リ第十八條ノ代休ヲ爲サシメサルトキハ其日給額ニ相當スル手當ヲ支給ス（明治四十年十月七日市訓令甲第二十九號ヲ以テ本項追加）

第二十六條　疾病其他ノ事故ニ依リ遲參又ハ早退シタルトキハ毎一時間ニ日給十分ノ一ヲ減ス但一時間未滿ノ端數ヲ生スルトキハ一時間ニ切上クルモノトス

第二十七條　早出居殘ヲ命シタルトキハ左ノ割合ニ依リ時間外勤務給料ヲ支給ス（明治四十四年三月三十日市訓令甲第十二號ヲ以テ本條中改正）

出勤時限前早出三時間
退散時限後居殘三時間　迄ハ一時間ニ付日給額百分ノ十

退散時限後居殘四時間以後午後十二時迄ハ同百分ノ十二

同　午後十二時以後出勤時限迄及早出三

時間以前ハ同　百分ノ十五

淀橋淨水場機關職工ノ早出居殘ハ左ノ割合ニ依リ時間外勤務給料ヲ支給ス（明治四十一年二月十四日市訓令甲第十一號ヲ以テ本項改正）

交代時限前後ノ早出居殘四時間迄ハ一時間ニ付日給額百分ノ十　五時間以後ハ同　百分ノ十五

同

第二十七條ノ二　勤務時間外ニ於テ臨時出勤ヲ命シタルトキハ左ノ割合ニ依リ時間外勤務給料ヲ支給ス但勤務時間ノ計算上午後十二時ノ前後ニ跨ル場合ハ第二號ノ割合ニ依ル（明治四十四年五月三十一日市訓令甲第二十七號ヲ以テ但書追加）

一　退散時限後午後十二時迄ハ一時間ニ付日給額百分ノ十二

一　午後十二時以後出勤時限迄ハ同　百分ノ十五

休暇日ニ於テ特ニ勤務時間内ニ臨時出勤ヲ命シタルトキハ一時間ニ付日給額百分ノ十二ノ割合ニ依リ手當ヲ支給シ第十八條ノ代休ヲ與ヘス但七時間以上ニ亘ルトキハ其執業時間ヲ以テ勤務時間ト看做ス（明治四十四年三月三十日市訓令甲第十二號ヲ以テ本條追加）

第二十八條　宿直賄ハ二賄トシ一賄ニ付キ金八錢ヲ支給ス

宿直ノ場合ニハ時間外勤務給料ヲ支給セス但宿直中修繕ノ爲メ外出シタルトキハ一回ニ付手當金五錢ヲ支給ス

第二十九條　平素業務勉勵ノ者ニハ特別手當ヲ支給ス其方法左ノ如シ

一　毎三箇月ヲ一期トシ水道課長ニ於テ其金額ヲ査定シ之ヲ支給ス（明治四十五年三月二十三日市訓令甲第三號ヲ以テ本項中改正）

一　支給額ハ出勤日數一日ニ付金八錢以内トス（明治四十三年三月三十一日市訓令甲第十七號ヲ以テ本號中「金五錢」トアリシヲ「金八錢」ト改メ尚第二項中但書追加）

市外ニ出張ヲ命シタルトキハ其間之ヲ支給セス又廢休ヲ命シタルトキ故ナク出勤セサル者及三箇月間ニ十四日以上缺勤シタル者又ハ第二十條ノ各號ノ一ニ該當シタル者ニハ之ヲ支給セス但其情狀ニ依リ減額支給スルコトアルヘシ

第三十條　市外ニ出張ヲ命シタルトキハ明治三十一年十二月市告示第七十一號旅費支給規則ニ依リ旅費額表五等ノ額ヲ支給ス（本條中旅費支給規則トアルハ明治四十年十二月二十七日市告示第九十三號ニ基キ旅費規程ノ儀ト知ルヘシ）

旅費支給規則第十條ニ該當スル者ニハ左ノ割合ニ依リ旅費ヲ支給ス（本項中旅費支給規則第十條トアルハ明治四十年十二月二十七日市告示第九十三號旅費規程第九條ニ該當スル義ト知ルヘシ）

一　測量及土木工事　一日金參拾錢

但現場ヘノ往復ハ其里哩數ニ應シ車馬賃汽車賃ヲ支給シ宿泊セサル場合ニハ定額ノ日當ヲ支給シ數町村ニ渉ル現場ノ往復ニハ車馬賃等ヲ支給セス

一　給水工事　一日金貳拾錢

第三十一條　職務ノ爲メ傷痍疾病ニ罹リタルトキハ治療料ヲ給シ尚其程度ニ依リ特別手當ヲ給與スルコトアルヘシ

職務ノ爲メ死亡シタルトキハ其遺族ニ弔祭料ヲ給與スルコトアルヘシ（明治四十一年九月十一日市告第七十號ニ依リ本條及第三十二條ハ消滅ノ儀ト知ルヘシ）

第三十二條　滿十箇年以上勤續シ平素業務精勵ノ者ニシテ退職シタルトキハ特ニ慰勞手當金ヲ給與シ又死亡シタルトキハ遺族ニ弔祭料ヲ給與スルコトアルヘシ

附　則

第三十三條　職工定工夫ハ前各條ノ外左ノ事項ヲ遵守スルコトヲ要ス

一　採用セラレタルトキハ直ニ保證書ヲ差出シ甲號ノ門鑑ヲ受取ルヘシ

二　出勤セシトキハ甲號ノ門鑑ヲ守衞ニ差出シ乙號ノ門鑑ヲ受取リ退散ノトキハ乙號ノ門鑑ヲ守衞ニ差出シ甲號ノ門鑑ヲ受取ルヘシ

三　保證人ニハ本市内ニ現住シ一戸ヲ構ヘタル丁年以上ノ男子ヲ立ツヘシ（明治四十四年五月三十一日市訓令甲第二十七號ヲ以テ本號中改正）

四　自分又ハ保證人ノ住所、姓名、身分等ニ變更アリタルトキハ其旨速ニ屆出ツヘシ

五　保證人死亡又ハ本市外ヘ轉居其他ノ理由ニヨリ新ニ保證人ヲ立タルトキハ更ニ保證書ヲ差出スヘシ

六　病氣其他自分ノ都合ニテ解傭ヲ請ハントスルトキハ其理由ヲ認メ願出ツヘシ

七　解傭トナリタルトキハ直ニ門鑑其他ノ貸與品ヲ返納スヘシ（明治四十四年五月三十一日市訓令甲第二十七號ヲ以テ本號中改正）

八　常ニ上長ニ對シテハ敬意ヲ失ハス掛員ノ指揮命令ニハ必ス從順ナルヘシ

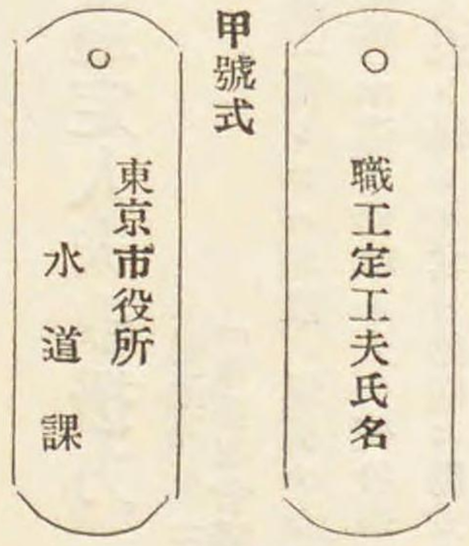
九　勤務時間内ハ勿論退散後ニテモ水火風震等非常ノ際ハ直ニ參集シ掛員ノ指揮ヲ受ケ防護ニ從事スヘシ

十　品行ヲ愼ミ相互ニ親睦ヲ旨トシ業務ニ忠實ナルヘシ

門鑑雛形

甲號式

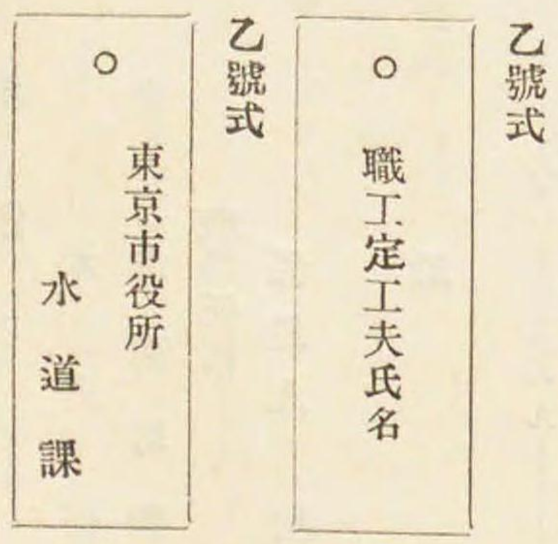
表面　　裏面



甲號式　木製　長二寸一分　巾八分　厚二分

乙號式

表面　　裏面



乙號式　右同

第三十四條　本規程施行ノ際別ニ辭令ヲ受ケサル者ハ現ニ受クル日給額ニ相當スル等級給ヲ受ク

現ニ本規定ノ等級給ニ相當セサル日給ヲ受クル者ハ當分ノ內現在ノ儘トシ其取扱ニ關シテハ其日給ニ最モ近キ上級ノ日給ヲ受クルモノト看做ス

第三十五條　本規程中時間ヲ以テ支給スル給料及手當等ハ一時間未滿ノ場合ハ之ヲ支給セス（明治四十四年三月三十日市訓令甲第十二號ヲ以テ本條追加）

●水道課職工定工夫保證書式設定及雛形

明治四十二年三月十七日
課長判決水發第四千六十一號

本課職工定工夫保證書ニ付テハ從來一定ノ書式無之爲メニ彼此區區ニ相成處理上差支アルヲ以テ別紙雛形ノ通其書式ヲ設定スルモノトス

追テ本書式ハ守衛水衛ニモ之ヲ適用スルモノトス

（別紙雛形）

保證書

（本人印）

原籍

現住所

身分　華士族平民

氏名　何　某

年　月　日生

收入
印參
紙錢

（保證人印）

右者今般貴課職工定工夫工ニ御採用相成候ニ付テハ掛員ノ御指揮ニ從ヒ誠實ニ勤務可致ハ勿論在職中本人身上ニ關スル一切ノ行爲ハ保證人ニ於テ其責ニ任シ聊御迷惑相懸ケ申間敷仍テ以連署保證書差出候也

明治　年　月　日

本人　何　某　印

東京市區町番地

職業何何

保證人　何　某　印

年　月　日生

東京市水道課長　殿

●水道定人夫取扱方

明治四十三年一月十八日
（市參事會議決）第百二十八號

從來定人夫ノ取扱ニ關シテハ別段ノ規程ナキヲ以テ明治二十八年三月（市參事會議決）水道直傭職工人夫使役規則ニ依リ時間外勤務等ノ場合ハ一般人夫ト同シク其日給額ニ應シ歩增ヲ給與シ公休日ト雖モ出勤セサレハ給料ヲ支給セサルコトニ取扱ヒ來リタルモ工事施行上常ニ職工定工夫ト相俟テ使役スル必要有之隨テ勤務ノ程度モ自ラ普通人夫ト其撰ヲ一ニセス事實定工夫ト同一ノ作業ヲ爲サシムルノミナラス使丁職工定工夫特別給與規程（四十一年九月市告示第七十號）ニ依ルモ定傭人夫ニハ本規程ヲ適用セラルルヲ見レハ定人夫ハ定工夫ニ準シ取扱フヲ至當ト認ムルヲ以テ自今定人夫ノ勤務、服務、時間外勤務給料等ハ水道課職工定工夫規程中第二十條第一項第十三號及第二十九條ヲ除キ總テ定工夫該當條項ヲ準用シ市外出張ノ場合モ右ニ準シ旅費ヲ支給スルモノトス但水道淨水所機關所ニ使役スル定人夫ニハ機關職工ニ該當スル條項ヲ準用スルモノトス

●電話工夫執務心得

明治三十年二月十七日
（市參事會議決）第千八百九十四號

第一　電話工夫ハ當分ノ內小川水衛所ニ在勤スヘシ

第二　電話工夫ハ常ニ手帳ヲ携帶シ又其詰所ニ日誌簿ヲ備置キ事故アルトキハ之ニ記入スヘシ但手帳及日誌簿ハ水道課員出張ノ都度其檢閱ヲ受クヘシ

第三　電話工夫ハ毎日午前七時及午後五時ノ兩度ニ羽村淀橋ノ二箇所ヘ通信ヲ試ムヘシ

第四　電話工夫一箇月三回即チ凡十日目毎ニ線路巡視及機械掃除トシテ羽村淀橋間ニ出張スヘシ但暴風雨大雪等ノ後ハ必線路ヲ巡視スヘシ斷線又ハ不通トナリタルトキハ即時出張スヘシ

第五　電話機及電線電柱ニ破損ヲ生シタルトキハ臨機ノ處分ヲ爲シ速ニ其旨水道課ヘ報告スヘシ

第六　電話工夫病氣ノ爲メ巡回スル能ハサルカ又ハ執務ニ堪ヘ難キトキハ其旨電話ヲ以テ羽村淀橋ノ二箇所ニ通知シ尙淀橋工場ヲ經テ水道課ヘ屆出スヘシ

第七　電話工夫羽村及淀橋ニ出張シタルトキハ巡回ノ證トシテ自己ノ携帶セル手帳ニ出張先詰所員ノ檢印ヲ受クヘシ

●羽村淀橋間電話取扱心得

明治三十年二月十七日
（市參事會議決）第千八百九十四號
（明治四十一年七月二十九日（市參事會議決）第四千三百九十四號ヲ以テ信號法改正）

第一　電話信號ベル押方ヲ定ム左ノ如シ

箇所	信號
水道課羽村派出所	○—
機關室	○——
餘水吐水衛所	○———
淀橋淨水工場	○—○—
熊川水衛所	○—○——
小川水衛所	○—○———
境水衛所	○—○—○—
久我山水衛所	○—○—○——
和田堀內水衛所	○—○—○—○—

第二　ベルハ其押方ヲ正クスヘシ

第三　電鈴鳴響スルトキハ其度數ニ注意シ他ニ信號スルモノナルトキハ決シテ機械ニ手ヲ觸ルヘカラス
第四　電話工夫ノ外電話機及電池ニ手ヲ觸ルヘカラス
第五　受話機ハ談話濟ノ上ハ必ス元ノ處ヘ掛置クヘシ
第六　談話濟ノ上ハ必ス口ノ觸レタル處ヲ拭ヒ置クヘシ
第七　電話機ハ水道課員ノ外何人ニモ之ヲ使用セシムルヲ許サス又自己ノ用ニ供スヘカラス但非常ノ場合ニ際シ警察官ノ求メアルトキハ此限ニアラス

●水道檢查員採用及在職停年規程

明治三十八年五月一日（水道課）
市訓令甲第二十三號（各區役所）

第一條　水道檢查員ハ試驗ノ上採用スルモノトス但左ニ記載シタル者ニシテ體格健全ナル者ハ此限ニアラス
一　中學二年以上ノ科程ヲ修了シタル者又ハ同等以上ノ學力ヲ有スル者
二　判任官又ハ同待遇官以上ニ任用セラルヘキ資格ヲ有スル者
三　本市事務員技手技手補區書記又ハ掃除巡視ノ職ニ在リタル者若クハ一箇年以上本市區ノ雇員ヲ勤タル者

第二條　水道檢查員志願者ハ品行端正年齡二十一年以上四十五年未滿ニシテ左ノ諸項ニ牴觸セサル者タルヘシ
一　刑罰ニ處セラレタル者
二　懲戒免職ニ處セラレタル者
三　酒癖又ハ暴行ノ癖アル者
四　破產又ハ家資分散若クハ身代限リノ處分ヲ受ケ辨償ノ義務ヲ終ヘサル者
五　常備兵役ニ屬スル者若クハ徵兵檢查ヲ了ラサル者

第三條　水道檢查員志願者ハ其願書（第一號書式）ニ自書シタル履歷書身分證明書（第二號書式）及市醫ノ體格檢查證（第三號書式）ヲ添ヘ當該區役所ニ差出スヘシ（明治三十九年六月十三日市訓令甲第十九號ヲ以テ本條中及ノ下「勤務セントスル區ニ在住スル」トアリシ十三字削除）

第四條　水道檢查員ノ體格檢查ハ左ノ諸項ニ適合スル者ヲ合格トス
一　體質强壯ニシテ身體各部ニ特殊ノ異狀ナキ者
二　普通ノ視力、辨色力、聽力ヲ具フル者
三　言語應答明瞭ニシテ且溫和ナル者
四　精神ニ異狀ナキ者

第五條　水道檢查員ノ學術試驗ハ區長ニ於テ之ヲ行ヒ左ノ諸項ニ適合スル者ヲ合格トス
一　執務上必要ノ諸規則類ヲ理解シ得ル者
二　假名交リノ論文及普通往復文ヲ作リ得ル者
三　算術加減乘除（筆算、珠算共）ヲ爲シ得ル者
四　普通ニ楷書、行書ヲ書キ得ル者但第二號作文ノ筆蹟ニ依リ銓考ス

第六條　試驗合格ノ上水道檢查員ニ採用スル者ハ區長ニ於テ左ノ諸件ヲ宣示シ第七條ノ請書ヲ徵スヘシ
一　水道檢查員タル者ハ市吏員服務規程ヲ恪守シ常ニ上司ノ命令ヲ遵守シ服務中ハ勿論勤務外ト雖モ談論批評ヲ爲シ公衆ノ視線ヲ引ク等ノ行爲アルヘカラス
二　水道檢查員タル者ハ市民ハ勿論特ニ給水引用者ニ對シ丁寧懇切ヲ旨トシ苟モ之ト相狎昵スルコトナク專ラ忠實ニ其職務ヲ執行スヘシ
三　水道檢查員タル者ハ品行端正ニシテ本市吏員ノ體面ヲ汚辱スル等ノ行爲アルヘカラス

第七條　檢查員ニ採用セラレタル者ハ請書（第四號書式）ヲ區長ニ差出スヘシ但保證人ハ市公民タル資格ヲ有スル者ニ限ル

第八條　水道檢查員ノ在職年齡ハ滿五十年限リトス但體格健全ニシテ職務ニ精通スル者ハ此限ニアラス（明治四十年三月九日市訓令甲第四號ヲ以テ本條但書中改正）

（第一號書式）

水道檢查員志願書

原籍　何府縣何國何郡市何區何町村何番地
現住所　何市何區何町何番地
華士族平民
何　之　誰
何年何月何日生

今般東京市水道檢查員志願ニ付試驗ノ上御採用相成度別紙履歷書身分證明書及體格檢查證相添此段相願候也

明治　年　月　日　右　何　之　誰

東京市何區長何之誰殿

（第二號書式）

身分證明願

何府縣何國何郡市何區何町村何番地
華士族平民
何　之　誰

一　年月日生
一　刑罰ヲ受ケタルコト無シ
一　破產又ハ家資分散若クハ身代限リノ處分ヲ受ケ辨償ノ義務ヲ終ヘサル者ニ非ス
一　兵役ノ關係何何

右御證明相成度候也

明治　年　月　日　右　何　之　誰

市區町村長何之誰殿

前書之通相違無之候也

明治　年　月　日　市區町村長　何　之　誰

（第三號書式）

體格檢查證

何府縣何國何郡市何區何町村何番地

何之誰
何年何月何日生

一 體質
一 聽力
一 視力
一 辨色力
一 言語
一 精神機能
右證明候也
明治 年 月 日 市醫 何之誰
（身體各部ニ特殊ノ異狀アルモノハ備考トシテ記入スヘシ）

（第四號書式）

請書

某儀

今般東京市水道檢査員ニ御採用相成候ニ付テハ水道檢査員採用及在職停年規程第六條ノ訓戒並ニ水道檢査員服務心得ヲ恪守シ誠實ニ勤務可仕候若シ本人在職中不都合ノ行爲有之候トキハ保證人ニ於テ一切其責ニ任シ處置可致候仍テ請書差出候也

何區何町何番地
族籍
明治 年 月 日 本人 何之誰
何區何町何番地
保證人 何之誰

東京市何區長何之誰殿
（此請書ニハ本人保證人トモ各自署名捺印ヲ要ス）

●水道檢査員志願者體格檢査證作成方

明治三十八年六月十日
助役通牒水發第二千百三十二號（各區長宛）

水道檢査員志願書ニ添付スヘキ體格檢査證ハ區長ノ要求ニ基キ市醫ノ作成スヘキモノナルヲ以テ水道檢査員採用ノ場合ハ豫メ願書ヲ徵シ市醫ノ體格檢査證作成ヲ俟テ處理相成度此段及通牒候也

●水道課自轉車使用心得

明治三十四年十一月四日
市長判決第五千四百七十三號

第一條 外勤事務ノ敏活ヲ計ル爲メ市内出張吏員ハ本課ノ自轉車ヲ借受ケ乘用スルモノトス

第二條 自轉車ヲ乘用シ得ヘキ出張吏員ノ員數及人名ハ課長之ヲ定ム

第三條 自轉車ヲ乘用スル者ハ其借用證ヲ庶務掛長ヘ差出スヘシ

第四條 借用ノ自轉車及附屬品ノ管理保存ニ付テハ至重ノ注意ヲ加フルコトヲ要ス

第五條 借用ノ自轉車又ハ附屬品ノ修補ヲ要スルトキハ速ニ其旨庶務掛長ヘ申出ツヘシ

第六條 借用ノ自轉車ヲ私用ニ乘用シ又ハ他人ニ乘用セシムルコトヲ得ス

第七條 乘用者ノ故意又ハ過失ニ因リ借用ノ自轉車若クハ附屬品ヲ毀損亡失シタルトキハ其損害ヲ賠償セシム

第八條 課長ハ自轉車ノ返納ヲ命シタルトキハ附屬品ヲ添ヘ即時庶務掛長ヘ引渡スヘシ

●配水工費及量水器賃貸料ニ關スル訴訟事務ノ主管

明治三十八年四月二十四日
〔市參事會議決〕第三千百號

配水工費及量水器賃貸料ニ關スル訴訟行爲ハ自今水道課ヲシテ主管セシムルモノトス

●消火配水用自轉車使用心得

明治四十四年四月十日
市長判決水發第五百二十七號

第一條 消火配水ノ爲メ職工定工夫市内出張ノ際乘用スル自轉車ハ水道課、本郷、芝給水場特別公舍ニ各二輛ツツ備置クモノトス

第二條 前條備付自轉車ノ保管ハ特別公舍居住ノ吏員ニ於テ其實ニ任スルモノトス

第三條 公舍備付自轉車ハ第一條ノ場合ノ外使用スルコトヲ得ス

第四條 前各條ノ外水道課自轉車使用心得（明治三十四年十一月四日市長判決第五四七三號）ヲ準用ス

以上

●非常用提灯雛形

明治三十八年四月二十四日
〔市參事會議決〕第三千百二號

出火、鐵管破裂等非常ノ場合水道檢査員區役所定工夫ノ携帶スル提灯ハ右等職員ヲ區役所ニ移シタル爲メ改正ヲ要スルニ付別紙雛形ノ通リ定ムルモノトス（本決議ノ趣旨ハ區役所及警視廳ニ通知セリ）

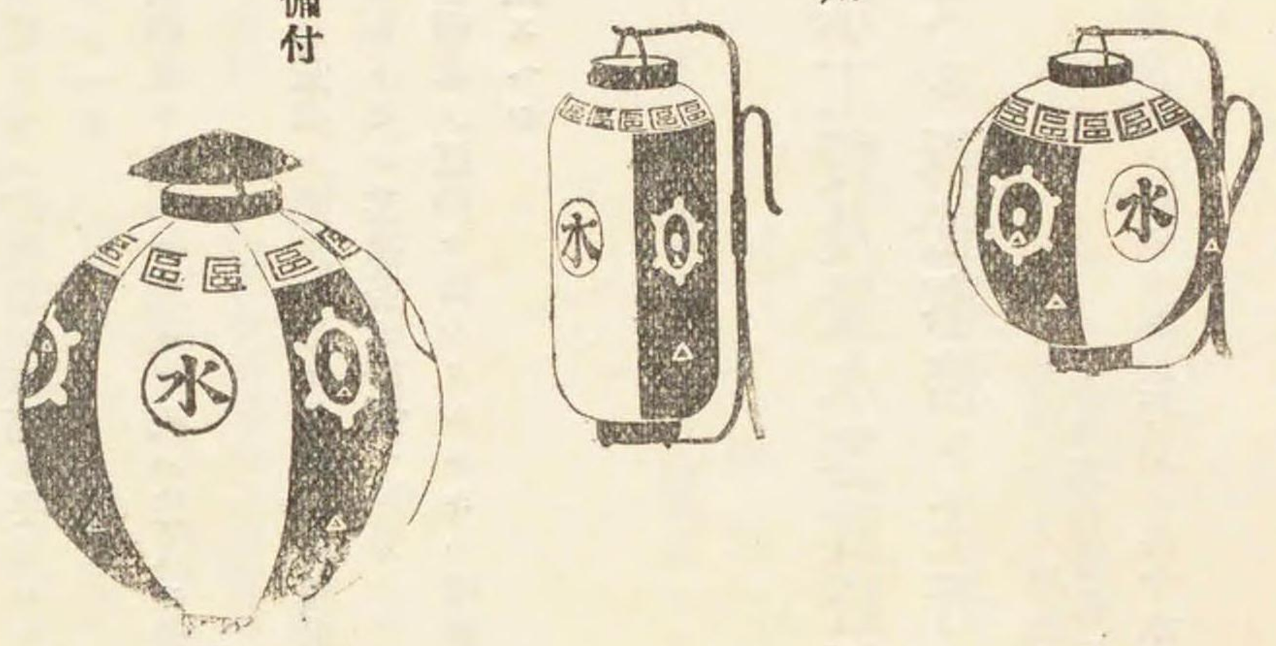
（別紙雛形）

水道檢査員用

（提灯雛形中△印ヲ附シタル部部ハ赤）

定工夫用

各區役所備付



●水道ニ關スル規定中區書記ニ屬スル條項ヲ同書記補ニ適用方 大正二年五月十三日（第一部）市訓令甲第三十四號（各區役所）

水道ニ關スル從前ノ諸規定及訓令竝通達等ニシテ區書記ニ該當スル條項ハ自今總テ之ヲ區書記補ニモ適用ス

第二節　工事及材料

●市水道設計 明治二十三年七月二十三日 府告示第五十號

東京市區改正事業ノ內水道ノ設計左ノ通定メラル

右明治二十一年勅令第六十二號第二條ニ據リ告示ス

　東京市水道設計

東京市水道設計ハ其水源ヲ玉川ニ取リ全市ノ人口ヲ百五十萬ト假シ一人一日四立方尺ノ水量ヲ給スルヲ以テ標準トス

淨水工場ヲ南豐島郡淀橋町ニ置キ從來ノ水渠ヲ用ヒテ水ヲ引キ沈澄池及濾水池ヲ設ケ其水質ヲ清淨ニス但淀橋町淨水工場ヨリ以西二千餘間ハ新ニ水渠ヲ開鑿ス（明治二十四年十二月十四日市告示第四十七號ヲ以テ「千駄ケ谷村」ヲ「淀橋町」ニ改）（明治二十九年三月二十九日法律第三十七號發メ但書ヲ追加ス）（布ノ結果本項中淨水工場ヲノ下「南豐島郡」トアルハ「豐多摩郡」ノ義ト知ルヘシ）

沈澄池ハ人口百五十萬ニ對スル一日半分ノ水量ヲ容ルル爲メ其容積ヲ大約九百萬立方尺ト爲シ之ヲ三箇ニ分チ其一箇各三百萬立方尺トス而シテ他日必要ヲ見ル場合ニ於テハ之ヲ增設スルモノトス

但沈澱法ハ沈澄池ノ一端ニ於テ池底ヨリ水ヲ引キ入ルルト同時ニ其他端ニ於テ水面ニ接シタル處ヨリ之ヲ引キ出シ又ハ河水ノ溷濁甚シキ場合ニ於テハ十二時間之ヲ靜止セシムルヲ得ヘシ

濾水池ハ濾水ノ速度ヲ毎二十四時間十尺ト爲シ面積六萬平方尺ノモノ十二箇ヲ設ケ內二箇ヲ豫備ニ充ツ尙他日必要ヲ見ルトキハ更ニ之ヲ增設スルモノトス

淨水工場內ニ喞筒機及淨水池ヲ備ヘテ高地ノ給水工場トシ又淨水工海面上二十尺ノ地ヲ境界トシテ全市ヲ高低ノ二給水區域ニ分チ淨場ヨリ自然流下法ニテ水ヲ本鄕芝ノ二箇所ニ分送シ此ニ淨水池及喞筒機ヲ備ヘテ低地ノ給水工場トス（明治二十四年十二月十四日市告示第四十七號ヲ以テ「麻布及小石川近傍」ヲ「本鄕、芝」ニ改ム）

淨水貯池ハ人口百五十萬ニ對スル十二時間分ノ水量ヲ容ルルモノトシ各給水工場ニ二箇宛ヲ設ケ覆蓋ヲ爲スモノトス

喞筒機械ハ各給水工場ニ四組宛ヲ備ヘ其內一組ヲ豫備ニ充ツルモノトス其機械力ハ總計千五百馬力ナリ但其水壓ハ地面上八十尺乃至百尺ヲ以テ定度トス

高地區域ニ於テハ淀橋町給水工場ヨリ喞筒ヲ以テ直ニ三十六吋乃至十二吋ノ本管ニ注入シ四谷赤坂麻布ノ全區及芝麴町牛込小石川本鄕神田區ノ一部ニ配水ス

低地給水區域ニ於テハ淨水工場ニ於ケル濾水池ヨリ四十二吋ノ管ヲ以テ一ハ芝ノ淨水貯池ニ一ハ本鄕ノ淨水貯池ニ自然流下法ヲ以テ送水シ此貯池ヨリ喞筒ヲ以テ直ニ給水本管ニ水ヲ注入シ日本橋京橋下谷淺草本所深川ノ全區及芝麴町牛込小石川本鄕神田區ノ一部ニ配水ス此區域ニ於ケル本管ハ直徑四十二吋乃至十二吋トス

本管ノ延長ハ凡ソ合計五十九哩四八支管ハ內徑四吋以上十二吋以下ニシテ其延長ハ凡ソ合計三百五十哩トス

給水ハ一般ニ放任給水トシ計量器ハ各區畫ニ之ヲ設ケ水ノ漏泄及

其消費量ヲ量ルノ裝置ヲナスモノトス但引用者ノ狀況ニ依リ特ニ計量器ヲ使用セシムルコトアルヘシ

消火栓ハ平均四百五十尺ノ距離ニ之ヲ設置スルノ割合ニシテ合計四千四百五十箇其他消火兼共用栓七十箇公園及街衢ニ設置スル共用栓千五百箇ヲ設クルモノトス

以上ノ沈澄池濾水池淨水池等ノ位置廣狹消火栓共用栓ノ數及本支管ノ位置大小哩數等ハ實際工事ノ情況ニ依リ多少ノ變更ヲ見ルコトアルヘシ

●市水道設計中變更

明治三十六年九月十日
市告示第八十六號

明治二十三年七月東京府告示第五十號東京市區改正事業ノ內水道設計中左之通リ變更セラル

一　本鄕、芝兩低地給水工場ニ喞筒機各四組ノ設備ヲ廢止ス

一　淀橋町淨水工場ニ沈澄池容積三百萬立方尺ノモノ一個及濾水池面積四萬三千三百四十四平方尺ノモノヲ四個增設ス

一　給水鐵管內徑百粍以上三百粍以下ノモノ凡ソ五十七哩ヲ延長シ區畫量水器兼消火栓九個及消火栓三百四十五個ヲ增設ス

右明治二十一年勅令第六十二號第二條ニ據リ告示ス

●市水道設計中追加

明治四十一年七月三十日
市告示第六十四號

明治二十三年東京府告示第五十號東京市區改正事業ノ內水道設計中左ノ通追加セラル

一　淀橋淨水工場ニ濾過池面積四萬三千三百四十四平方尺ノモノ二個ヲ增設ス

一　淀橋淨水工場ニ喞筒機二組ヲ增設ス

右明治二十一年勅令第六十二號第二條ニ據リ告示ス

●市水道擴張設計

大正元年九月二十一日
市告示第十五號

東京市區改正事業ノ內水道擴張設計左ノ通定メラル

但圖面ハ本市役所ニ備置ク

右明治二十一年勅令第六十二號東京市區改正條例第二條ニ據リ告示ス

東京市水道擴張設計

東京市水道擴張設計ハ水源ヲ多摩川ニ取リ貯水池式ニ依リ一日一千七百二十八萬立方尺即チ一秒時ニ二百立方尺ノ水量ヲ供給スルヲ以テ標準トス其設計ノ大要左ノ如シ但實際工事ノ情況ニ依リ多少ノ變更ヲ見ルヘシ

羽村村山線

多摩川左岸西多摩郡羽村ニ取入口ヲ設ケ毎秒五百立方尺ノ水量ヲ取入ルル構造ト爲シ之レヨリ開渠暗渠隧道等ニテ同郡福生、熊川、北多摩郡砂川、中藤ノ諸村ヲ經テ村山貯水池ニ至ル導水渠ヲ羽村村山線ト稱ス

本水渠ハ延長約五千九百九間ニシテ其勾配開渠ハ千分ノ一暗渠及隧道ハ千六百分ノ一水深前者ハ四尺後者ハ十尺又ハ九尺五寸迄水量開渠起點ヨリ四千六百三十間迄ハ毎秒五百立方尺以下ハ將來給水量ノ不足ヲ來セル際埼玉縣名栗川ノ水ヲ導引シ此地點ニテ本水渠ト合流セシムル爲毎秒六百立方尺トス

村山貯水池

北多摩郡芋窪村地先及清水村字宅部（通稱村山）ニ各土堰堤ヲ築キ貯水池ヲ設ケ地形上一ヲ上貯水池一ヲ下貯水池ト名ク

上貯水池ハ滿水容積一億三千三百萬立方尺ニシテ其ノ堰堤ハ高サ根堀數以上七十六尺池底以上七十尺長二百三十三間堤項巾二十四尺トス堰堤ノ南端ニ近ク上貯水池ノ灣入セル所ニ取水塔ヲ設ケ其塔內ニ引入レタル水ヲ引出隧道ニ依リ下貯水池ニ導キ尙取水塔ニ接近シテ餘水吐ヲ設ケ暗渠及鐵管ニテ上貯水池滿水面以上ノ餘水ヲ下貯水池ニ放流スルモノトス

下貯水池ハ滿水容積五億千四十五萬立方尺ニシテ其堰堤ハ高サ根堀數以上九十一尺地底以上八十五尺長三百三十五間堤項巾二十四尺トス堰堤ノ南端ニ近ク下貯水池ノ灣入セル所ニ取水塔ヲ設ケ塔內ニ引入タル水ハ引出隧道ニ依リ村山境線導水渠ニ導キ尙取水塔ニ接近シテ餘水吐ヲ設ケ暗渠鐵管及開渠ニテ下貯水池滿水面以上ノ餘水ヲ村山川ニ放流スルモノトス

村山境線

村山貯水池ヨリ隧道暗渠等ニテ北多摩郡淸水、東村山、小金井、武藏野ノ諸村ヲ經テ境淨水場ニ至ル導水渠ヲ境村山線ト稱ス本水渠ハ延長六千五百八十二間ニシテ其勾配ハ地形ニ應シ六百分ノ一又ハ千二百分ノ一トシ水深前者ハ五尺後者ハ六尺迄水量毎秒二百五十立方尺トス

境淨水場

北多摩郡武藏野村字境ニ濾池ヲ設ケ村山貯水池ヨリ來ル水量ヲ濾池ノ一側ニ設クル開渠ニ導キ其ノ一半ハ鐵管ニテ各池ニ引入レ濾過シ境淨水池ニ送水シ他ノ一半ハ境和田堀線鐵管ニ依リ和田堀淨水池ニ送水スルモノトス濾池ノ面積ハ合計百一萬五千二百平方尺ニシテ之レヲ二十個ニ分チ毎秒百立方尺ヲ濾過ス其ノ速度毎二十四時間ニ十尺ナルヲ以テ內三個ヲ掃除其他ニ充ツルコトヲ得

境和田堀線

境淨水場ヨリ鐵管又ハ暗渠ニテ北多摩郡三鷹村豐多摩郡高井戸村ヲ經テ和田堀淨水池ニ至ル導水渠ヲ境和田堀線ト稱ス本水渠ハ境淨水場ヨリ二條ノ鐵管ニ依リ濾過淨水ヲ和田堀淨水池ニ送ルモノト境淨水場開渠ノ終點ニ溺堰ヲ設ケ村山貯水池ヨリ來ル未濾過水ヲ集水渠ニ溢流セシメ暗渠ニ依リ現在代田新水路ニ送ルモノトノ

ニトス

鐵管ハ內徑千五百粍延長五千七百七十九間ニシテ送水量每秒百立方尺トス暗渠ハ延長五千七百五十間ニシテ其ノ勾配起點ヨリ三千八十間迄ハ五百分ノ一以下ハ千八百分ノ一水深前者ハ三尺五寸後者ハ四尺二寸送水量每秒百二十五立方尺トス

和田堀淨水池

豐多摩郡和田堀內村ニ淨水池ヲ設ケ境淨水場ヨリ來ル濾過水ヲ貯溜ス其ノ容積ハ二百二十萬ノ立方尺ニシテ水面ノ高サ零點上百九十尺トス

配水本管

和田堀淨水池ヨリ內徑千五百粍ノ鐵管一條ヲ導キ成ルヘク現在布設セル鐵管ヲ利用シ自然流下法ニ依リ赤坂、麻布、芝ノ三區及麴町本鄉、小石川、日本橋、牛込ノ一部ニ配水スルモノトス

尙ホ新ニ新宿追分附近ヨリ內徑八百粍ノ鐵管一條ヲ巢鴨方面ニ分岐シ現在淀橋淨水場喞筒機ニ依リ此地域ニ配水スルモノトス

新ニ布設スヘキ本管ハ千五百粍ヨリ以下四百粍迄ノ八種トシ其總延長凡ソ三萬四千八百三十四間トス

市內配水小管

市內公道ニシテ鐵管未設ニ屬スル部分延長凡ソ十四萬二千二百間ニ對シ鐵管ヲ布設スルモノトス

●水道工事直傭職工人夫使役規則

（明治二十八年三月市參事會議決）

第一條　本工事ニ於テ使役スヘキ職工人夫ハ其身體强壯ナル者ニシテ年齡ハ凡ソ二十歲以上四十五歲以下トシ充分其勞働ニ耐ヘ得ヘキモノタル可シ但其年齡ハ以上ノ如ク定ムルト雖モ充分其勞ニ耐ヘ得ルカ或ハ特種ノ技能アルモノヲ要スル場合ハ此限ニアラス

第二條　直傭職工人夫差出人（職工頭人夫頭）ハ十名乃至二十名ニ對シ小頭一人ヲ置キ掛員ノ指揮ヲ傳達シ又ハ命令ニ從ヒ職工人夫ヲ誘導シ共ニ勞働セシムヘシ而シテ職工頭若クハ人夫頭ハ始終現場詰切掛員ノ命令ニ依リ其職等人夫ノ取締ヲナスヘシ又其從事セシム可キ事業ト職工人夫ノ員數ニ依リ甲乙混シテ使役スルコトアルヘキモ掛員ノ指定スル小頭ノ命令ヲ拒ムヲ得ス但掛員ノ見込ニヨリテハ職工人夫ノ數十名以內ト雖モ小頭ヲ附シ或ハ之ヲ置カサルコトアル可シ

第三條　職工人夫ノ勞働時間ハ每日正味九時間トス

第四條　職工人夫ノ休憩時間ハ日ノ長短又ハ季候ノ如何ニヨリ其時時揭示スヘシト雖モ每日午前午後ニ各一回及晝餐時ノ三回トシ勞働時間ハ此外タル可シ

第五條　職工人夫ハ總テ每日其就業時間ニ至リ直ニ就業シ得ル樣注意スヘシ

第六條　職工人夫ハ每朝就業ノ時間十分前ニ於テ總テ掛員ノ面前ニ整列セシメ其著到ヲ改メ一人每日番號札ヲ交付シ以テ當日雇入ノ證票トス而シテ終業後モ亦同一ノ手續ニ據リ其人員ヲ改メ番號札ヲ返納セシム若シ此札ニ不足ヲ生スルトキハ其不足ニ對シテハ賃金ノ支拂ヲナササル可シ

第七條　人員檢査ハ前條ノ外臨時之ヲ行フコトアルヘシ此場合ニ於テ若シ其人員ニ不足アルトキハ亦前條ニ準スルモノトス

第八條　直傭職工人夫ハ左記ノ範圍內ニ於テ各自ノ技倆體格等ニ應シテ其賃金ヲ定ム但辭令書ヲ受領セル職工及ヒ工夫ハ從來ノ規定ニ據ル（明治三十三年十月二十六日（市參事會議決）第八千四百六十一號ヲ以テ本條改正）

一　人夫頭	一日ノ賃金	六拾錢以內
一　同小頭	同	五拾錢以內
一　人夫男	同	五拾錢以內
一　同　女	同	貳拾五錢以內
一　煉瓦工	同	九拾五錢以內
一　石　工	同	壹圓以內
一　大　工	同	九拾五錢以內
一　左　官	同	八拾五錢以內
一　鍜冶職	同	壹圓以內
一　植木職	同	六拾錢以內

第九條　直傭職工人夫ニシテ數十日間缺勤セス其勞働衆ニ超ユルモノハ其賃金ヲ增給スルコトアル可シ

第十條　職工人夫ニシテ一度增給セシモノト雖モ其爾後出精セサルモノハ掛員ノ相當ト認ムル賃金ニ引下クヘシ

第十一條　職工人夫ハ其從事セシムヘキ事業ノ如何ニヨリ或ル時限內臨時其賃金ヲ增給スルコトアルヘシ

第十二條　職工人夫ノ勞働時間ハ第三條ノ如ク定ムルト雖モ工事ノ都合ニヨリ早出居殘ヲ命スルコトアル可シ

此場ニ於テハ一日ノ賃金ヲ第三條ノ勞働時間ニ割當以テ其使役セシ時間ニ應シテ支拂フヘシ但夜間降雨又ハ終日水中或ハ泥濘中ニ勞働セシムル等ノ如キ非常ノ場合ニハ本條ノ外其賃金ニ三割以內ノ增給支拂ヲナスコトアルヘシ

第十三條　左ノ場合ニ該當スルモノノ賃金支拂ハ前條ト同シク其一日ノ賃金ヲ第三條ノ勞働時間ニ割當其就業ノ時間ニ應シテ計算スルモノトス

一　第二十一條ニ該當スルモノ

一　疾病其他本人ノ都合ニヨリ終業時間前ニ退場スルモノ

第十四條　工事上ノ都合ト掛員ノ見込ニヨリ其事業ヲ人頭ニ分割シテ施行セシムルコトアルヘシ此場合ニ於テハ其割當ヲ受ケタル事業ヲ成就セシメサル中ハ終業ノ定刻ニ至ルト雖モ濫リニ退場スルヲ許サス若シ其業ヲ成就セシムルニ至ラスシテ退場ヲ認許シタル場合ニ於テハ其出來高ノ步合ニ應シ其賃金ヲ支拂フモノトス但割當スル事業ノ出來シタルトキハ掛員ノ檢查ヲ受クヘシ

第十五條　前條ノ如ク其事業ヲ割當施行セシメタル場合ニ於テハ其割當事業ノ出來次第隨時退場スルモ妨ケナシ又本人ノ望ニ依リ更ニ其割當以外ノ仕事ヲ爲サシムルコトアルヘシ而シテ其賃金ハ出來形ニ對シ前條ノ割合ヲ以テ支拂フモノトス

第十六條　職工人夫ニシテ疾病又ハ他ノ事故ニヨリ退場セントスルモノハ職工頭若クハ人夫頭ヲ經テ(口頭)掛員ノ允許ヲ受クヘシ

第十七條　直傭職工人夫若クハ其差出人ハ毎日事業ニ要スル諸器具(鍬、鋤、鶴嘴、鋤簾、畚、荷棒、シヤフル、鏝等)ヲ其所要ニ應シテ共用スヘシ但煉瓦疊甃ニ用ユル水桶、遣リ型、結成石練臺、水換喞筒其他水換機起重器、槓杆等ハ當所ヨリ貸與スヘシ

第十八條　前條ニ掲クル所ノ供用スヘキ器具ニシテ唯其形ノミヲ存シ實用ニ足ラサルモノ又ハ足ラスト認ムルモノハ直ニ引換ヲ命スヘシ若シ速カニ引換ヘサルトキハ當所ヨリ貸與シ第十九條ノ手續ヲ履行スルモノトス

第十九條　第十八條ニ定ムル所ノ諸器具ハ其差出人ヨリ供用スヘシト雖モ當所ノ都合ニ依リ之ヲ貸與スルコトアルヘシ此場合ニ於テハ相當料金ヲ其職工賃若クハ人夫賃金ノ內ヨリ控除スルモノトス

第二十條　各職工人夫ハ貸與品ヲ使用シタル場合ニ於テハ終業後二十分以內ニ諸器具機械等ヲ取纏メ返納スヘシ若シ其員數ニ不足ヲ生スルカ或ハ事業中其他故意ニ破損セシメタル場合ニ於テ其不足ノ分ハ三日以內ニ現品ヲ以テ辨償セシメ破損ノ分ハ相當

ノ修理ヲ命ス若シ修繕ヲ爲シ能ハサル程ニ破損セシメタルトキハ不足ノ場合ト同シク現品ヲ以テ償却ヲ命スヘシ若シ之ヲ怠ルトキハ其代價ヲ直傭職工人夫ハ其總賃金ノ內ヨリ引去リ又單獨直傭ニ採用サレタル職工人夫ニアリテハ其賃金ノ支拂ヲ止メ本文ノ手續ヲ了リタル後支拂ヲ爲スヘシ

第二十一條　職工人夫ニシテ其勞働ニ耐ヘサルモノ若クハ怠惰ナルモノ又ハ事業中他ノ人夫ノ働作或ハ工事上ニ妨害ヲ爲スモノ若クハ爲スト認ムルモノ或ハ掛員ノ指揮命令ニ背戾シタルモノハ直チニ退場ヲ命スヘシ

第二十二條　職工頭若クハ人夫頭ニシテ左ノ各項ニ背戾スルモノハ直ニ使役ヲ止ム

一　職工頭若クハ人夫頭ノ職務ヲ盡ササルモノ

一　不適當ノ職工人夫若クハ小頭ヲ差出シ引換ヲ命スルモ其命ニ從カハサルモノ若クハ引換ユルモ前同等ノモノヲ差出シ改メサルモノ

一　掛員ノ命スル職工人夫ヲ差出シ得サルモノ

第二十三條　掛員ヨリ特ニ指命シタル職工人夫ハ其差出人ニ於テ自由ニ引換ユルヲ許サス

第二十四條　事業中傳染病又ハ流行病等ニ罹リタルモノアルトキハ差出人ハ速ニ相當ノ手續ヲナシ場外ニ立退カシムヘシ且平癒後ト雖モ相當ノ手續ヲ經タル後ニアラサレハ現場ニ差出スコトヲ許サス

●水道直傭職工人夫募集方法

明治二十八年三月〔市參事會議決〕

第一　水道課ハ其所要ニ應シ充分信用シ得ルモノヨリ指名シテ職工頭及人夫頭ヲ選定スルモノトス

第二　本工事ニ要スル職工人夫ハ前項ノ職工頭及人夫頭ニ命シテ差出サシムルモノトス

●水道工事用材料竝備品中特殊品製作施行方

明治四十年六月四日〔市參事會議決〕第二千六百二十三號

水道工事用材料竝ニ備品ニシテ特殊ノ材質若クハ技能ヲ要スルモノノ製作ハ配水工營所屬ノ材料及職工ヲ使用シ水道課長限リ水道課製作工場ニ於テ施行シ其費用ハ竣成ノ上各相當經濟科目ヘ振替ノ手續ヲ爲スモノトス

●水道工事用器具機械ノ一部修繕施行方

明治四十年六月四日〔市參事會議決〕第二千六百二十一號

水道工事用器具機械ノ一部修繕ハ配水工費所屬ノ製作品材料及職工ヲ使用シ水道課長限リ水道課製作工場ニ於テ施行シ其費用ハ竣成ノ上時時各相當經濟科目ニ振替ノ手續ヲナスモノトス

●水道擴張工事用材料取扱順序

明治三十九年十月二十六日〔市參事會議決〕第四千八百八十五號

第三期水道擴張工事用材料ノ出納ハ別紙ノ順序方法ニ依リ取扱フモノトス

第三擴張工事用材料請求ニ對スル倉庫ニ於ケル取扱規定　倉庫

一　倉庫ハ工務掛ヨリ交付ヲ受ケタル請求書ニ依リ材料ヲ渡ストキハ現品ト共ニ送付書ヲ現場擔當者ニ送付スルモノトス

一　請求書ノ品目數量等ハ第壹號日表用紙ヘ轉記シ第貳號受拂簿記帳ノ材料トナスト共ニ一工事ノ了ル毎ニ工務掛ノ精算表ト對照ノ爲メ第參號材料差引表ニ轉記シ倉庫拂出ノ員數ト實際使用竝ニ返納ノ員數ヲ確實ナラシメ工事精算ノ便ニ供スルモノトス

一　材料請求竝ニ返納書ニハ其擔當技手名ヲ表ハスノ外工事ノ場所ニ對スル圖面番號ヲ記入スルモノトス

一　倉庫ハ工務掛ノ精算表ニ依リ直管ノ口座ニ於テ其本數ニ對スル戻入ヲナシ實際使用セル直管本數ト一致セシム

一　擴張工事用材料中他經濟ニ轉用スルモノアルトキハ倉庫ハ帳簿上（受拂簿）等シク拂出ニ屬スルモ第三工事ニ使用シタルモノニ非サルヲ以テ第貳號記帳例ニ依リ他經濟ヘノ拂出ハ朱書トシ從テ累計モ朱墨ノ二段ニ表ハシ工事終了ニ際シ一目使用シタル員數ヲ知ルノ便ニ供ス

以　上

（表、簿式共略ス）

第三擴張鐵管敷設工事規定　工務掛

一　鐵管敷設工事ハ最初敷設圖面ヲ工務掛ヨリ現場擔當者ニ交付スルモノトス

一　現場擔當者ハ工務掛ヨリ敷設圖面ノ交付ヲ受ケ工事著手ヲ命セラレタルトキハ實地ヲ踏査シ所要鐵管異形管及附屬器具材料等ヲ取調ヘ別紙第一號書式ノ請求書ニ品目數量ヲ記入シ捺印ノ上工務掛ヲ經テ倉庫掛ニ請求スルモノトス

一　工務掛ハ現場擔當者ヨリ材料ノ請求アリタルトキハ材料受拂簿ニ記入シ掛長若クハ主任ノ捺印ヲ受ケ之レヲ倉庫掛ニ送付スルモノトス

一　倉庫掛ハ材料ノ請求ヲ受ケタルトキハ其品目數量ヲ調査シ直ヲニ送付書添付ノ上現品ヲ現場擔當者ニ交付スルモノトス

一　現場擔當者ハ倉庫掛ヨリ現品ノ交付ヲ受ケタルトキハ送付書ト現品トヲ對照シ第二號書式ノ受拂簿ニ記入スルモノトス

一　現場擔當者ハ工事ノ有無ニ拘ハラス日表第三號書式ヲ調製シ諸材料使用高ヲ詳細明確ニ記載シテ工務掛ニ提出スルモノトス

一　現場擔當者ハ一工事ノ竣ル毎ニ返納ス可キ材料及附屬器具ノ殘高ヲ記載セル返納書第四號書式ヲ工務掛ニ提出シ工務掛ハ整理ノ上之レヲ倉庫掛ニ交付シ同掛ハ領收證ヲ作リテ之レヲ現場擔當者ニ送付スルモノトス但返納ス可キ材料物品ニシテ其ノ次ノ工場ニ使用スル場合ハ返納書ニ請求書ヲ添付シ現場擔當者ハ更ニ受ケタルモノトシテ之レカ取扱ヲ爲スモノトス

一　現場擔當者ハ一工事竣工シタルトキハ之レカ精算表第五號書式ヲ調製シ捺印ノ上二日以内ニ工務掛ニ提出スルモノトス但切管使用ノ場合ハ殊ニ綿密ニ整理ヲナスヘシ

一　前各項ノ順序ヲ經テ一工事落成セル時ハ更ニ圖面ノ交付ヲ受ケ以後同手續ニ依リ工事施行スルモノトス

一　鐵管敷設工事ニ使用ノ諸材料ハ別紙第六號書式ノ材料受拂原簿ニ總テ記入シ整理スルモノトス

以　上

（表、簿式共略ス）

工事用諸材料出納順序　淀橋淨水場

一　工事用諸材料品ノ納付アリシトキハ事務員ハ調度課ヨリ通知アルヘキ物品引渡通知書ニヨリ別紙第一號樣式工事用諸材料受拂簿ヘ支出科目毎ニ區別登記シ所要ニ應シテ之ヲ拂出シ整理スルモノトス

二　現場主任ニ於テ工事用材料ヲ請求セントスルトキハ第二號樣式ノ請求書ヲ調製シテ場長ノ檢印ヲ受ケ事務員ヨリ拂渡ヲ受ケ其數量ヲ第三號諸材料受拂簿ニ登記シ現場受拂ヲ整理スルモノトス

受拂簿ニ登記スヘキ價格ハ購買決定通知書（調度課ヨリ通知アルヘキモノ）ニヨリ登記スルモノトス

三　現場主任ニ於テ諸材料ヲ使用ナシタルトキハ第四號樣式工事日報ヲ調製シ其使用ノ實蹟ヲ明瞭ニナシ置クモノトス

四　現場ニ現在スル拂出材料品ノ現在高ハ日日對照調査シ得ラルルモノハ必ス帳簿ノ殘高ト照合シ其日日ニ對照シ能ハサルモノニ限リ其工事ノ完了若クハ材料品ノ次回交付前ニ必ス照合スルモノトス

五　材料品中支出科目以外ノ用途ニ流用使用セントスル場合ハ其拂出品ニアリテハ名稱數量等ヲ事務員ニ申出テ轉記流用ノ手續ヲナシタル上使用スルモノトス

納入ノ儘拂出ヲナササル材料品ニアリテハ本項ノ手續ハ事務員ニ於テ轉記整理シ置クモノトス

六　不用品ヲ生シタル時ハ其ノ拂出品ニアリテハ戻入ノ手續ヲ爲スモノトス但戻入品ニシテ使用セントスルトキハ第五項

ノ轉記流用手續後ニアラサレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス
（樣式總テ略ス）

水道鐵管敷設跡道路修繕及費用支出方

明治三十三年五月二十九日
〔市參事會議決〕第四千二百二十九號

水道鐵管擴張敷設工事漸次著手ニ付テハ右敷設跡道路復舊修理方ノ義ハ從來通リ土木課ニ於テ施行スルモノトシ其工事ノ分界及費用支出方等ニ關シテハ左ノ通リ定ムルモノトス

一　水道課ニ於テハ鐵管敷設ニ先チ其場所及豫定間數等ヲ土木課ニ通知スルコト

一　土木課ハ右通知ニヨリ敷設濟箇所ヨリ漸次跡修繕施行ノコト

一　鐵管敷設跡ハ水道課ニ於テ地盤迄埋立突固メヲ爲シ其以後ニ係ル砂利敷落込或ハ不陸直シ等ハ土木課ニ於テ施行ノコト

一　敷設跡殘土ヲ生スルトキハ取片付ハ土木課ニ於テ施行ノコト

一　水道工事跡道路修繕費ハ敷設長三尺以上ノモノハ壹間トシ長三尺以内ノモノハ五分ノ割合ヲ以テ算出シ三箇月毎ニ取纒メ水道費ヨリ道路費修繕費ヘ組入ルルモノトス（明治四十二年四月二十七日〔市參事會議決〕第千九百六十二號ニ基キ本項訂正）

普通道路水道鐵管敷設跡道路復舊費（明治四十二年四月二十七日〔市參事會議決〕第千九百六十二號ヲ以テ本費改正）

一　金四拾七錢六厘

但長壹間　巾二尺五寸

内譯

種目	數量	單價	計	摘要
八分目篩玉川砂利	壹勺九才	一一円六五〇	円三二一	長壹間巾三尺五寸厚二寸敷
土方人夫	參分五厘	五〇〇	一七五	不陸直地形突堅メ砂利敷均シ蛸突キ跡形附共一式
砂利運送	壹勺九才	四二〇〇	〇八〇	丁數約十五丁ノ處立一坪ニ付人夫七人五分但一人金五拾六錢ノ割
計			四七六	

民有道路ヘ水道鐵管敷設出願方

明治二十八年七月一日
市訓令第八十九號（各區役所）

公衆ノ用ニ供スル民有道路ヘ市區改正ノ設計ニ係ル水道改良用鐵管ノ敷設ヲ出願スルモノアルトキハ其筋ノ認許ヲ經テ願意ヲ採用スル儀可有之候條右ノ場合ニ於テハ豫メ當廳水道課ニ就キ出願ノ手續承合候樣地主ヘ示達スヘシ

第三節　給水通則

●市水道使用條例

明治四十年三月二十七日
市條例第一號

第一章　通則

第一條　給水ハ左ノ四種ニ分ツ

一　專用給水　一戸ノ專用ニ屬シ水量ヲ計ラスシテ供給スルモノ
二　共用給水　二戸以上ノ共用ニ屬シ水量ヲ計ラスシテ供給スルモノ
三　普通計量給水　一戸又ハ一箇所ノ專用ニ屬シ水量ヲ計リテ左ノ使用ニ供給スルモノ
　一　官衙、公署、兵營、學校、病院、會社、劇場、寄席、湯屋、豆腐屋、宿屋、料理屋、貸座敷、製造業、釀造業、印刷業、賣物商、魚商、酒小賣商、漬物商、洗濯屋、理髮店其他之ニ類スルモノ但多量ノ水ヲ使用セスト認ムルモノハ之ヲ除ク
　一　一戸十一人以上又ハ居住人員ノ一定セサルモノ
　一　牛馬四頭以上ヲ飼養スルモノ
　一　船舶又ハ船舶給水所
　一　前各項ノ外多量ノ水ヲ使用スルモノ
四　特別計量給水　水量ヲ計リテ左ノ使用ニ供給スルモノ
　一　噴水、瀧、泉池、庭園ノ撒水等
　一　水槽ヲ設ケテ他ニ導水スルモノ但本市ノ指定ニ依リ設置シタルモノハ之ヲ除ク
　一　原動力
　一　工事其他ノ爲メ一時使用ニ係ルモノ

第二條　專用給水ノ使用ニ該當スルモノト雖其希望ニ依リ普通計量給水ト爲スコトヲ得
給水ハ二種以上ヲ併用スルコトヲ得ス但特別計量給水ハ此限ニアラス
給水種別ノ決定ハ本市ノ認ムル所ニ依ル

第三條　防火用ノ爲メニ私設消火栓ヲ設クルコトヲ得
私設消火栓ハ火災又ハ使用演習ノ場合ノ外使用スルコトヲ得ス
私設消火栓ハ本市ニ於テ封緘ヲ附ス

第四條　給水ハ變災又ハ水道工事其他已ムヲ得サル場合ノ外制限若クハ停止スルコトナシ但給水ヲ制限シ若クハ停止スヘキ場合ハ本市ニ於テ其順序區域等ヲ定メ之ヲ告知ス

第二章　給水請求及裝置

第五條　給水ヲ請求セントスル者ハ當廳又ハ所轄區役所ニ申出ツヘシ給水管及給水用具ノ位置變更、改造、增設、修繕若クハ撤去ヲ爲サントスルトキ亦同シ但撤去ノ場合ニハ未納ニ係ル料金工費ヲ完納スヘシ
他人ノ給水管ヨリ支分引用セントスル者ハ本管所有者ノ承諾ヲ

得タルコトヲ證スヘシ
本管所有者ハ給水ノ廢止又ハ撤去ヲ爲サントスルトキハ豫メ支分引用者ニ通知スヘシ此場合ニ於テ支分引用者本管取得ノ手續ヲ爲ササルトキハ給水ヲ廢止シタルモノト看做ス
共用給水ハ地主又ハ家主ヨリ請求スヘシ若シ數名ノ地主又ハ家主共同シテ請求セントスルトキハ總代人一名ヲ選定スルモノトス但借地人又ハ借家人連署シ總代人一名ヲ選定シ請求スルコトヲ得
給水請求者其區ニ居住セサルトキハ料金其他ノ事務ヲ處辨セシムル爲メ其區內ニ代理人ヲ選定スヘシ

第六條　總代人ハ給水ニ關スル一切ノ責任ヲ負擔シ給水管及給水用具ヲ處分スル權能ヲ有スルモノトス
總代人又ハ代理人不適任ナリト認メタルトキハ其變更ヲ命スルコトアルヘシ

第七條　共用給水ノ請求者ニハ使用者ノ戶數ニ應シ鑑札及鍵ヲ交付ス其不用ニ歸シタルモノハ直ニ之ヲ返納スヘシ
使用者ハ汲水ノ際必ス鑑札、鍵ヲ携帶スヘシ
鑑札又ハ鍵ヲ毀損亡失シ更ニ交付スルトキハ手數料トシテ各金貳拾錢ヲ徵收ス
亡失シタル鑑札、鍵ヲ發見シタルトキハ直ニ返納スヘシ

第八條　給水裝置ハ本市ニ於テ之ヲ爲ス
工事ハ工費ノ納付又ハ月賦證書ノ提出ヲ待テ著手ス但本市ニ於テ其必要ヲ認メサルトキ及金五圓以內ノ工事並修繕工事ハ此限ニ在ラス
給水管及給水用具ノ位置ハ請求者ニ於テ指定スヘシ
前項ノ指定ニ對シ第三者ノ異議アルモ本市ハ其責ニ任セス
水栓及量水器ノ位置不適當ナリト認ムルトキハ之ヲ變更セシムルコトアルヘシ
前項ノ場合ニ於テ相當指定期日內ニ變更ノ手續ヲ爲ササルトキハ本市直ニ工事ヲ施行シ其費用ヲ徵收ス

第九條　給水請求ニ先チ工費額ヲ知ラントスル者ハ設計ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第十條　給水ノ請求ヲ取消シ又ハ前條ノ請求者ニシテ工費額通知ノ後十五日以內ニ給水ノ請求ヲ爲ササルトキハ金五拾錢以上金五圓以下ノ設計手數料ヲ徵收ス但請求者ニシテ官衙、公署若クハ實地調査前ノモノハ此限ニ在ラス

第十一條　船舶給水所ヲ設ケントスル者ハ本市ノ許可ヲ受クヘシ

第十二條　計量給水ニハ本市ニ於テ量水器ヲ裝置ス其保管ハ給水用具所有者ノ責任トス
本市ノ檢査承認ヲ受ケ私有ノ量水器ヲ使用スルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テハ金五拾錢以上金五圓以下ノ檢査手數料ヲ徵收ス

第十三條　給水請求者ハ本市ノ檢査承認ヲ受ケ自ラ水槽ヲ設ケ又ハ量水器以下三尺ノ部分ヨリ流末裝置ヲ爲スコトヲ得其增設、變更、修繕ノ場合亦同シ
前項ノ工事ハ著手三日前其落成シタルトキハ三日以內ニ當廳ニ屆出テ實地檢査ヲ受クヘシ
前二項ノ場合ニ於テハ金五拾錢以上金五圓以下ノ檢査手數料ヲ徵收ス

第十四條　給水使用者ノ門戶ニハ標識ヲ揭ク

第十五條　給水管、給水用具又ハ量水器ニ異狀アリト認ムルトキハ速カニ所轄區役所ニ申出ツヘシ
前項ノ場合ニ於テ量水器ノ試驗ヲ請求シ試驗ノ結果異狀ヲ認メサルトキハ金五拾錢以上金五圓以下ノ試驗手數料ヲ徵收ス

第十六條　左ノ場合ニ於テハ三日以前ニ所轄區役所ニ申出ツヘシ
一　給水ヲ開始、中止、廢止セントスルトキ
二　演習ノ爲メ私設消火栓ヲ使用セントスルトキ
三　他人ノ給水管及給水用具ヲ管理セントスルトキ

第十七條　左ノ場合ニ於テハ七日以內ニ所轄區役所ニ申出ツヘシ
一　給水種別ヲ變更スヘキ事由ヲ生シ又ハ料金ノ標準ニ異動アリタルトキ
二　火災ノ爲メ私設消火栓ヲ使用シタルトキ
三　給水管及給水用具所有名義ノ變更又ハ貸借ヲ爲シタルトキ
四　代理人ノ變更ヲ爲シタルトキ
五　共用給水ノ總代人ヲ變更シタルトキ
六　共用給水使用者ノ增減アリタルトキ
七　鑑札、鍵ヲ毀損亡失シタルトキ
給水管及給水用具ヲ讓受ケ又ハ新ニ共用給水ノ總代人ト爲リタル者ハ前者ノ權利義務ヲ繼承スルコトヲ要ス

第十八條　給水管及給水用具ノ所有者所在不明ニシテ適當ナル管理者ヲ附セス若クハ正當ノ事由ナク六箇月以上水道ヲ使用セサルトキハ其給水管ヲ切斷スルコトアルヘシ

第三章　給水工費

第十九條　道路變更其他ノ事由ニ依リ水道本支管ノ移轉ヲ必要トスルトキハ之ニ伴フ各戶給水管ノ改造工事ハ所有者ノ請求ヲ待タス本市ニ於テ之ヲ施行ス
前項ノ費用ハ水道本支管移轉ノ必要ヲ生セシメタル者ノ負擔トシ給水管ニ剩餘ヲ生シタルトキハ之ヲ其所有者ニ交付ス（明治四十一年三月十五日市條例第一號ヲ以テ本條ヲ追加シ元第十九條ヲ第二十條トシ以下順次繰下ク）

第二十條　給水工費ハ給水請求者ノ負擔トス但給水開始ノ日ヨリ三箇月以內ニ給水管又ハ給水用具ニ瑕疵アルコトヲ發見シタルトキハ本市ノ費用ヲ以テ之ヲ修補ス
給水工費ハ本市ノ所定額ニ依リ徵收シ過不足アルモ之ヲ還付又ハ追徵セス

第二十一條　工事施行ノ際請求ニ依リ設計ヲ變更シタル爲メ給水工費ニ金壹圓以上ノ過不足ヲ生シタルトキハ竣成後之ヲ還付又ハ追徵ス

第二十二條　給水請求者工費額ノ通知ヲ受ケタルトキハ速ニ之ヲ

所轄區役所ニ納付スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ十五日以内ニ納付セス又ハ月賦證書ヲ差出サヽルトキハ給水請求ヲ取消シタルモノト看做ス但第九條ニ依リ工費額ノ通知ヲ受ケタル者ニ在テハ其期間ヲ給水請求ノ日ヨリ起算ス

第二十三條　給水工費ヲ一時ニ納付シ能ハサル者ハ本市ノ定ムル利子ヲ加ヘ十二箇月以内ノ月賦ヲ以テ納付スルコトヲ得但修繕、變更、改造、增設、撤去等ニ係ルモノハ此限ニ在ラス

月賦納付ヲ爲サントスル者ハ保證人連署ノ上月賦證書ヲ差出スヘシ

保證人ハ本市内ニ居住シ土地又ハ家屋ヲ所有スル者ニ限ル

保證人ハ連帶ノ責任アルモノトス

保證人其資格ヲ失ヒタルトキハ更ニ保證人ヲ定メ第二項ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十四條　給水工費ノ月賦納付ニ係ル給水管及給水用具ハ月賦皆納ニ至ル迄本市ニ其所有權ヲ留保ス但月賦皆納迄ハ給水請求者ヲ管理者ト看做ス

第二十五條　月賦工費皆納前給水ヲ廢止シ又ハ變災其他ノ事故ニ因リ給水管及給水用具ヲ毀損亡失シタルトキト雖其未納ニ係ル月賦工費ハ之ヲ徵收ス

第二十六條　月賦工費ノ納付ヲ怠リタルトキハ給水管及給水用具ヲ撤去シ既納ニ係ル工費ハ之ヲ還付セス若シ既納ノ工費ニシテ撤去費竝其材料價格ノ缺損ヲ償フニ足ラサルトキハ更ニ其差額ヲ徵收ス

第四章　料金

第二十七條　水料ハ左ノ割合ニ據リ徵收ス

専用給水ノ料金ハ一箇年ニ付左ノ割合トス

一　一戸五人迄金五圓トシ一人ヲ增ス毎ニ金五拾錢ヲ加フ

二　支栓ヲ設クルモノハ一栓ニ付金參圓

三　支栓ヲ設ケサル浴槽ハ一個ニ付金壹圓

四　自用牛馬ヲ飼養スルモノハ一頭ニ付金參圓五拾錢

五　營業用牛馬ヲ飼養スルモノハ一頭ニ付金貳圓五拾錢

共用給水ノ料金ハ一戸一箇年金壹圓五拾錢トス

普通計量給水ノ料金ハ一箇月ニ付使用高十立方メートル迄ハ金參拾錢以上一立方メートルヲ增ス毎ニ湯屋營業ハ金貳錢其他ハ金參錢ヲ加フ

特別計量給水ノ料金ハ一立方メートルニ付水槽ハ金五錢其他ハ金拾錢トス

第二十八條　私設消火栓演習ノ料金ハ左ノ割合ニ據リ徵收ス

一　量水器ノ裝置アルモノハ普通計量給水水料ノ外一口一回ニ付金五拾錢

二　量水器ノ裝置ナキモノハ一口一回ニ付金壹圓

第二十九條　料金ハ給水用具ノ所有者若クハ管理者又ハ共用給水總代人ヨリ徵收ス

第三十條　水料ハ毎年度左ノ二期ニ分チ前期ハ五月末日後期ハ十一月末日迄ニ徵收ス但官衙、公署ノ水料ハ隨時徵收スルコトヲ得

前　期　四月一日ヨリ九月三十日マテ

後　期　十月一日ヨリ翌年三月三十一日マテ

徵收期間内ニ開栓シタルモノ又ハ一時ノ給水ニ係ルモノノ水料ハ隨時之ヲ徵收ス

湯屋營業者其他多量ノ水ヲ使用スル者ニ對スル水料ハ一箇月毎ニ之ヲ徵收スルコトヲ得

第三十一條　専用給水及共用給水ノ水料ハ毎期初月一日現在ノ標準數ニ據リ之ヲ査定ス

給水ヲ開始、中止、廢止シタルトキノ水料ハ月割ヲ以テ徵收ス

但給水ヲ中止シタル月ニ於テ更ニ給水スルトキハ其月ノ水料ハ之ヲ徵收セス

一期間内ニ戸數、人口、牛馬及浴槽ノ數ニ異動ヲ生スルモ水料ハ之ヲ增減セス

第三十二條　計量給水ノ水量ハ量水器ヲ以テ之ヲ定ム但一時ノ給水ニシテ量水器ノ裝置ヲ爲ササリシ場合ハ見積量ニ據ル

計量給水ノ水料ハ官衙、公署ヲ除ク外給水開始ノ際一期間ノ見積額ヲ豫納セシメ以後毎期初月十日迄ニ點檢シ其使用水料ニ據リ精算額ヲ徵收ス但給水ヲ止メタルトキハ其日迄ノ使用水量ニ據ル

一箇月毎ニ徵收スルモノニ在テハ前項ノ見積額ヲ二箇月分トス

計量給水ノ開通シタル月ノ使用水量ハ翌月ニ合算ス

量水器ニ異狀ヲ生シ又ハ給水管、給水用具ニ破損アリタル場合ノ水料ハ其改修前後二箇月間ニ於ケル使用水量ノ平均量ニ據リ算定ス

第二項豫納額ヲ增減スルノ必要アルトキハ三十日以内ニ其差額ヲ追徵又ハ還付ス

第三十三條　給水ノ種別ヲ變更シタル月ノ水料ハ舊種別ニ據リ徵收ス但計量給水ヲ専用給水ニ變更シタル月ノ水料ハ其前月分ノ水量ニ據リ徵收ス

第三十四條　量水器使用料ハ左ノ割合ニ據リ徵收ス

内　徑	一箇月使用料
十二又ハ十三ミリメートル	金貳拾錢
十六ミリメートル	金貳拾貳錢
二十ミリメートル	金貳拾五錢
二十五ミリメートル	金參拾六錢
三十ミリメートル	金四拾六錢
四十ミリメートル	金五拾四錢
十ミリメートル	金七拾參錢
七十五又ハ八十ミリメートル	金九拾五錢
百ミリメートル	金壹圓參拾五錢
百五十ミリメートル	金貳圓貳拾五錢
二百ミリメートル	金參圓貳拾錢

二百五十ミリメートル　金四圓四拾錢

量水器使用料ハ水料徴收ノ例ニ依リ之ヲ徴收ス

量水器使用料ハ裝置中之ヲ徴收ス但量水器取付竝取外ノ月ハ各全月分ヲ徴收ス

第三十五條　慈善若クハ公共事業ノ爲メニスル給水ニ對シテハ特ニ料金ヲ輕減若クハ免除スルコトアルヘシ

變災又ハ水道工事等ノ爲メ給水ヲ制限シ若クハ停止スルモ水料ハ之ヲ減免セス違背處分ノ爲メ給水ヲ停止スル場合亦同シ

第五章　違背處分

第三十六條　給水用具ノ所有者、管理者、共用給水總代人又ハ給水使用者ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三箇月以內給水ヲ停止シ又ハ六箇月分以內水料三倍迄ヲ增徴スルコトアルヘシ

一　工費又ハ料金ヲ期限內ニ納付セサル者

二　給水ヲ濫用シ又ハ他人ニ分與シタル者

三　恣ニ導水裝置ヲ爲シ若クハ給水管、給水用具、量水器ヲ移動變更又ハ開閉シタル者

四　故ナク水道檢查員ノ檢查ヲ拒ミタル者

五　料金ノ標準トナルヘキ要件ノ屆出ヲ爲サス又ハ虛僞ノ屆出ヲ爲シタル者

六　前各號ノ外此條例ニ違背シタル者

本條ノ處分ヲ受ケタル者違背ノ事項ヲ釐正シタルトキハ其處分ヲ輕減又ハ免除スルコトアルヘシ

第三十七條　何人ヲ問ハス前條第一項第二號第三號第四號第六號及左ノ事項ニ該當スル者ハ金五錢以上金壹圓九拾五錢以下ノ〔科〕料ニ處ス

一　共用給水ノ鑑札、鍵ヲ携帶セスシテ汲水シ若クハ鑑札、鍵ヲ貸借シ又ハ模造ノ鑑札・鍵ヲ使用シ汲水シタル者

附則

第三十八條　市設共用栓及市外ノ給水ニ關シテハ別ニ定ムル所ニ依ル

第三十九條　本條例中給水請求廢止等ニ關スル書式及章標雛形ハ〔東京市參事會〕之ヲ定ム

第四十條　本條例ハ明治四十年四月一日ヨリ施行ス

第四十一條　給水ノ種別ヲ變更スヘキモノ又ハ本條例ニ牴觸スルモノハ明治四十年十二月三十一日迄ニ其手續ヲ爲スヘシ

第四十二條　明治三十四年十二月東京市告示第百六號東京市水道給水規則及明治三十四年七月東京市條例第一號東京市水道使用料ニ關スル細則ハ本條例施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

●市水道市設共用栓規則

明治四十年三月二十七日
市告示第十八號

第一條　市設共用栓ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ使用セシム

一　給水裝置ヲ爲スコト能ハサル者

二　途上ノ公衆

三　特ニ本市ノ承認ヲ受ケタル者

前項ニ該當セサル者ト雖變災其他衞生上一時供給ノ必要ヲ認メタル場合ハ區域、期間ヲ定メ特ニ使用セシムルコトアルヘシ

第二條　前條第一項第一號ニ依リ市設共用栓ヲ使用セントスル者ハ地主、家主又ハ其管理人ヨリ所轄區役所ニ請求スヘシ

前項ノ地主、家主又ハ其管理人ハ料金ノ納付其他一切ノ責任ヲ負擔スヘシ

前條第一項第三號ニ依リ市設共用栓ヲ使用セントスル者ハ地主、家主又ハ其管理人ノ連署ヲ以テ所轄區役所ニ申出テ承認ヲ受クヘシ

前項ノ地主、家主又ハ其管理人ハ料金納付ニ付使用者ト連帶ノ責任アルモノトス

第三條　料金ハ左ノ割合ニ據リ徴收ス

一　第一條第一項第一號ニ該當スルモノハ一戶一箇年金六拾錢

二　第一條第一項第三號ニ該當スルモノハ一戶一箇年金壹圓五拾錢

其他ノ使用者ハ料金ヲ徴收セス

第四條　前各條ノ外本市水道使用條例ヲ準用ス

附則

第五條　本規則ハ明治四十年四月一日ヨリ施行ス但本規則ニ牴觸スルモノハ明治四十年十二月三十一日迄ニ其手續ヲ爲スヘシ

●市水道使用條例竝市水道市設共用栓規則ニ關スル書式及章標雛形

明治四十年三月二十七日
市告示第二十一號

東京市水道使用條例竝ニ東京市水道市設共用栓規則ニ關スル書式及章標雛形左ノ通相定ム

明治三十四年十二月市告示第一〇七號ハ東京市水道使用條例施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

書式第一號

專用（普通計量／特別計重）給水請求書

一引用場所　何區何町何丁目何番地何號
一使用者　何　某
一業務　何　何
一人口　何　人
一支栓（支栓ヲ設ケサルモノ）　何箇所
一浴槽　何　個
一牛馬　自用　何頭　營業用　何頭

一用　途　家事、水槽、工事、原動力、噴水、瀧、泉池、庭園撒水
一流　末　何　箇　所

右東京市水道使用條例ニ依リ給水相受度候間工事施行相成度候也

明治　年　月　日
何區何町何丁目何番地
請求者　何　某㊞

東京市役所御中

書式第二號

共用給水請求書

一引用場所　何區何町何丁目何番地何號
一使用者　何　戸

右東京市水道使用條例ニ依リ給水相受度候間工事施行相成度候也

明治　年　月　日
何區何町何丁目何番地
請求者　地主　家主　總代人　何　某㊞
（總代人請求ノ場合ニハ使用者連署ヲ要ス）
何區何町何丁目何番地
右使用者　何　某㊞
同
同

東京市役所御中

書式第三號

私設消火栓設置請求書

一設置場所　何區何町何丁目何番地何號
一個　數　屋内　何個　屋外　何個

右東京市水道使用條例ニ依リ裝置致度候間工事施行相成度候也

明治　年　月　日
何區何町何丁目何番地
何　某㊞

東京市役所御中

書式第四號

位置變更、改造 増設、修繕、撤去 請求書

一水栓所在　何區何町何丁目何番地何號
一種別番號　何何給水第何號
一現住者　何　某

右位置變更、改造 増設、修繕、撤去 致度候間工事施行相成度候也

明治　年　月　日
何區何町何丁目何番地
水栓所有者　何　某㊞

東京市役所御中

書式第五號

支分引用届

一本　管　何區何町何丁目何番地何號所在何何給水第何號
一支　管　何區何町何丁目何番地何號何何給水

右支分引用ノ協議相整候ニ付テハ本栓ニ係ル加工費ハ支分引用者負擔可致候間連署屆出候也

明治　年　月　日
何區何町何丁目何番地
支分引用者　何　某㊞
何區何町何丁目何番地
本管所有者　何　某㊞

東京市役所御中

書式第六號

代　理　人　屆

一水栓所在　何區何町何丁目何番地何號
一種別番號　何何給水第何號

右給水ニ關スル料金納付其他一切ノ行爲ハ何某ヲシテ處辨セシメ候間連署屆出候也

明治　年　月　日
何區何町何丁目何番地
水栓所有者　何　某㊞
何區何町何丁目何番地
代　理　人　何　某㊞

東京市役所御中

書式第七號

共用給水鑑札鍵 請求 返納 書

一水栓所在　何區何町何丁目何番地何號
一水栓番號　第　何　號
一鑑　札　鍵　何　戸　（元何戸）

右 請求 返納 候也

明治　年　月　日
何區何町何丁目何番地
地主　家主　總代人　何　某㊞

東京市役所御中

右受領候也

右　何　某㊞

明治　年　月　日

書式第八號

給水工事設計請求書

一引用場所　何區何町何丁目何番地何號
一種　別　何何給水
一支栓 流末　何　箇　所

右工費額承知致度候間工事設計相成度候也

明治　年　月　日
何區何町何丁目何番地
請求者　何　某㊞

東京市役所御中

書式第九號

收入
印紙

量水器保管證

一量水器　何個　内徑　何ミリメートル

但何區何町何丁目何番地何號所在第何號普通/特別計量給水ニ裝置ノ分

右正ニ保管致候若シ毀損又ハ亡失シタルトキハ指定ニ從ヒ相當損害ノ責ニ任スヘク仍テ如件

明治　年　月　日

何區何町何丁目何番地

保管者　何　某㊞

東京市役所御中

書式第一〇號

流末裝置承認請求書

一水栓所在　何區何町何丁目何番地何號

一種別番號　普通/特別計量給水第何號

一用途方法　何何用ノ爲メ水槽ヲ設ケテ量水器以下三尺ノ部分ヨリ

一一日ノ消費水量豫定　何立方メートル

右自己ノ材料ヲ以テ流末裝置新設、改造、增設、變更、修繕、撤去、致度候間檢查承認相成度別紙圖面設計書及使用材料目錄相添ヘ請求候也

明治　年　月　日

何區何町何丁目何番地

水栓所有者　何　某㊞

東京市役所御中

書式第一一號

流末裝置工事著手/落成屆

一水栓所在　何區何町何丁目何番地何號

一種別番號　普通/特別計量給水第何號

右流末裝置何月何日工事著手/落成致候間實地檢查相成度候也

明治　年　月　日

何區何町何丁目何番地

水栓所有者　何　某㊞

東京市役所御中

書式第一二號

給水開始/廢止、中止請求書

一水栓所在　何區何町何丁目何番地何號

一種別番號　何何給水第何號

右何月何日ヨリ給水開始/廢止・中止相成度候也

明治　年　月　日

何區何町何丁目何番地

水栓所有者　何　某㊞

東京市役所御中

書式第一三號

私設消火栓使用演習屆

一水栓所在　何區何町何丁目何番地何號

一水栓番號　第　何　號

一量水器裝置アルモノ/量水器裝置ナキモノ　何　口　何　回

右何月何日午前/後何時ヨリ使用演習致度候間屆出候也

明治　年　月　日

何區何町何丁目何番地

水栓所有者　何　某㊞

東京市役所御中

書式第一四號

給水管及給水用具管理屆

一水栓所在　何區何町何丁目何番地何號

一種別番號　何何給水第何號

右所有者何某ハ當時不在ニ付給水ニ關スル料金納付其他一切拙者引受管理致候間屆出候也

明治　年　月　日

何區何町何丁目何番地

管理人　何　某㊞

東京市役所御中

書式第一五號

給水種別變更屆

一水栓所在　何區何町何丁目何番地何號

一現在種別番號　何何給水第何號

一變更種別　何何給水

一事　由　何何

右屆出候間工事ヲ要シ候ハハ直ニ施行相成度候也

明治　年　月　日

何區何町何丁目何番地

水栓所有者　何　某㊞

東京市役所御中

書式第一六號

異　動　屆

一水栓所在　何區何町何丁目何番地何號

一種別番號　何何給水第何號

一人　口　何　人　（元　何　人）

一浴　槽　支栓ヲ設ケサルモノ　何　個　（元　何　個）

一牛　馬　自用　何　頭　（元　何　頭）

　　　　營業用　何　頭　（元　何　頭）

一用　途　何　何　（元　何　何）

右何月何日ヨリ異動致候間屆出候也

明治　年　月　日

何區何町何丁目何番地

水栓所有者　何　某㊞

東京市役所御中

書式第一七號

私設消火栓使用屆

一水栓所在　何區何町何丁目何番地何號

一水栓番號　第　何　號

一量水器裝置アルモノ/量水器裝置ナキモノ　何　口

一使用時間　何年何月何日午前/後何時何十分ヨリ午前/後何時何十分マテ何時間

右火災ノ爲メ使用致候間屆出候也

何區何町何丁目何番地

明治 年 月 日 水栓所有者 何 某㊞

東京市役所御中

書式第一八號

給水管及給水用具相續屆

一水栓所在 何區何町何丁目何番地何號
一種別番號 何何給水第何號
一被相續人 何 某
一事由 何 何

右相續致候間屆出候也

明治 年 月 日 何區何町何丁目何番地 相續人 何 某㊞

東京市役所御中

書式第一九號

給水管及給水用具賣買（讓與）屆

一水栓所在 何區何町何丁目何番地何號
一種別番號 何何給水第何號

右賣買（讓與）致候ニ付左記ノ通引續給水相成度給水ニ關スル權利義務ハ一切買（讓受）人ニ於テ繼承致候間屆出候也

一使用者 何某又ハ何戶
一業務 何 何
一人口 何 人
一浴槽（支栓ヲ設ケサルモノ） 何 個

一牛馬（自用／營業用） 何頭 何頭
一用途 何

明治 年 月 日 何區何町何丁目何番地 賣（讓）渡人 何 某㊞
何區何町何丁目何番地 買（讓）受人 何 某㊞

東京市役所御中

書式第二〇號

給水管賣買（讓與）屆

一水栓所在 何區何町何丁目何番地何號
一種別番號 何何給水第何號

右聯合ニ係ル本管賣買（讓與）致候間屆出候也

明治 年 月 日 何區何町何丁目何番地 賣（讓）渡人 本管所有者 何 某㊞
何區何町何丁目何番地 買（讓）受人 支分引用者 何 某㊞

東京市役所御中

書式第二一號

給水管及給水用具貸借（貸借解除）屆

一水栓所在 何區何町何丁目何番地何號

一種別番號 何何給水第何號

右貸借（貸借解除）致候間「左記ノ通引續給水相成度（貸借ノ場合）」屆出候也

一使用者 何 某
一業務 何 何
一人口 何 人
一浴槽（支栓ヲ設ケサルモノ） 何 個
一牛馬（自用／營業用） 何頭 何頭
一用途 何 何

明治 年 月 日 何區何町何丁目何番地 貸渡人 何 某㊞
何區何町何丁目何番地 借受人 何 某㊞

東京市役所御中

書式第二二號

代理人變更屆

一水栓所在 何區何町何丁目何番地何號
一種別番號 何何給水第何號
一舊代理人 何 某

右代理人左記ノ通變更致候間屆出候也

明治 年 月 日 何區何町何丁目何番地 水栓所有者 何 某㊞
何區何町何丁目何番地 新代理人 何 某㊞

東京市役所御中

書式第二三號

共用給水總代人變更屆

一水栓所在 何區何町何丁目何番地何號
一水栓番號 第 何 號

右總代人左記ノ通變更シ給水ニ關スル權利義務ハ一切新總代人ニ於テ繼承致候間屆出候也

明治 年 月 日 何區何町何丁目何番地 舊總代人 何 某㊞
何區何町何丁目何番地 新總代人 何 某㊞
同 同 使用者 何 某㊞

東京市役所御中

書式第二四號

共用給水鑑札鍵再渡請求書

一水栓所在 何區何町何丁目何番地何號
一水栓番號 第 何 號
一鑑札 何 枚
一鍵 何 個

右毀損（亡失）致候間再渡相成度候也

何區何町何丁目何番地

明治 年 月 日 地主 家主 總代人 何 某㊞

東京市役所御中

右受領候也

明治 年 月 日 右 何 某㊞

書式第二五號 設計變更請求書

一引用場所 何區何町何丁目何番地何號

一種 別 何 何 給 水

一請求年月日 明治 年 月 日

右給水工事ハ都合有之候間既定ノ設計ヲ變更施工相成度工費增額ノ場合ハ指定ニ從ヒ納付可致候也

何區何町何丁目何番地

明治 年 月 日 請求者 何 某㊞

東京市役所御中

書式二六號 給水、位置變更、改造 增設、修繕、撤去 工事請求取消届

一引用場所 何區何町何丁目何番地何號

一種 別 何 何 給 水

一請求年月日 明治 年 月 日

右請求ハ都合ニ依リ取消候間届出候也

何區何町何丁目何番地

明治 年 月 日 請求者 何 某㊞

東京市役所御中

書式第二七號ノ一 〔金額ニ相當スル收入印紙〕 給水工費月賦證書

一引用場所 何區何町何丁目何番地何號

一種 別 何 何 給 水

一工 費 金何圓何錢

一月賦期間 自明治何年何月 至明治何年何月 何箇月賦

一月賦額 一箇月金何圓何錢最終月金何圓何錢

右給水工費ハ東京市水道使用條例ニ依リ前記月割ヲ以テ毎月指定ノ期日ニ無相違納付可致保證人連署仍テ如件

何區何町何丁目何番地

明治 年 月 日 請求者 何 某㊞

何區何町何丁目何番地 保證人 何 某㊞

東京市役所御中

前記保證人何某ハ當區内ニ地所家屋ヲ所有スル者ナルコトヲ證明ス

明治 年 月 日 東京市何區長 何 某㊞

書式第二七號ノ二 〔金額ニ相當スル收入印紙〕 給水工費月賦金額更改證書

何區何町何丁目何番地何號何給水第何號分

一元工費額金何圓何錢

此月賦金何圓何錢

一更正工費額金何圓何錢

内

金何圓何錢 第一回ヨリ第何回マテ既定額

此月賦金何圓何錢 最終月金何圓何錢

差引工費額金何圓何錢

右ハ工事設計變更ノ結果工費異動ニ付前記ノ通更改致候保證人連署仍テ如件

何區何町何丁目何番地

明治 年 月 日 請求者 何 某㊞

何區何町何丁目何番地 保證人 何 某㊞

東京市役所御中

書式第二八號 市設共用栓使用請求書

一水栓所在 何區何町何丁目何番地何號先

一水栓番號 第 何 號

一使用者 何 戸

右東京市水道市設共用栓規則ニ依リ別紙人名ノ者ニ使用爲致度候間鑑札鍵交付相成度候也

何區何町何丁目何番地

明治 年 月 日 地主 家主 管理人 何 某㊞

東京市役所御中

右受領候也

明治 年 月 日 右 何 某㊞

書式第二九號 市設共用栓使用承認請求書

一水栓所在 何區何町何丁目何番地何號先

一水栓番號 第 何 號

右東京市水道市設共用栓規則ニ依リ使用致度候間承認ノ上鑑札鍵交付相成度候也

何區何町何丁目何番地

明治 年 月 日 請求者 何 某㊞

何區何町何丁目何番地 地主 家主 管理人 何 某㊞

東京市役所御中

右受領候也

明治 年 月 日 右 請求者 何 某㊞

書式第三〇號 市設共用栓使用廢止届

一水栓所在 何區何町何丁目何番地何號先

一水栓番號 第 何 號

右使用中ノ處「別紙人名」ハ何月何日ヨリ廢止致候間鑑札何枚鍵何個返納候也

何區何町何丁目何番地

明治　年　月　日

東京市役所御中

地主、家主
管理人、使用者　何　某㊞

共用給水使用者鑑札雛形

（私設ノ場合）

木質檜

表面

給水
鑑札
東京市役所

長二寸五分　幅一寸三分

裏面

明治　年　月　日
麴私共第一號ノ一

（市設ノ場合）

木質檜

表面

給水
鑑札
東京市役所

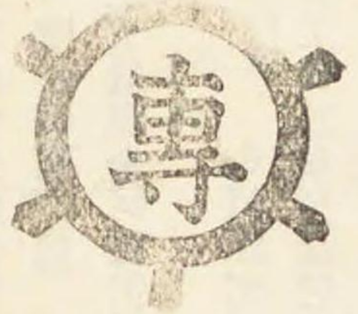
長二寸五分　幅一寸三分

裏面

明治　年　月　日
麴市共第　號
何區何町何丁目何番地
何　某

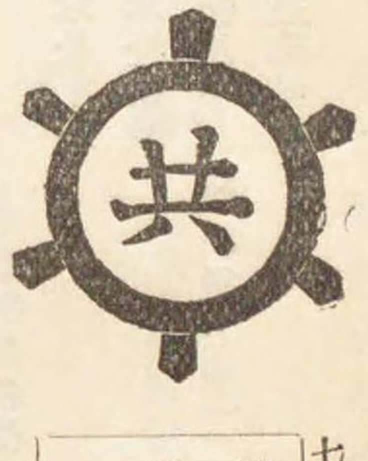
標識雛形

徑三寸



給水種別		圓中符號文字	色
專用		專	金色
普通計量		計	金色
特別計量		計	緣金色中水色
市設共用栓	給水裝置ヲ為スコト能ハサル者	共	緣水色中赤色
	特ニ承認ヲ受ケタル者		緣水色中金色
私設消火栓		消	緣白色中金色

徑三寸



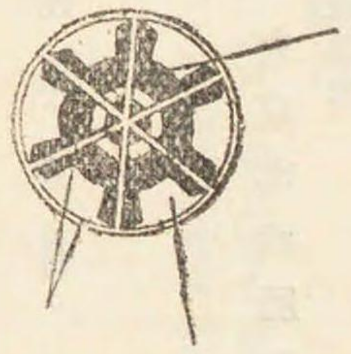
第一號ノ一

七分　二寸五分

私設共用　共　水色

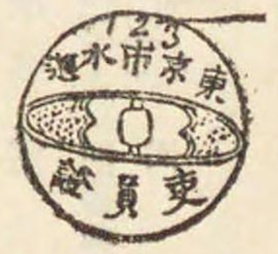
水道掛員ノ證票圖式（徑六分）（大正三年三月十九日市告示第三十五號ヲ以テ本證票ヲ改正シ同年四月一日ヨリ實施ス）

表面



紫色　水色　銀色

裏面



番號

●水道給水臺帳及附屬帳簿樣式雛形

明治四十一年六月三十日市訓令甲第三十八號（水道局、庶務課、各區役所）

水道給水臺帳及附屬帳簿樣式別紙ノ通改正候條來ル七月ヨリ施行シ既製ノ臺帳ハ漸次之ヲ更新シ本年度內ニ終了スヘシ但從前ノ諸帳簿ニシテ本令ニ牴觸若クハ重復ニ涉ルモノハ之ヲ廢止ス

（別紙）

專用第　號　｜　區　町　丁目　番地所在　｜　明治　年　月　日竣工

年月日	所有者 住所	所有者 氏名	代理人又ハ管理人 代管區分	代理人又ハ管理人 住所	代理人又ハ管理人 氏名	使用者	業務	摘要

備考

一　用紙ノ寸法ハ縦五寸横七寸横罫十四行トシ可成厚キモノヲ用ヰルコト

年月日	人口	支栓	浴槽	牛馬 自用	牛馬 營業用	摘要	開通年月日	中止年月日	摘要

普計（特計）第　號　｜　區　町　丁目　番地所在　｜　明治　年　月　日竣工

年月日	所有者 住所	所有者 氏名	代理人又ハ管理人 代管區分	代理人又ハ管理人 住所	代理人又ハ管理人 氏名	使用者	業務	摘要

年月日	量水器 本末區分	量水器 種類	量水器 內徑	量水器 番號	無量器流末數	摘要	開通年月日	中止年月日	摘要

備考

一　量水器賣渡ノ場合ハ量水器欄ノ種類等ヲ朱書スルコト

私共第　號	區　町　丁　目　番　地所在					明治　年　月　日竣工	
年月日	請求者資格	所有者		代理人又ハ管理人			摘要
		住所	氏名	代管區分	住所	氏名	

年月日	使用戸數			使用番號	現在缺番號	開通年月日	中止年月日	摘要
	請求	返納	差引現在					

私消第　號	區　町　丁　目　番　地所在				明治　年　月　日竣工	
年月日	所有者		代理人又ハ管理人			摘要
	住所	氏名	代管區分	住所	氏名	

年月日	個數				量水器裝置ノ有無	量水器			摘要
	單口		双口			種類	內徑	番號	
	屋內	屋外	屋內	屋外					

備考

一　量水器賣渡ノ場合ハ量水器欄ノ種類等ヲ朱書スルコト

(　)市共第　號	區　町　丁　目　番　地先所在					明治　年　月　日竣工			
請求者資格	使用戸數				摘要	使用戸數			摘要
	年月日	請求	返納	差引現在		年月日	請求	返納	差引現在	摘要
請求者住所氏名									
代理人住所氏名									

備考

一　欄外括弧內ハ請求者每ニ進行番號ヲ付スルコト

一　使用者氏名ハ調查簿ヲ以テ整理スルコト

使用戸數				摘要	使用戸數				摘要
年月日	請求	返納	差引現在		年月日	請求	返納	差引現在	

市(　)共第　號承認	區　町　丁　目　番　地先所在				明治　年　月　日竣工		
請求年月日	請求者		連署者			廢止年月日	摘要
	住所	氏名	資格	住所	氏名		

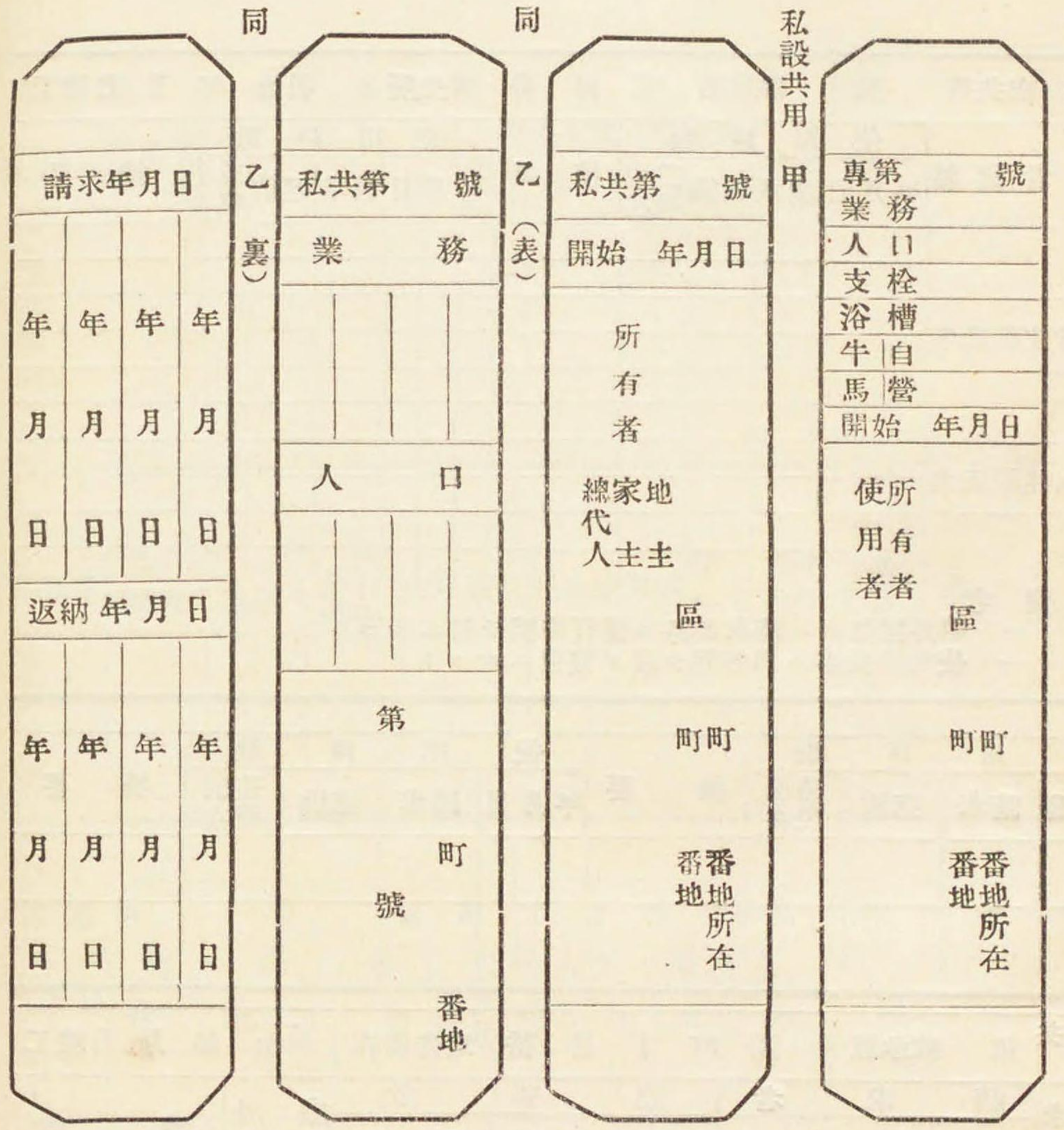
備考

一　本紙ハ表裏ヲ使用シ一用紙盡キタルトキハ新用紙ヲ用ヒ其旨摘要欄ニ記載シ置クコト

一　欄外括弧內ニ用紙ノ進行番號ヲ記載スルコト

請求年月日	請求者		連署者			廢止年月日	摘要
	住所	氏名	資格	住所	氏名		

給水調査簿名刺樣式



（備考）

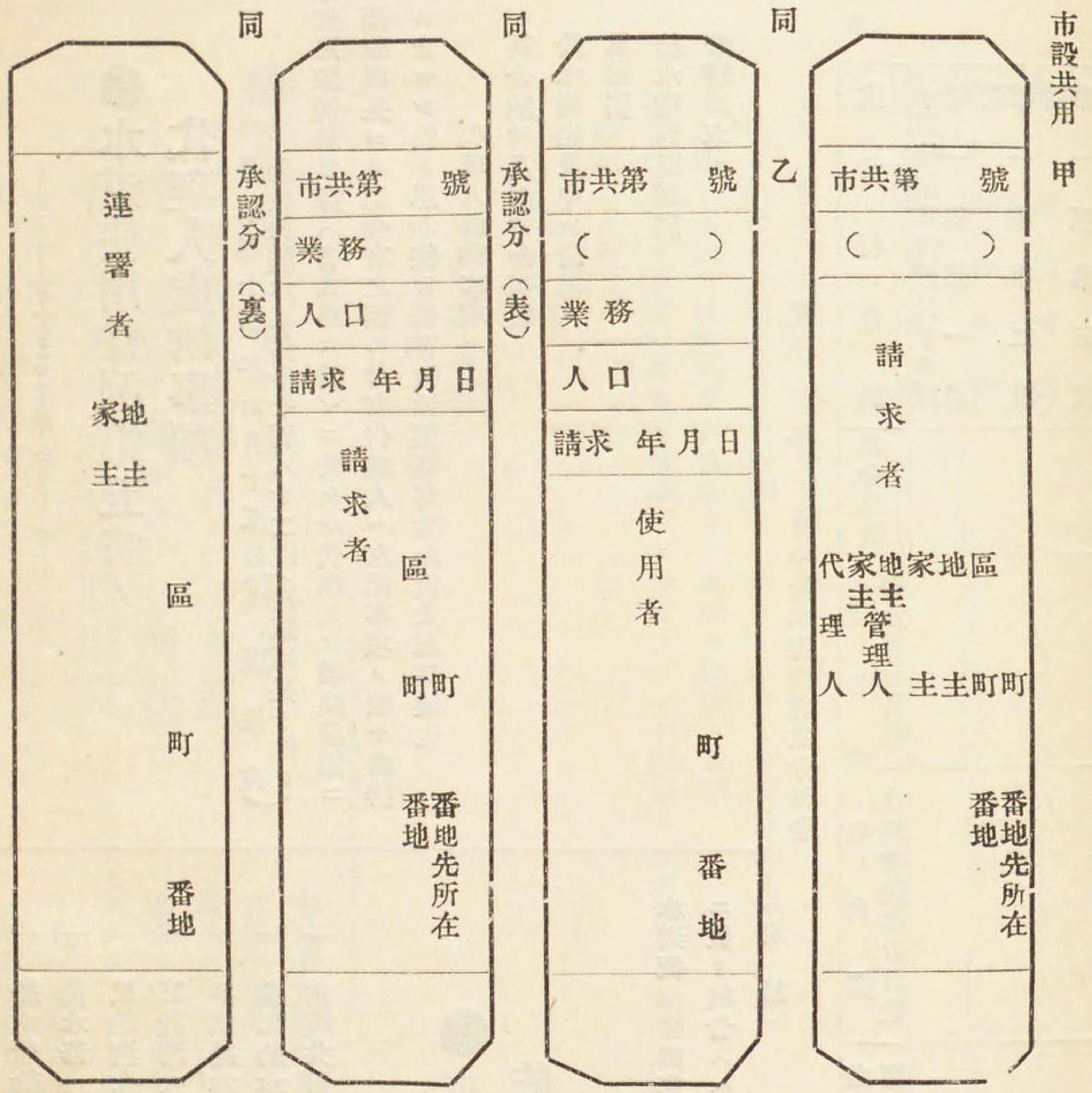
一　名刺ノ寸法ハ縱三寸五分橫八分トス

一　一ページ六枚差込ミ專用、私設共用ハ町別市設共用ハ水栓番號順トナスコト

一　中止ノトキハ裏面ニ其年月日ヲ記入シ裏返シ置キ開通又ハ使用者異ナリタルトキハ更ニ調製差換ヘルコト

一　私設共用乙ハ使用者變更毎ニ四回使用シ盡キタルトキハ更新差換ヘルコト

一　市設共用甲、乙名刺中括弧内ニ給水臺帳ノ請求進行番號ヲ記入スルコト



水道使用條例第五條ノ代理人處辨事項

明治四十一年六月十五日（各區長宛）
助役通牒水乙第千七百八十二號（淺草區長ヲ除ク）

水道使用條例第五條（書式第六號）ニ於ケル代理人ノ權限範圍ニ關シ淺草區長ヨリ問合有之候ニ付右代理人ハ左記事項ノ類ヲ處辨スルニ止マル義ト思考候旨回答致置候條爲念此段及通牒候也

代理人處辨事項

一　料金納付及還付金領收
一　給水開始及中止請求
一　異動屆
一　給水種別變更屆
一　修繕請求
一　給水管給水用具貸借及同解除屆
一　量水器一時取外及取付請求
一　私設消火栓演習屆
一　私設消火栓使用屆
一　共用給水鑑札鍵請求及返納
一　共用給水鑑札鍵再渡請求
一　市設共用栓使用廢止屆

水道使用條例第三十六條ニ依ル違背處分事項報告樣式

明治四十二年八月十二日（水道課）
市訓令甲第二十六號（各區役所）

水道使用條例第三十六條ニ依ル違背處分ニ關スル事項ハ別紙樣式ニ依リ報告スヘシ

（別　紙）

明治　年　月中給水違背者處分報告

違背行爲別	處分件數	處分件數內譯 停水處分件數	處分件數內譯 水料增徵處分件數	處分後輕減件數	處分後免除件數	摘要
水道使用條例第三十六條第一項第一號						
同第一項第二號						
同第一項第三號						
同第一項第四號						
同第一項第五號						
同第一項第六號						

（備　考）

一　本表ハ本年八月分ヨリ翌月五日限リ報告ノ事
　　但本年自一月至七月分ハ取纒メ一表トシ本月二十五日限リ報告ノ事
一　摘要欄ニハ處分後輕減又ハ免除セシ理由ヲ記載スル事
一　違背者トシテ水道檢査員カ檢擧シタルモノニシテ輕微ト認メ處分セサルモノアルトキハ備考ニ其件數竝ニ處分セサル理由ヲ詳記スル事

年　月　日　　何區長

（東京市參事會）
市長宛

市設共用栓規則ニ依ル使用者請求者及連署者ニシテ鑑札鍵ノ返納ヲ爲サスシテ所在不明ト爲リタル場合取扱方

明治四十二年二月十三日（各區長宛）
助役通牒水乙第四千五百二十二號

市設共用栓規則第一條第一項第一號ニ依ル使用者及請求者又ハ同條第一項第三號ニ依ル使用者及連署者ニシテ鑑札鍵返納ノ手續ヲ爲サスシテ同時ニ所在不明トナリタル場合ニ於ケル取扱方ニ關シ問合セ來ル向有之候處右ハ自今其事實ヲ充分調査スルモ尙所在不明ナルトキハ給水ヲ廢止シタルモノト看做シ當該期限リ水料徵收ヲ止メ且給水臺帳ヲ删除シ鑑札鍵ハ一時鈌損トシテ受理スルコトニ相成候條爲念此段及通牒候也

●給水種別、設計變更工事施行並設計、檢査、試驗手數料標準額

明治四十年五月七日
（市參事會議決）第二千百二十號

一 左ノ二項ハ水道課長ヲシテ決定セシムルモノトス
一 水道使用條例第二條第三項ニ依ル給水種別ノ決定
一 水道使用條例第八條第二項但書工費前納ヲ要セサルモノノ認定
二 水道使用條例第八條第二項但書金五圓以内ノ工事ニ付工費後納トシテ著手シタルニ工事設計變更ノ結果金五圓以上トナルモ金拾圓ヲ超ヘサルモノハ便宜直ニ施行スルモノトス
三 水道使用條例第十條ノ設計手數料標準額左ノ通定ムルモノトス
一 鉛管裝置ニ係ル給水工事ハ一箇所一栓ニ付金五拾錢但位置變更、改造、增設、撤去竝ニ支栓及流末裝置ヲ同時ニ同一ノ場所ニ於テ設計シタルトキハ其附帶工事ハ各個一栓每ニ金拾錢ヲ遞加ス
一 消火栓及鐵管裝置ニ係ル給水工事ハ其延長五十間以内ハ金壹圓以上十間ヲ增ス每ニ金貳拾錢ヲ遞加ス
位置變更、改造、增設、撤去亦同シ
一 鉛管裝置ト消火栓及鐵管裝置ト同時ニ同一ノ場所ニ於テ設計シタルトキハ第一項ノ手數料ハ之ヲ半減ス
一 一工事ト雖モ二回以上出張ヲ要シタルトキハ前各項ノ手數料ハ金五圓迄之ヲ累加ス
四 水道使用條例第十二條、第十五條ノ量水器檢査、試驗手數料標準額左ノ通定ムルモノトス但運搬費等ヲ要スルトキハ別ニ其費用ヲ加算ス

内徑	手數料
十二ミリメートル	五拾錢
十六ミリメートル	
二十ミリメートル	
二十五ミリメートル	
三十ミリメートル	壹圓
四十ミリメートル	
五十ミリメートル	
七十五ミリメートル	貳圓
八十ミリメートル	
百ミリメートル	
百五十ミリメートル	
二百ミリメートル	五圓
二百五十ミリメートル	

五 水道使用條例第十三條ノ流末裝置檢査手數料標準額左ノ通定ムルモノトス
流末裝置檢査手數料ハ前記第三、鉛管裝置ニ係ル工事設計手數料ニ準シ左記材料檢査費用ヲ加算シ金五圓ヲ以テ止ム
一 水栓及水止栓ノ類 壹個ニ付金拾錢
一 鉛管一條 五十尺迄金貳拾錢トシ以上十尺每ニ金四錢ヲ遞加ス

●飲料井戸使用者ニ對シ消毒及浚渫ヲ命シタル場合市設共用栓使用方

明治三十八年七月二十一日（水道課、衞生課）
市訓令甲第三十八號（各區役所）

傳染病豫防法ニ據リ飲料ニ供セル井戸ノ消毒及浚渫ヲ必要ト認メ其執行ヲ命シタル場合ニ於テハ其井戸使用者ニ對シ明治三十四年四月市告示第三十八號市設共用栓規則第二條末項ニ據リ一週間以内ヲ限度トシ當該區長ニ於テ鍵鑑札ヲ交付シ給水方取計其年月日及期間竝ニ使用者ノ氏名ヲ其都度報告スヘシ但一週間ヲ經過シ尙飲料ニ供シ難キ場合ハ更ニ一週間以内ノ期間ヲ與ヘ其旨報告スヘシ（本文中「明治三十四年四月市告示第三十八號市設共用栓規則第二條末項」トアルハ「同四十年三月市告示第十八號東京市水道市設共用栓規則第一條第二項」ニ該當スル義ト知ルヘシ）

●出水ノ爲メ市設共用栓使用方

明治四十年八月二十九日（水道課）
市訓令甲第二十二號（各區役所）

井水飲用者ニシテ出水ノ爲メ井戸ヲ使用スルコト能ハサルモノニ對シテハ明治四十年三月市告示第十八號東京市水道市設共用栓規則第一條末項ニ據リ減水スル迄當該區長ニ於テ鍵、鑑札ヲ交付シ給水方取計其年月日期間竝ニ使用者ノ住所氏名其都度報告スヘシ

●市設共用栓柱外部ノ著色及位置

明治三十四年十一月十六日
市告示第九十六號

本市水道市設共用栓柱ノ外部著色ハ給水裝置ヲ爲スコト能ハサルモノニ供スルモノハ茶褐色トシ途上公衆用ニ供スルモノハ白色トス途上公衆用ニ供スルモノノ位置左ノ如シ（位置略）

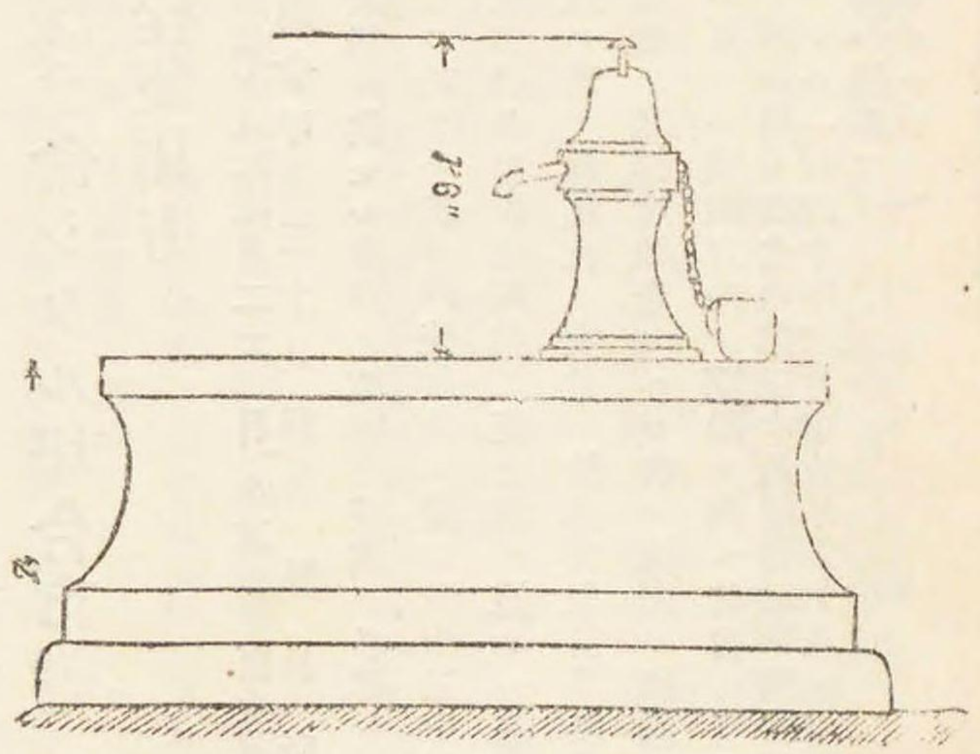
●人馬用市設共用栓設置

明治三十七年九月三十日
（市參事會議決）第四千六十八號

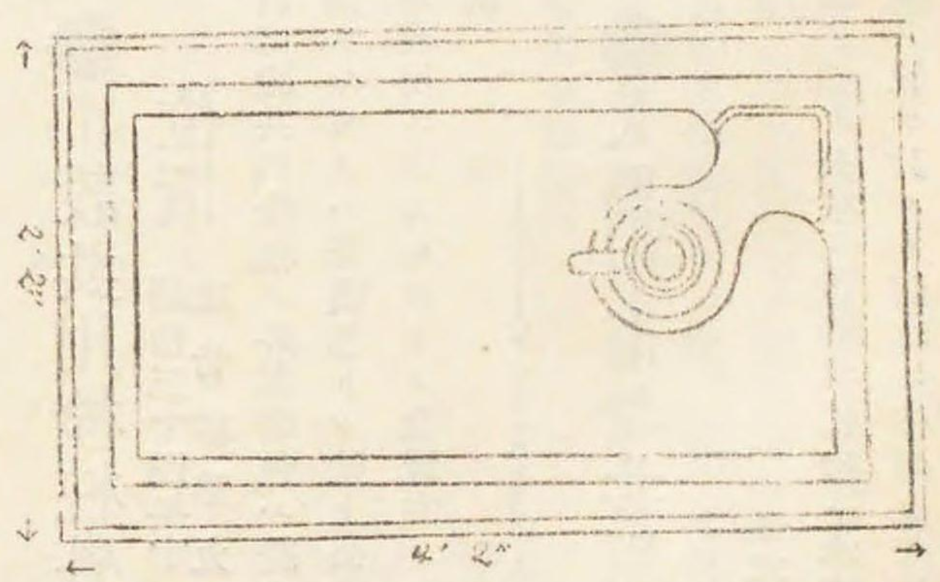
別紙圖面ノ如ク公衆用市設共用栓ト水槽トヲ併合スル裝置ヲナシ途上公衆ノ便ヲ計ルト同時ニ住來ノ牛馬ニモ飲用セシムル爲メ左ノ箇所ヘ人馬用市設共用栓ヲ設置スルモノトス（箇所略ス）

市設共用栓兼馬水槽

側面



平面



市水道市外給水規則

明治四十年三月二十七日
市告示第十九號

第一條 本市水道ハ左ノ場合ニ限リ市外ニ給水スルコトアルヘシ但原動力ニ使用スルモノ及娯樂奢侈ノ用ニ供スルモノハ此限ニ在ラス

一 官衙、公署、兵營、學校、病院其他之ニ類スルモノノ請求ニ係ルトキ

二 本市ノ公益ヲ保持スル爲メ必要アルトキ

三 市設消火栓ヲ防火用ノ爲メ使用セントスルトキ

四 工事用ノ爲メ一時使用セントスルトキ

第二條 前條ノ給水ハ市内給水量ニ不足ヲ生スル場合ハ隨時之ヲ制限シ又ハ停止シ若クハ廢止スルコトアルヘシ

第三條 市内給水ニ支障ナキ場合ト雖豫メ一箇年間ノ使用量ヲ限定シ供給スルコトアルヘシ

第四條 市外給水ハ總テ計量法ニ據リ供給ス但單ニ防火用ノ爲メ設置スル消火栓ハ此限ニ在ラス

第五條 水料ハ左ノ割合ニ據リ徵收ス

一 普通用ノモノハ一立方メートルニ付金六錢

二 一時工事用ノモノハ一立方メートルニ付金貳拾錢

三 防火用ノモノハ消火栓一口一回使用時間一時間以內ハ金貳圓同二時間以內ハ金四圓トシ以上三十分ヲ增ス每ニ金壹圓ヲ遞加ス

第六條 市設消火栓ヲ使用シ水道用具ヲ毀損シタルトキハ給水請求者ヨリ其修繕費ヲ徵收ス

第七條 給水ニ關スル出張員ノ旅費日當ハ本市ノ規定ニ據リ給水請求者ヨリ之ヲ徵收ス

第八條 前各條ノ外本市水道使用條例ヲ準用ス

附　則

第九條 本規則ハ明治四十年四月一日ヨリ施行ス但給水ノ種別ヲ變更スヘキモノ又ハ本規則ニ牴觸スルモノハ明治四十年十二月三十一日迄ニ其手續ヲ爲スヘシ

市外給水事務ニ關スル所屬區域

明治三十七年八月二十二日
助役通牒水發第二千九百五十五號
（各區長宛）

今般給水事務ヲ各位ニ委任セラレ候ニ付テハ市外給水ニ係ル既設ノ分ハ從前料金ヲ徵收シタル區、將來設置ノ分ハ最近ノ區ニ於テ取扱ハレ候儀ト承知有之度此段及通牒候也

但宮內省ノ所屬ニ係ル給水事務ハ總テ麴町區ノ取扱トシ從前水道課ニ於テ取扱ヒタル同料金收納ノ事務モ麴町區ニ於テ處理スル儀ト承知相成度候也

區役所給水事務取扱例

明治三十七年八月二十一日助役通牒水發第二千八百七十七號（各區役所）

本月二十一日市告示第五十九號ヲ以テ給水事務ヲ區長ニ委任相成候ニ付テハ書類取扱例、檢查員定工夫夜勤及共助執務心得、報告帳簿樣式別紙ノ通リ相定メ候條此段及通知候也（本文中市告示第五十九號トアルハ明治四十四年十一月十四日市告示第九十一號ヲ以テ改正）

（別　紙）

目　次

一 豫納金徵收水量見積額標準

一 檢查員定工夫夜勤及共助執務心得（明治三十八年三月三十一日市訓令甲第十號ニ基キ本心得中「水栓番」トアリシヲ「定工夫」ト訂正ス）

一　量水器異狀報告樣式（明治三十八年六月八日助役通牒水發第二千七十八號ヲ以テ量水器異狀報告トアリシヲ本項ノ通改正ス各區長宛）
一　量水器取換濟通知樣式
一　排水報告樣式
一　出火報告樣式
一　給水現在表及計量給水消費水量調書樣式（明治三十八年七月二十九日助役通牒水發第二千七百六號ヲ以テ「給水增減表樣式」トアリシヲ本項ノ通リ改メ同四十年四月十六日市參事會議決第千六百七十九號ヲ以テ樣式改正）
一　給水書類收受簿樣式
一　給水開栓簿樣式

普通計量給水水料豫納金徵收水量見積額標準

種類	水量見積額標準（立方メートル）	摘要
學校	一〇	最高額ハ見積ノ倍若クハ二倍
陳列所	一〇	最高額ハ見積ノ約倍
神社	一〇	同上
佛閣	一〇	同上
病院	五〇	最高額ハ見積ノ約三倍
銀行	一〇	最高額ハ見積ノ五六倍稀ニ十數倍ニ上ルモ之等ハ著名ノモノニ過キス
會社	一〇	同上
集會所	一〇	最高額ハ見積ノ約倍
劇場	三〇	同上
寄席	一五	同上
遊覽所	一〇	同上
遊技場	一〇	同上
宿屋	二〇	同　四、五倍
寄宿所	二〇	同上
人力車宿	一五	同　二、三倍
牛馬宿	一五	同上
木賃宿	一五	同上
工業場	二〇	同　四、五倍
釀造業	三〇	同上
製造業	二〇	本業ニシテ水ヲ材料トシテ製造スルモノハ到底見積ルコト能ハス氷、ラムネ製造ノ如シ以外ノモノハ最高額見積ノ約二倍
印刷業	一〇	最高額ハ見積ノ二、三倍
寫眞業	一五	同　約倍
湯屋	四〇〇	同　二、三倍
染物業	一五	同上
洗濯業	二〇	同上
理髮店	一〇	同　約倍
青物屋	一〇	最高額小賣店ハ二、三倍ニ過キスト雖モ市場ノ問屋ハ六、七倍ノモノアリ
植木屋	一〇	最高額ノ見積ノ約倍
豆腐製造	二五	同　三倍
蒟蒻製造	一五	同上
菓子製造	二〇	同　四、五倍

燒芋屋	一〇	同　約倍
漬物屋	一〇	同上
酒小賣店	一〇	同上
牛乳小賣店	一〇	同上
鳥獸肉店	一〇	同上
肴屋	一〇	最高額小賣店ハ倍ノ場合稀ナリト雖モ市場ノ問屋ハ十倍ノモノ少ナカラス
料理店	三〇	最高額ハ見積ノ倍若クハ三倍
飲食店	二〇	同上
水茶屋	一〇	同上
待合茶屋	一五	同上
遊船宿	一〇	同上
芝居茶屋	一五	同上
引手茶屋	一五	同上
貸座敷	三〇	同上
船舶		船舶給水ノ數ハ二、三ニ過キス多クハ千立方メートルナリ
空壜商	一〇	最高額ハ見積ノ倍若クハ三倍
人口十六人以上ノモノ	三〇	十六人以上ハ一人ヲ増ス毎ニ一立方メートルヲ増ス

（備考）項目中記載ナキ種類ノ營業ハ其類似ノ營業ニ據リ之ヲ參酌シ製造業ノ如キハ實地使用ノ狀況ニヨリテ之ヲ見積ルヘシ

特別計量給水水料豫納金徵收水量見積額標準

種類	水量見積額標準（立方メートル）	摘要
噴水	五〇	使用ノ狀況ニヨリテ差異アリト雖モ多クハ標準內外ナリ
撒水	五〇	同上
工事用	三〇	工事ノ構造ノ廣狹ニヨリ差異アリト雖モ多クハ標準內外ナリ
水槽用	五〇	使用ノ狀況ニヨリテ差異アリト雖モ多クハ標準內外ナリ

前二表ノ標準ハ使用者十中七八ノ消費水量ヲ記載シタルモノナリ故ニ土地及營業ノ狀況ニ依リテ多少ノ變動アレハ參酌シテ增減スヘク同種類ニシテ最高使用ノモノハ各表摘要欄內ニ記載ノ如シ

檢査員、定工夫夜勤及共助執務心得

一　檢査員、定工夫共助聯合區ハ左ノ通リ相定ム
　一　日本橋區　京橋區
　一　芝區　麻布區　赤坂區
　一　麴町區　四谷區　牛込區
　一　神田區　本鄕區　小石川區
　一　下谷區　淺草區
　一　本所區　深川區
二　夜勤ハ檢査員ト定工夫ト各晚ニ一名ツツ宿直セシムルコト但聯合區ノ一區ニ於テ檢査員宿直スルトキハ他ノ一區ハ定工夫宿直シ互ニ相對應スヘキコト
三　聯合區ニ在テハ常ニ出火排水其他一區ニ於テ處辨シ得サル場合互ニ相呼應シ其事務ヲ補助スヘキコト

四　聯合區ニ拘ハラス隣區接近地ニ於ル出火又ハ鐵管破裂等非常ノ場合ハ通報ヲ俟タス互ニ相應援シ共同一致事ニ從ヒ遺憾無キ樣心懸クヘシ

五　鐵管破裂ノ場合ハ相當應急ノ措置ヲ施スハ勿論直ニ他ノ場所へ急報スヘシ
水道課　淀橋淨水場　本郷、芝給水場　聯合及ヒ關係區役所

六　右ノ外特ニ共助ヲ要スル場合ニ於テ水道課ヨリ通達シタルトキハ遲滯無ク赴援スルコト

量水器異狀報告

給水種類 水栓番號	量水器種類 内徑	異狀事由	水栓所在町名番地	使用者營業	使用者氏名

右報告候也

明治　年　月　日　　區役所

東京市役所御中

量水器取換濟通知

量水器種類内徑	量水器番號	量水器指示額	取換月日	摘要

右通知候也

明治　年　月　日　　東京市役所

區役所御中

排水報告

場所	時間	使用水道用具 泥吐管	使用水道用具 消火栓	排水ノ事由及水道用具ノ異狀ノ有無
町　番地先	日 午　時分ヨリ 日 午　時分マテ	耗 個所	個所	
町　番地先	日 午　時分ヨリ 日 午　時分マテ	個所	個所	

右報告候也

明治　年　月　日　　何　區役所

東京市役所御中

出火報告

一　出火場所　區　町　丁目　番地
一　燒失戸數　全燒　戸　半燒　戸

一　出火時間　前後日　時　分

一　鎭火時間　前後日　時　分

一　使用消火栓地名及其數左ノ如シ

町　丁目　番地先　町　丁目　番地先　町　丁目　番地先

町　丁目　番地先　町　丁目　番地先　町　丁目　番地先

町　丁目　番地先　町　丁目　番地先　町　丁目　番地先

町　丁目　番地先　町　丁目　番地先　町　丁目　番地先

町　丁目　番地先　町　丁目　番地先　町　丁目　番地先

計

一　使用消火栓ノ狀況

一　燒失給水者　專用　戸　計量　戸

右報告候也

明治　年　月　日

何區役所

東京市役所御中

給水現在及計量給水消費水量表

第　期分　區

專用給水

栓數	人口	支栓	支栓ヲ設ケサル浴槽	自用牛馬	營業用牛馬

共用給水

私設共用栓		市設共用栓			
栓數	戸數	栓數	戸數		
			給水裝置ヲ爲スコト能ハサル者	特ニ本市ノ承認ヲ受ケタル者	計

計量給水

普通計量栓			特別計量栓				
湯屋	湯屋以外ノモノ	計	噴水、瀧其他	水槽ヲ設ケテ他ニ導水スルモノ	原動力	工事其他ノ爲メ一時使用ニ係ルモノ	計

私設消火栓

總戸數	量水器ノ裝置アルモノ	量水器ノ裝置ナキモノ	計

市外給水

計量給水栓				私設消火栓			
郡名	普通ノモノ	一時工事用ノモノ	計	總戸數	量水器ノ裝置アルモノ	量水器ノ裝置ナキモノ	計
郡							

普通計量消費水量

湯屋		湯屋以外ノモノ		計	
栓數	水量	栓數	水量	栓數	水量
	立方メートル		立方メートル		立方メートル

特別計量消費水量

噴水、瀧其他		水槽ヲ設ケテ他ニ導水スルモノ		原動力		工事其他ノ爲メ一時使用ニ係ルモノ		計	
栓數	水量	栓數	水量	栓數	水量	栓數	水量	栓數	水量
	立方メートル		立方メートル		立方メートル		立方メートル		立方メートル

市外給水消費水量

郡名	普通ノモノ		一時工事用ノモノ		計	
	栓數	水量	栓數	水量	栓數	水量
郡		立方メートル		立方メートル		立方メートル

備考　給水現在表ハ三月三十一日現在ヲ一期、六月三十日現在ヲ二期、九月三十日現在ヲ三期、十二月三十一日現在ヲ四期トス計量給水消費水量表ハ自一月至三月ヲ一期、自四月至六月ヲ二期、自七月至九月ヲ三期、自十月至十二月ヲ四期トシ毎期翌月七日限リ報告スヘシ尚水量表ハ消火排水及給水用具破損等ノ爲メ水料ヲ徴セサル水量ハ備考ニ詳記スヘシ

市外給水ヲ取扱サル區ニ於テハ其欄ヲ省略スヘシ

年　月　日　　何區役所

東京市役所御中

給水書類收受簿樣式(表)

(裏)

區役所

月日	番號	件名	處分事由	住所氏名

開栓簿樣式　栓種ニ據テ簿冊ヲ區分シ番號順ニ記載スルモノトス

開栓番號	入口牛馬 浴戸 槽數 メートル	開栓月日	町名	丁目	番地	支栓	使用者姓名	摘要

	區役所

●給水ニ關シ地主ノ連署ヲ要スル願屆ニシテ其土地ノ市有又ハ市ノ管理ニ屬スル場合區役所經由方

明治三十一年十二月二十五日
市告示第七十五號

本市所有及管理ニ屬スル土地ヲ借用又ハ使用スルモノニシテ水道使用條例ニ依リ提出スル願屆書等（地主ノ連署ヲ要スヘキモノ）ハ所轄區役所ヲ經由スヘシ（明治四十年三月二十七日市條例第一號ニ基キ本文中「シテ」ノ下「水道給水規則」トアリシヲ「水道使用條例」ト訂正）

●給水請求代人ノ場合委任狀添付方

明治三十八年九月三十日
助役通牒水發第三千五百六十五號（各區長宛）

從來代人ニシテ給水請求等ヲ爲ス場合ニ於テ本人ノ委任狀ヲ添付セサルモノ（華族ノ家扶家令又ハ執事等ノ如シ）往往有之候處右ハ工費徴收上不都合ヲ來ス虞有之候條自今右等ノ場合ハ必ス委任狀ヲ添付セシメラレ度而シテ委任狀ハ一件一葉トシテ若シ將來又ハ他事項ヲ含有スルモノナルトキハ其寫ヲ添付セシメラレ候樣御取扱相成度此段及通牒候也

●給水異動其他ノ屆出テアリタル場合水道檢査員出張實地調査方注意

明治三十七年十月二十九日
助役通牒水發第四千二百六號（各區長宛）

從來給水使用者ヨリ異動其他屆出ニ際シ其都度水道檢査員ヲシテ實地調査ヲ爲サシムルノ例ナルモ之カ爲メ多クノ時間ヲ要シ水料徴收上至大ノ關係アル給水使用者戸口調査ニ全力ヲ濺ク能ハサル哉ニ思料セラルルヲ以テ右等屆出ニ對シテハ成ルヘク公簿等ニ就キ調査ヲ爲シ特ニ必要ト認ムルモノニ限リ實地ニ派遣スルコトトセハ事務處理上利便尠ナカラスト被存候條爲念此段申進候也

●鐵管內一部排水執行ノ際淀橋淨水所ヘ打合方

明治三十八年五月二十五日
助役通牒水發第二千三號（各區長宛）

水質汚濁等ノ爲メ臨時鐵管內一部ノ排水ヲ要スル場合ハ其都度水道課ニ打合セノ上執行可相成コトニ兼テ御通知致置候處右鐵管內ノ排水ニ付テハ淀橋淨水場ノ喞筒機運轉配水等ニ影響アルヲ以テ特ニ注意ヲ要スル儀ニ有之候條今後ハ前以テ電話其他ノ方法ニヨリ直接同場ヘ排水箇所及執行日時ヲ御打合セノ上執行相成候樣致度此段及通牒候也

●夜間給水停止執行ノ場合飲用者ニ通知方

明治三十三年六月十二日
（市參事會議決）第三千九百九十九號

鐵管擴張工事私設消火栓取付若クハ鐵管破損修繕等ニ際シ既設鐵管ノ一部ニ斷水ヲ要シ爲メニ一時給水ヲ停止スル場合ニ於テ晝間施行ノ節ハ其時時官報新聞等ニ廣告ヲ爲スヘキモ工事ノ簡易ニシテ夜間（午後十時ヨリ午前四時迄ノ內）ニ施行シ終ル分ハ前以テ最寄給水飲用者ニ相當注意ヲ爲シ別段告示等ヲ爲サス執行スルモノトス

●給水取締ニ關スル注意

明治四十年八月二日（各區役所）
市訓令第六號

水道ノ供給ハ自ラ其量ニ限アルハ勿論之カ設備ニ要スル費用亦頗ル多大ナルモノナルヲ以テ一滴ノ浪費ト雖決シテ輕輕ニ看過スルヲ許ササル處タリ然ルニ多數ノ使用者中ニハ水道ノ貴重スヘキ所以ヲ解セス漫ニ道路ノ撒水ニ使用シ或ハ水栓ヲ開放シ或ハ修繕ヲ怠リ徒ニ給水ヲ流出セシメ又ハ必要ノ程度ヲ超ヘ之ヲ濫用スル向往往有之ト聞ク右ハ昔時多クノ加工ヲ要セサリシ神田及玉川上水ノ潤澤ナル使用ニ慣レ自然用意ノ周到ヲ缺クノ致ス所ナキニアラサルヘキモ水道ノ供給ハ市ノ繁榮ニ隨ヒ益其需用ヲ増加シ今ヤ將ニ既定ノ設備ニ不足ヲ告ケントスル虞アリ殊ニ最モ多大ノ使用ヲ要スル夏季ニ方リテハ使用者各自細心留意其用途ヲ節シ苟モ浪費ナカラシムルニアラスンハ遂ニ横濱市及大阪市ニ於ケルカ如キ一日數時間其供給ヲ斷サルヲ得サル不幸ヲ見ルノ期ナキヲ保セス固ヨリ一般需用ノ増加ニ伴フ施設計畫ハ本市ノ決シテ等閑ニ附セサル所ナルモ元來水道ノ設備ハ供給スヘキ範圍限度ヲ豫測シ一定ノ分量ヲ貯溜シ以テ其需用ニ應シ分配スヘキ組織ナルカ故ニ使用者ニシテ必要ノ程度ヲ超ヘ之ヲ浪費若クハ濫用センカ勢ヒ他ノ需用ニ不足ヲ生スルハ數ノ免カレサル所ナリ而シテ試ニ本市水道ノ設備ニ對シ現時ノ需用ヲ照スニ未タ俄ニ不足ヲ告クヘキ狀態ヲ認メサルニ拘ラス事實ノ之ニ反スルモノアルハ前顯ノ如キ浪費濫用ノ結果ニアラサルナキ乎若シ果シテ斯ノ如クンハ其責給水取締ノ緩慢ニ歸セサルヲ得ス故ニ給水取締ノ任ニ當ル者ハ常ニ使用者各自ノ公德心ニ訴フルト同時ニ專心職務ニ奮勵シ給水ノ濫用ハ勿論苟モ規則違背ノ者ニ對シテハ毫モ假借スル所ナク嚴重之カ處分ヲ爲シ一般ノ需用ニ不足ヲ告クルカ如キ不幸ナカラシメンコトヲ期シ一層留意職責ヲ全フセンコトヲ努ムヘシ

第四節　給水料金

●水道諸收入金收納手續

大正二年三月十八日（第二部各區役所）
市訓令甲第十四號

水道ニ關スル諸收入金收納手續ヲ別册ノ通設定シ大正二年度ヨリ之ヲ施行ス但明治四十年三月東京市訓令第一號水道使用料徵收規程同第二號給水工費收納手續ハ其樣式ヲ除ク外之ヲ廢止ス

水道諸收入金收納手續

第一條　水道使用料及給水工費其他水道ニ關スル諸收入金ニシテ區ニ於テ徵收又ハ收納スヘキ事項ハ水道課長ヨリ之ヲ其所轄區長ニ通知スヘシ

第二條　區長ハ隨時徵收又ハ收納ニ係ル納額告知書又ハ納付額通知書ハ其指定納期日ヲ事件發生後二十日以內トシ每月徵收ニ係ルモノハ翌月末日迄トシ各納期末日七日前迄ニ之ヲ其納人ニ發付スヘシ

第三條　區長ハ諸收入金ヲ納期內ニ納付セサル者アルトキハ納期經過後遲クモ二十日以內ニ相當ノ處分ヲ爲スヘシ
給水工費其他辨償金等ニシテ前項ノ處分後尙納付セサル者アルトキハ十五日以內ニ未納報告書ヲ調製シ市長ニ提出スヘシ
前項報告書提出後納付シタル者アルトキハ三日以內ニ之ヲ市長ニ報告スヘシ

第四條　區長ハ新設ニ係ル給水工費ノ月賦納付ヲ申出タル者アルトキハ速ニ其工費額ニ所定ノ利子ヲ加ヘ月割金額等ヲ定メ月賦證書ヲ徵シ翌日迄ニ其旨水道課長ニ通知スヘシ納付額通知書ノ指定期日後十日以內ニ月賦證書ヲ差出ササル者アルトキ亦同シ

第五條　本規程ニ必要ナル帳簿其他ノ諸樣式ハ從前ノ例ニ依ルヘシ

第六條　前各條ノ外本市會計規程竝ニ同施行細則ニ依リ取扱フヘシ

●水道使用料徵收規程

明治四十年三月二十二日（水道課、會計課各區役所）
市訓令第一號

明治三十五年三月市訓令甲第三號東京市水道給水料徵收規程別册ノ通改正シ明治四十年度ヨリ之ヲ施行ス

別册（大正二年三月十八日市訓令甲第十四號ヲ以ヲ別册中帳簿樣式ヲ除ク外廢止ニ付削除ス）

（帳簿樣式）（明治四十年三月二十二日市訓令第一號ヲ以テ水道使用料徵收規程改正ノ際本簿式設定、大正二年二月二十五日市訓令甲第三號ヲ以テ簿式改正同年度分ヨリ施行ス）

大正　年度
専用水料徵收簿

納額通知書發付年月日	
前期	年　月　日
後期	年　月　日

第　號							
前期	標準料	人口	支栓	浴槽	何何	何何	合計	領收月日印
	金　円							
後期	標準料	人口	支栓	浴槽	何何	何何	合計	領收月日印
	金　円							

水栓番號	第　號
水栓所在	
納人住所氏名	

摘要	
前期	後期

備考
用紙美濃紙

東京市　區役所

大正　年度
(普通／特別)計量水料
量水器使用料　徵收簿

納額通知書發付年月日	前年度後期	本年度前期
普通特別計量水料	年　月　日	年　月　日
量水器使用料	前期　年　月　日	後期　年　月　日

第　號										
水料 前年度後期	使用水量	十月	十一月	十二月	一月	二月	三月	料金　円	領收月日印	
量水器使用料 前期	量水器耗別料金　円	領收月日印　円	合計　円							
本年度前期	使用水量	四月	五月	六月	七月	八月	九月	料金　円	領收月日印	
後期	量水器耗別料金　円	領收月日印　円	合計　円							

水栓番號	第　號
水栓所在	
納人住所氏名	

摘要	
前期	後期

備考
用紙美濃紙

東京市　區役所

明治　　年度

（普通／特別）計量水料毎月徵收簿
量水器使用料徵收簿

納額通知書發付年月日			
水料	三月	七月	十一月
	四月	八月	十二月
	五月	九月	一月
	六月	十月	二月
量水器使用料	前期		後期

備考
一　帳簿ノ末尾ニ集計ヲ付スルコト

東京市　　區役所

第　　　號

水栓番號	第　　號	水栓所在	
摘要			
納人住所氏名			

量水器使用料	前期	後期
耗別		
料金及領收月日印	円　月日領收	円　月日領收

水料 月別	使用水量	料金及領收月日印
三月		円　月日領收
四月		月日領收
五月		月日領收
六月		円　月日領收
七月		月日領收
八月		月日領收
九月		円　月日領收
十月		月日領收
十一月		月日領收
十二月		円　月日領收
一月		月日領收
二月		月日領收

明治　　年度

（市設／私設）共用水料徵收簿

納額通知書發付年月日	
前期	年　月　日
後期	年　月　日

備考
一　帳簿ノ末尾ニ集計ヲ付スルコト

東京市　　區役所

第　　　號

水栓番號	第　　號	水栓所在
摘要	前期	後期
納人住所氏名		

	前期	後期
標準戸數		
料金及領收月日印	円　月日領收	円　月日領收

大正　　年度

專用水量
（普通／特別）計量水料
（私設／市設）共用栓水料
私設消火栓演習料

隨時徵收簿

東京市　區役所

備考
一　種別、期別每ニ調製スルコト
二　用紙美濃紙

徵收番號	發付月日	開始月日	料金 標準	料金 內譯	料金 合計	領收月日印	摘要	水栓番號	水栓所在	納人住所氏名
				円	円					

明治　　年度

量水器使用料
計量水料豫納金

隨時徵收簿

東京市　區役所

備考
一　期別ニ調製スルコト
二　帳簿ノ末尾ニ集計ヲ付スルコト

番號	量水器使用料 取付月日	量水器使用料 發付月日	量水器使用料 耗別	量水器使用料 料金	量水器使用料 領收月日印	計量水料豫納金 通知月日	計量水料豫納金 見積水量	計量水料豫納金 金額	計量水料豫納金 領收月日印	摘要	水栓番號	水栓所在	納人住所氏名
				円				円					

（普通／特別）計量水料豫納金原簿

東京市　區役所

計量給水料豫納金

整理番號	（普通／特別）計量栓第　號	水栓所在	町　丁目　番地	種別番號	年月日	所有者 住所氏名	代理人又ハ管理人 種別	代理人又ハ管理人 住所氏名	摘要

年月日	收入額	年月日	支出額	現在額	摘要
	円		円	円	

（用紙美濃判半切）

上表紙

（表面）

明治　　年度　　期分

計量給水使用水量點檢簿

東京市　　　區役所

七寸

三寸七分

（裏面）

町	丁	目
町	丁	目
町	丁	目
町	丁	目
町	丁	目
町	丁	目
町	丁	目
町	丁	目
町	丁	目
町	丁	目
町	丁	目
町	丁	目

下表紙

（裏面）

月分	月分	月分	月分	月分	月分
使用水量冊計　立方メートル	使用水量冊計　立方メートル	使用水量冊計　立方メートル	使用水量冊計　立方メートル	使用水量冊計　立方メートル	使用水量冊計　立方メートル
檢算者　㊞	檢算者　㊞	檢算者　㊞	檢算者　㊞	檢算者　㊞	檢算者　㊞
點檢者　㊞	點檢者　㊞	點檢者　㊞	點檢者　㊞	點檢者　㊞	點檢者　㊞
紙數　葉	紙數　葉	紙數　葉	紙數　葉	紙數　葉	紙數　葉

（表面）

七寸

三寸七分

種別番號	普/特計第　號	水栓所在		摘要	徵第　號
業務用途		所有者			
前月使用量					
量水器種類及耗別		借受人			
點檢月日					
現指示額	立方メートル				
前回指示額					
月分使用量					

使用水量點檢證	
普/特計第　號	
年月日點檢	
現指示額	立方メートル
前回指示額	
月分使用量	

備考

一　表中右上部ノ摘要欄ハ所有者名義變更量水器取替記事等ヲ記載スルモノトス

二　使用水量點檢證以外ノ事項ハ便宜裏面ニ記載スルコト

●給水種別變更ト看做シ水料徵收方

明治四十年四月二十日
助役通牒水發第八百四十八號（各區長宛）

左記ノ場合ニ於ケル水料ノ徵收竝ニ第一、第二ノ工事請求ハ給水種別變更ト看做スコトニ決定相成候條此段及通牒候也

一　專用給水ノ本栓ヲ支栓トナストキ
二　專用給水ノ支栓ヲ本栓トナストキ
三　浴槽ニ設ケタル支栓ヲ廢シ浴槽ヲ存置スルトキ
四　支栓ヲ設ケサル浴槽ニ支栓ヲ設クルトキ
五　自用牛馬ヲ廢シ營業用牛馬トナストキ
六　營業用牛馬ヲ廢シ自用牛馬トナストキ

●計量給水豫納金量水器使用料種目整理方

明治三十二年三月十一日市訓令甲第九號「神田、日本橋區」同年三月十七日市訓令甲第十一號「麴町、下谷、淺草區」同年六月六日市訓令甲第十八號ヲ以テ其他ノ區ヘ」

東京市水道給水料計量給水豫納金及量水器使用料ハ水料徵收手續ニ依リ左ノ目ヲ設ケ整理スヘシ（明治四十年三月二十二日市訓令第一號ニ基キ本文中「水料徵收手續」トアルハ「水道使用料徵收規程」ト改マリ「水道使用料徵收規程」ハ大正三年三月十八日市訓令甲第十四號ニ依リ樣式ヲ除クノ外廢止）

一　計量給水豫納金
一　配水工費、量水器使用料

●市立小學校給水料輕減徵收方

明治三十八年三月二十九日
市訓令甲第六號（各區役所）

市立小學校給水料ハ明治三十八年度ヨリ其料金ノ四分ノ三ヲ輕減徵收スヘシ

●市立小學校給水料輕減ニ付注意方

明治三十八年三月二十九日
助役通牒水發第千百三十七號（各區長宛）

市立小學校給水料輕減ニ關シ本月二十九日甲第六號ヲ以テ訓令相成候處右ハ區費ヲ節約スルノ趣旨ニ出テタルモノニ候ヘハ濫用セサル樣特ニ注意ヲ加ヘラレ度尙運動場等家屋外ニ撒水スルトキハ給水規則ノ定ムル處ニヨリ特別計量給水ニ變更使用スヘキ儀ニ有之候條爲念此段及通牒候也

●共用栓水料月割算定方

明治四十年九月十一日
助役通牒水發第二千百三十號（各區長宛）

共用栓水料月割算定方從來一戶分ノ年額ヲ以テ戶別ニ算定シ來リタル處本年三月水道使用條例設定以後ハ其徵收スヘキ總戶數ノ年額ヲ以テ月割算定スヘキ義ニ有之候條爲念此段及通牒候也

第五節　給水工事及用具

●水道課派出所設置

明治四十一年二月二十九日
市告示第十一號

明治四十一年三月一日ヨリ左ノ通本市水道課派出所ヲ設置シ水道給水用具ノ修繕工事ヲ取扱ハシム

所在	所名	電話番號
麻布區赤羽橋際	東京市水道課赤羽橋派出所	（略ス）

區域
芝區、麻布區、赤坂區一圓

所在	所名	電話番號
麴町區市ヶ谷門內	東京市水道課市ヶ谷派出所	（略ス）

區域
四谷區、牛込區一圓及麴町區ノ內隼町、元平河町、麴町平河町一丁目、二丁目、三丁目、四丁目、五丁目、六丁目、麴町山本町一丁目、二丁目、三丁目、紀尾井町、麴町一丁目、二丁目、三丁目、四丁目、五丁目、六丁目、七丁目、八丁目、九丁目、十丁目、元園町一丁目、二丁目、五番町、上二番町、下二番町、上六番町、中六番町、下六番町、土手三番町、三番町、四番町、一番町、富士見町一丁目、二丁目、三丁目、四丁目、五丁目、六丁目、飯田町一丁目、二丁目、三丁目、四丁目、五丁目、六丁目

所在	所名	電話番號
小石川區水道橋外	東京市水道課水道橋派出所	（略ス）

區域
神田區、小石川區、本郷區一圓

所在	所名	電話番號
淺草區三味線堀	東京市水道課三味線堀派出所	（略ス）

區域
下谷區、淺草區一圓

所在	所名	電話番號
深川區安宅町	東京市水道課安宅町派出所	（略ス）

區域
本所區、深川區一圓
日本橋區、京橋區一圓及麴町區ノ內代官町、竹平町、元衞町、大手町一丁目、二丁目、道三町、錢瓶町、元千代田町、寶田町、祝田町、永樂町一丁目、二丁目、八重洲町一丁目、二丁目、有樂町一丁目、二丁目、三丁目、內山下町一丁目、二丁目、西日比谷町、內幸町一丁目、二丁目、外櫻田町、霞ヶ關一丁目、二丁目、裏霞ヶ關、三年町、永田町一丁目、二丁目ハ本市水道課ニ於テ之ヲ取扱フ

●水道課派出所ニ於テ給水工事施行方

明治四十一年八月五日
〔市參事會議決〕第四千四百九十三號

本年度豫算中水道局派出所ノ內市ヶ谷、三味線堀ノ二箇所ニ給水工事用材料倉庫建設ノ義議決相成候ニ付工事施行既ニ落成セルヲ以テ來八月一日ヨリ左記ノ通區域ヲ定メ給水工事施行ヲ開始スルモノトス

市ヶ谷派出所區域｛赤坂區、四谷區、牛込區、小石川區
本郷區、麴町區ノ一部（給水用具修繕區域）

三味線堀派出所區域｛下谷區、淺草區、本所區
神田區ノ一部（外神田）

水道局區域｛日本橋區、京橋區、芝區、麻布區
深川區、神田區ノ一部（內神田）
麴町區ノ一部（給水用具修繕區域）

●市ヶ谷三味線堀派出所給水工事執行規定

明治四十一年七月三十一日
水道局長判決水發第千四百八十二號

（本規程中元給水工事用材料取扱順序ノ規定アリシモ明治四十二年十二月十七日（市參事會議決）第六千六百九十四號ニ依リ消滅シタルニ付キ削除セリ）

第一條　派出所ハ本局ノ指定ニ從ヒ其所管區域內ニ於ケル給水工事ヲ施行スルモノトス

第二條　翌日施行スヘキ工事ハ當日正午迄ニ本局ヨリ送付シタル設計調書竝現場野帳ニ依リ職工人夫ノ配賦材料配列表水栓番號札開栓傳票等ヲ取調ヘ施業ニ差支ナキヲ要ス

第三條　指定ノ人夫ハ請負者ニ命シ翌朝定時間迄ニ出場セシメ點檢ヲ爲スモノトス

第四條　職工ニ貸付ノ諸器具ハ毎月一回檢査表ニ照査シ整否ヲ點檢スルモノトス

第五條　現場監督主任者ハ助手ヲシテ現場ヲ巡視セシメ擔當野帳ニ記入アル設計圖面ト實地ヲ照合シ工事ヲ督勵終了スヘシ

第六條　毎日工事竣成シタルトキハ所用材料ヲ明細ニ記載シ又人夫ノ分掛等ヲ調査シ落成精算了ラハ書類取纏メ工夫ヲシテ翌日本局ヘ報告スルモノトス

第七條　工事材料日表竝ニ就業日表ヲ調製捺印ノ上本局ヘ提出スルモノトス

第八條　日日微細ノ事故アルトキハ臨機ニ處決シ翌朝速ニ報告スヘシ若シ設計ニ著シキ異動ヲ生スルトキハ掛長ノ指揮ヲ受ケタル後ニ施工スルモノトス

第九條　所屬職工工夫ノ勤怠簿人夫認帳ヲ整理シ報告スヘシ

第十條　材料受拂方ハ給水工事用材料取扱順序ニ依ルモノトス

●給水工事用材料取扱方

明治四十二年十二月十七日
〔市參事會議決〕第六千六百九十四號

從來給水鐵管竝ニ附屬器具及鉛管工事用諸材料ハ各工事擔當者ヨリ物品ノ請求竝ニ返納ヲ爲スニ當リ先ツ工事掛ニ材料受拂簿ヲ備ヘ其出入ヲ記載シ使用濟ノ材料ハ工事日表ニヨリ整理シ倉庫ノ出納ト對照スヘク取扱ヒ來リタルモ斯クテハ記帳重複シ煩雜ナルノミナラス反テ其間誤ヲ生シ易キニ依リ工事掛ニ於ケル受拂簿ヲ廢止シ材料ノ受拂ハ直接各工事擔當者ノ請求返納及工事日表ニ依リ專ラ倉庫ニ於テ整理スルモノトシ其取扱手續及帳簿其他之ニ伴フ樣式別紙之通リ改正施行スルモノトス但工事日表ヲ除クノ外帳簿類ハ來年度ヲ待ツテ實施スルモノトス

（別　紙）

配水工事用材料取扱順序

第一條　配水工事用材料ノ受入、請求、返納ハ第一號樣式券ニ依ル

第二條　請求及返納券ハ一品一葉トシテ工事擔當者之ニ捺印シ品名等ヲ訂正シタル時ハ尙ホ之ニ證印スヘシ

第三條　納品ノ授受ハ即時遲滯ナク之ヲ爲スヘシ但翌日使用スヘキ物品ハ倉庫員工事掛員立會ノ上之レヲ授受シ材料小出場ヱ陳列スルモノトス

第四條　工事中破損シタル材料ノ返納ハ返納券摘要欄ニ破損ノ文字ヲ朱書スヘシ

第五條　撤去ニ係ル量水器ノ返納ハ返納券摘要欄ニ撤去ノ文字ヲ朱書スヘシ

第六條　繼續工事用物品ノ請求及返納券ニハ符號トシテ摘要欄ニ必ス給水請求者ノ姓ノ頭字ヲ記入シ單純ナル工事ノ返納物品ニ付テハ其返納券欄外ノ上ニ第一號樣式券ノ通リ（何年何月何日請求ノ分）記入スヘシ

第七條　製作品材料、量水器修繕材料、修繕工事用材料ノ請求返納ハ第二號樣式券ニ依ル

第八條　倉庫員物品ノ授受ヲ了シタルトキハ其受入、請求、返納券ニ基キ直ナニ第三號樣式帳簿ニ記載シ出納ヲ明確ナラシムヘシ但破損品ニ付テハ同樣式ノ別帳ヲ設ケ整理スヘシ

第九條　試驗場、製作場及修繕工事派出所ニ於テ物品ノ授受ヲ爲シタルトキハ直チニ第四號樣式帳簿ニ記載シ出納ヲ明確ナラシムヘシ但破損品ニ付テハ同樣式ノ別帳ヲ設ケ整理スヘシ

第十條　前條ノ帳簿ハ一箇月一回必ス倉庫ト其受拂ヲ對照ス

第十一條　工事擔當者及各材料保管者ハ第五號乃至第十一號樣式ノ工事日表ヲ調製シ工事掛長ヲ經テ翌日マテニ倉庫ニ回送シ倉庫主任ハ遲滯ナク對照調査ノ上庶務掛長ヲ經テ翌日迄ニ課長ノ一覽ニ供ス

第十二條　倉庫員第五號乃至第十一號ノ工事日表ヲ受領シタルトキハ第十二號樣式傳票ニ轉載シ其各品目毎ニ之ヲ總括シ更ニ第十三號樣式帳簿ニ記載シ材料價格ノ出納明確ヲ期スルモノトス但量水器ハ其請求及返納券ニ依リ直チニ第十四號樣式帳簿ニ記載シ整理スヘシ

第十三條　第十二號樣式傳票ハ記帳後更ニ其用途ニヨリ類別シテ第十五號樣式帳簿ニ記載シ給水工費損益計算ノ資ニ供ス

第十四條　水栓類ニシテ工事ノ都合ニヨリ便宜其一部ヲ使用シタル時ハ直チニ其部分ノ請求ヲナシ完全ナル物品トシテ返納スヘシ但使用部分ノ請求ヲナスコト能ハサルトキハ返納券摘要欄ニ